

青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

創部100周年記念誌

いななき19号

100th
ANNIVERSARY

青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

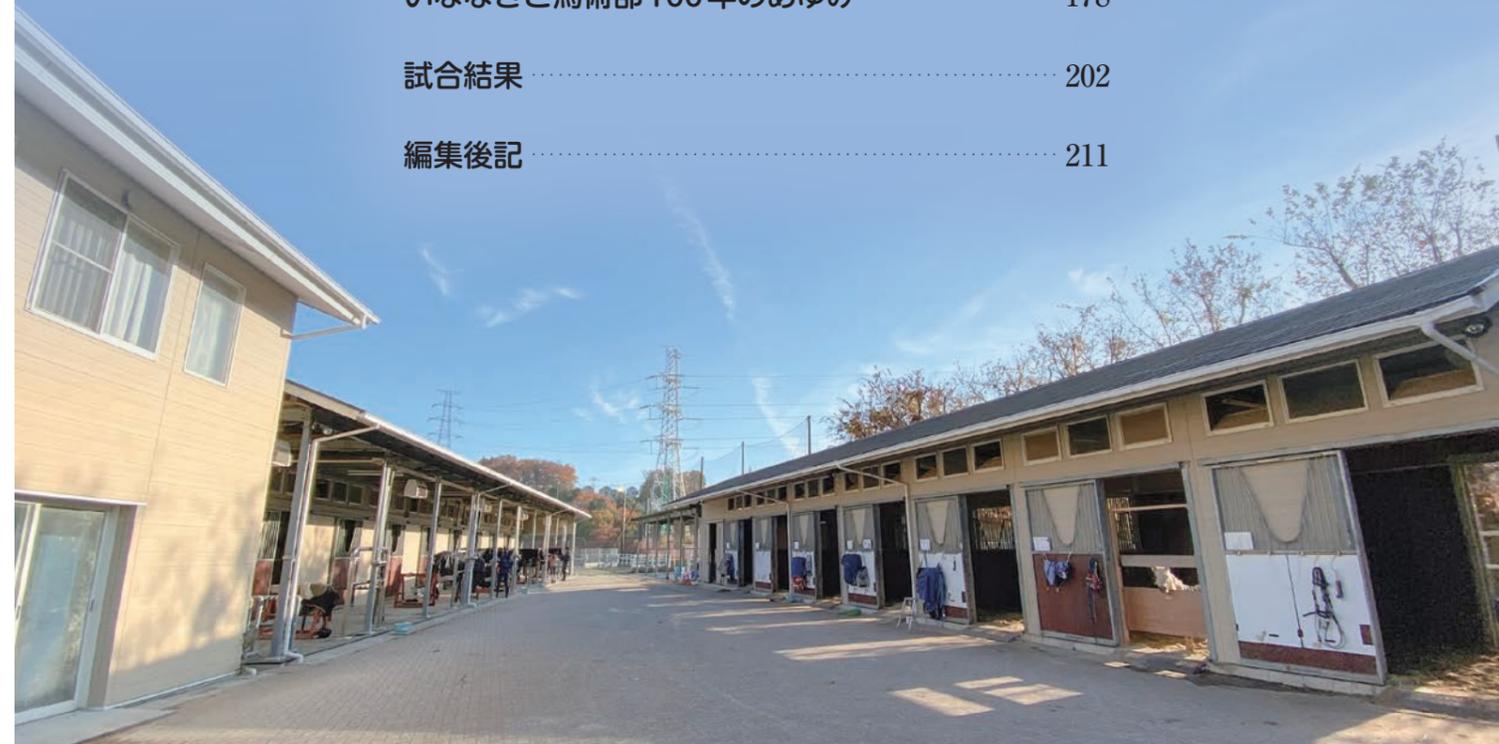
創部100周年記念誌

いななき19号

100th
ANNIVERSARY

目次

祝辞	4
100周年記念祝賀会	16
私の思い出	24
現役部員より	102
馬匹紹介	118
二人六脚	154
思い出の写真	
100年をむかえた現役たち	160
いななき18号以降を中心に	171
いななきと馬術部100年のあゆみ	178
試合結果	202
編集後記	211



祝辞 *Congratulations*

ご挨拶



青山学院大学体育会
馬術部緑鞍会 会長

新城 直樹

青山学院大学体育会馬術部創部 100 年という記念すべき年を迎える事が出来ました。

心より嬉しく思います。

大正 12 年千葉県習志野にありました陸軍騎兵連隊で故井上恒春先輩が学生有志を募り、団体訓練を受けたのが始まりであります。

関東大震災や戦争により人の食料もままならない中、馬達の食糧確保等、諸先輩方がご苦勞をされて礎を作り、築いてこられました。

青山キャンパス記念体育館辺りにあったグラウンド隅に牧師の亀徳先生が大学にかけあってくださり厩舎が完成、その後、綱

島総合グラウンド、その後 2006 年に町田グラウンドに立派な厩舎、馬場が出来上がり現在に至ります。

そんな拠点移動があるなかでも数多くの良い成績を残してまいりました。

馬との毎日は人間にとって大切な思いやりの心を育み、馬と共に人が成長しています。

この先も部員達が伝統を守り、更なる活躍と試合成果を聞きたいと願っています。

今後とも学院、大学関係者、緑鞍会会員皆様方のご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶



青山学院大学馬術部部長
青山学院大学 副学長
国際政治経済学部 教授

内田 達也

青山学院大学馬術部は 2023 年に創部 100 周年記念を迎えることができました。これまで部を支えてくださった大学、学院の皆様、関東学生馬術協会、全日本学生馬術連盟の皆様、その他関係各所の皆様、支援してくださった皆様に心から感謝いたします。

私は馬術に関しては素人ですが、2019 年度から馬術部の部長の職を預かることになりました。就任から程なく、2020 年に町田の馬場にテントが完成しまして、一時退避していた馬を馬場に移し、部を再出発させるということを行いました。これは馬場の近くがリニアモーターカー建設の工事現場となった関係で、2018 年から馬をアバロン・ヒルサイドファームに預かっていただいたことによります。

その時に私が考えましたのは、このリニアの時代にあって、大学が馬術部を抱えることの意味です。人や物を運搬するための馬の役割はすでに終わっており、そうした中で、大学という教育機関が、あるいは青山学院がなぜ馬術部を持つのか、その積極的な意味です。部活動には「競技」という目的があり、それに向かって努力したり、工夫したりすることに意味があることは言うまでもありません。また、競技以外にも部活動を通して色々な人との交流、あるいは葛藤があり、そこにも大きな意味がありますが、それは馬術部に限ったことではありません。

では、馬術部にしかない重要な意味は何でしょうか。それは、人が人間以外の生き物と共に生きることを学ぶということだと思います。コロナ禍の期間、部員は自分のことだけでも大変な中で、馬の世話をするという課題を突きつけられました。その時、彼らは今まで以上に人が人間以外の生き物と共生すること学んだと思うのです。また、実は、馬術競技自体、個人の技術的な巧さだけでなく、普段の世話を通して馬の性格や癖を知り、逆に自分の性格や癖を馬に伝え、人馬が一体になることが求められます。AI や遠隔技術の発達した今ほど、こうしたリアルな命と接することが重要な時はない、と思い至りました。

上に述べたことは、馬術を経験された方であれば当たり前のことのように思いますが、馬術の素人が部長という職を与えられて学び、認識したということをございます。この先の 100 年も、皆様方の一層のご支援をお願いいたします。

馬術部100周年を迎えて



青山学院大学 学長

稲積 宏誠

を聞かない生意気な高校生です。

私はラクダには乗ったことがあるのですが、残念ながら馬に乗ったことはありません。人馬一体とよく聞きます。馬術とは馬を乗りこなす技術なのでしょうが、古代から近代にかけては戦争の道具だけではない歴史も感じられます。「やぶさめ」は、日本の古式弓馬術（伝統的騎射術）として武士のたしなみだったのでしょうし、戦国時代の武田信玄の騎馬隊のように、まさに戦力としての馬術もあったのでしょうか。世界においても騎兵として古代、中世から近現代においても騎士道と呼ばれる行動規範とともに武力・戦力としての両面をもっていることがわかります。

たぶん、このような背景の中でスポーツが成立したからでしょうか。馬術を意味する英語として、horse-ridingに加えてhorsemanship、equestrian art(s)という言い方があるようです。馬が行う競技を通じて人も問われる。まさに人馬一体としての競技なのですね。

また、第一線で活躍しオリンピックを目指す本学1995年卒の北井裕子氏をはじめ長く現役を続けておられる方も多いと聞きます。直近の全日本のメンバーも男女混合、20代から50代でした。生涯スポーツとして確立されていることの驚きです。

馬術部はお金もかかりますし、必ずしも競技人口が多いわけではありません。大学スポーツとしての存在としての大きなプレゼンスがあるとも言えないでしょう。積極的に体育会として存続させていくことの意義は何だろう？ 少し悩みます。それを専門とする「馬術クラブ」があるのではないかと。ただ、さまざまな背景や経験をもった多くの人が集える場としては、やはり大学という存在は大きいのかもしれません。今後も、その存続が問われることがあるかもしれません。大学としての底力や懐の深さへの問いかけのような気がします。あらためて100年の重みを感じつつ、存続していくために知恵を絞れるような大学であり続けたいと思いました。

私が馬術部を意識したのは、世田谷キャンパスから相模原キャンパスへの移転を意識した2001年ごろでした。綱島グラウンドの抱える問題の一つがグラウンドの砂ぼこりや馬場の悪臭と聞きました。綱島グラウンドも、周辺が住宅地として発展したために先住民であったはずの体育会各部への地域住民からの風当たりが強くなってしまったようです。当初は相模原キャンパスの中に馬場を配置する案が出され、まさにキャンパスに馬が放されている様子がプロモーションビデオにもなりました。なんだか複雑な気持ちでそのCGを眺めたことを思い出します。それが紆余曲折、町田グラウンドに新しい馬場が完成し、ようやく安息の地を見つけることができたわけですね。

また、青山キャンパスで直接馬を見たことも記憶に残っています。保育園に行っていたころの息子と大学同窓祭に来たときだったと思います。純粋に喜んでいた息子も今は親の言うこと

馬術部創部100周年に寄せて

青山学院大学体育会馬術部創部100周年、心よりお祝い申し上げます。

今日まで馬術部を発展されてこられました歴代の部長、監督、緑鞍会会長新城様はじめ、OB/OG現役の方々による1世紀に及ぶ輝かしい活動と、学院への多大なご尽力に心から敬意を表する次第です。

馬術部の始まりは、大正12年に千葉県習志野市にあった陸軍騎兵連隊におられた井上恒春氏が学生の有志を募り、そこで団体訓練を受けたのが始まりと伺っております。

この大正12年は9月1日に関東大震災が起こり、青山キャンパス内の校舎のほとんどが倒壊しましたが、翌年には復興工事が始まりました。「青山学院再建の年」とほぼ時を同じくして馬術部が誕生したことに深い感慨を覚えます。また、100年という歴史をここまで繋げてこられた部員の皆様の日々の努力は想像に難くありません。

雨が降っても、雪が降っても、朝早くから起きて、厩舎の中で馬糞の掃除をし、飼料をたべさせ、練習の後は、馬の体をきれいに洗い、ブラシをかけるお世話をされています。馬は生き物ですから休むことなく365日毎日続ける必要があります。馬が好きで、愛情があるからこそできることです。馬術部の皆様は競技のときも含めて「馬と心が通じ合っている」まさしく「人馬一体」の毎日を過ごされているのではないのでしょうか。

ご承知の通り、2024年に青山学院は創立150周年を迎えます。この150年を機にさらなる飛躍に向けて、新経営宣言、そのテーマ、“Be the Difference”「世界は一人ひとりの力で変えられる」を掲げ、多様性を尊重し、有為な人材育成の実践に注力してまいります。

馬術部におかれましても、技術技能の向上だけでなく、学生達がスポーツを通じて心身を鍛え、豊かな人間性を育み、“Be the Difference”を備え、その力を存分に発揮することができるよう、ご助力いただけますようお願い申し上げます。

馬術部のますますのご発展と、ご活躍を祈念いたしまして、記念誌発刊に寄せる言葉といたします。



学校法人 青山学院 理事長

堀田 宣彌

青山学院大学体育会馬術部100周年によせて



学校法人 青山学院 院長

山本 与志春

青山学院大学馬術部は、これまでに厩舎や馬場の移転という試練も経験しましたが、場所は変わっても変わらぬ情熱で馬と向き合い続けてきました。そこには過去から今に至るまで、OB・OGの方々からの物心両面での大きなご支援があります。卒業生の皆様の経済的、精神的なバックアップがあればこそ、現役学生は馬術という高貴なスポーツを続けられる環境にあずかっています。青山学院馬術部を愛し、お支えくださる皆様に深く感謝申し上げます。

青山学院馬術部はこの100年間で築き上げた輝かしい伝統と実績を誇ります。特に2度のオリンピック出場と来年のパリオリンピックを目指す北井裕子さんのような卒業生がいることは、現役生にとって大きな励みとなっており、彼女の姿は馬術部の高い理想と目標です。

馬術部の社会貢献活動も特筆すべき点です。近隣の高齢者施設の方々には馬との触れ合いの機会を提供することは、地域社会とのつながりを深め、馬術の喜びを広く共有する素晴らしい取り組みです。また、青山学院大学同窓祭で行われる子どもたちのためのポニー乗馬体験は、次世代へ馬術の魅力を伝え、早い段階から動物との出会いを通して動物愛護と共生を学ぶ機会を提供しています。これらの活動は、青山学院が目指す「地の塩、世の光」すなわち自身が持つ力を惜しみなく他の人のために尽くすサーバント・リーダーとして生きる姿そのものです。

青山学院馬術部の皆様、創部100周年というこの節目に、先人が築かれた歴史に感謝し、多くの方々に支えられている今を喜び、これから新たな希望を高く掲げてください。馬術という美しいスポーツがもたらす協力、調和、生命の尊重という価値をこれからも広め、地域や社会から愛される馬術部として、社会への貢献と次世代への教育を続け、未来へと繋げていってください。皆さんの活躍と更なる発展を心からお祈りいたします。

青山学院馬術部創部100周年おめでとうございます。

祝 辞

「青山学院大学体育会馬術部の創部100周年」にあたりご挨拶申し上げます。

一言で100周年を迎えたと申しましても設立当初は大変なご苦勞と努力があったこととお察しいたします。そうした経緯をふまえ、歴代OB会長はじめOB、OGの皆様の協力の結果、歴史と伝統ある現在の栄えある馬術部へと発展されてきたものと存じます。当時の大先輩諸氏をはじめ、現在の馬術部を支えておられる関係者および部員の皆様にあらためて深甚の敬意を表するとともに、衷心よりお祝い申し上げます。

学生馬術界は、かつて軍隊が存在していた頃は、軍馬を利用した貸与馬中心の活動でした。貴馬術部におかれましても、設立時は習志野騎兵連隊の支援、協力を得て活動が開始されたと伺っております。

その後、自馬中心に急速に変わってきたことによって、馬術部の経済面における運営が非常に厳しくなったことは歴然とした事実です。一定水準以上の乗馬を常時保有し、繋養することが如何に大変であり、大学当局から供与される金額では当然賄えず、各大学馬術部は運営に努力しており、貴馬術部も他大学同様、苦勞していると思います。

さて、馬術は、他のスポーツと異なり生きた動物すなわち「馬」を介して、人馬の協調を伴う高度な技術が要求されて競い合う極めて特殊な競技であります。現役諸君は、他に類例をみないこのスポーツに取り組んでいることを誇りをもって青春の情熱を傾注し、努力精進を重ねていただき、学生時代に馬と苦樂をともにしながら努力を続けてきた経験は必ずや社会人としての将来の生活に大いに役立つと確信いたします。

また競技などでは華々しい一面もありますが、日常の部活においては練習に励むばかりでなく、厩舎作業や馬の手入れなど、管理に費やす時間にもウェイトを占めながら部活が維持されているのが現状です。

さらに貴馬術部は諸般の事情から度々の馬場、厩舎の移転が余儀なく行われ活動に支障をきたし、苦勞を重ねながら部活を維持されてきたと伺います。

このような環境の中、関東学生馬術競技会、全日本学生馬術競技会、他各競技会に於いて実績を示されており、特筆すべきはOG、北井裕子氏におかれましてはオリンピック馬場馬術競技の代表に選ばれ、2008年北京および、2016年リオデジャネイロ、各オリンピックに出場して現役、同窓元部員の励みと誇りになったことと思います。

コロナ感染拡大で日常生活および、部活が制限下にあった時期は、貴馬術部に限らず、授業や部活に多大な影響を及ぼしてきましたが、現在は状況が沈静化し、感染法「5類」に指定され、社会生活も通常に戻り、練習環境も整ってきましたので、怪我や事故のないよう十分注意し、部活に励んで下さい。

今後もさらなる歴史と伝統を積み上げ、ますますのご活躍、ご発展ならびに監督、コーチ諸氏および現役諸兄のご健勝を祈念してお祝いの言葉といたします。



一般社団法人全日本
学生馬術連盟 会長

山内 英樹

馬術部100周年を祝って



青山学院大学 教育人間学部
教育学科 教授
体育会長

井上 直子

馬術部創部100周年、誠におめでとうございます。

100年の間には、戦争、天災、キャンパス移転、グラウンド移転など様々な出来事がありました。その中で馬術部の部員の皆様がたゆまぬ努力により活動を続けられてきたからこそ、100周年の今があります。多くの方の想いと情熱がこの100年間を支えてきたのだと思います。

ここ最近では青山学院大学の中でも、あるいは他大学においても100周年を迎える体育会のお話をよく耳にします。その際に、「100年も」という想いは強いのですが、同時に「たった100年」とも感じています。それは日本において「スポーツ」が定着し始めたのがほんの100年前の出来事なのだと、改めて認識する瞬間でもあるからです。100年前というと大正末期です。明治に海外から伝わった「スポーツ」は大正末期になってようやく、

若者が組織を創って活動できるほど身近になってきたのだらうと想像するからです。今日多くの人に元気や勇気を与えているスポーツですが、歴史の中ではまだまだ新参者なのです。

スポーツを取り巻く世界はこの数年、大きく変化しています。様々な出来事が有り、その都度マスコミなどで大きく取り上げられました。それはポジティブな側面だけではありません。多様な視点から取り上げられ、問題提起されています。これはスポーツの価値が高くなって、多くの人に多大な影響を与えるようになったということでもあり、スポーツが成熟していく上で避けて通れない局面を迎えている証でもあると感じています。

スポーツに係わる人間は、これからの100年をどのようにイメージしていくか、100年後の世界に対して、何を残していくのか、100年後にどのようにありたいのか、考える機会なのかもしれません。体育会も、スポーツ界の変化、大学の変化に合わせて変わり続けることを良しとしていく柔軟さが必要とされていると感じています。

改めてこの100年に敬意を払いつつ、気持ちを新たに次の100年を共に歩んでいきたいと考えております。全てのOBOGの皆様と、現役部員の皆様に心よりお祝い申し上げます。

大学馬術部に支えられて

一時は廃部の危機にあった高等部馬術部ですが、前任の顧問であった佐藤隆一先生をはじめ、コーチの方々や部員たちのおかげでなんとか部を存続させることができ、ここ数年の部員数は安定しております。2023年度は1年生7名、2年生8名、3年生10名が在籍しました。高等部馬術部存続のためにご尽力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

しかしながら、昨年度までは新型コロナウイルスの影響で活動時間・活動人数が制限され、部員の技術向上を図るには難しい日々が続きました。そのため、近年は大会に出場できる部員が少なく、部員たちには歯がゆい思いをさせていることと思います。早くコロナ以前の活動を取り戻し、より多くの部員が大会に出場することが目標となっています。

高等部馬術部の活動は、土曜、日曜、祝日に限られています。活動日には普段より早起きし、町田の馬場に向かいます。まぶたをこすりながら始発電車に揺られてやって来る部員も少なくありません。それでも馬場に到着すれば嬉々として活動する生徒たちを見ると、馬術の魅力の大きさを感じさせられます。性差や年齢を超えて楽しむことのできる馬術を通じて、生徒たちは単なる技術の向上だけではなく、多様な価値観に触れられているのだと思います。

そのような活動ができるのも、大学馬術部員のおかげです。技術面や安全面の指導、さらには生徒たちの人間関係にも目を配り、有意義な部活動運営の一翼を担ってくれています。そんな大学生たちのおかげもあって、高等部を卒業後も大学馬術部で活動続ける生徒が多く、高等部馬術部と大学馬術部の良い循環が生まれているように思います。この関係性を今後も永く続けていくことは、青山学院馬術部の発展のために重要なことだと感じています。

最後になりましたが、これまで多くの関係者のお力で発展してきた青山学院大学馬術部が百周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。そして次の百年に向けて大きく飛躍されることを祈念しております。



青山学院高等部
馬術部 顧問

西山 一樹

体育会馬術部創部100周年によせて



一般社団法人青山学院
大学体育会 OBOG 連合会
代表理事

榎本 正史

青山学院大学体育会馬術部創部100周年、まことにめでとうございます。

日頃は馬術部 OBOG 緑鞍会の皆様には体育会 OBOG 連合会で役員としてご活躍いただき心より感謝申し上げます。

一言で100年と申しますが、100年、青山学院の歴史と共に本当に苦難に満ちた年月だったと拝察いたします。特に青山学院の生立ちに由来して、先の大戦の戦前・戦中・戦後の活動は先人である大先輩方の苦悩に満ちた歴史だったとおもいます。

人々が生きていくのに精一杯の時代にも「愛馬」を持ち、お世話をし、共に生活する日々を大切に守り、それを令和の時代になるまで途切れることなく後輩達に受け継いでいることに敬意と感謝を申し上げます。

道具を使うのではなく、動物と共に競技をする馬術部は体育会の中でも唯一無二の存在です。自己の研鑽だけでなく、人馬一体となるには他部では理解できない、色々なご苦労があるとおもいます。

また、騎乗し競技をする学生だけではなく、馬の健康管理を徹底的に勉強する学生も大切な役割として部を支えていること、地域の色々な施設でのボランティア活動など、青山学院が一番大切にしている奉仕の精神を持った活動にも感動いたしました。

競技で良い成績を残すことを最優先に活動するのは全く違う、愛馬と真摯に向きあい、人馬に関係なく共生し、相手を想い、お互いに心を通わせ共感しあう大学での4年間は、かけがえのない幸せな学生生活だとおもいます。

こうした馬術部の活動の中で、緑鞍会の OBOG の皆さんが常に現役の学生に寄り添い、学生の成長をサポートしご指導している様子は体育会のあるべき姿を体現されているのだと感じています。

他部と同様に大学からの活動費だけでは全く運営出来ず、学生のアルバイトも勿論ですが OBOG の皆さんの環境維持整備や日々の運営への絶大なる金銭的なサポートがあったからこそその長い歴史だと思つと、その献身に頭が下がります。

一世紀の歩みを持つ馬術部は青山学院大学の誇りであり、気品ある大学の象徴とも言うべき体育会の部であると私はおもいます。

馬術界の中であって、名門・青山学院大学体育会馬術部がますます輝き、常に凛とした存在であることを切にお祈りしております。

青山学院大学馬術部創部100周年を祝して

青山学院大学馬術部創部100周年を心からお慶び申し上げます。わたしがディレクターを務めている平和・安全保障研究所のプロジェクトのために日本を留守にしなければならなくなりましたため、この栄ある祝宴に出席できないことをお詫び申し上げます。

20年ほど前、高森寛国際政治経済学部長から、前任の伊藤文雄氏以来馬術部長は国際政経学部教授（お二人とも学部長をされた）が務めるのが習わしになっていると言われ、高森氏の後を受けて馬術部長をお引き受けし、わたしは17年も馬術部長を務めました。2019年に青山学院大を退職するに際し、その時に国際政経学部長をされていた内田達也現副学長に馬術部長を引き継いでもらいました。

馬にも馬術にもまったく縁のないわたしが馬術部長を務めることができたのは、大塚、豊田、高梨、松本、そして柏木監督と、新城会長ら緑鞍会の皆さまのご支援のおかげです。わたしが馬術部長をしている間に、大学が厚木から相模原にキャンパスを移転するという大事業があり、その関係で綱島にあった馬場を最終的には現在の町田に移すことになりました。大塚監督と一緒に青山学院の管理部と新馬場の設計図を前に何度も打ち合わせを行いました。完成した町田グラウンドの新馬場に深町院長、松澤理事長、武藤学長らにお越しいただき、院長と理事長に馬に乗ってもらった時には、これで馬術部を続けられるとほっとしたことを思い出します。馬術部創設期の部員だった羽坂さんが前任の青山学院理事長だったこともこの移転事業を進める上で力になりました。わたしが大学行政に関わっていた時には、羽坂さんの藤沢のご自宅に呼ばれたり、お電話をもらったりしました。羽坂さんから「もしもし」と電話がかかってきて「羽坂さんですか」と出ると「どうしてわかりますか」と言われるので笑ったことがあります。あのしゃがれ声は羽坂さんしかおりません。

何年か前に緑鞍会の会報「いななき」を見ていて感動したことがあります。その会報には馬術部にいた百数十頭の馬の名前とともに戦績と性格などが書いてありました。馬術部の学生にとっては彼らが乗った馬もまた同級生なのでしょう。わたしも馬術部の馬の顔をたまに撫でたことはありますが、確かに馬によって人懐っこい馬とそうでないのがありました。部長をしている間に一度馬に乗ってみたいと思っていましたが、とうとうその希望を



青山学院大学 名誉教授
前馬術部長

土山 實男

果たせずに終わってしまい残念です。

二、三ヶ月前、青山学院の正門前で田坂さんと三姉妹で馬術部におられた一番上のお姉さん（夏目さん）にばったりお会いしました時、お二人にも言いましたが、三姉妹が3人とも青山学院の馬術部におられたというのはいかにも青山学院らしい贅沢な話です。10数年前からわたしも正月の3日は大手町で箱根駅伝の応援をしてきましたが、青山学院が出るようになって箱根駅伝のカルチャーがまったく変わってしまいました。かつては陸上部出身かと思われるおじさんばかりでしたが、今では女性がいっぱい応援に来ています。青山学院は来年創立150周年を迎えますが、今年創設100周年を迎えた馬術部を含めて、日本における青山学院の存在意義がどこにあるのかを考えてみる良いチャンスではないかと思えます。

わたしはいま毎日新聞社のアジア調査会が出す月刊誌に「日本のリアリズム」というテーマで毎月論文を掲載しており、幕末以来今日までの日本の外交政策が何に成功し何に失敗したのかを論じています。戦後の外交政策についても書き始めましたが、国際政経学部で教えられた猪木正道、衛藤審吉、永井陽之助、斎藤鎮男、村田良平氏ら日本を代表する学者や外交官にあれやこれや訊いておけば良かったと思うことがたくさん出てきました。「実はね」と彼らにしかできない話や彼らしか知らない話をしてくれたはずだと悔やんでいます。

青山学院の馬術部が創部100年を迎えられたことまことに慶賀の至りに存じます。次の100年に向けて馬術部員のいっそうの活躍を期待しますとともに、馬術部の発展にご尽力くださった皆さまに改めて感謝申し上げる次第です。

新城会長ら緑鞍会の皆さまと馬術部を支えてくださる廣畑現監督および大塚さんを始めとする元監督のますますのご健康とご健勝をお祈り申し上げます。



馬術部創部100周年 阿部長治先生に捧げる思い出

阿部長治先生（1893.3.25～1981.7.14）と私が知己を得たのは内藤喜嗣先輩が昭和33年に阿部長治先生（以下、阿部師）を横浜乗馬クラブにお連れされた時から始まりました。以来昭和55年迄の間、横浜乗馬クラブから青山学院大学に至る20年余り寝食を共に致し阿部馬術を習って参りました。阿部師の馬術は独特のものがありません。印南清大佐と同じご年配で親しい間柄でした。伊藤正明君が高校生の頃に阿部師の指南を受け、大学時代はパレス乗馬クラブで印南清大佐のご指導を受けました。印南清大佐は陸軍騎兵学校で教官をされており遊佐少将と共にフランス馬術を日本に導入した方です。フランス馬術は顎の屈撓を第一に考えるので阿部師の馬術論と異にするものでした。

私は大学生の頃、印南清大佐と阿部師のお二人の激しい議論を聞いた事があります。阿部師の理論は「後軀（後肢）の調教が先で顎の屈撓は最後である」というものでありました。阿部師が尊敬する馬術の先輩に浅岡精一大佐がおられます。馬場馬術の名人で日本から最初にオリンピック（アムステルダム）に出場した魁（サキガケ）号を調教した事で知られ、阿部師は心酔しておられました。浅岡精一大佐は5年先輩であり「阿部、お前は馬が下手だな!!」と云われたが、ご指導を仰ぐため、夜にお酒を持って行くと親切に教えて下さった。阿部師のピルーエットは浅岡精一大佐からヒントを得たものと私は伺いました。

阿部師が横浜乗馬クラブで調教された武正号は山田芳通氏（昭和38年卒）の自馬で、この馬は長崎国体（昭和44年）に荒木雄豪氏の希望でお譲りしたのでありますが、長崎県の国体馬場で8年間無敵であったと聞いています。阿部師は色々な大学に馬術のご指導をされました。日本獣医大学の諸学生は横浜乗馬クラブでこの武正号から多くを学びました。綱島に戻られてからも馬の故障や去勢等にその学生が来てくれました。

阿部師の調教された馬の特長は、反動が良く乗り心地が後ろから前へ自然と流れる事と調教が馬の死ぬ迄崩れない事でした。只、阿部師は口が重く素人には判らないことがありました。例えば「馬は頭で乗りなさい」と云われて「逆立ちして乗るのですか?」と誤解されたり、「大事な事は3度迄云うがあとは自分で考えなさい!」と言われました。板倉君の時代に我々がご指導を受けたのは「馬術は側対扶助、斜対扶助、直行進の扶助の三つの扶助の適当な利用が大事だよ!!」と教えられました。

阿部先生がお亡くなりになった年齢になりましたが「一神教の教え」を探究している昨今です。



名誉会員

高津 彦太郎

100th Anniversary



青山学院大学体育会馬術部 創部100周年 記念祝賀会

青山学院大学体育会馬術部
青山学院大学体育会馬術部緑鞍会

2023年9月9日(土)

ペニンシュラ東京グランドボールルーム



～ 式次第 ～

開会		司会	上山千恵子 (1975年卒)
開会祈祷	青山学院大学	宗教部長	大宮 謙 様
開会挨拶	青山学院大学体育会馬術部緑鞍会		
ご来賓祝辞	青山学院	会長	新城 直樹 様
	全日本学生馬術連盟	理事長	堀田 宣彌 様
	青山学院大学	会長	山内 英樹 様
	青山学院校友会	副学長	稲積 宏誠 様
乾杯	青山学院大学体育会 OBOG 連合会	会長	関根 茂 様
		代表理事	榎本 正史 様
		専務理事	小峰 嘉記 様

～ ご歓談 ～

動画			
現役報告	青山学院大学体育会馬術部	監督	廣畑 耕司 様
閉会ご挨拶	青山学院大学副学長・馬術部部长		内田 達也 様

～ ご来賓名簿 (順不同) ～

青山学院	理事長	堀田 宣彌 様
青山学院大学	副学長	稲積 宏誠 様
青山学院大学	宗教部長	大宮 謙 様
青山学院大学	学生生活部 部長	藤井 隆司 様

青山学院大学体育会馬術部 創部100周年祝賀会



祝辞 *Congratulations*

青山学院高等部 青山学院高等部 青山学院校友会	馬術部顧問 前馬術部顧問 会長	西山 一樹 様 佐藤 隆一 様 関根 茂 様
青山学院大学体育会 OBOG 連合会	代表理事 専務理事	榎本 正史 様 小峰 嘉記 様
全日本学生馬術連盟 全国乗馬倶楽部振興協会 学習院大学輔仁会馬術部桜鞍会	会長 会長 会長 副会長	山内 英樹 様 武宮 忠彦 様 高橋 直人 様 村田 一宏 様
学習院大学輔仁会馬術部 日本大学桜蹄会 日本大学馬術部 日本大学馬術部 成城大学馬術部	監督 会長 監督 主将 監督	吉岡 大輔 様 木内 義則 様 諸岡 慶 様 堤田 尚志 様 伊藤 督倫 様
青山学院元理事長 故 羽坂 勇司様	ご家族	野上 ゆかり 様 河合 香織 様 高津 彦太郎様 山蔦 絃三郎様
青山学院大学体育会馬術部緑鞍会名誉会員		

～ 馬術部の沿革 ～

- 1923年（大正12年） 習志野騎兵連隊にての学生有志により活動開始
戦争により部活動停止の期間あり
- 1950年（昭和25年） 活動再開
- 1951年（昭和26年） 初の自馬（青峰号）購入（東京乗馬クラブに預託）
- 1953年（昭和28年） 青山キャンパス内に厩舎設置（現記念館付近）
馬場はグラウンドを野球部・ラグビー部と共に使用
女子馬術部創部
- 1961年（昭和36年） 綱島馬場厩舎完成（綱島総合グラウンド内）
- 2001年（平成13年） アシエンダ乗馬学校へ移転
（綱島グラウンド閉鎖の為）
- 2006年（平成18年） 町田馬場厩舎完成（大学町田グラウンド内）
- 2008年（平成20年） 北井裕子〈1995年卒〉北京五輪出場
- 2016年（平成28年） 北井裕子〈1995年卒〉リオデジャネイロ五輪出場
- 2017年（平成29年） アバロン・ヒルサイドファームへ移転
- 2019年（令和元年） 町田馬場へ戻る
- 2023年（令和5年） 現在に至る



祝賀会の模様 *Celebration party*









私の思い出 *My memories*

■馬術部の思い出

青山学院大学体育会馬術部緑鞍会 会長 新城 直樹 (1953 年卒)

大正 12 年二代目会長井上恒春氏が高専の学生の頃、同好の士をさそい習志野の騎兵連隊にて団体訓練を受けたのをもち、青山学院馬術部の発足と定め 100 周年がたちました。戦時中の昭和 16 年から 18 年にかけては、国策にも恵まれ学生馬術界でおおいに活躍したと先輩達から聞かされていた。昭和 20 年 8 月 15 日、日本の敗戦により馬術部は自然消滅。しかし不思議なことに昭和 23 年の卒業名簿にお名前があり寄付金を頂いた覚えもある。

昭和 26 年春、学生掲示板に「乗馬に関心ある方〇月〇日〇時 代々木東京乗馬倶楽部に集まれ」の誘いがあり、そのとき集まったのが、植松英二、私、堀内陽一、中島貞夫、菊池昭春、横川実、宮坂悠二、森健、米谷浩志の面々である。

馬二頭を借用し、交互に乗馬を楽しみ散会。これをしばらく続けていたが、我々も学生馬術連盟に加入しようと、ただし自馬を持っていることが条件であったため、御殿場の長田氏に依頼し馬を購入、東海道を曳き馬で輸送することになった。一日目は国府津の東宅に一泊、翌日は横浜市 of 堀内宅、と三日かけて代々木東京乗馬倶楽部まで運んで来た。

当時倶楽部には明治大学、法政大学、中央大学、麻布獣医大学が入っていて、我々もお世話になることになった。自分達のものなので朝飼い、夕飼いをしなければならず、当番を決め責任をもって飼育した。



御殿場 長田さんのところで外乗

しかしながらやがて金の問題が起こり家賃が負担になってきた。そこで強引に学内に馬をつれてきてしまい、学内の木材を使い器用に馬房と部屋を作ってしまった。

その上東門の近くに適当な空き地を見つけると、柵を作り馬場として使用、さらに工事用の砂を盗み少しずつ体裁を整えていった。だが下が土の為雨の翌日は滑り、人馬転倒で怪我人をだしてしまっただけでもあった。

昭和 27 年金策の為に女子部員募集を図ると十数人の申込みがあり、入部金のごっそり集まった。我々幹部部員は初心者の方の指導に調馬索を使い、2 周程度乗らせて交代という具合に指導していたので自分達は練習出来ず、パレス乗馬倶楽部、アバロン乗馬倶楽部、井上乘馬倶楽部などで鞍数を楽しんでいた。

馬術部の馬小屋があまりにみすぼらしいためか、神学部の亀徳先生が学校に交渉、プール横の空き地に馬 4 頭が入る厩舎と畳敷きの部室を建てて頂いた。

近くには学食のドングリがあり、にんじんの葉っぱやらジャガイモの皮などが飼料の中に入ったこともある。また青山 6 丁目近くの瀬戸物屋から藁をいっぱい貰って寝床に敷いてやった。部室が出来たことにより、先輩が訪ねてこられて指導を受けるようになった。特に巻島先輩にはお世話になった。

■馬術部羽坂勇司先輩への忘れられない感謝

緑鞍会 副会長 内藤 喜嗣 (1958 年卒)

この度、青山学院大学体育会馬術部 100 周年という記念おめでとうございます。

羽坂先生との私の最初の出会いは、1955 年 (昭和 30) 年 5 月 16 日に開催された青山学院大学馬術部新入部員歓迎を兼ねた OB 会の席だったと思います。

当時の馬術部は馬匹もなかったため、東都学生馬術連盟に加盟出来ませんでした。

それでは乗馬の練習も大学間の試合への参加もおぼつかないため、新城、堀内、植松ら諸先輩が御殿場の農家から乗り馬を購入し、大学当局に学内に馬房、馬場の提供を賜りましたが、日々の馬糧購入に苦慮していました。そんなことから、OB 会の先輩から月掛けで会費を頂く事になり、学生が毎月、集金に何う事になりました。

私は新橋銀座地区の担当となり、羽坂先輩がおられた新橋の十仁病院の事務所にお邪魔し、コーヒーをご馳走になるのが楽しみでした。

以来、羽坂先生とのお付き合いが始まりました。

出会いから 65 年、中でも私が卒業した湘南学園の

事は忘れられません。

湘南学園は藤沢市鶴沼にあり、日本にただ 1 校しかない生徒の父兄ボランティア (無報酬の奉仕) で教職員と経営している学校です。

羽坂先生の二人のお嬢さん (ゆかりさん、まゆみさん) が一緒に通学されていた時期に、先生が理事長をされていました。

理事長になられた当時は学園に混乱があり、その混乱の収束に羽坂先生のお力をお借りすることになったのです。

その折に、同窓会が活動していなかった事をお知りになった先生は、同窓会を復興するようにと、私が呼び出され、お手伝いをさせて頂きました。

先生は将来を見越して、評議員を集め、長期計画委員会をつくられました。

青山学院大学体育会馬術部、湘南学園と二つのご縁があった羽坂先生、今思い出しても感謝の念に堪えませんと同時に馬術部後輩たちの益々の活躍を祈念しております。



羽坂先生のお嬢様ゆかりさんと共に



羽坂先生と 1990 年の現役達

■ 馬術部創部百周年を記念して

人生百歳時代と謳われる昨今、何となく百年という時間が短く感じられるが、一口で百年を言っても、やはり途方もなく、気の遠くなるような時間の長さだ。

我が馬術部が創部以来百周年を迎えた。

継続は力なりというが、創部以来諸先輩方の意思によって、部は連綿と活動してきたのだ。

さて、私は二十二回国体埼玉県大会に、スタッフとして参加した折、当時現役部員の三谷君のたつての依頼を受けて、大先輩植松監督の後を継いで監督となった。

学院内でスポーツ部といっても、野球部やテニス部のようにポピュラーな部ではなく活動もよく知られていなかった。

そんな折、学院創立百年を迎え、これはひとつのチャンスだと私は考え、学院創立百年を記念した馬術大会を計画した。

まずは学院を動かすため、皇太子殿下ご夫婦、現上皇様の御台臨を賜るよう、当時の石田学長の嘆願書を持って戸田侍従長の許に願い出たが、諸般の事情で叶わなかった。

しかし、学院から大会費用の一部を頂く事が出来た。

1968年～元監督 佐藤 一貫 (1958年卒)

後は会場としての馬事公苑のインドアアリーナと、本部棟の2階講堂を借用できるかであった。

当時の馬事公苑長大木正巳氏に願い出て何とか借用することが出来た。

普段から大木苑長とは親しくお付き合いをしていたのが助けになったのかもしれない。

予め決めた日程で借用できたので、あとは大会要項を関係学生加盟校へ配送し、参加を要請し、大木金次郎学院長はじめ、都田理事長他へ招待状を送付した。

大会当日は部員たちもよく動いてくれ、会場の準備も滞りなくセットされた。

会場には大木学院長はじめ、都田理事長他、馬術部顧問の日向寺教授の出席もあって、競技会後の本部講堂でのパーティーも賑やかに終わり大会は成功した。

参加関東学生加盟校の協力には感謝しかない。

過去、単に一学院が馬事公苑の施設を借りて大会を開催したことはない。今後もあるかどうか。

馬術部創部百年を迎えて、この大会をあらためて記憶に留めたい。

■ 100周年に寄せて

創部100周年おめでとうございます。大変喜ばしく心からお祝い申し上げます。

一口に100周年といってもやはり大変な年数です。半世紀以上前に卒業した部員としても感慨無量の思いです。私が記憶している限りでも馬術部の快適な馬場の確保と良馬獲得にはいつも悩まされてきたと、理解しています。最近の卒業生の皆様も現在の馬場の定着まで、多くのご苦労やドラマがあったことでしょう。

● 私たちの時代の馬場と練習

約65年前の馬場の状況を少し述べさせて頂きますと、専用の馬場はなく学内の運動用のグラウンドを他部と共用していたのではないかと記憶しています。決められたスペースのグラウンドを速歩で回っている直ぐ隣が金網で遮られたテニスコートがあり、テニス部の練習を横目に見ていました。私は乗馬を大学から始めましたが、高等部から始めた人や幼少の頃からの方もいました。馬に乗り始めのスタートの違いで、技術面や馬との関わりには大きな違いは歴然です。でも先輩たちの熱心な指導やコーチの阿部先生のご指導でかなり上達できました。テニスコートの直ぐそばに馬房がありその隣接した場所に阿部先生が住まわれていました。阿部先生はいつも優しく、熱心に分け隔てなく部員を指導されたと覚えています。大学の講義が終わると直ぐ部屋に行き入り浸っていたことも多かったです。

● 楽しかった思い出

早朝練習(朝練)は少しだけ大変だったかなと思う位で、学生時代の部活は殆どが楽しい思い出として残っています。先輩の方々との交流は楽しく何十年も経た現在でも覚えています。二年先輩の安藤節子さんのご自宅での食事会で、初めてカリフラワーを頂いたことも印象的でした。今から60年—70年く

佐藤(石割) 陽子 (1960年卒)

らい前はカリフラワーなどの野菜は日本のどの地方でも現在のように出回っていなかったのではと思います。

またある日は夕方練習後、青山のキャンパスから馬に乗って先輩がキャンパス周辺の閑静な通りを一、二度連れて行って下さったことも、今にして思うと貴重なそして懐かしい体験です。現在の交通事情や環境の激変を考えたら、馬に乗って青山周辺をそぞろ歩くなど想像もできないことです。

部活や乗馬クラブでの騎乗経験を通して次第に馬に乗れるようになって、馬場の部班からやがて障害を飛べるようになるとますます馬術が楽しくなっていました。

世田谷の馬事公苑の桜が美しい頃、馬のアルバイトで、私が乗っていた馬が狂奔して馬場から、その馬の馬房までまっしぐらに駆け戻って落馬もせず命からの経験もありました。未熟でもきつと馬の魅力にとりつかれていたのかもしれない。

夏には合宿を横浜の乗馬クラブで行った年もありました。また、大学の定期的な試合として記憶に残っているのは、関東学生選手権や女子の三大学定期戦などは心に残っています。当時は慶応と学習院と青学でした。結構実力は拮抗していたように記憶しています。定期戦ではなく、珍しい試合として、北海道、関東馬術大会がありましたがその試合は楽しかったです。当時は新幹線もありませんでした。連絡船で青森から北海道に渡ったような気がします。試合の場所は札幌の北大馬場でしたが、試合中一度放馬があり試合場から遙か地平線の彼方まで駆けて行きそれを追う馬が走っているのを見るとさすが北海道だと思いました。まるで映画の一シーンを見るようだったと思います。そのときは青学から同期の島田さんと私の2名が参加しました。学習院からも2名参加でした。あと他大学の参加者は記憶ありませんが、地元の北大からはかなり参加していたようでした。



外乗といえば、私たちの時代は遠乗りを先輩たちが計画してくださったようです。部活としてかどうかは記憶していませんが、5～6名か10名くらいの参加者があったと思います。山中湖周辺の遠乗りも楽しい思い出の一つでした。写真は島田さん（画像右側）と一緒に先輩に撮っていただいたものです。今から半世紀以上前の画像ですが白黒写真が時代を表しています。

●私の乗馬の日々 —青学時代から老年期に至るまで、青学馬術部の4年間を経て、馬を愛し楽しむ年月は60歳代前半頃まで続きました。

大学卒業後、ソニーで5年ほど働かせて貰いました。ソニー研究所が横浜に出来たこともあり、ソニー研究所の仕事の合間を縫って横浜乗馬クラブで時間の許す限り馬に乗り続けていました。ソニーを退社し、アメリカ留学した期間は少しだけ馬から離れて、テニスやスキーをやっていた時代はありました。

帰国後しばらくして仙台市の短大（現在は大学）に就職してからは、週末などかなり乗馬できる条件に恵まれました。その後大学から研究でイギリスに留学した1年半でかなり馬との距離をつめることが出来ました。学ぶ場所はロンドン市内だったのですが、住居はロンドン近郊のステブネッジという街でした。私の友人がその街に住んでいた都合もありロンドン市内ではなくその町にすんで、私が毎日ロンドン市内に通いました。娘はステブネッジの小学校に通いました。友人の子どもたちが乗馬クラブに行っていたので、娘も同じクラブに通い始めていました。日本でスイミングスクールに通う位の感覚で小さな子どもたちが、乗馬クラブに通っていたので、日本よりは子どもたちの乗馬人口は多かったようです。娘は帰国してからそのまま小、中、高と馬に乗り、青学の馬術部に入学して、お世話になりました。

イギリスでは私は忙しい合間に週末は娘と同じク



ラブで馬に乗り、障害まで始めました。ジャッキーという素敵なインストラクターの障害の個人レッスンを受けたときは、不思議なことにとっても興奮して夜眠れないほどでした。イギリスでのとても楽しい乗馬経験が私の老年期まで馬への情熱を失わずにいたのかもしれない。帰国して数年後、仙台に仕事で移り住んでからは合間に趣味として乗馬を楽しむことが出来たことは、本当にラッキーなことでした。

青学馬術部から始まって、仙台の乗馬クラブまでの馬たちとの関わりはなんて、楽しく素晴らしかったことでしょう！

青学馬術部でお世話になった先輩の方々や、良い関わりを持ってくれた同輩、後輩の方々に感謝いたします。

現役の方々が楽しく部活をおくられること、心から願っています。そして青学馬術部のさらなる発展を心からお祈り致します。

■～ちょっと立ち止まり、振り返る～

昭和29年高等部入学、昭和36年大学卒の7年間馬術部で活動。この頃の世相は「もはや戦後ではない」「所得倍増論」が話題になり経済成長を実感させられた。しかし、我が馬術部は青姫号1頭で、とても十分な部活動と言える状態ではなく、私は鞍稼ぎで渋谷区富ヶ谷の井上乘馬クラブ（当クラブはスパイダースのメンバー井上順の実家）、千歳船橋の清風会（元馬術オリンピック選手村上捷治氏の実家）に週1回のペースで通っていた。当時井上乘馬クラブには調教師として阿部先生が在籍されていたが、私が高等部2年（昭和30年）の時に馬術部のコーチに迎えることになり、部活動が豊かになった。阿部先生は昭和34年に横浜乗馬クラブに転籍された。高等部3年（昭和31年）キャプテンの時、高等部初めての通いではあるが夏合宿を青山キャンパス内で行った。参加者は10名（1年入部時部員5名）馬も青姫1頭から青波、青嵐、青影が加わった。大学の合宿は1年時、北海道北見競馬場で馬は地元の農家から集めた。その後、琵琶湖乗馬クラブ、伊豆大室高原乗馬クラブといずれも自然環境に恵まれ、気分が解放された。有志で行った遠乗り、山中湖、軽井沢、高幡不動他、馬に乗る楽しみは格別だった。馬術部での私のエポックメイキングはなんといっても大学4年、馬の買い付けに岩手県水沢市（奥州市）へ同期の原君とともに行ったことが今も鮮明に残っている。水沢市役所近くの



岩崎 修 (1961年卒)

広場で馬喰さんの集めた馬を品定めするのだが馬喰さんは東北弁なまりがひどく我々には全く通ぜずやむを得ず水沢市の職員さんに通訳を頼み漸く交渉が進み、重半血の馬を購入、貸車に乗せ馬とともに一夜を明かし、一路渋谷へ、しかし、早朝空腹で大宮駅大操作場でプロの馬喰さんが案内してくれた食堂で朝食をとり、行先別に再操作された我々の車両まで送ってくれて大助かりした。やっとの思いで渋谷貨物駅で馬を下し、青山キャンパスまで運んだ。あらためて馬を観ると馬車馬のような体形で不安になり平木コーチから苦情が出るのではと心配したが平木コーチは何も言わずすぐに調教に入れ、障害馬として育ててくれました。その馬は青光（通称ドタ）。

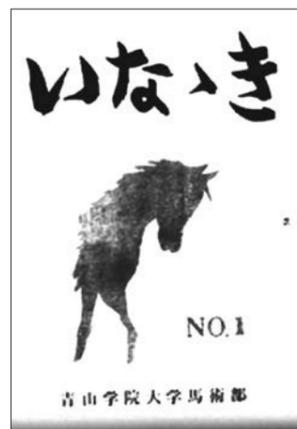
以上は高等部大学7年間の歩みの一片ですが、馬匹不足、一般グランドでの練習、移転したばかりの綱島馬場の不良、青木真次会長の援助で砂、炭殻を補充し、大がかりな馬場改善作業、馬糧代の支払いに四苦八苦する会計、そんな苦労試練の連続であったが、いつも仲間が居て、馬が居て、試合のたびに馬事公苑への街上輸送中に八百屋さんから人参を提供してくれたりの人情に接し、良い学生生活を過ごせたと実感しています。後輩、現役の皆さんにはこんな過去の風景を感じて頂き100周年の伝統をさらに進めて頂ければと思います。



■ いなき 思い出

都の東北、生まれ育った下町の向島から山手の青山に都電と地下鉄を乗り継いでほろぼろ通い始めた。広い学院内を調査しているうちに、或る日、敷地内に大きな馬場と馬数頭の馬房、調教師の小部屋があり興味を持った。しばらく通ううちにすっかりとりこになってしまった。入部して馬にも馴れ段々と部の環境が理解出来る様になった。2年目に緑鞍会係として、引き継ぎの先輩に連れられて大正や昭和初期生まれの方々に年会費の集金に伺った折、OBの方々が馬術部を卒業してからのニュースがほとんど皆無であり、馬に対する思い出が薄れているように感じられた。これでは資金援助だけして頂きながら徐々に興味が失われるのではないかと思った。今後は現役の活躍や部の諸問題などをくまなく伝達し、当時の状況をふりかえりながら学生時代の思い出をずっと持続して頂こうと思ひ会報の発行を思いついたのである。定石通りの原稿はそれぞれの方々に依頼し、報告すべき事柄は考慮してしたためた。池袋近くのタイプ印刷屋に依頼しなんとか苦勞の未発刊にこぎつけた。会報名は当時中央競馬会に準オープン級で活躍していた「イナナキ」という名に白羽の矢を立てた。彼は馬体が立派で男前であった。今後、年1~2回出版し継続させようという思いであった。3年になると緑鞍会係は卒業し、立候補して主務にさせてもらった。試合の

方もおおよそレギュラーとなって大学の対抗試合はもとより馬事公苑やパレス乗馬倶楽部での自馬競技、関東選手選抜の登上げ運動やら数多くの出場を果たした。恒例になっている関西遠征は生まれて初めての夜行寝台列車にゆられ、関西の有名な大学である京大、関学、甲南大、神戸大、愛知大、名古屋などと交渉し、親睦を深める行事日程をこなした。その折、往路では大阪で先輩の家に、復路では藤枝の同期の家に宿を得た。懐かしい思い出が今もよみがえる。馬匹購入でも買い付けした馬と共に東北から貸車に乗り寝食を共にしたこともあった。合宿は伊豆の大室高原乗馬クラブで行い、戸田海岸の水泳など楽しみも味わったものである。その間、大学側の都合で馬場の移転があり、3年生の頃、東横線の綱島に移転し、近年町田へと居を移したのである。昭和37年卒の男性部員は8名、女性は大学、短大で男性と同じ位の数であった。卒業してから私達の学年はBB会(ブラックブーツ)と名乗り、年1~2回の例会をずっと続けている。しかし、現在は年齢の所為で年々少なくなってきている。「清酒白鶴」の元副社長が会の幹事なので新橋近辺で今でも開催している。参加人員は男女合わせて6~7人かな。当初の半数位だ。この様な歴史が私の85年間中の4年分として刻まれている。印象深い優美な思い出の1ページであった。



■ 岡 良介 (1962年卒)

■ 月雪号

馬術部創部百周年の記念パーティに参加しました。久しぶりの有楽町です。私の就職した福島テレビ(株)という会社の東京支社は旧そごうデパートの前の新有楽町ビルの2階にあって、昭和53年から10年ほど営業マンとして勤務をしていたのです。

この記念パーティで嬉しかったのは、新城会長がドレスアップして現れたときでした。元気なお姿に思わずハグしてしまいました。

平成23年福島県は東日本大震災による地震、津波その上東京電力の原発事故による影響で重い空気に支配されていました。そんなある日、後輩の稲熊君から新城会長等4名でお見舞いに行くことになったと連絡をもらいました。できるだけお金を福島県で使うことで助けになるとの事で、さっそく飯坂温泉の吉川屋を予約しました。そこで3泊4日の日程で宴会を催して頂きました。卒業から50年近く経てもまだ友人であるといえるのは、部活のお陰でしょう。昨年逝去された飯田先輩にも数度、福島の高湯温泉に来ていただき感謝しております。

私は馬術部には、2年生の4月から入部しました。1年の時、山が好きでハイキング部に入りましたが体調を崩し退部をしました。その後体調が回復するにつれ学生生活が退屈に感じていました。2年の春のオリエンテーリングに参加したことがきっかけで馬術部に入部しました。同級生が先輩ということで色々苦勞がありました。馬匹を決める時、飯田さんから勧められた月雪という馬は咬癖が強く危険な馬だけど、お

■ 石田 謙三 (1964年卒)

前は1年遅れているので誰もが嫌がるこの馬だと試合に出るチャンスが多くなるからと言われました。この月雪は関西学院大学があまりに咬まれる部員が多すぎて青山学院に譲ったといういわくつきの馬でした。他の馬には付いている“青”の文字が関西学院大学のシンボルである“月”のままでした。用心はしていましたが2度程腹を咬まれました。馬は牙がありませんから食い込んでほかないのですが凄まじい擦過傷で1か月はお腹をまっすぐ伸ばせない程の苦痛です。それでも障害を見ると突っ込んで行く良い馬でした。この写真は、東京都馬術大会での六段飛越の姿です。この時は残念ながら3位でしたがこの時の小さなカップを大切に持っています。飯田さんが亡くなって逢えなくなったのが大変残念です。

月雪といえばある日綱島の馬場に青学高等部の生徒がやって来ました。練習は終わっていたのですが、月雪に乗せてやりました。彼は馬術をやりたいと言うのです。それでは高等部で馬術部を復活させたらどうかと勧めてみました。これを機会に高等部に馬術部が復活しました。彼は男女の有志を集めました。皆熱心な生徒で間もなく数名が関東選手に選ばれました。その時の馬場に訪ねてきた高校生が現在の会長代行の田坂信君です。また、創部に加わった女子部員の一人が元監督の大塚まり子君です。

私の学生生活はまさしく馬術部の生活がすべてでした。良い先輩と後輩に恵まれ幸せでした。今もしみじみ思うのです。あの時入部して良かったと。



■ 夢の様な出来事

私は1960年(昭和35年)に馬術部に入った。その時の馬場は2号館東側の「校庭」だった。文字通り校庭の地面は固く到底普通の馬場とは比べ物にならなかった。「馬」も今では滅多に見なくなった「中半血」(雑種)の馬だった。多分その丈夫さが幸いして馬達はあまり故障しなかったのかと思う。

そうこうする内、綱島に総合グラウンドが出来て立派な馬房と馬場が出来上がった。しかしながら二部の学生は仕事との絡みがあり到底綱島での練習は不可能となった。そこで種々交渉の結果、新宿に近い参宮橋の「東京乗馬倶楽部」で早朝練習出来る事となった。

そして、そこで「夢の様な出来事」があった。しかし、その時はその「夢」には全く気付いていなかった。話を1932年のロスアンジェルス・オリンピックに戻さなければならない。

その時、日本の馬術選手団は以下の通りで全て軍人だった。

- 監督：遊佐 幸平(騎兵大佐→少将)
- 総合：城戸 俊三(騎兵中佐)
- 山本 盛重(騎兵中佐)
- 奈良 太郎(砲兵大尉)
- 大障害：今村 安(騎兵少佐)
- 吉田 重友(騎兵大尉)
- 西 竹一(騎兵中尉→大佐)
- *大障害で優勝

その頃の馬術競技はオリンピックの華だったので、最終日の最後にメインスタジアムで行われた。そこで西中尉が大障害ゴールドメダリストになったのだから日本中が上を下への大騒ぎになったのは想像に難くない。余談になるが、その西中尉の縁者が青学馬術

前幹事長 鈴木 徹治(1964年卒)

部に在籍していた事は知る人ぞ知る話。

このメンバーは硫黄島で惜しくも戦死された西中尉を除き、1948年に創設された「パレス乗馬倶楽部」の教官として戦後の日本馬術界に多大な貢献をされた。

私ごとではあるが、パレス乗馬倶楽部には天覧馬術競技大会を見に行ったことがある。中でも日本古式馬術の「母衣引き」で、側対歩での伸長速足をしながら10m程のホコを左右にくねらせ地面と水平になびかせながら、あたかも脚が地に付いていないかの様に走る姿はまさしく天馬を見る如くであった。

1966年にパレス乗馬倶楽部は馬事公苑での「日本馬事振興会」となったことは周知の事である。

「夢の話」に戻そう。このパレス乗馬倶楽部の教官だった、遊佐幸平、城戸俊三、奈良太郎、各氏に加え印南清騎兵大佐、小松崎新吉郎、の各氏がしばしば「東京乗馬倶楽部」にお見えになっていた。特に奈良、小松崎両氏は教官として常時指導してくれていたのである。NET検索などない1960年代の事ゆえ「馬術の神様達」に指導して頂いていたと言う「夢の様な出来事」だった真実を知るのそれはそれから数十年後のことであった。

神様に纏わるエピソードがある。貸し馬に「白玉」という細身の、我々に取ってはつまらない(失礼)馬がいた。ある時、お供に連れられ遊佐幸平氏がお見えになり、何とあろう「白玉」号にお乗りになったのではないかと勝手に駄馬と思っていた白玉号が素晴らしい伸長並足を始め、我々が見た事もない各種歩様を絵の様にするではないか。これは馬術の神様がお乗りになったのだから当然だが、我々は馬から教わるばかりで馬を調教するとはこう言う事かとつくづくと考えさせられた。

後日、なぜ一緒させていただいたのか記憶に乏しいが、当時監督であった青木真治氏と共に習志野方面へ行った帰途、城戸俊三氏、印南清氏と共に船橋の拙宅へお立ち寄りいただき暫し歓談した事がある。これも今思えば神様達が揃って拙宅にお見え頂いたという「夢の様な出来事」の続きがあったのである。

馬術部百年の歴史はやはり壮大なるエピソードの積み重ねで出来ていると今更ながら、そう言わざるを得ない。

(参照)

北海道大学馬術部

「馬乗りが知っておくべき二つの話」

<http://hokudai-horse.xsrv.jp>



東京乗馬倶楽部でガクランを着て駒猛号に乗った筆者
この時の背景には何も無いが今は首都高速新宿線がある



毎年やっていた5月連休中の遠乗り
この写真は、1962年 御殿場の十里木高原

■ 百五十周年・二百周年は来るか

青学馬術部はめでたくも 2023 年に創部百周年を迎えた。しかし、次なる百五十周年・二百周年は来るであろうか。

かつてオリンピック競技の最終日、メインスタジアムで行われた競技は大障害馬術であった。それがいつの間にか単なる一競技として行われるだけとなり、決して花形スポーツとして特別扱いはされなくなってしまう。バックにはアニマルウエルネス（アニマルライツ）が存在するのである。

人と馬の歴史は永く、乗用具として、重機として、機関車替わりとして使ってきた。機械と違って「可愛がられながらも過酷な使われ方」をしてきたのは事実である。

広くこの観点から言うと私は「動物園」の存在は反対である。その昔は首の長い動物、鼻の長い動物、恐ろしい歯を持った動物、見るだけで可愛らしい動物、が存在する事を皆知りたかったし見たかった。ただ、それは素晴らしい映像技術の無い時代の話で、今や彼らが自由に生きているそれぞれの地域環境での「ありのままの姿」で見る事が出来る時代となっている。檻に閉じ込める必要は無くなっているのではないか。ベースにはアニマルウエルネスの考え方がある。馬術自体この考え方の範疇にあることは否めない。

反論を恐れずに言えば私は「盲導犬」も反対である。半世紀も前に人類は月面着陸している科学技術がある。盲導犬の能力に匹敵するロボット技術は既にある筈。盲導犬はこの能力を発揮するために自分の寿命さえ縮めている事実を知っているであろうか。

話を元に戻そう。時代は変わった。自分の意思を持たせず乗り手の成すが儘に動かす馬術をアニマルウエルネスの上で何と説明したら良いのだろうか。

鈴木 徹治 (1964 年卒)

競馬の騎手の話を聞いたことがある。彼らは出走ギリギリまで騎乗する馬に会わないと言う。何故なら「この人が来ると否応なしに全力疾走させられるから嫌だ!」と馬が思うために人馬関係を悪くしないための配慮だそうだ。

色々書き連ねて来たが、高貴なスポーツとか、カッコ良いスポーツと思われて来た馬術があと五十年、百年「このままの姿で」もつであろうか? 馬に親しんできた自分が言い出すのはきついが、苦しみながらもそれなりに考えさせられた。しかし、話は終わっていない。未来は変わって行くかも知れないが、今と未来を繋ぐ話が出来ていない。

私はめちゃくちゃ動物が好きだ。それなのに DEER HUNTING を長年やって来た。ゲームの為に動物の命を奪うスポーツ? を!

人間は頭の中で自分の行為のチャンネルを替える事が出来る様だ。公に許可された条件の下、駆除対象の鹿を撃つ事に何の躊躇もなかった。しかし、ある時自分の鹿狩りを VTR に撮った事がある。それを家族に見せようとした時、一瞬の迷いがあった。原野で鹿と対峙した時の自分の頭のハンティング・チャンネルが家に戻った時には都会チャンネルに代わっていたのである。自分の中で1チャンネルでは OK だった行為が同じ自分の中で3チャンネルの時は可哀そうで家族に見せられない行為だったのである。

同様に馬に親しむ人々も今やっている事が当たり前ではなく、絶えずアニマルウエルネスを頭に置いて柔軟な対応をしながら次の時代への対応を求められているに違いない。自分なりに種々考えさせられた偉大なる百周年であった。

■ 縁は異なるもの

頼まれていた「作文」を渡したいと「オノ」から連絡があり翌日の午後、近くの公園で落ち合うことにした。その日は奇しくもバレンタイン・デイ、81歳の青年(?)二人がファミレスでドリンクバーと生ビールを頼み、チョコレートの交換をすることもなく久しぶりの再会に話がはずんだ。

去年9月9日に馬術部創部100周年のパーティーがあり「有楽町で会いましょう」と洒落にもならないコピーで同期に声を掛けた。オノも参加するものと思っていたが、当日体調をくずし出てこれなかった。そんな事もあって彼には「いななき」に載せる原稿を依頼した。短くていい、何でもいいと云って書いてもらった。

「創部100周年、おめでとうございます。東急東横線、渋谷駅始発に乗り綱島駅で降り、徒歩約20分馬場に到着。馬房の掃除。眠気が覚める様な臭い。でも嫌いではなく、体調を崩して1年後に退部。卒業後10数年経ってから、同期の稲熊、通称「クマ」か

小野口 健、稲熊 武臣 (1966 年卒)

ら連絡をもらい同期会に出るようになり現在に至っています。いつか又、同期の仲間との再会を期して、、、。S41年卒 小野口健

話は飛んだり跳ねたり行きつ戻りつ、こうして二人で話すなんて初めてだよねなど思い出語りのさなか、ところでクマはブラジルに行ったんだよねから始まり、馬術部のあと俺は「ラテンアメリカ研究会」に入った。そこに二人ばかりブラジルに行ったやつがいたぞ!となり、名前が出てきてびっくり、二人とも向こうで同じ会社の先輩と同僚だった。正に「縁は異なるもの、味なもの」です。

60年余り前に一人は名古屋から一人は東京、同じ大学に入り更には同じ馬術部で出会ってからの「縁」となるのでしょうか。原稿と一緒にセピア色した写真を1枚見せてくれました。裏には1962年4月、小石川植物園と書いてあり同期新入生13人の懐かしい顔が写ってありました。もうひと踏ん張り、また同期会を計画するか!との思いが浮かんで来ました。



■ 牝馬3頭のこと (東扇・ミスクシロ・青駿)

篠原 敬明 (1966年卒)

1963年(昭和38年)11月24日、私は、関東学生馬術争覇戦2部決勝戦に向けての強化合宿中に、綱島馬場で20歳の誕生日を迎えた。前日23日にジョン・F・ケネディ米国大統領がダラスで暗殺されるという歴史的な大事件発生というニュースが流れていた。念願の1部昇格のチャンスを掴み、緊迫した空気の中で合宿であったので「おめでとう」の言葉もなかった。

当時の学生馬術は、貸与馬によるチーム対抗障害戦が全盛であった。特に関東学生馬術争覇戦は最重要競技会であった。我校は2部リーグに所属し、1部昇格が悲願であった。そのため部員はこのトーナメントをターゲットに活動しており、この年も6月に馬事公苑で開催された。この試合で、私は裏方作業と思いついていたが、直前に出場予定の上級生が欠席したことで急遽抜擢起用された。

1頭目の牝馬はこのとき騎乗することになった「東扇」という名の東大の馬である。癖馬、難馬が多い中、障害に向かえば勝手に飛んでくれる満点馬であり、2ヵ月前の新人戦では、2度騎乗して満点でゴールしていた。ところが、第1走者としてスタート地点に向かったが、直後に膠着に遭い前進しない状態に陥ってしまった。スタートが切れたのは失権の数秒前であり反抗や拒否を繰り返し何とかゴールした。突っ走る馬との先入観で、抑えることに意識がいった馬の推進意欲を阻止してしまい、この日に懸けてきた4年生を真っ青にさせてしまった。私の失態にも関わらず上級生の頑張りでこの試合に勝利し、その後も勝ち上がって秋の決勝シリーズに進んだのである。

2部決勝戦は、あと一歩およばず1部昇格はならなかった。おまけに、このシリーズで貸し出した我校の看板馬青渚(愛称ナギ)が左前肢を痛めるアクシデントに見舞われた。

通常、綱島馬場と馬事公苑間の馬輸送は騎乗歩行で行なっていたが、ナギが跛行していたので曳き馬で帰厩することになった。ナギを私が曳き、同期の中

村が青藤(愛称ドン)を連れて、2時間の帰途についてた。多摩川の土手を越えて川崎市に入った所で南武線の線路沿いにさしかかった。夕闇が迫る中、電車が来るのが見えたのでナギの両轡を押さえて警戒していたが、電車の轟音に驚いてナギが走り出した。私は、ナギの馬力に抗することが出来ず、必死に首にしがみ付いた。100メートル程突っ走って向河原駅の構内に突入し、ラッシュ時の混雑した改札口で着物の若い女性にぶつかった。ナギを押さえるのに必死な私に代わり、同道していた中村がドンを曳き連れながら、転倒した女性への対応をしてくれた。その後、2頭を綱島の厩舎まで連れ帰った我々は、4年生数名と菓子折りを持って女性宅へ謝罪に向かった。女性は、突然の馬の出現にショックを受けて寝込んでいたが、大事に至らず安心した。

翌1964年(昭和39年)は、東京オリンピックの年であった。ところで、我部の財政はOBの援助やアルバイト、パーティー収益等で補っていたが、毎月の馬糧代の未払は累積しており破綻寸前であった。そんな時、各校にオリンピック近代五種の馬術競技で使用する馬匹調教のため部員派遣の要請があった。期間は半年近くになり、この間の競技会や夏季合宿等の主要な活動は回避せざるを得ないが、報酬が魅力的であったので引き受けることになった。そして、3年生6名の中からくじ引きで私と稲熊の2名が派遣されることになった。

近代五種の馬術は貸与馬によるステイプル競技であり、馬匹は主催国が準備することになっていた。6月のある日、八王子牧場で長期合宿が始まった。日本代表に一歩及ばなかった近代五種の選手7名と学生馬術部員の23名が集められた。そして、調教する馬匹は50頭近くのサラブレッドやアラブで、大井競馬の競走馬であった。馬達はそれぞれカタカナの競走馬名を名乗っており、その能力は学生馬を遥かに上回っていた。また、この寄せ集め集団を指揮する人

は、厳格で近寄り難い雰囲気のある元陸軍少佐で、教官と呼ばれていた。各人に2頭の馬が割り当てられ、教官の号令でそれぞれ1鞍2時間の部班調教運動が毎日2鞍続けられた。また、馬の手入れや飼い付け作業を担うために、2頭に1名の割合で厩務員が配置された。教官は、乗り手の技量と馬の調教進度を勘案して定期的に担当馬の変更をおこなった。そんな中、立派な体躯で気性が荒く意気盛んな悍馬2頭に手を焼いていた。そのうちの1頭に私が騎乗することになり数週間トライしたが結果を出すことが出来ず悔しい思いをした。この合宿も後半に入り朝霞の根津パークに移った。ここは、旧米軍朝霞キャンプ跡地でオリンピックの競技会場にあてるため組織委員会が各種設備を整備していた。その一角に50頭分の厩舎と馬場が新設され、隣接する丘陵地の杉と松の林を切り開いて1500メートルのステイプルコースが整備された。アップダウンのある地形に固定障害が20か所設置された。ここでは、障害飛越の時間が多く組み入れられ、本番を想定したコース走破トレーニングも幾度となく行われた。

私が担当していた「ミスクシロ」という名のアラブ系の馬が2頭目の牝馬である。素直な性格で安定感があり、調教は順調で10月11日の競技日に備え万全であった。ところが、当日の朝、右目が白濁しておりフィラリアに罹患していることが判明、無念のリタイアである。外国選手を乗せて次々と通過して行く馬達を眺めながら、担当した馬を送り出してやる事が出来ず無念であった。

全てが終了して、参加した人達はそれぞれ出身馬体に帰り、馬達は各地の乗馬クラブや大学等に払い

下げられていったが、ミスクシロが何処に落ち着いたか不明である。そして、私と稲熊が半年かけて獲得した数十万円の資金は部の財政に大いに貢献した。

3頭目の牝馬は、私が最終年に馬匹担当になった「青駿」である。新馬で入厩したこの馬を平木コーチが1年がかりで調教していた。まだ口が固まらない状態であったので練習馬での使用は控え、障害の慣らし運動で私が騎乗していた。水沢生まれの素直で元気一杯な馬で、寒くなるとフサフサの冬毛になり運動後の発汗で馬体から立ち昇る湯気の様子からオイモと呼ばれていた。前後して青学馬術史上に一時代を築くことになる青騮(愛称ゴン)が入厩してきた。青駿とは、トレーニング後にグランド外の鶴見川の土手を会話しながらゆったりと散策する日々であった。そんな正月の昼下がり、日光浴をさせてやろうと放馬したところ、喜び勇んで飛び跳ね後肢で私の左大腿部を強烈にパンチした。私は、苦痛で数日歩くことが出来なかった。

3月で平木コーチが部を離れ、青駿は未完の状態ですら私の元に残った。練習では拒否や反抗をしない素直な性格の馬であった。5月に入ってデビューすることになり、馬事公苑で障害飛越競技に臨んだ。シャイでまだまだ安定感に欠けるところが露呈して途中失権するほろ苦いデビュー戦となってしまった。

改めて私が関わった3頭の馬達の記憶を辿ると、手を焼いたことや悔しい思いをしたシーンが蘇る。しかし、遙か60年前の色々な出来事が全てキラキラと輝いて見える。そして、その時々に関わった人達とは今に至るまで繋がって来るのである。

■ 馬の仲間

100周年記念『いななき』の発刊おめでとうございます。

私は学校は出ましたが、馬術部は実は中退です。伝統ある『いななき』に寄稿させて頂いてよいのか、躊躇するところですが、光栄にもクマ先輩が「声を掛け」て下さいましたので、ズーシューしくも書かせて頂くことに致しました。

80才に手が届こうとする私は、低空飛行ですがマーマナーな後期高齢者生活を送っています。思えば、ほとんどの予定がリタイア後に「声を掛け」て頂いて、順々に増えたものです。同級生との月例飲み会、毎週の長年続けているボランティア、趣味（55の手習い）、自治会活動、仲間との旅行、そして喜寿から始めて3年目の今の仕事など。テレビ鑑賞も甲州人ですから、毎正月箱根駅伝を以前は山梨学院、今は青山学院とぶっ続けで楽しんでます。振り返ってみると、これまでにこれと言った成功話がある訳ではありません。高校大学時代の付き合いの復活から始まっているのです。つまり私の日々はまるで学生生活の延長の様です。

普段の会話が「ホラ、アレ」とか「誰だっけ、名前が出てこない」なんて、言いたいことが言葉として出てこないのに、不思議にも半世紀も口にしていない当時の皆さんの名前がスラスラと出てくる。本目さん 上野さん 大竹さん クマさん ケードーさん 篠さん 中村さん 那波さん 谷中さん、石原さん カトーさん 間明



田中 明彦 (1968 年卒)

田さん 永田さん、そして張 波木井 越智 高妻木村、後輩の三谷 田坂 真木 森田 の面々も。女性の名前も青木さんにおトミ（クマ夫人）をはじめ20人位は頭に浮かんでくる。既に亡くなられた方もいる。こうしてみると学生時代のわずか数年の印象が特に深く、中身が濃かったと言うことなのでしょう。そして知らぬ間にその時代の友人が一生の友になっています。がむしゃらに生きてきた60代半ばまでの、社会人時代の付き合いは長くて多かったが、リタイア後も引き続いているのはわずかです。我々の学生時代は先輩後輩の序列感は現代と違い厳格で怖かった、腹で思っても、口が裂けても絶対言えないこともあり、そう簡単に先輩のお仲間に入れて頂けるものではなかった。私の場合『物おじとか遠慮』と言う言葉を知らない仲間がいた、張である。ラッキーにも彼の存在が先輩との距離を大きく縮めてくれ、おかげで半世紀も過ぎてから、先輩から「声が掛かり」、何回も旅行に誘って頂いた。100周年パーティーの時、間明先輩から、「声を掛け」て頂き甲州の田舎者が身分不相応な冥途の土産（タワマンからの夜景）も頂くことになった。

肩肘を張らない当時の付き合い方が、今のミニ幸せ感、充足感を作ってくれているのだらうと思える。現役の皆さん、当時の体験談や、中退の訳とか、思い出話をするべきだったかもしれませんが、ちょっと先輩風を吹かせて、参考にもならない話をしてみました。



昭和40年、夏合宿 角館にて

■ ゴン・私の相棒青駒号

彼との出会いは昭和39年私が19歳1年生の時、冬の曇り空の中練習が終わった昼過ぎ、府中競馬場から到着した馬運車から降り立った鹿毛馬が彼であった。

その日は朝から馬術部初のサラブレッド入厩の話で持ち切りだった。

それ迄はアラブ、トロッター、中半血種しか在厩していなかったからである。彼は、馬場に降り立つや周囲をグルリと見渡し「俺様がきたぞ」と言わんばかりに大きな声で空に向かって誇らしげに嘶いた。サラブレッドのプライドだろうか、その華麗な立ち姿にウツトリ見とれてしまいました。

彼の血統書には父「ヒカルメイジ」、母「常花」とあり純粋のサラブレッドだった。

彼は昭和42年第34回日本ダービー優勝馬「アサデンコウ」の馬主手塚栄一氏のお嬢さんが、一時馬術部に在籍していた縁で無償で譲り受けました。

彼も現役時「アサ」の冠名で競走馬登録されていたとの事です。

彼は当時6歳で既に登録抹消後だったので「名無しのゴン兵衛」と呼ぶようになり、又関西ではやんちゃな男の子の事を「ゴン太」と言うことから彼のニックネームが「ゴン」になることはごく自然なことだったと思います。後に青駒と名づけられたのですが馬名の由来は中国の史書に当時の皇帝が所有した7頭の名馬の中の1頭の馬名だそうです。

しばらくして12月下旬クリスマスの頃去勢をし、馬事公苑の外厩で主将の山田恵道先輩、馬匹責任者の篠原敬明先輩が吹きざらしの寒い中寝袋にくるまって手術後の彼の付き添いをして下さいました。

余談ですが去勢後の彼のARE（アレ）は1つは伊藤獣医が持ち帰り、あと1つは綱島馬場近くの中華料理店で調理して貰い食したとの事。とても美味であったと後日談として耳にしました。

山田、篠原先輩は今年齢80を迎えてもなおカクシ

島田 義雄(張 義雄) (1968 年卒)

ヤクとされていて、手綱をゴルフクラブに持ち替えプレイを楽しんでおられます。

私もこの10年間1年に一度、中村教雄先輩との4人で名古屋で一泊2ラウンドのゴルフプレイを楽しんでおります。

80歳でのスイングの華麗さ、力強いナイスショットを連発されるのは今も続くARE（アレ）の效能のお陰でしょうか？

話が横道にそれましたが、年が明けて彼の手術後の傷が癒えたのを見計らって山田先輩が彼の調教を開始されたのですがフィラリアのせいで左眼の瞳に白くモヤがかかり曇っていたのです。

果して失明していたのでしょうか？ 全く知る由もありません。山田さんは当初は乗馬せずに調馬索での左右の円運動、地面に等間隔に置いた横木を正しい間歩で通過させる地味な基本運動をくる日もくる日も粘り強く反復継続して彼に教え込んでいきました。彼はだんだん素直になり山田さんの指示に従うようになりました。その後ハミ、鞍をつけて本格的な障碍馬としての調教に進んでいきました。山田さんは準備運動後障碍飛越の練習で彼の類い稀な跳躍能力を見抜いておられたのか450cmを限度に決して高い障害を飛越させませんでした。

左眼が不自由なせいか右に逃避する癖があり苦勞されていました。又、頭を上げる癖もあったのでマルタンガールという補助馬具を装着し頭を下げさせ彼の腰、後駆のパワーを前への推進力に変える事に腐心されていました。毎日、山田さんの横でその様子を見ていた私は調教が終ると彼のクールダウンの為、綱島グランド正門前の道路を渡り、鶴見川の土手を草を食ませながら約一時間散策するのが日課となりました。そんな日々が続いた後、遂に彼のデビュー戦が決まりました。山田さんが調教を始めて9ヶ月、昭和40年10月10日 前年開催された東京オリンピックの記念大会でした。彼は素晴らしいパフォーマンス

を發揮し見事満点でゴールしました。馬匹担当として彼の世話をしていた私は山田さんの優れた手腕もさることながら彼の障碍馬としての能力と可能性を目の前で見ることが出来、とても嬉しく感激しました。

その後、山田さんが彼という素晴らしい宝物を置きみやげに卒業され私が主戦騎手として約2年間、東都・関東大学の数々の競技会に出場し好成績を収めました。

減点0でゴールするというミッションを確実にクリアしてくれるようになりました。1, 2の落下、若干のタイムオーバーがあっても拒止、逃避は全くありませんでした。スタートすれば必ずゴールし一度の失権もありませんでした。彼と共に過ごす時間が増えるほど、相棒としての強い絆を痛感しました。

その後、3年の春からOBの伊藤正昭さんが彼に大靱を装着し馬場運動を中心に調教して下さいました。その年米軍測ノ辺キャンプで開催された東京大会で彼はポテンシャルの高さを披露し、名実共に関東はおろか全国に認知される障碍馬へと成長していきました。そして4年の秋昭和42年第22回埼玉国体出場に私を導いてくれました。三年間彼を世話したご褒美だったのでしょうか。

綱島馬場の為、神奈川県代表としての出場でした。晴れの国体で私の現役最後の競技の2日目、六段飛

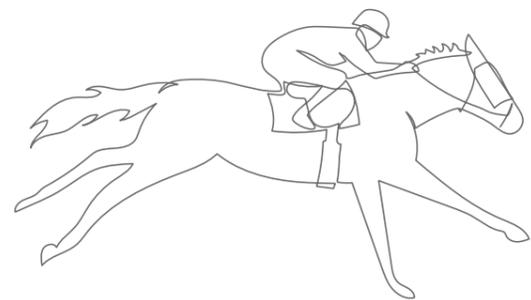
越の2走行目の第4障害で間歩を合わせられず又3日目の中障害飛越のバンケットで私の一瞬の迷いと未熟さが拒止を誘引してしまいました。彼とのコンビでの拒止は後にも先にもこの時だけでした。惜しくも入賞は叶いませんでしたが神奈川県勢のトップの成績で国体を終えました。

翌昭和43年春、私は綱島学部馬術部学科を卒業し大阪に帰りました。

その後の彼の活躍は昭和40～50年代に部に係わられた皆さんの周知の通り、昭和45年の全日本大会の中障碍での優勝など輝かしい戦績を収めました。

又、日本馬術連盟から功劳馬として表彰された事、左眼のハンデを克服し障碍馬として素晴らしい実績を残したそんな彼と毎日一緒に時間を共有できたことは今も私の誇りであります。

思い起こせば60年前の新入生オリエンテーションで私を勧誘して下さいました副将の稲熊武臣先輩のお陰で充実した馬術部生活を満喫し“ゴン”との出会いもあったのです。彼と共に相棒として駆け抜けた3年間、数々の懐かしい思い出が今も走馬灯のように脳裏に浮かびます。高く広い大空を漂い流れる雲のように遙か遠く熱かった青春。よく頑張ったね青驪！ありがとうゴンちゃん！



■馬術部に入った理由とは？

川嶋 透 (1970年卒業)

今から五八年前である。昭和四一年に二浪を経て法学部に入学した。昭和四一年という年は、東京オリンピックの翌々年で、経済成長率は二桁、人口は一億人を突破と国中が活気づいていた年であった。また、戦後のベビーブームいわゆる団塊の世代が大挙して大学受験を行った年で、二浪してしまったために、わざわざ私の世代の倍近い競争率の入試となってしまう、二学年下の弟は、現役で青山学院大学工学部に合格したために同期生ということになってしまったのであった。

大学に入学したら、何かクラブ活動をしたと思っていた。できれば運動部と考えていたが、大学の運動部は、高校時代から経験していないと付いていけないと思い、何か自分に合いそうな運動部はないものかと思案していた。

入学してすぐに大講堂でクラブ紹介のオリエンテーションがあり、それを見学した。体育会系も文化会系もそれぞれ趣向を凝らしてクラブの紹介があり興味深く見学した。その中で、特に目を引いたのが馬術部であった。薄暗い会場のステージにスポットライトが当たり、七～八人の男女が登場した。男性は、黒の学生服の上らんに白のキュロット、黒の長靴に学生帽をかぶり、女性は、黒のジャケットの上らんに白のブラウス、白のキュロットに黒の長靴に黒のヘルメットという出で立ちで登場した。その服装が試合用とは知らなかったが、ライトを浴びて浮かび上がったその姿は、ひときわ目を引き、この上もなくカッコ良かった。男子の一人がギターを肩にかけていた。そして、男子の一人が、マイクの前に出て、「馬術部です。歌を歌います。」と言って、いきなり当時フォークソング界で大人気のグループのピーターポール＆マリーの曲を二曲合唱した。会場は割れんばかりの拍手と歓声に包まれた。終わった後も部の説明などは一切なく、礼をして退場したが、それもすごく印象に残った。当時、私もフォークソングが大好きで、親にねだっ

てフォークギターを買ってもらい、ピーターポール＆マリーの曲をギターを弾きながら歌っていたのでなおさら印象に残った。

オリエンテーションを見学し、クラブ紹介の冊子を読み返して、最終的に二つのクラブを選択した。一つは航空部でもう一つは馬術部であった。この二つとも体育会であったが、高校でのクラブ活動は少なく、未経験でも何とかついていけるのではと思った。航空部については、グライダーで空を飛んだらどんなにか気持ちいいだろうと想像し、馬術部は、フォークソングを合唱する楽しそうなクラブの雰囲気の魅力的なことと、動物好きの自分には向いているのではと考えた。

クラブ活動の詳細は、各部室を訪問して説明を受けるようにと学生部より聞かされていたので部室を訪問することにした。学生会館の二階に航空部も馬術部も部室を構えていた。まず航空部の部室に赴きドアをノックした。だが返事がない。部室に鍵が掛かっていた。ちょうどその斜め前に馬術部の部室がありドアをノックした。すると、女性の声で「どうぞ」と声がしたのでドアを開けて部室に入った。そこは細長い奥行きのある部屋で、真ん中に長いテーブルがあり、その周りをベンチシートのような木製の椅子が置かれていた。その奥の窓際に三人の女性が微笑んで私を迎えてくれた。三人ともなかなかの美人で、華やかでおしゃれな服装であった。

席に着くと真ん中に座っていた女性が部の活動などを説明してくれたが、なんせ三人の美女に囲まれドギマギして説明は上の空であった。そして、その女性が、川嶋君の住まいは何処？と尋ねてきた。品川区と答えると、さらに品川区の何処と問いかけてきたので戸越と答えると、あら私も戸越よと言いさらに何丁目なのと問いかけてきたので四丁目と答えた。すると私も四丁目なの「栄湯」って知ってる？と聞いてきた。栄湯とはすぐ近くの銭湯で六歳の時に戸越へ引っ越

して来てからほぼ毎日のように通っていた。家に内風呂があっても銭湯が好きで、大相撲やプロレスなどのテレビが見られるのも楽しかった。まさかその銭湯の娘さんがいるクラブとは思ってもよらなかった。そして、その女性は、じゃあ決まりね。明日から練習にいらっしやいと言ってきたので、思わず「はい」と答えてしまった。

そんなわけで馬術部へ入部してしまったのであった。翌日、五時過ぎに家を出て、東急大井町線の戸越公園から電車に乗り、自由ヶ丘で東急東横線に乗り換え綱島で降りて二十分ほどかけて、青山学院総合グラウンドの一番奥にある馬場へ初めて足を踏み入れた。その時から四年間の青春時代が始まったのであった。

高校時代は、硬式野球部に身を置いていたが、諸々の事情により一年で辞めてしまいその苦さを繰り返さないよう、入部したからには最後まで辞めずに四年間を過ごそうと決めていた。入部して二ヵ月たったころ、一年上のM先輩が事あるごとに私にいちゃもんをつけ、いじめを繰り返してきた。私の方が年上ではあったが、そこは体育会なので先輩を立てていたが、一触即発の事態となってしまう、トラブルを起こす前に身を引こうと退部届を胸に三年生のキャプテンを尋ねた。ところが意外な返事が返ってきた。キャプテンはMとのことはお見通しであった様子で、にこにこしながら「Mは辞めたからもう心配することはないよ」と語りかけてきた。思わず涙がこぼれそうになり、これからは絶対に辞めないで最後まで全うするぞと心に誓ったのであった。入部当時は男女合わせて一五～六名いた同期の部員は次々に辞めて行き、四年まで続いたのは男子五名、女子三名であった。

馬術部で過ごした四年間の青春は、今思い返せば至福の四年間であった。思い出は走馬灯のように浮かんでは消えまた浮かぶ。楽しかった思い出しか浮かんでこない。良き友、良き先輩・後輩に恵れ、日々の

練習、飼料稼ぎのアルバイト、恋をし、麻雀をし、深夜に横浜へ繰り出し朝までディスコで踊りまくったこと、夏の合宿で過ごした日々、幹事として関西遠征を行ったこと、馬運車代が払えないために馬にまたがり、多摩川を渡って馬事公苑まで馬を運んだことなど思い出は枚挙に暇がない。試合での思い出というと、本命馬を与えられたのに経路違反で失権となった苦しい思い出ではあるが、今はいい思い出となっている。

馬術部へ入部していなかったら一体どんな大学生活を送ったのであろうか？想像もつかない。あの時に航空部に誰かいたらどうなっていたのか？馬術部の部室へ訪問した時に、栄湯の先輩がいなかったらどうなっていたのであろうか？当時は、学生運動が盛んで、全共闘なるものが各大学に出現して社会問題となっていた。私の性格からしておそらく学生運動に身を投じていたかも知れない。馬術部を選んだことが本当に良かったとしみじみ思うのである。

昨年馬術部創部百年の式典が行われた。私は昭和四一年（一九六六年）入部であるので第四三期生ということになる。この青山学院馬術部が一五〇年、二〇〇年と未来永劫続いてゆくこと祈念して私の寄稿とする。



■私と青山学院体育会馬術部 青山学院大学体育会馬術部緑鞍会 幹事長 伊納 保夫 (1971年卒)

馬術部 100 周年記念“いななき”発行にあたり編集委員の方より緑鞍会幹事長として寄稿文を書くようにとご依頼を頂き、何を書いて良いのか分かりませんが今の気持ちを素直に書かせていただこうと思います。

まず昨年9月に青山学院馬術部 100 周年祝賀会を執り行う事が出来、参加いただきましたご来賓の皆様並びに緑鞍会会員の皆様、現役馬術部員の皆さんに心より感謝申し上げます。祝賀会に参加いただきましたご来賓の皆様、緑鞍会の皆様からは、素晴らしい祝賀会内容であったとか、久しぶりに懐かしい人々に会う事が出来楽しい会であったとかのお言葉を数多く頂く事が出来それなりに素晴らしい祝賀会であったと思います。それも青山学院馬術部の 100 年間の歴史をそれぞれの時代、緑鞍会会員の皆様、現役馬術部員のみんながその時その時を青山学院馬術部員として楽しい事も苦しい事も多々色々あったと思いますが、馬術部を運営し活動を継続して来て頂いた結果だと思います。100 年間の間に馬術部の馬場も、その時その時の馬たちも、指導者も色々代わり、緑鞍会の皆様もそれぞれの時代の青学馬術部があったと存じますが、全てが青山学院馬術部の 100 年の歴史であり、これからも末永く引き続けていかなければならず、今後とも皆様方の青学馬術部に対する温かいご理解とご協力をお願い申し上げたいと存じます。

私は 1971 年（昭和 46 年）青山学院大学卒業ですが、卒業までの 4 年間で馬術部で過ごし何頭かの青学の馬たちと関わり馬達から多くの事を学び、それぞれの馬との楽しかった思い出、苦しかった思い出、悲しかった思い出数多くありました。また 4 年間を通じて多くの諸先輩の皆様、指導者の皆様、同期の仲間、後輩の皆との交流を通じて苦労もそれなりにありましたが楽しく学生生活を過ごす事が出来た事に感謝いたしております。まず指導者として私の在学中に

OBOG の皆様のお力添えで青山学院馬術部に戻ってきて頂きました阿部長治先生には馬乗りとして、人として、計り知れない教えを頂き、私が馬乗りとして何とかやれたのは阿部先生のおかげだと思っております。阿部先生は指導者としてこうなさいと強く指導をされることはあまりありませんでしたが、先生の話される言葉の端々にこうすれば馬は良くなるのだよとか、こう騎乗すれば馬は思い通りに運動出来るのだと言ったヒントがどんどん出てきました。また数多くの青学馬術部の馬たちと関わりどの馬にもそれぞれ多くの思い出があるのですが、この寄稿文では青驪号と青冠号（ラックストーン）に関して書きたいと思えます。青驪号は当時青学の看板馬でしたが、癩が強く試合馬場でひっかかってしまう癖があり、また片目馬だったので障害の落下が多くあり、この馬の能力をうまく発揮させるのが難しい馬でした。この青驪号に 3 年生の時から乗る事に阿部先生の指導の元多くの競技会に出場させて頂きある程度良い成績をとらせてもらい 1970 年の全日本馬術大会の中障害部門で優勝する事が出来ました。（当時の全日本は Part 1、Part 2 と分かれておらず中障害も A,B,C,D と分かれておりませんでした。）青冠号（ラックストーン）はやはり私が 3 年生の時に競馬場からきた新馬で、新馬の時から私が騎乗し私にとっては栗毛の可愛い馬で、能力的には青驪号以上の能力を持っていると思っていた馬でした。ただ、とんでもなく暴れん坊な子で私以外の部員にとっては、ある意味取り扱いが難しい馬だったかもしれません。ただ、能力的には、粗削りではありましたが素晴らしい飛越能力があり、私の記憶では、一度同じ競技種目に青驪号と青冠号の 2 頭乗りで出場し青驪で 2 位と青冠で 5 位の成績をおさめた思い出があります。私は大学卒業後仕事の関係で海外生活、また日本と海外との行き来の生活で、馬社会との関係はしばらくの間全く途絶えていたのですが、私の卒業後も青驪号は青学馬術部の看板馬とし

で活躍していたと聞いております。また青冠号は暴れん坊な性格の為、私の卒業から数年後に青学から京都産業大学馬術部に移り、その後の正確な情報は不明瞭ですが、京産大馬術部では全日本に出場する等活躍していたが、京産大で障害飛越の練習中、人馬転をして処分されたという話と、ある情報によれば京産大OBの加藤氏（加藤氏は横浜乗馬で阿部先生、高津さんと交流があったとの事です）の乗馬クラブに引き取られて処分を免れ余生を送る事が出来たとの話です。

これは私の青山学院馬術部時代の思い出のほんの一部ですが、緑鞍会会員の馬術部OBOGの皆様一人一人にそれぞれの時代それぞれの馬術部活動に数多くの楽しかった、苦しかった、悲しかった思い出が有るのだと思います。そんな様々な思い出をこれからの馬術部員の多くの皆に引き継ぎ作り出して貰って、その時代その時代のそれぞれの馬術部を楽しんで継続して貰いたいと心から願って居ます。今後青山学院馬術部として110周年、150周年、



200周年と進んでいく行程のはじめの第一歩であり、これからの馬術部を運営、継続して頂く馬術部員の皆様には、まず馬たちとの交流を大切に馬たちを可愛がり、馬達は人間の接し方に対して必ずそれなりの対応を返してきます。部員一人一人が目標を持ち、例えば馬術の技量向上、競技会での優勝または上位入賞、馬を通してのボランティア活動、馬の世話の技術向上、何でもよいので目標に向かって進んで行ってください。また馬術部活動を通して馬術部OBOGの皆様、馬術部内での先輩、同期、後輩たち、他校の馬術部員等々との人間関係をよくすることによって一人一人の人間性を磨いてください。また、馬術部の皆さんは馬術部を卒業したと共に緑鞍会会員に成られるのですが、馬術部OBOGとして青学馬術部並び現役馬術部のサポート、援助をして頂き、出来れば現役馬術部員たちとも交流を色々な形で続けて行って頂きたいと願います。その結果が青学馬術部の10年後、50年後と続き200周年を迎える事が出来ればと思います。



■ 第18回関東高校自馬対抗競技大会団体二位 (高等部馬術部は如何に戦ったのか?)

板倉 啓文 (1974年卒)

この文は、今を去ること44年前の思い出ですが記録でもあります。

1980年に塚本君、岡村君、岡田君、菰田さん、柳田さんの五名が高等部馬術部に入部してきました。その頃私は綱島の馬場で大学生と一緒に馬に乗っており、高等部もみていたので、高等部コーチの杉浦君と相談しながら指導を進めました。

杉浦君と進めた高等部馬術部の指導方針、活動内容、結果などは、まとめると次の通りでした。

【目標】

何しろ、一人の退部者も出さずにチームを組んで競技に出場する。

精神の鍛錬などとは少しも考えていませんでした。

【戦略】(というほどのものではありませんが)

1. まず、体を鍛えて、体力面、筋力面で試合出場に耐えられるようにする。

土日の練習前には、お隣の陸上の400mトラック10周ランニング、柔軟体操、筋トレ(腕立て伏せ、腹筋程度)をしました。

高校受験であまり運動していない人を鍛えるということです。

たった週2回位じゃどうよ?かも知れませんが、身体を鍛えることは重要ですよ。ゼロよりましです。

現在のスポーツ選手はアマチュアでもアスリートと呼ばれて、どのようなスポーツ選手でもそれぞれに合った筋トレで身体を鍛えることが一般的ですが、当時はそういった意識はあまりなく、せっかく入部してくれた生徒がランニングや筋トレに嫌気がさして辞めてしまうのではないかと最初は毎週ドキドキでした。

2. 実力の無い内に無理に競技に出ない。

単に経験を積ませるだけならば全く必要有りません。

3. 男子は、障害、女子は馬場に集中する。今時こんなことを言うとジェンダー平等を、いや馬術を知らないのかって言われそうですが、試合に使う馬匹の頭数は限られており、そうであれば、障害も馬場も勿論全身の筋力が必要ですが、高校生の年齢も考慮し、より筋力の強い男子に障害に出てもらうのが合理的ですよ。

障害に集中と言っても、馬場が出来なければ障害も飛べません。これは、岡村君が複合で個人2位になったことが、証明してくれました。

【練習】

1. 安全第一。

乗馬の際は言うまでもなく、手入れ、馬房掃除のときも長靴を履くこと。

もちろん長靴は乗馬のためのもの(指摘されたこともあります)ですが足の保護に大変有効です。馬術部で、馬に足を踏まれ、爪を割った人と、巻き爪になってしまった人がいたので長靴を履いて貰いました。

2. 男子は基礎的な扶助は勿論ですが、一年生の時から速歩と駈歩でキャバレッティと障害の練習、試合形式の練習を多くしました。特にスピードに注意して練習しました。

女子も男子より量は少なかったけれど障害の練習はしました。

柳田さんが、もっと障害を飛びたいと言っていたのを覚えています。

しかし、女子は馬場馬の感覚を養う為に、3回ほど埼玉馬事会へ馬場馬に乗りに行きました。京都産業大学から来たスパンカと言う馬場馬で踏歩変換の練習もしました。とてもよい経験になったと思います。

3. 確か二年生の時、どういう訳か、東京農業大

学第一高等学校と障碍の練習試合を行いました。おそらく正式な競技でなく練習試合くらいはやっておかないと、ということだったと思います。負けたと思います。

関東高校自馬まで他には正式な競技に出なかったことで、結果的に他校は青学のことを知らず（マークされない）、また選手にはプレッシャーが掛からず、試合に集中出来たのではないかと思います。

【戦術】

試合では、準備運動は馬場も障碍も大学生、コーチが行い、絶対に選手を疲れさせない。より良い結果を出す為には絶対必要なことです。

この大会での戦術はこれだけです。

選手の皆さんは、この単純な戦術をよく理解して、落ち着いて馬の力を引き出し、また自分の力を出し切ってくれたことがチームでのよい結果に繋がったと思います。

【競技の結果】（昭和57年4月24日～25日）

関東高校自馬対抗競技大会団体2位。

素晴らしい成績でした!!!

岡田君 乗馬 青妃

連絡つかず成績不明ですが、調教途中の青妃に騎乗して複合も中障碍もゴールしてくれました。障害の経路を回っていた時、拒止されましたが、自分の体重が前に掛かりすぎていることに気づ

き、立て直してゴールしました。そのおかげでチームの士気も成績も上がり、団体二位の最大の貢献者でした。

準備運動 杉浦君 この試合のキーでした。最高の準備運動だったと思います。

塚本君 乗馬 青凌 中障碍三位

本当に頑張りました。調子が良くて優勝に色気が出ちゃった？

準備運動 松本美紀さんをお願いしました。お任せで、全く安心して見ていました。さすがでした。

岡村君 乗馬 青驪 複合二位

岡村君こんなに馬場上手だったっけ？ スゴイ！実力を見直しました。

準備運動 板倉 複合の馬場で無理やり大勒をつけてみたら、なんとハミを受けてくれて、はまりました。

柳田さん、菰田さん

乗馬不明ですが、確か青蓮と青駿で二人とも、第二課目と女子第二課目に出場し、二人とも5位前後の成績だったと思います。そしてやはり団体二位に大きく貢献しました。

以上ですが、もし生徒の氏名、馬匹名、成績等の誤りに気付かれた方がいらっしゃったら、板倉までご一報頂ければ幸いです。訂正させていただきます。



■夢を追い続けて

友座 明子（1974年卒）

幼い頃から馬が好きで、馬術部のある大学に行きたいと思っていました。私は短大でしたが、ありがたいことに大学の馬術部に入ることができました。それまで体育会系のクラブに入った事がなく、最初は「封建的だ。怖い。」と、思って退部届けを出そう、出そうと思っていましたが、先に他の同級生が次々とやめてしまい、残ってる女子が3人になりました。馬たちのことを思うと、もうやめられません。二年生になり、ようやく人見知りなりに馴染んできました。可愛い後輩もでき、先輩たちともお話しできるようになりました。それからはもう楽しいことしか覚えていません。

私の人生で一番キラキラ輝く幸せな時を過ごしました。

その分東京を離れる時は悲しくて淋しくて、、、三日三晩泣きました。二度と戻れない世界とのお別れの辛さを知りました。この時のお別れから50年経ちますが、馬術部の皆さんとは今でも心は繋がっています。大切な宝物です。

その後社会人となりましたが、ゴンベが引退したら私が引き取りたい、と思っていました。ゴンベはペーパーの私なんか近寄れる存在の馬ではありませんでした。片目の満点馬で、プライドも高く、かっこいいのに、寂しがり屋さんで、そんなところが大好きな馬でした。

が、練習中に骨折して、翌日安楽死、という知らせを受けました。その時山口市に住んでいたのも、ザビエル教会に行き、マリア像のところで泣いてたら、神父様が気付いてくださって、中に入って一緒にお祈りしてくださいました。

ゴンベは引き取れませんでした。その三年後くらいに、愛馬を持つ事ができました。かつて柳井で乗馬クラブをやった方が、自分の馬の世話も一緒にしてくれるなら、馬を買ってあげると言われたので

す。二つ返事で引き受けました。馬を選んだのはその方で、芦毛の4才の牡馬。その子の名前はTOKIO。彼が逝くまで二十三年半、彼一筋に連れ添いました。

TOKIOと一緒に暮らすのが夢でしたが、叶いませんでした。

歳もとっただし、財力が無いので無理かなあと思いつつ、ずーっと土地は探し続けていました。そうしたら、私が馬の世界に誘い込んだ子で、私が語る夢をそっくりそのまま自分の夢として受け入れてくれた子が、成長して帰ってきてくれて、一緒に実現させてくれることになりました。

探し当てた土地は山の麓で、段々畑の跡地。雑木林になっていましたが、仲間の力を借りて開拓しました。色々な苦労はありましたが、何とか二年前に完成しました。

馬は自分で探すつもりはありませんでした。きっとご縁がある子が見つかる、と漠然と思っていました。

そうしたら、やっぱり。その頃監督をされていた柏木さんから、ブルーベリー号のお話をいただきました。決まりです。

ブルーベリー号を迎え入れるにあたり、夏目さんが柳井まで来てくださって、何から何までお世話になりました。青山で、大事にされてたんだと、感じました。私もこの先ずっと大事にしくちやと思いました。

今、ベリーちゃんは私のパートナーの子の馬と仲良く過ごしています。

どうぞベリーちゃんに逢いにお越しください。ベリーちゃんも喜びます。

最後に、私にベリーちゃんを託してくださって本当にありがとうございました。

■ 阿部先生との思い出

栗原 徹 (1975 年卒)

まず私の現役時代の思い出を少し話したいと思います。私が3年生の時に毎日馬屋当番があり寝糞をしたり夕飼をつけたりしていました。私の木曜日当番チームは友座さん始め美人揃いで先生のお気に入りメンバーばかりでした。そして6時頃当番が終わると必ず阿部先生の所にお邪魔してご馳走になりながら



ご指導を頂きました。先生の手料理はとても美味しく特に私は肉豆腐が好きでした。酒の弱い私は先生の教をこうつもりで行くのですが、いつも日本盛で酔っぱらい寝てばかりでした。

先生は毎朝エコーを吸いながら我々を優しく見守ってくれていました。先生の口癖は拳と脚でした。私はいつもニャンニャン拳を直せとご指導を受けていました。今も馬に接していますが、正しい脚の使い方は乗馬の基本で、正しい拳の位置は馬との意志伝達の要ですよ。それを我々に熱く教えたかったんだと思います。

先日、TV番組で競馬の藤沢調教師が「幸せな人間が幸せな馬をつくる」と言ってましたが、阿部先生の思いは「幸せな人間が幸せな馬と幸せな人間を育てる」事だったんだと確信しています。青山学院大学馬術部に入り阿部先生とお会いし、やさしい先輩や励まし合った同級生、かわいい後輩達と過ごした素晴らしい4年間で私を育ててくれたんだといつも感謝しています。

今でも馬に乗る度に先生の「拳、脚」の言葉を思い出しながら一向に上達しない乗馬を楽しんでいます。

■ 綱島の思い出

上山 千恵子 (1975 年卒)

私の綱島の思い出と言えば、日曜日の朝は4:45の始発に乗って、冬は真っ暗な中「眠い! 寒い!」と言いながら綱島駅から歩き、朝6時からの練習に向かった事。ドラム缶にお湯を沸かしたのも忘れられません。夏は暑く、土手で草刈り。帰りの電車では、臭くて白い目で見られたり。辛い思い出のはずなのに、今だにそんな事を笑い話にしながら、50年たった今でも一緒に遊んで頂ける先輩や他校の同級生が沢山いる事が、私の宝物になっています。

練習でも試合でも、馬が障害を飛んだ数より、止まられて私が障害を越えてしまった回数の方が多かった位、下手でしたが、馬術部で過ごした時間は私の自慢です。

間もなく70才になっても、前向きに小さな幸せを見つけながら生活できるのは、大好きな馬と過ごしたあの数年のお陰だと思っています。

■ 続いていることはすばらしい

鈴木 敏文 (1975 年卒)

創部100周年記念祝賀会をお祝いすることができてありがたく思っています。

私達の時代からもう半世紀もたったのかと感慨無量です。何回も廃部の危機を乗り越えて今日まで馬術部が続いているのは諸先輩、学校関係者、周囲の方々そして何よりも現役の皆さんの情熱と不断の努力のおかげであると深く感謝しています。

私は近頃尚一層ボケが進んで昔のことはよく覚えていないのでかなりいい加減なことを書きます。

私達の学生時代にちょうど50周年を迎えOBの方々や学校のご支援により綱島に新厩舎を建てていただきました。

又、時を同じくして関東学生馬術争覇戦で優勝できたことが私の何よりの思い出です。自馬での試合ではなかなか団体が組めず、悔しい思いを続ける中、争覇戦では何故か次々と勝ち進み優秀な人馬をそろえた強豪校に勝てたのは貸与馬の試合とはいえ信じられない出来事でした。選手は普段跳ばない癖馬にばかり乗り慣れていたのが功を奏したのかもしれませんが。頼りない主将でしたがめっちゃくちゃうれしかったです。出場したチームメンバー八人の内二人が既に故人となってしまったのは誠に残念です。又、人一倍運動音痴の私が何と関東学生馬術選手権でも入賞を果たせたのはひとえに馬に助けられてのことです。この二つは私の密かな「誇り」として心の底に刻まれています。そのようなこともありおかげさまで関東学生の他校の人たちとは今日でも付き合いが続いています。

当時の学校は青山キャンパスだけでした。グラウンドは東横線の綱島でした。東横線で渋谷と綱島を往復するか自動車を使い246で往復するかの毎日でした。時代が変わり今、渋谷の街を歩いても私は迷ってしまうでしょう。

毎月の馬糧代にも事欠きながらも何とかクラブの活動を維持できたのも不思議でした。

練習と厩舎当番とアルバイトに試合。なんとか大学を卒業できたのも若さゆえだったのでしょうか。

その後も部員不足やら慢性的な資金不足の中でも馬術部が存続しているのは本当に素晴らしいことです。

あの頃の標準的な一日を振り返ってみます。

当時は男二人で泊り当番がありました。朝、寝ぼけ眼で起きだすと既にコーチの高津さんが起きていらして「コーヒー飲む?」と「コーヒーをちょっとだけ入れたホットウイスキー」を勧めてくださいます。それ以来今でも朝のコーヒーには必ずタップリとブランドーやらウイスキーを入れるものだと固く信じて家内から嚙嚙をかっています。そうこうするうちに練習に参加する部員たちが集まりだし練習と馬房掃除が始まります。「咬む」「蹴る」の怖い馬たちを避けて過ごすのは至難の業でした。

馬輸送でも2トン車にドラム缶と横木を組み合わせた枠に挟んで馬を乗せて綱島から馬事公苑まで積んでいくようなおそろく今では考えられないようなことを平気でやったりしていました。草刈りにポロ藁交換、馬の手入れに馬房掃除ととにかく毎日よく働きました。

何もわからないまま高等部のコーチも務めさせていただきました。高等部の皆さんにはさぞやご迷惑なことだったと思います。とにかく部員の人数が多くほとんどが部班練習でした。今更ながらに何鞍も何鞍も使ってよく馬がもったと思います。そんな中でも夏には何人かと海水浴にまで行けたのも楽しい思い出の一つです。

残念なことに私たち男子の合宿は四年間共に綱島でした。女性の合宿は清里キープ乗馬に行ったりして楽しい思い出をたくさん作ったようで羨ましいばかりです。

馬では伝説の名馬「青驪」を担当させていただきました。とにかく障害に向ければ跳ぶという素晴らし

い馬でした。片目であったために乗り役が障害の袖に触れなければ満点で帰って帰ることができました。なによりも私のような素人でへたくそが乗って障害をいくら跳んでも馬が壊れなかったのは今更ながらに奇跡的なことでした。正に「誰が乗っても満点馬」でした。社会人になってから何頭か馬を持ちましたがその都度良い馬をことごとく壊してしまいました。

夕方の作業が終わり飼付けを済ませると阿部先生のお酒をご馳走になりました。それ以来お酒が好きになってしまいました。乗馬は一向に上達しませんでしたがおかげさまで「酒」だけは今日まで続き立派な「呑兵衛のオヤジ」になっています。ちょうど阿



左から筆者、あべ先生、友座明子 (1974年卒)

部先生が「青蓮」と「ウイビー」を調教している時期でした。いつ見ても輪乗りをされていました。輪の蹄跡が乱れずにいるのは本当に見事でした。阿部先生にどうやったらできるのかを伺うと「真っ直ぐ」と答えられます。直線が続いて曲線になるのは「魔法」のようでした。素人が乗っても馬が経路を覚えていて勝手に運動をするような正に名人の調教でした。

「馬術」は「忍術」や「剣術」「奇術」と同じで見ている人には分からない「魔術」のようなものなのでしょう。どうかこの「魔術」が続いて「馬術部」と「緑鞍会」が未来永劫続くのを願って止みません。誇らしい伝統はきっとますます輝き続けるでしょう。



■馬術部で一句

OGとして 現役時代を思い出して俳句を10句作りました。拙句で申し訳ありません。 新年、春、夏、秋、冬の順に並べました。

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. 千代の春 馬と歩みて 百周年 | 2. 軽速歩の 音軽き春 町田馬場 |
| 3. 薫風や 馬に教わる パッサージュ | 4. 鞍跡の 汗も愛しき ブラシ掛け |
| 5. 天高し 障害飛越 馬頼み | 6. 風爽か(風さやか) フォーク輕輕 寝藁干す |
| 7. たてがみの 二つ寄り添ふ 秋うらら | 8. 朝練や 拍車鋭し 息白し |
| 9. 短日や 馬に教わる こと尽きず | 10. カッコ巻き一乗一りの 声透き通る 冬の馬場 |

有富(正木) ささの (1976年卒)

■創部100周年に寄せて

昨年(2022年)の納会に参加させていただいた折、現役の皆さんの中に丁度50年前の自分を重ね合わせていました。私が馬術部に入部したのは今から丁度50年前の1973年の春でした。13頭の馬、諸先輩が苦勞されて造られた半永久的コンクリート造りの真新しい立派な厩舎(1972年5月完成)、そして怖そうな先輩、優しそうな女子の先輩たちが迎えてくれました。馬に触ったことすら無い私の馬術部生活4年間の始まりでした。

当時の正装は体育会の男子部員は学生服に帽子着用で、月一回の部員会、OB総会などの公式行事には男子部員は正装での参加が義務付けられていました。また、競技会の出場に際しても学生服(ウエストを少し絞り長めに改良された)に帽子の着用でした。六本木の明治座傍の井上会長に報告等に伺う際も正装でした。体育会の学生になったんだと自覚したものです。昭和の時代の話です。

幸運にも、阿部先生、高津さん、OBのコーチの皆さんから馬術のご指導を受ける事ができ、大学から馬術を始めた私がなんと全日本学生障害馬術大会に出場することができました。なんと恵まれていたことでしょうか、感謝に堪えません。振り返れば馬術部の4年間は主将を仰せつかる等、馬術部を通して社会人になる為の処世術も学び、この厳しい馬術部を卒業出来たら何でもできそうな気がしていました。

卒業後20年程が経ち恩返しのもつもりで緑鞍会の幹事をお引き受けし馬術部との縁が復活、その後幹事長、創部90周年行事の実行委員長のお役目を仰せつかるうちに、いつしか50年の歳月が流れていました。不思議な事に現役時代一緒でなくても先輩後輩の垣根を越えて直ぐに会話は成立するものです。今私の目の前にいる現役の諸君も50年後に今の私と同じ感想を持つのだろうと。

今回、創部100周年記念号の「いななき」に寄稿するにあたり、私が入部した頃に発刊されたいいななき

星亨輔 (1977年卒)

10号「創立50周年記念特集号」テーマは千里の道も一歩より始まる馬術部50周年の歩みをもう一度読み返し、今の自分と同じ年代であろう偉業を成し遂げられたお二人の寄稿文、失礼ながら一部を原文のままご紹介させていただきます。

・城戸俊三先生 緑鞍会名誉会員

- 1) 部員にとって一番大切な事は「求めて指導を仰ぐ心の態度」である。
- 2) ペイシェンス、ペイシェンス、モア・ペイシェンス(patience・忍耐、我慢、辛抱さ)というのが欧米の大家が障害飛越調教のモットーとしているのを胸に入れてほしい。これは馬場馬術の調教でも然りである。
- 3) コーチに人を得る事は何よりも大事な事で、コーチには真に乗馬は、かくかくの順を追ってやるべきだとの原則的な事を知った人を得たいものである。

幸い本学には常任として老練な阿部さんが控え、殊のほか馬好きのよき先輩がおられる。

※追記：いななき11号で井上恒春会長は「城戸俊三先生のことども」を寄稿され、ごく若い人達のために緑鞍会名誉会員の城戸先生を以下のように紹介されました。

母校百周年記念と偶然にも時を同じく達成された馬術部の優勝記念の学校との合同祭が行われた際、大勢の来賓を前にして城戸先生が現役に対してたった一言の祝詞を下された。それは、「皆さん、優勝本当におめでとう。けれどもこのことの裏に阿部先生(当時の馬術部コーチ)のいる事を忘れてはいけません。阿部先生が青学にいるということは皆さんの大変な仕上げです」と。

・井上恒春 初代緑鞆会会長

- 1) 私共が蒔いたちっぽけな種をここまで育て上げるには、幾多の部員が絶えまない努力を続けてきたからこそ今の繁栄をもたらした
- 2) 私共が 50 年前になんとか形だけでも造りたいと願ったその頃、なる程当時 20 才のいかす男も今や 70 才の老いぼれになった訳で、見直してがっかりする次第です

これから創部 150 周年を目指す現役の皆さん、諸先輩が残された「いななき」を是非読んでください。実り多き馬術部、豊かな人生が待っています！

■馬術部での思い出 コラージュ風

一つの文章にまとめるのではなく、各年時の思い出や記憶を一つずつ書いていきたいと思います。

しかし、もう 50 年も前のことなので、時系列的には少しあやふやではありますが・・・。

プロローグ prologue

高校三年時に青学をはじめ、数校を受験する 入学の暁には馬術部に入ろうと思い、馬術部のある大学のみを受験 しかしケシカラヌことに全校から入学拒否をくらう

得意の日本史では試験で初めて見る問題に絶句「三義経疏」？ う～ん、習ってない(多分) 大久保にあった「新宿予備校」に入学し、浪人生活を送る夏頃よりメキメキと学力がつき、自信が沸く

翌年、さあ、受験の第二ラウンド 第一志望は某大学 しかし絶対的な自信があった日本史でまたもや失敗 江戸時代の複数の学派について頭が整理できず、「ここは出ない！」と勝手に決めつけていた個

- 3) 人間と馬のつながりがどうしてこんなに魅力があるのか全く不思議でなりません。今や物質文明がもたらした自然荒廃に人間が漸く気づいて、自然の尊さを何とかとり戻そうと見直されてきた今日、馬たちは愛情を注いでくれる諸君に何と云って語りかけるだろうか。自然の美と尊さを解ってくれるのは君達だと語るに違いない。

林 哲哉 (1977 年卒)

所が出題 oh my God !

青学の問題 英単語の「～tion で終わるアクセントの位置は一つ手前の母音」はバッチリ 国語で「北原白秋」の姓を問う問題が出題 四択で「東原」「西原」「南原」「北原」なんじゃこりゃ 和歌集で、体言止めで有名な歌集？ フツ、浪人生を舐めるなよ ただ、漢字を書く問題で、「この絵はタイセイの名画だ」の「タイセイ」はわからなかった 五校を受験し、三校に合格 青学の合格発表の時、記念館に合格番号が張り出される 受験番号を確認 胸がドキドキ あった！ 思わず駆け出した スタッフに受験票を渡す 男性職員から「おめでとうございます」と入学書類を手渡された

家に連絡しようと思っていたところ、学校側の通りの西門に行く道に当時は歩道橋が掛かっていた 歩道橋から見ると角にカメラ屋があり、店先にあった赤電話で報告 さあ大学生だ！

第一章【一年時】

オリエンテーションが終わり、正門からの並木道に各部・各サークルのブースが並んでいる

「馬術部に入りたいんですけど」 主将の板倉さん(愛称はイタさん) が対応

その時の板倉さんの服装は未だに覚えています 千鳥格子のピンクのワイシャツ(ボタンダウンだったかな) クリームかホワイトの裾の広がったフレアパンツ 当時はズボンと言った これが板倉さんと五十年にわたる付き合いの始まり 別の日に学生会館の薄暗い廊下で部室を探していたところ、他部に勧誘されたが、「馬術部に入ります」と言ったところ、「馬術部はこっちですよ」と声を掛ける女性あり 中島さん(二年生 現星夫人) だった

網島の馬場で初騎乗 インストは豊田さん(二年生) 何かおっかないオーラを醸し出し、つまらないことを言ったらぶっ飛ばされるかも、と委縮する が、優しい方ですよ

しかし建物を見て唾然 厩舎はブロック造りだが、男子部屋は登記簿謄本風(書けば、「木骨木造板張りトタン葺屋根 平家建 小屋一棟」って感じ 六畳間だったかなあ 厩舎の方が立派 これがアオガクのバジュツブの男子部屋ですか

後日馬場を再訪 インストは栗原さん(三年生) 学帽を被り、銀縁の、陽にあたると黒っぽいサングラスになるメガネをかけ、私の記憶が確かなら、襟が薄いブルーのギンガムチェックでホワイトの木綿のダボツとしたキュロット「剣道や柔道は『礼に始まり礼に終わる』と言われるが、馬術も同じだ」と教えられ、練習の初めに「よろしくお願ひします」と敬礼し、終わりに「ありがとうございました」と敬礼

正式に入部 阿部先生(阿部先生については、「いななき 18 号」の拙稿をご参照) や高津さんにご挨拶 新入生歓迎会は原宿の店「けやき」 部会は学校近くの「パーラー クリエイト」の二階 男子は学ラン着

用 私が通学していた高校の制服はブレザーだったので、同級生の末松君から学食で定食を奢ることでゲット 長靴は原宿の「習志野稲毛屋」で購入「安いのではないですか？」と聞いたら、取りに来ない長靴があるので、それで良かったら、とのことだったので 3 万円で購入 しかし採寸していないので、ガバガバ 私のふくらはぎは太いほうだったが、それより太かった

午後当番の後、阿部先生の部屋に呼ばれ、先生手作りの料理やお酒をゴチになりながら馬学を色々と教わった □癖のように仰っておられたのは、「拳(こぶし)は立てろ」という教え 拳が横に寝ていたら乗り手の脇が空いてしまい、馬を御することができない、と東北人らしい訥々とした言い方で仰った 2020 東京オリンピックの馬場馬術をテレビで観戦したが、拳が寝ている選手がほとんど あれではダメですよ、阿部先生!?

練習馬は青蓮(セイレン ナンバーワン愛称はワン)・青駿(セイシ 愛称はオイモ)・青貴(セイキ)・青笛(アオブエ イリザキング愛称はイリザ)の四頭前の二頭はとにかく反撞が楽で、特に青駿は Trot ター種なので、速歩は非常に楽だった 正に雲に乗っている感じ まさしく「鞍上に人無く、鞍下に馬なし」の心持ち 後の二頭？ 反撞がきつくお世辞にも楽ではなかった ただ栗原さん曰く、以前の青貴は銜受けがよければ反撞は良かったと仰っていた 部班運動で号令者から「飛び乗り飛び降り左右五回」の号令 これがきつくて 六月だったか、石井さん(三年生)の調馬索で同じ一年の野原さんと一年生初の駆足の練習 前橋を掴んでいたが、軍手だったので滑ってあえなく落馬 梅雨時の雨上がりで馬場はベチョベチョ、服はドロドロ

朝飯は基本的に抜きだったが、皆で農家に藁を取りに行く時などは駅前の「のんき」で朝飯

昼飯は馬場近くの「ひさしや」「万来軒」特に「ひ

さしや」のチキンカツ定食はうまかった うまかった
 と言えば、部の競馬場バイト（府中・中山）の職員食
 堂のラーメンや唐揚げ、チャーハンが絶品だった 競
 馬場バイトで思い出したが、当時の絶対王者、「怪物」
 と言われた「ハイセイコー」に検尿室までついたこと
 がある お尻のデッカイ馬でした ファンレターが
 「府中市ハイセイコー様」だけで届くほどの人気馬で
 した

綱島での夏合宿の昼食前のレクリエーションタイ
 ムでソフトボールの最中に栗原さんがガラス片か鉄
 片かで足の指を何針か縫う大ケガ 昼寝のあとは障
 碍直しの作業 ドラム缶にペンキを塗ったり、箱障
 碍を直したり 色々と大工仕事に精を出した

合宿の夜、我々一年生は阿部先生、高津さん、四
 年生の長靴磨き

同じく綱島での夏合宿で、起床が四時だったか
 のはずが、誰も起きてこない 「いいのかなあ」「大丈夫
 かなあ」「今日は休馬じゃないし」と気をもんでいた
 ところ、誰かが「いけね、四時過ぎてるッ！」 その
 日の午後は連帯責任で長靴を履いたまま陸上部のト
 ラックを数周回った

夏冬問わず、合宿の朝食は総合グラウンド正門前
 の「竹生スタンド」でパンと牛乳を購入 昼飯と晩
 飯は我々で自炊 ガス窯での調理 「始めトロトロ、
 中パツパ、赤子泣くとも蓋取るな」の言い伝えを守る
 今でも暑いけど、綱島の夏も暑かった 昼食前にキュ
 ロットを洗濯して干すと、三時頃には乾いていた 合
 宿所の風呂は綱島温泉と同じ真っ黒いお湯 白いタ
 オルが一瞬でコーラ色に変色

末金さん（四年生）が、キャットだったかの鎮静
 運動で乗り替わった際、蹬がえらく長いので驚いて、
 「末金さん、足が長いんですね」と言ったら鈴木さん（三
 年生 愛称はトシさん）が、「バ〜カ、お前の足が短
 いんだ」 あっ、そうでした

冬頃だったか、馬事公苑でジムカーナに出場 し

かし経路違反であえなく失権 嗚呼、我ながらドジ
 続いて青貴でB馬場に出場 全くダメで回れ右での
 一等賞 これで馬場馬術恐怖症に

第二章【二年時】

新入生の勧誘に渋谷キャンパスに出発 いすゞエ
 ルフの2トン車の荷台後ろ左右にドラム缶二本を立て
 て左右に横木をロープで結わえ、青蓮を載せて同期
 の鈴木（愛称はコスズ）と私が荷台に乗り、豊田さん
 が運転して246を通過して渋谷まで 途中は大勢の好
 奇の目に晒される 車に乗った子供が「あっ、馬だ
 ヒヒーん キャハハ」と笑ったり、外国人の父親が子
 供に指さしていたり、都バスの高さがほぼ同じなので、
 乗客が興味津々といった趣で見ていた キャンパス
 の西門から入った 学院の女性職員が「実家で馬を
 飼ってたのよ」と顔を撫でながら連れの女性に話し
 ていた 法人本部の手前、正門側に築山があり、そ
 こで馬を下ろした 連れて行っただけで、体験乗馬
 はしなかった

ただここで事件が 一号館と二号館の間の並木道
 をマーチングバンドが大音量で通った時、日頃おとな
 しい青蓮が音量に驚いて暴れはじめ、遂には勒が外
 れて放馬してしまった

あわてて追っかけたが追いつくはずがない 高等
 部のグラウンドに乱入し、練習中の野球部員が笑い
 ながら逃げ回っていた その後襲歩で戻って来たが、
 初等部の女の子二人が悲鳴をあげていた どうやっ
 て捕まえたのか、覚えていない 事故がなくて良かった

さて、争覇戦のお話し 順当に勝ち進み、決勝戦
 を迎えた主将のトシさんが私と同期の星の二人を呼
 び、「決勝戦ではお前ら二人のうち、どちらかを出す
 から用意しておけ」と言われた 結果、星が選ばれ、
 目出度く優勝の栄に浴した

私の担当馬だったスズボクサー（愛称はボクサー

又はスズボク）が入厩したのは、二年生の頃だった
 かと思います 競馬上がり、別の馬を青学に貰え
 るとのことで、トシさんが引取りに行った際に厩務員
 の方が「ついでにこの馬も持ってっちなえ」とかで貰っ
 てきたとのこと 両肩にいい筋肉がついているが左
 前足が「カメ」になり、走れなくなった 獣医の玉木
 先生（日獣OB）が、「あんたいい馬だねえ」と驚い
 ていた声が耳に残っている

高津さんが調教されたが、なかなか強気な性格で、
 調馬策で回した時に反抗して何度か放馬した 私が
 下乗りしたが折合いがつかず、テレテレ歩くだけでど
 うしていいかわからない

3月15日、第12回東都学生自馬競技会新人障
 碍で第三位 なぜ日にちがわかる？ 表彰盾を飾って
 ありますので ただ、どの馬に騎乗したか、覚えてい
 ない

合宿の午後はやはり障碍直し 当時、「カマボコ障
 碍」がなかったので大木（一年生）と作成

縦と横の長さを違えて作り、低い障碍と高い障
 碍の二種類使えるように工夫した

余っていた丸太を近所の製材工場に持っていき、
 電鋸でカットしてもらった 「いくらですか」と尋ね
 たが、「お金はいいよ」 いや〜、ありがとうございました
 感謝感激 そのカマボコ障碍、練習中にトリプ
 ルチャンス（愛称はトリプル OBの斎藤さんの所有
 馬）が乗っかってしまう トリプルはアイルランドハ
 ンター種で、体重は1トンはあろうかと思われる大き
 な馬 そのトリプルが乗っても壊れなかった 塚原
 さん（三年生）に褒められた

ある日の昼食当番は某氏と某君 あまり器用なタ
 イプとはお見受けできなかったが、食堂に上がったら
 二人でマンガを読んでくつろいでいる えっ、もうで
 きたの？ おかずは・・・ トシさんが、「何だこれ！
 おでんのタネじゃないか！」 そう、「おでんのタネ」
 を買ってきて並べただけ トシさん、怒る怒る

このころ、小林さん（四年生 愛称はマルコバさん）
 の朝練に誘われ、練習を重ねる

第三章【三年時】

争覇戦で、塚原さん（主将）が成城の馬に騎乗
 この馬、スタートを切らない難馬 塚原さんと同期の
 成城の主将から「この馬、スタートを切らないので、
 ケツから入れろ」とアドバイスを受ける 「難馬乗り
 の塚原」の面目跳如 必死の形相で体をのけぞらし、
 塚原さんの頭が馬の腰に乗るかと思われるほど力ま
 かせにバックでスタートした 馬の口は大きく開いて
 いた 相手はスタートを切れなかったので、青学の勝
 利 ただこの行為により、翌年から規定が変わった
 正面からスタートするよとの事 塚原さん、「規
 定を変えさせた男」となる

綱島での夏合宿の時、新城幹事長（現会長）が陣
 中見舞いに来られた 横浜の中華街で昼飯を食おう
 と言われたので、男子全員で車に分乗して中華街へ
 新城さんは幹部だけで、とのようだったが、どう話し
 が伝わったのか、全員参加 新城さん、すみません
 でした とんだ散財させてしまって 横浜から帰っ
 て皆と女子更衣室で休んでいると、アルコールが入っ
 たのと暑いのでイライラがつり、コスズと同期の
 木村が大ゲンカ 「暑いからあっち行け」「お前がいる
 から暑いんだ」と取っ組み合い 池田（二年生）が「ま
 あまあ、二人とも落ち着いて」と笑いながら仲裁

秋だったか冬だったか、青木会長のお力添えだっ
 たか、はっきり覚えていないが、馬術家の印南先生が
 馬場に来られてご指導された 御高名な馬術家であ
 られる方の記憶が定かでなく、大変失礼にことで申
 し訳ありません

秋ごろ、緑鞍会係だった私と同級生の矢野さん（現
 公文さん）と六本木の井上会長の事務所に各種の報
 告に行く その時にいただいたウイスキーが「オール
 ドパー」世の中にこんなおいしいウイスキーがある

のか、と思った それほどまろやかに感じられた

いろいろと競技会に出させてもらったが、馬のスピードが怖く、怖さが先立ち失権が続き、結果に繋がらずツライ日々が続く 星から「お前、車の免許とってスピードに慣れろよ」と言われた そう、まだ自動車の免許は持っていなかった

東北学院大学との定期戦で、馬術部は綱島で競技した 私は青貴に騎乗したが、相手に食われてしまい、敗北 体育会本部から、なぜうちの馬で負けるんだ、と非難 情けない

第四章【四年時】

4月頃、関東学生の「二回走行」に出場すべく練習に励む なかなかボクサーと折り合わず、左回転からの障害を逃避する 三度四度と同じありさま某コーチに、「何度同じことやられてんだ!」と大喝される 星から、「日頃温厚な某さんが怒るのはキツイよな」と慰められる でもそのコーチから、「障害は難しいだろう?」と笑顔でフォローされる

6月だったか、関東学生の「二回走行」に出場騎手と馬匹は次の通り

星(主将・青騮 セイリュウ 愛称はゴンベ又はゴン)、私(副将・スズボクサー 馬連には競馬での名称で登録)、中村(学馬連幹事・青冠 セイカン ラックストーン愛称はラック)、加藤さん(二年生・青雅 セイガ ウイビーライン愛称はウイビー)

大会の前日、ボクサーは休馬にした 成蹊の某君から、「ボクサー休馬かよ 余裕だな」と驚かれる しかしこの休馬が思わぬ結果に 一日目、大きく右回りして第二障害が衝立障害 これをいつもの悪いクセが出て逃避 この時は余裕があった 「オイオイ、何やってんだよ」という感じ 向こう正面のトリプル障害はぴったりタイミングが合った 障害間の間歩もぴったし、練習どおり! しかし左回転からまた衝立障害があり、またまた逃避 今ではこれで失権だ

が、当時はもうワンチャンスあった 流石に焦った飛越後、次が一番高い石垣障害 使役の神保(三年生)が心配顔で見ている 神保と目が合った これを逃避・拒止したらもう終わり、と思ったら胃が縮むのがわかった しかし無事に飛越 最終障害は低い竹柵障害 ホツとして下を向いたまま飛越した写真がある 応援に来られた原野さんが、「はやし〜、心臓に悪いよ〜」 休馬にしなかったらうまく飛べていたかも・・・ 二日目は石垣障害の一落のみでゴール 原野さんが「あれはしょうがない、あれはしょうがない」と二度、興奮気味に話された この結果、ボクサーは関東学生の指定馬になる 高津さんが「光栄なこと」と仰った 星・私・加藤が二日間ともゴールし、青山学院大学体育会馬術部が馬術部史上初めて、創部以来初めてチームとして全日本学生への切符を手にした これ、小生のいささが自慢とするところ 上記の通り、今でも走行経路はハッキリ覚えています

因みに、星が騎乗した青騮はフィラリアに罹患し、左目を失明している 青学の伝統の看板馬で、代々の主将が乗る馬と決められている 何かの大会で、「ただ今走行しております青山学院の青騮号は百戦の名馬であります 病気により左目を失明しておりますが、右目、片目で走行しております」と突然アナウンスがあった 通常、走行途中でそのような紹介のアナウンスはないのだが、感激したことを覚えている

8月頃、陸上部のグラウンドでウィーンエリザベス(愛称はエリ 三年生の玉置さん・現太田さんの所有馬)の鎮静運動中、近所の親子が野球の練習をしていた 子供が振ったバットに馬が驚いて跳ね上がり、あっという間に落馬 その上、私の左足が鎧から外れずそのまま駆け足で引きずられ、左胸を蹴られてしまった 運よく落鉄していた足で蹴られたのが幸いした しかし暫く息ができなかった 救急車で搬送されたが、打撲で済んだ 人生初の救急車 部の顧問教授の日向寺ゼミの合宿には参加できなかった

秋に、馬事公苑の覆馬場で第11回オリンピック記念馬術大会学生障害飛越競技で第二位 乗馬はトリプルチャンス 満点でゴールした際、嬉しくて観客席に手を振ったところ、某OBから「バ〜カ」の愛ある一言 某君から、「できすぎなんだよ」と頭をはたかれる

さて、青山学院大学体育会馬術部が馬術部史上初めてチームとして全日本学生に出場したが、チョット思い出したくない 星がスズボクサー、私がトリプルチャンス、加藤さんは青雅 残念ながら全頭失権「全日本学生」の雰囲気にかけてしまった感

中山大障害に出たイチベイが入厩 星・私・コスズ・木村の四人で感謝状を贈呈しに行く

イチベイの元オーナーは何とヤクルトのオーナーである松園氏 お宅は鶴沼にあり、豪壮なお屋敷だった 玄関のチャイムを押すとお手伝いさんが応対 某君が上がろうとすると、お手伝いさんが「上がらないで下さい!」と一喝 某君あわてて土間における帰り道でその様子を再現して皆で大笑い 奥様に感謝状を手渡して辞去 帰り際に勝手口から入る女子高生らしき方をお見掛けしたが、ご令嬢だったか 私たちを見て微笑んでいた

エピローグ epilogue

随分と長くなってしまいました あたかも「自分史」の中の「学生時代編」といった感があります 上記の通り、私の馬術部での四年間は決して「順風満帆」なものではありませんでした 技量が向上せず辛い思いもしたし、周りの方々にも迷惑をかけた 何とかギリギリで間に合ったかなという感じです でも全うしてよかった 何事にも代えられない方々と知り合えたのは、人生の宝物です 五十年経ったいまでもウェットなお付き合いをさせていただいています うれしいことです 稲熊先輩が昭和四十年代の「いななき」(号数は不明)に次の文章を寄せられています



写真提供：高津彦太郎氏 昭和52年頃 左から筆者、Which Way号(高津さん所有馬)、阿部先生、高津さん

うろ覚えですが「年年歳歳 集まり散じて人は変われど変わらぬものが二つあり 竹馬の友と同釜の仲」うまく表現できませんが、グッとくる文言です 心に沁みる文言です 同じ時を過ごした方々との関係は相も変わらぬものです しばらく会っていなかった方々にも、お会いした瞬間に時を超えるものを感じます うまく表現できませんが

綱島への望郷の念止みがたく、霞が関にある国会図書館で昭和五十年の綱島の住宅地図を閲覧し、コピーしました 我々にとって馬事公苑は「聖地」ですが、綱島及び綱島馬場は正に「思い出の地」です 昨年11月、新装オープンした馬事公苑に行き来しました「角馬場」が「メインアリーナ」と改称され、覆馬場がメインアリーナの隣りに移り、「インドアアリーナ」に改称「芝馬場」がなくなっていました 全体的に放牧場や樹木が圧倒的に少なくなった感じでした

さて、本稿の文責は全て私にあります 異議のありになる方は私までご連絡下さい その節は一席設けますので、それでご容赦ください(笑)

一行一行書くごとに思い出が蘇ってきます なかなか上達しなかった私をさぞかしイライラされたであろう、見守り育てて下さった阿部先生、高津さん、佐藤監督、原野・高橋・板倉各コーチ、緑鞍会の青木(真)・井上・青木(昇)・新城各会長、日向寺教授、OB・OGや上級生・下級生の方々 下手糞な私に文句も言わず練習で騎乗した物言わぬ数々の馬達に対して感謝を捧げつつ、本稿を閉じます

■ 創部 100 周年に寄せて

青山学院で勉強をするというより馬術部生活7年間で得られたものは体力と根気と馬に対する知識でした。それは私の卒部後の宝となっています。

365日オフシーズン無しの馬術部は大変なようでも今思うと楽しい事ばかりでした。

当時は阿部先生、高津さんもおられ、若いOBがコーチ陣となり馬場の傍の居酒屋の2階のアパートを借りていて毎朝どなたかが練習を見て下さいました。今は女子も泊りがあるそうですがその頃は男子のみ、それでも男子に負けないように始発で馬場に行き下級生の集まる6時半前に上級生の練習は終わっていました。争覇戦、選手権でも良い成績が取れた時期もありました。競技会では優勝もあれば最下位もあって競技は成立すると学ぶことができました。

今は乗用馬産地で有名な遠野の馬の里ができる前、曲がり屋をお借りし綱島から全頭を連れて合宿をし荒川高原で馬と共に野営をしながら2泊3日の外乗に行くことができたこと、馬産地でありながら競技を見たことがない地域の方々に供覧をしたり町の中を武者装束と、正装をしてパレードをしたり、多分、今の部活動とはかけ離れた幅広い活動ができていたのではないかと幸せに思います。

そして私は卒部後も馬との関わりを続けることができ、今私はスペシャルオリンピックスで知的障害のある人の乗馬指導や、馬との関係が触発させる心理教育的活動をしています。

先日100周年記念式典に参加して青学で初等部から学び毎日礼拝を受けてきた私にとってお祈りと御言葉から始まる式典は青学ならではの感慨深いものでした。

「若き命を薫らせば奉仕の実もて人類の福祉を増さん青山に永遠の幸あれ栄あれ」

太田(玉置) 恵美子 (1978年卒)

私がスペシャルニーズの必要な人たちの乗馬指導に関心を持ったのは青学馬術部に在籍し馬の事なら普通の人より少し知識があるし、お世話になった馬の活路としても、何か社会の役に立ちたいと思ったのは必然だったのかもしれませんが。

30年ほど前にイギリスに本部を置く障害者乗馬協会のインストラクターの資格を取りそれ以降馬と人との関係について学び続けています。

馬は人に身体的、教育的、心理的、社会的恩恵を与えてくれます。数年前から現役がスペシャルオリンピックスのボランティアに参加してくれています。

唯一オリンピックの中で動物と行う馬術という特殊なスポーツは、部員、障害を持つ人、馬がそこにいてインクルーティブな環境を作り出してくれます。

学報ではSDGsの取り組みとしてこのボランティア活動が紹介され、また今の風潮であるLGBT+qはまさに男女年齢問わずの馬術はぴったりのスポーツです。

馬術部は今までの100年間で多くの先輩と馬のストーリーを作り出し、そしてこれから馬術部と出会う学生と馬たちが織り成す100年後の未来も明るいことを期待しております。



■ 馬術部監督の4年間

2018年～2021年 監督 柏木 智佳子 (1979年卒)

馬術部創部100周年おめでとうございます。馬術部を1979年に卒部し、慶應義塾大学馬術部出身の方の会社で約20年お世話になりました。

百貨店等にジョージキーマー社(ドイツ)の馬具、ドイツワインを卸す仕事です。

還暦近くなった頃に松本美紀さんから幹事になって欲しいとの連絡を頂きました。長年緑鞍会に不義理をしてきたのでお手伝いが出来ればと引き受け、現在に至ります。

1998年監督就任時は試合でのルールや馬場の課目も変更になっており、不安もありましたが、同期に日本大学諸岡監督や早稲田大学安藤元監督と力強い仲間がいるので助かりました。

活動拠点はアバロンヒルサイドファーム、町田馬場に戻るか?で学院・大学との動きが一気に活発となり、現在のテント建設に至る迄は学生のように大学へ通ってました。

メールや電話等ではなく、直接会って、話をする等コミュニケーションが大事であると感じた時期でもありました。

町田馬場に戻り、さあこれからという時に新型コロナウィルス感染拡大となり、悩みながらの決断をしながら対応におられる毎日でした。

発生当初ウィルス自体の情報が何もない中でどういう事をして守っていくか?部員達の考え、大学からの制約、また保護者への理解を求め、部活動に対する安全対策の信頼を頂いた結果、在任中感染者を1人も出さずに活動をする事が出来ました。

コロナ禍で大学からの最低限の練習や泊まり当番を許され、クラスターがおこらないように指導者、部員を完全に二班にわけての活動をしました。

部員達は毎日が今までと同じではないという事も経験し、不安な思いもあったはずですが、結束の大

切さも感じたと思っています。

練習、部活動の細かい事は全て夏目副監督、橋本コーチに依頼し、高梨さん、桃野さん、高柳さん、北垣さん、外部コーチの山口さんのサポートも受けて部員達の活動、練習をみて頂いた事、感謝しかありません。

部員達も各年代個性豊かで、色々色々ありましたが、4年間やり抜いてくれた事を嬉しく思っています。

学部や年代を越えた繋がりがこれからも長く続くと思います。

現在は青山学院大学体育会OBOG連合会の理事をしています。

2023年に100年を迎えたのは馬術部他に硬式庭球部、サッカー部があります。

現在に至る迄、沢山の先輩方のご苦勞や継続する為の熱い思い、特に馬の馬糧に関しては大変な思いをされて集められた事、現青山キャンパス記念体育館辺りに馬場があり、色々な部が同じグラウンドを使用していた等想像が付きません。

稲積学長の言葉を借りればAIで実現不可能なものは、人の常識とコミュニケーション、スキル(技)だとおっしゃっています。

これからも部員が自分達が出来た事、自分達にしか出来ない事を自ら考え実行する事が社会に出る前の準備だと思っています。

また、乗馬の技術、馬を管理をする事も丁寧に伝えながら個々にスキルアップして欲しいです。

学業と休みのない部活動の両立は今の学生達は大変だと思います。

明るく、元気に笑顔が素敵な部員ばかりですので前向きに歩んでいって欲しいです。

更なるご発展を願っております。

■ 平松和雄君の思い出

創部 100 周年おめでとうございます。

私たちが現役として活動したのは、100 年の長い歴史の中の 4 年間ですが、諸先輩方から受け継がれてきた青山学院大学体育会馬術部を後輩たちに繋げることができたのは、緑鞍会をはじめ監督、コーチの方々、もちろん愛すべき馬たちのお陰と心から感謝しております。

昭和 55 年卒は、私たち二人と男子主将だった平松和雄君の 3 人のみです。その平松君は 2 年前に若くしてアメリカで永遠の眠りにつきました。男子一人で頑張った平松君を偲びつつ、その思い出を綴ってみたいと思います。

昭和 51 年 4 月、アフロヘアーに口ひげをはやし、英語も堪能なおしゃれな学生といった印象で入部してきました。自宅の部屋にはセミダブルベッド、お母さまはフランス料理の先生と聞いて、さぞセブなお坊ちゃまなんだろうなと思いました。

その当時は 1 年生から 4 年生まで各学年 7 人以上の部員がいて、阿部先生や高津さんをはじめとするコーチ陣、馬も 15 頭ぐらいはいたと思います。そんな中、上級生が引退したときには、私たちの学年はわずか 3 人に減り、平松君は必然的に主将になりました。1 つ下の学年には高等部からの学生がたくさんいて、協力して馬術部の運営を行うことができたのは幸いでした。

もともと馬術部は体育会としては大らかな部でしたが、平松君が主将になってからは、体育会特有の上下関係のない青山学院馬術部独特の雰囲気になった気がします。下級生たちに「ドド彦」、「おじいさん」、「亀さん」、「チョイマ」、「姫」など、何故このあだ名？と思わせる名を次々つけていったのも、誰にでも親近

豊田(川崎) 芳子、板倉(金本) 玲子 (1980 年卒)

感を湧かせてしまう平松君の人柄だったのかなと思います。

昭和 52 年から始まった夏の遠野合宿では、片道 10 時間以上かけて馬運車で馬たちを遠野まで頑張って運んだこと、遠野の合宿所(いななき荘)から育成センターに行く途中、軽トラックで田んぼに突っ込んでしまい、後からダメにした苗を直すため、皆で植えに行ったことなど懐かしいエピソードが思い出されます。

当時は若かった私たちは「調子がいい人」なんて思っていました。育ちが良いのに冬休みに宅急便の配達で 40 万も稼ぐたくましさや、4 年生になると学生の試合は、1 学年下の部員を主体的に参加させ、自分は新入部員や高等部の部員を調馬索で練習を見るなどの思いやりも併せ持っていたんだなと思い返されます。「シュッシュッ！」と独特の合図をしながら、イチベイやノーバに乗っていた平松君の姿を懐かしく偲びつつ、心よりご冥福をお祈りいたします。



右から川崎、金本、平松、石川、内田 (全て旧姓)

■ 綱島も・鶴川も・

2012 年～ 2015 年 監督 高梨 文子 (1982 年卒)

「馬術部の新しい馬場が、鶴川にできた」という緑鞍会からのニュースを知って、車で 10 分のところに住む私は、お買い物の帰りにひょっこり訪ねてみました。

その日はまだ、馬は入厩していませんでしたが、当時の部員が荷物を運び入れていました。サンシャインパドック付きの厩舎、冷暖房完備のクラブハウス、高台にあって日当たりのいい馬場、お湯も水もすぐに出てくる蹄洗場、40 年前の卒業生、綱島世代からみるとうらやましい限りの施設でした。

そして、そこに馬が入り、部員たちが作業を始めて、馬場を馬が駆け、障害を飛び、活動が始まったとき、活気に満ちた場所になりました。新入生を迎え、春の競技会に向けて練習に励む頃になると桜が満開となり、それはそれは素晴らしい景色となります。選手たち、馬たちを応援して、その練習の成果を称えてくれているかのような気持ちになります。

自宅から近いこともあって、少しづつ部活動をお手伝いすることとなり、コーチ、副監督を経て、監督まで務めさせていただいた 8 年あまり・・・私にとって体育会馬術部第 2 章となりました。第 1 章の現役時代の馬場での大変だったこと、競技会での晴れやか

な表彰式、悔し涙、先輩やコーチへの不満、引がかかって走り回った馬や振り落とされた馬のことも笑い話となっていました。不思議なことに、綱島駅と馬場の間の道すがら寄り道したお店や食べ歩きしたお肉屋さんのコロッケや出前を頼んでいた中華料理店のことは、意外と鮮明に記憶に残っていました。部活動の思い出って意外と毎日のそんな些細なことが残っているものなのだなあ。と改めて思ったことでした。

2006 年からの馬術部員たちにも馬場にたどり着くまでのバスの中で考えていたこと、居眠りした数分間、鶴川でのいろいろな出来事が「馬術部」というアルバムの中に、一つでも残ってくれたらうれしく思います。(町田グラウンドに一番近い鶴川在住 OG として…)

創部から 100 年の間に、青山学院大学馬術部にほんの少しでも関わってくださったすべての方々に、心から感謝いたします。皆様の一つ一つのパーツが組み合わさって、つながって、今の馬術部が出来上がっています。

私もその一人として、これからもささやかながら恩返しができるように、心を尽くしていきたいと思っています。



■ 祝、100周年

2016年～2017年 監督 松本 美紀 (1985年卒)

100周年という節目に寄稿させて頂き光栄に存じます。

私は馬族に属する家庭環境上、馬術部に入る前から、馬に接しておりました。

馬術部に入部した時は、幸い同期が沢山在籍していましたので、私は馬に乗る事、競技に集中する事ができ、多くの戦績を残す事ができました。また、父が私の入部をきっかけに馬術部のコーチをするようになり、部員同士切磋琢磨し協力できたのも、馬とのコミュニケーションを通じ、相手の気持ちを理解できるようになった事だと思います。卒業後も馬に乗る為に馬場の近くの会社に入社し、毎朝馬場に寄ってから出社したものです。何十年か後に監督を引き受ける事になり、その時に久しぶりに騎乗した際には、骨折したかと思うほどの筋肉痛でした(笑)。その後、再び馬に接した生活をしておりますが、馬とのふれあいを通じて思う事は、人間関係やコミュニケーションに通じるものが多くあり、部員の皆さんが社会に出て、頑張っていける糧になる事と思います。昨今、体育会、スポーツ全般の環境が変わりつつある中、馬術部関係者の皆様が協力し、更なる100年に向けて続いていく事を願っております。



1993年頃 部員達と



松本昭四郎先生



監督時代

■ 100周年おめでとうございます！

松永 紀子 (1986年卒)

綱島馬場での思い出を箇条書きで語らせて頂きます。

- 高等部に、ものすごくハンサムで素敵なコーチがおり、毎回、幸せな思いで部活に出ていました。合宿など、最下級生で辛かった記憶もありますが、ハンサムコーチの顔を思い出すにつけ、全てが夢のような美しい記憶になって蘇ります。
- 美女の先輩も多く、雑誌やテレビに出ていらっしやいました。馬上の姿をいつも憧れの眼差しで見っていました。
- ボロ山に放り込まれて泣きました。
- 遠野の合宿で、ヘビが出、蛍に囲まれ、月の光を頼りに歩き、日本昔話の世界に来たなあと感慨深かったです。
- 合宿で随時当番の先輩が間違えて夕食を少なく作り、当時の最下級生だった私たちは一食減らされたことを、今でも恨みに思っています。

● 当時は地獄の使者みたいな大変恐ろしい馬が複数いました。

- ・ 噛みつき馬の「虹」
- ・ 赤目で蹴りと噛みつきを繰り返す「ドラゴン」
- ・ 蹴りがひたすら得意な「エリザベス」
- ・ 腹帯を締めると襲ってくる「ジュビランド」

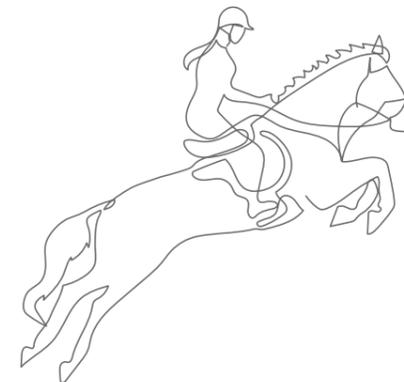
他

私はこれらの馬が怖くて怖くて、率先してお世話出来る自信がなく、大学馬術部に入ることを断念しました。

今は乱暴な馬はほとんど居ないと聞きます。本当に羨ましいです。

今、思い起こすと、動物と自然と触れ合えたあの時代は最高でした。大学で入れなかったことは未だに悔やまれます。

そのぶん、現役の皆さんを応援します！
また、試合などに呼んで下さいね！



■ ふりかえれば得難い日々

この度は馬術部創立 100 周年を迎えられました事、誠にありがとうございます。

短期大学の学生であったわずか 2 年間で在籍しただけの私ですが、僭越ながら思い出を綴らせていただきます。

馬術に関して全くの未経験者でしたが、当時短大の同級生だった穂積さんに誘われて、入部しました。

初めは先輩に調馬索を付けて頂いての練習。緊張でつい膝と肩に力が入ってしまい、練習が終わって学校に向かう電車では、開いてしまう両膝を笑う手で一生懸命押さえていたものでした。

部班。スムーズに締まらなくて焦る腹帯。(ぎゅっと締めるタイミングで馬もお腹に力を入れていた様子)

フライデーはおきゃんな女の子で、大きな音に驚いたふりをしては暴走し、落とされました。

■ 馬術部時代を振り返って

30 年以上も前のこととなりますので、思い出は美化されているかと思いますが、今回、馬術部時代を振り返り「いななき」100 周年記念誌に文書を寄稿させていただきます。

思い返すと私たちの世代は、スポーツ推薦や高等部から来た実力のある、先輩後輩たちに囲まれたおかげで、馬と向き合ってきたことない自分達でも何とか 4 年間で過ごせたのだと改めて感じます。また、コーチの方々にも非常に助けられました。ありがとうございました！

青山学院大学馬術部は、単なるスポーツ活動だけでなく、部活動の以外の時間も先輩・後輩の交流が非常に深かったかと思えます。

今では、問題になりますが、飲み会では「イッキ」

杉山 千絵 (1990 年卒)

ミミちゃんは秀でたおでこの賢いお姉様。掴まっているばかりの私を乗せて障害を跳んでくれました。

鼻の奥がムズムズする新しいオガの匂い。冬のボロ山から立ち上る湯気。横木がぶつかる音。

寝藁を藁を使って結束するやり方 ... 教えは今でも役立っています。

すでに 30 年の時が経ち、学校の事はあまり覚えていないのに、馬術部での事は色々記憶の中から蘇ってきます。

貴重な時間を与えてくださった馬術部と先輩方のご指導ご支援、伝統を繋げてくださる方々への感謝は尽きません。

これからの青山学院体育会馬術部のご発展と皆様のご活躍をお祈りいたします。

箭内 裕二郎 (1991 年卒)

が全盛で、「ばしり」も頻繁にありました。私ではありませんが、ノーヘルメットでスクーターに乗ってコンビニに買い出しにいった警察に捕まるなんてこともあったような…。綱島グランド懐かしいです。

馬達との時間、先輩・後輩・仲間・コーチとの時間、叱咤激励もありましたが、それも含めて、青山学院大学馬術部での日々は今も特別なものとして確かに自分の中にあることを思うと部活動をやり切ったよかったですしみじみ思います。自分は地方在住となり、なかなか緑鞍会の集まりや現役のみなさまに顔を出すことはできませんが、次なる 100 年に向けて皆さんが活躍できるように影ながら応援させていただきます！

■ 体脂肪率 before - after

高知の田舎から上京してきたのが 1988 年。高校から乗馬を始めてスポーツ推薦枠で青学に入学してきました。

授業が夜間だった事もあり昼間は馬の世話、夕方から大学の毎日でした。

同期も 2 人しか居なかったので辛く忙しい毎日で疲れと栄養失調で倒れた事もあるくらい目まぐるしい日々だった気がします。

部活に追われる毎日だった事もあり記憶喪失だったのではないかと思えるほど当時の記憶が殆どありません。

しかし授業もサボりがちだった事もあり 2 年留年してしまいましたが友達はみんな卒業してしまいバイトをしながら一人寂しく大学に行っていた事はよく覚えています。(笑)

そんなバイト先で運命の出会いを果たし、北海道の育成牧場に就職した事が私の人生の転機といっても過言ではないほど今後の生活を大きく変えた出来事でした。

大学 6 年目アバロン乗馬学校でアルバイトをしていた時、私が学生時代乗っていた馬を買われたお客様がいらしたのですがその方が北海道の牧場のオーナー夫人でした。

休憩時間に私が馬に乗ってるところを見て(あの人は誰?)と職員さんに聞いた事から交流が始まり北海道の牧場をみに来ないかとお誘いを受けそのまま就職。

初めて競走馬に関わる事に戸惑いもありながらこれまで知らなかった馬の生体からアスリートとしてのトレーニングの仕方など私にとって新鮮なことばかりでした。

森本 敏正 (1992 年卒)

途中で転職しながらも約 16 年間サラリーマンを経て 39 歳で個人事業主として森本スティーブルを立ち上げ、3 年後には規模も大きくなり(株)森本スティーブルとしていまに至ります。

北海道を拠点として茨城にも分場を作り、今では栄養失調になる事も無く元気に生かされています(笑)

乗馬と競走馬では全く違うものだと考えていましたが同じアスリートを作る上での考え方は同じだと最近になってようやく分かってきました。

流石に全く同じとは言えず馬にかかる負担と 0.01 秒を競う競技としては遥かに競走馬は繊細で毎日のトレーニングと馬の状態に合わせた計算された飼料のやり方、怪我や痛みの取り方や休むタイミングなど馬術では知り得なかった知識が山の様にありまさにオリンピックを目指す陸上選手を作っている感覚で毎日管理しています。

今回私は馬術部のコーチとして大学に戻ってきました。

北海道と東京を行き来する日々ですが毎日が非常に充実しております。

私が約 30 年学んだ知識と技術を今の学生に伝えていける喜びとそれを早く身に付けたいと思う学生達の意欲に感激し、いつか必ず彼らとその技量に合った所で成績を出してくれる事が今の私のモチベーションにもなっていると言っても過言ではありません。

そんなこんなで私も 54 歳。いろいろありましたが終わりよければ全てよし!と思いつつ馬とともに体脂肪を気にしながら人生を送らせていただいています♪

■馬術部 100 周年に寄せて

馬術部創立 100 周年のいななき記念号の発行、誠におめでとうございます。卒業以来のほとんどを遠く離れた地で過ごし、卒業生としての役割を担うことなく今に至ってしまった私に記念号への寄稿の機会をいただき、誠に感謝いたします。

私が馬術部生活を踏み出すようになったきっかけは、中等部から高等部に進学してまもない頃に中等部時代のクラスメートで友人であった高久さんとの会話の中で彼が馬術部に入部すると聞いたことです。特に一緒に入部することを誘われたわけでもなかったと思いますが、元々いままで経験したことのないものに強く惹かれる傾向のあった私は、馬術という全くいままで考えたこともなかった世界に心をとらえられ、入部を決意していました。

いままで全く馬術の経験がなかった私にとって競技会での活躍は大きなチャレンジでしたが、一方で高馬連で競技運営に関われたことは大学での馬術部経験の下地を作ってくれたと同時に大学に進学してからも馬術を続けたいという強い思いの礎となりました。

大学馬術部での 1・2 年は当時厩舎のあった綱島と厚木、馬事公苑のみを行き来する生活でした。当時は松本先生、松本美紀さん、田中さんと 3 名のコーチに恵まれ、また学生競技会のみならず、多くの一般競技会にも頻りにエントリーする機会に恵まれましたが、一方で競技会サポートのバイト（今でも「使役」と呼ばれているのでしょうか）にも毎週のように交代で送られ、トラックの荷台に乗って他校の同期や後輩と過ごしたのは、非常に懐かしい思い出です。

そのような活躍が評価されたのか、学生生活最後

依田 卓也 (1993 年卒)

の 1 年は関東学生馬術協会の幹事長に選ばれました。少なくとも当時同協会の幹事長は同協会が主催する競技の運営はもちろんのこと、一般競技会の使役も全部任されており、この経験が私のその後の人生に良い意味で大変大きな影響を与えてくれたのですが、技術的にイマイチであった私はこれで競技会に参加するのも難しいのか、と最初は否定的に捉えていました。しかしながら、私を信じてブルーランボーを与えてくださった田中さんと先輩方、競技会運営で抜けている間もサポートしてくれた同期 5 名と後輩達、また一緒に頑張った関東学生馬術協会と全日本学生馬術連盟の中間のサポートのおかげで、競技にも学生生活にも思い残すところなく、無事に卒業を迎えることができました。

卒業後はそのご縁で日本中央競馬会に入会し、阪神競馬場、日高育成牧場、本部審判部を経てロンドン駐在員事務所で勤務しましたが、ロンドンでの 2 年間の勤務を終えたところでどうしても競馬以外のキャリアを模索したくなり、同会退会、ロンドンで 1 年間修士課程で勉強、2006 年からはみずほ銀行ロンドン支店で、今年 2 月からはアムステルダムにある欧州みずほ銀行で勤務しています。

大学卒業後はほとんど東京にいてもなく、大変お世話になった馬術部からずっと疎遠になってしまっていることに非常に申し訳なく思っています。同期のように今でも馬術部をサポートしているみんなに大変感謝しつつ、欧州からでもできることがあればぜひお知らせください。

現役馬術部の皆さんのますますのご活躍と先輩・後輩の皆様のご健康とますますのご発展をを心より祈念しております。

■「青学らしさ」とこの先のこと

馬事公苑の少年団に所属していた中等部時代のある日、キャロットステーキという競技会でカドリールに出ていた青山学院大学馬術部のお姉さま方の一糸乱れぬ演技を見た途端、高校まで続く少年団を中学でやめて、高等部から馬術部に入って、いつの日かこんなキラキラした存在になりたいと心に決めました。そしてこれが幼少から青学で育った私が、初めて外から「青山学院」を感じた瞬間でもありました。

中等部を卒業した翌日、綱島に通ったあの日から卒部する日まで、キラキラした存在になれたかは置いておき、幸せなことに、どんなに思い返しても不思議と笑いと、充実過ぎる爽快な疲労感、また出会った方全員への感謝の気持ちで溢れかえります。

試合の後刈上げにしなきゃならなかった事も、美紀さんの新車をぶつけた事も、スイカを被って踊った事も、4 年最後の試合で優勝した事も、汚い部屋の汚いこたつから抜け出せなかった事も、東京うまいもの会のお弁当が今でも NO.1 な事も、どんな重い物でも持ち上げられると信じていたあの頃、ふわふわとチャランポランだった私にとって自慢の同期、面白い先輩、従順な後輩、紺色が好き過ぎる田中コーチと甘すぎるコーヒーがお似合いの松本先生、いろんな方に守られて、今の私がいると確信しております。

卒部後は先輩のご紹介で乗馬部のある企業に就職し、また家族で乗馬クラブに通ったりして子供が生まれるまで馬との生活は続きましたが、その後 12 年間は子育て一色。それが、何故かこの成り行きで気が付いたら小野路の馬場で部員たちと共に過ごす日々をおくっていました。子供が小学校 6 年と 2 年になった頃でした。

そこからの 6 年間+今に続く 2 年間は、さすがにチャランポランな学生の時と同じわけにはいかない空気感の中で、全てのことを 1 から学び直す時間を頂いたように思います。そして今は高等部コーチと関東学生の試合運営の手伝い、プライベートでは週一ライ

夏目(藤森) 香織 (1993 年卒)

ダーとして馬が側にいる生活をしております。

そんなこんなで私の人生、振り返ると青学だらけ、馬だらけ。周りの方からもいつも「青学の藤森さん」と言われてきて「青学の」って言葉に身をただしてきました。

青学らしさ、、、土山先生からは初等部から青学に通う 3 姉妹が 3 人揃って馬術部にいることを「これぞ青山らしい」と言って頂けたこともあります。一時期身を寄せていた乗馬クラブの方からはいろんな意味で「青学らしい」とよく言われました（汗）。関東学生理事という立場で他校を知れば知るほど感じる「青学らしさ」。また副監督という立場で学生と毎日顔を突き合わせていた時も、必死で部と学業を両立する姿、仲間とつきあい方、部運営への熱意、これが今時の「青学らしさ」なんだと感じ、学生達から学ぶ事が多くありました。OB 係だった現役時代は、個性的な OB の皆さん = 「青学らしさ」と感じていたこともありました。

ただ、その時々を感じる「青学らしさ」は決して一樣ではなく、だからこそ、青学らしさという定義、つまり、「守るべき伝統や引き継ぐべき精神」は存在するのかモヤモヤしてました。

しかし、100 年の歴史の中で 400 人を優に超す部員たちが青学の看板の下、さまざまな時代に、それぞれの 4 年間を共有しつつも一人ひとり違った感性をもって馬術部ライフを過ごしてきたはずですから、「青学らしい」って一言でいい表せなくて当然だし、その全てが「青学らしさ」だし、最新の「青学らしさ」を受け入れて共に喜びたいというのが今の境地です。

創部 100 年を迎えた今、これからの 100 年はこれまでの 100 年とは全く別のものになると思ってます。世界も日本も地球もどんどん変わっていくから馬術部の形も、OB 会の形も変わっていくべきです。ただ一つ、変わらないのは 100 年前も「馬」は今とほぼ変わらない本能をもつ「馬」だったことと、これから

100年で馬が「象」になることはないはずでことでしょうか。

現役たちにはこれから馬術部がある限り、自由な発想で、自分たちのスピードで、横道にそれでも、遠回りをして、いつでも馬と仲間を思いやりながら新しい形の馬術部を作っていくってほしいと願います。

また、戦争の影が濃く残っていた時代も、馬が1頭しか居なかった時代も、部員が1人しか居なかった時代も、学生馬術で栄光の成績をおさめていた時代も、成績が振るわなかった時代も、活動場所が転々とした時代も、コロナの時代も、青学馬術部は存在してその時その時の「青学らしさ」を放って今があることを忘れずに、現役のみなさんには常に胸を張って新

■ コーチを続けてきて

私が馬術部にかかわって現役時代を含め36年が経ちました。高等部の途中から入部して大学卒業後、一年間ニュージーランドで修行を積み帰国後、乗馬クラブで働き始めたのと同時に当時のコーチだった田中一弘さんから声を掛けられコーチに就任しました。人生の3分の2は馬術部にかかわっていることになりませんが馬術部の100年の歴史から比べるとたったの3分の1にすぎません。それだけ歴史の重さを改めて感じます。

当初は高等部のコーチを任されました。就任2年目に広畑現馬術部監督が高校3年生でキャプテンをやっていた時に関東高校自馬大で団体総合優勝という快挙を成し遂げました。そのことでもしかしたら自分はずごいのではないかと大きな勘違いしてしまったためコーチを長く続けることになりました。しかし長く続ければ続けるほど馬術の奥深さがわかるようになってきて自分はまだまだ未熟だなと思うことの方が多くなりました。すごかったのは当時の部員たちです。

しい「青学らしさ」を創造して欲しいと願います。

最後に、現場をサポートする監督、コーチの皆様、装蹄師、獣医、馬術、学校、試合運営の関係者の方々に心から感謝申し上げます。

あとは卒部したOBが、それぞれの立場でできることをし続けて現役を応援することで色彩豊かな「チーム青山」が完成するように思います。

いなさきの編集委員をお引き受けすることを通じて、みなさんの特別な4年間を垣間見ながら、100年の年月を感じ、私が中学の時にキラキラして見えた馬術部がこの先さらに輝くことと、馬達の幸せを切に願いつつ。

高柳 徹三 (1993年卒)



今は仕事では立場上、乗馬クラブの責任者を任されていますがほかの乗馬クラブなどの馬術を続けている先輩方を見るとまだまだもっともっと勉強しなければと思います。

今も馬のことをもっと知りたい、もっとうまくなりたいという気持ちを持ち続けているので乗馬クラブの仕事もコーチもやめられないのだと思います。馬術部も時代とともにだいぶ変わっては来ましたが部員の馬が好きという気持ちは今も昔も変わっていません。現役の学生から必要とされる限り馬術部への恩返しだと思ってコーチを続けていきたいと思っています。

■ 馬がいたからこそ私の人生

十歳の時に、馬事公苑の弦巻少年団に入団して、馬に出会わなければ、今こうして馬術部卒業生として、諸先輩方、思い出話ができる仲間に出会えなかったと思っています。

一人っ子の鍵っ子で、家に帰っても今のようにゲームもなく、スマホもない時代でしたので、一人で留守番が多くて、電車通学でしたから、近所に友達もいませんでした。そんなある日、弦巻スポーツ少年団の話聞き馬事公苑に行ったのです。

「君、いくつ?」

「九歳です。小学校三年生です。」

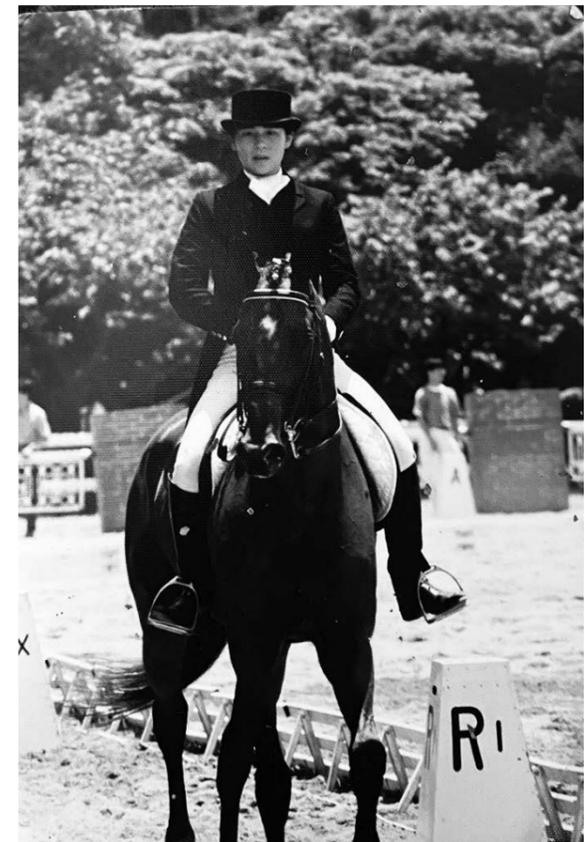
「大きいね〜。小学校四年生からだけど、春には十歳だし大きいからいいよ。軽乗チームから始めなさい」

それが、馬に出会ったキッカケです。

初めの三日間は、寝ワラのアレルギーで目と鼻が炎症して、それでも動物が好きだったので、気合で治してました。小学校から高校生まで上下問わず活動している少年団員と話すこともできない人見知りだった私が、馬のためならと勇気をだして、仲間たちの輪の中に入れるようになったのも馬たちのおかげです。

高等部、大学と馬術部に入ってから一番の思い出は、大学四年の全日本学生馬場直前に馬の下敷きになり、右足の骨にヒビが入り、一時は断念しようと思いましたが、ギプスの上からゴム長をカットして、レーザーパンチで即席編み上げブーツを作って、たくさんの人にサポートしてもらって、本番に出場することが出来たこと、部員みんなの協力なくては出来なかったことです。感謝しかありません。

子育てでももうすぐ終了です。人生の後半は、馬のために役に立つ活動ができたと思っています。



ベラスケスと馬事公苑にて

■ 青山学院大学馬術部 100 周年メッセージ

青山学院大学馬術部 100 周年おめでとうございます。その一部に私も携わることが出来たことを非常に喜ばしく思っております。

馬術部との出会いは高等部入学時。兄（秀康、1985 年卒）が同じく馬術部に所属していたことをきっかけに興味を持ち入部しました。

当時の馬名は、青〇といった漢字名とブルー△△△といったカタカナ名が半々、部員数は少なく我々高等部生も泊まり当番になる程でしたが、大学生含む先輩達に恵まれ楽しく過ごすことができました。青陵号での自馬対抗戦や、現在の秋篠宮殿下がご観覧された阪神競馬場でのインターハイ等が強く印象に残っています。

大学馬術部では、それまでと一変し週6日の活動など部活中心の生活となりました。そんな中でも下級生時代は大会手伝い（使役）等を通じ他大学の同期達と仲良くなれたこと、4年次は当時看板馬だったブルーサンダー号に騎乗させていただき大きな大会に

も参加できるようになったことは非常に思い出深く記憶に残っています。

ある日のこと、大会出場のため当時就職内定していたさくら銀行（現三井住友銀行）の拘束活動に参加できないことがありました。リクルーターから他社就活を疑われ、世田谷馬事公苑の公衆電話口で同期の山田に代わってもらい「高久は部活中で間違いありません」と会社側に伝えてもらったことも今では懐かしい思い出です。

当時の部長、監督、コーチの皆さま、2020 年にお亡くなりになった遠藤浩幸さんを始めご指導いただいた先輩・後輩達に感謝すると共に、こんな厳しい馬術部生活で誰よりも頼りになった藤森香織、山田恵里、佐々木久絵、依田卓也、高柳徹三の同期達に改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

青山学院大学馬術部が今後益々発展し、150 周年、200 周年と迎えられることを祈念しております。（当時の呼び名である旧姓にて記載しました）

高久 和弘（1993年卒）

■ 忘れられない思い出

はじめに、創立 100 周年を迎えた伝統と格式ある青山学院大学体育会馬術部の礎を築いてくださった先輩各位に心より敬意と感謝を申し上げます。

また、その歴史の一ページに携わることができたことを大変嬉しく思います。

私事で恐縮ではございますが、大学卒業と共にご縁をいただき馬と関わりのある職場に就職し、現在に至ります。職場は、馬と人の交流によって生まれた様々な文物を幅広い分野から紹介している「馬の博物館」を運営しており、施設内には、生きた馬の展示部門として厩舎も併設しています。ポニー、サラブレッド、欧州の馬、日本在来馬など多品種を揃え、イベントにて馬とのふれあいや試乗会を開催し、昨今身近に接することができない馬との交流を図り、馬事普及に努めております。中でも、スポーツ少年団活動の指導にて、小学5年生から高校3年生までの団員に作業、騎乗、団員相互の交流等を通して馬の魅力を伝えることができる素晴らしい仕事に従事させていただいているのも青山学院大学体育会馬術部での活動があった故であると切に感じます。指導している少年団の団員たちは皆、馬の魅力の虜となり、大学に進み馬術部に入部した団員、競馬の騎手・厩務員になった団員、乗馬クラブのインストラクターになった団員など馬の世界に進路を決めた団員も多数いることが何より嬉しいです。

私が、在学中に馬術部で培った人間関係もこれまでにたびたび私を救ってくれました。青学馬術部の先輩、依田さんをはじめ、コーチを長年務めてくださっている高柳さんには、仕事で大変お世話になっております。また、他大学の先輩、同期、後輩の皆さんにも仕事の上で助けていただくことが多々ありました。学生時代は話す機会が無かった方々も関東学生馬術連盟の仲間として協力してくれていると感じ、これらの関係性を築けたことは馬術部にて活動していた財産であると感謝の思いでいっぱいです。

須川 朋子（1994 年卒）

現役時代の数々の思い出は、走馬灯のように蘇ります。

大好きだった馬、ブルーランボーのこと。日常の活動で起こった日々の出来事。松本先生、田中コーチ、美紀さんにご指導いただいたこと。OB・OGの先輩方が馬場に集まってくださった初乗り会。そんな綱島グラウンドでの数々の思い出の中、ある朝の出来事が私にとって一大事件でありました。

朝起きた瞬間に寝坊したと気づき絶望感に苛まれたある日、それでも馬場に1分1秒でも早く行かねばと慌てて家を飛び出し、電車に乗って綱島の馬場を目指しました。綱島駅に着くと後輩にバツタリ、遅刻確定の2人は走りまくってとにかく馬場へと急ぎました。遅刻者には、今も昔も何かしらのペナルティーがあると思いますが、当時は罰当番と側溝掃除がセットでした。ペナルティーもさることながら、遅刻は消えてなくなりたい気持ちになるくらい嫌なものですよね。

綱島駅から綱島馬場へのルートは、いつも通り綱島総合グラウンドの正門とは反対に位置する馬場に最も近い河川敷から向かうとその日はいつもと様子が違っていました。いつも出入りしていたフェンスの場所が通れない状態に…『いつも』の状態とは、フェンスの一部を人が一人通れるように破り、出入りしていた言わば違反の状態でした。その日の朝は、出入り口は閉ざされ、フェンスがしっかりと立ちはだかっていたのです。しかし、遅刻の身、とにかく焦っていました。早くフェンスの向こう側に行きたいと思う気持ちが行動となってフェンスによじ登っていました。そして慎重にフェンスをつたって下りれば無事に到着できたのですが、大胆な行動に出てしまいました。そうです。フェンスの上からヒラリと飛び降りたのです。高さ2mくらいだったかと…

無事着地できるはずでした。が、その日は、めったに穿かないロングスカートだったのです。スカート



の裾がフェンスに引っかかり…次の瞬間、「グッシャ」と鈍い音がしました。どうやら地面に落ちたようです。きっとカエルのような格好で!!地球にかぶりついてしまった(-_-;)

意外にもすくっと立ち上がったのですが、口の中がじゃりじゃりし、舌を動かしたところなんかおかしい?!女子トイレの鏡を見に行き「いー」としたところ、ありえないことに!!

前歯が-----

そこから一気に具合が悪くなりその先の記憶は曖昧ですが、同期の並木君に自宅まで送ってもらった事だけ覚えています。女性の厄年 19 歳の年でした。その後、馬場では、「朋子の歯」を探せ!!との指令が、同じ馬の担当に付かせていただいていた先輩の久絵さん(旧姓:佐々木)から下されたと伺いました。ダイヤモンド鉱山か、金鉱さながらにボロ山から欠けた

歯を探してくださったとのこと…探し続けてとうとう発見!!後輩の皆様お疲れさまでした。ボロ山での発掘作業申し訳ありません…ありがとうございました。「その歯」を使うかも?とのことで歯科診療所に持参しましたが、使わずに済み事なきを得ました。

平成初期の当時、まだ携帯電話が普及していない時代のこと。今だったら、宿直当番さんからグループ Line に連絡が来て、「裏のフェンスが工事されて通れなくなっている!!」と周知されたであろうに…

この話、ボロ山から歯を発掘してくれた後輩達の皆さんと周年行事等で会うたびに話題となり今では笑い話です。しかし、当時女子大生だった私はこの世の終わりのような気持ちでその日かかりつけの歯科診療所へ行き涙に暮れていたところ、先生がいつにも増して優しく「大丈夫!きれいに仕上げるからね!!」と声をかけてくれた記憶があります。その差し歯は今も健在で、33年間お世話になっております。



■創部 100 周年に寄せて

創部 100 周年を迎えこの特別な節目を心よりお祝い申し上げます。

この間、様々な環境の変化があるなか、各年代の部員が歩んできた日々の馬とのふれあい、人とのふれあい、苦楽や数々の価値ある経験の積み重ねが 100 年という時間を築き今があることと思います。

馬とのふれあいは、特別な繋がりを生み出します。馬との関わりを通じて、単なる動物との関係ではなく、私たちに多くのことを教えてくれました。彼らから信頼、忠誠心、訓練の必要性、そしてコミュニケーションの重要性等多くを学びました。馬から学んだこれらの価値がその後の社会や日常生活において、自身に大きな影響を与えていることと思われます。

また、馬術部は人とのふれあいの場でもあります。OB、OG、上級生、同級生、下級生、経験者、未経験者まで、様々な背景や経験を持つ人々が一堂に会し、お互いに刺激を受け、成長してきました。これらの交流は、単なるチームメイト以上の絆を築き、多くの思い出を作り、そして今でも継続しています。

■100 周年に寄せて

青山学院大学馬術部 100 周年おめでとうございます!歴史と誇りに満ちた 100 年だったかと思えます。

この節目に感謝し、OG として胸を張り、未来の華麗なる瞬間に期待を寄せています。

現役の部員の方々も馬術の舞台で学んだ経験が、生涯の宝物となりますように。

並木 洋 (1994 年卒)

馬術は個人競技ですが、チームワークが馬術部の根幹にあるのでしょうか。馬術は個人の技術だけでは成り立ちません。それぞれの個性やスキルを尊重し、「人馬一体」で調和を保ちながら、目標に向かって努力することが求められます。皆さんの協力と努力によって、部は成長し、人としても大きく成長したと感じています。

馬術部は自己形成の場でもあります。挑戦、失敗、そしてそれらからの学びは、個々の成長に欠かせません。馬術は容易なスポーツではありませんが、その難しさこそが、皆さんがより強く、より優れた人間として成長する手助けをしたことでしょう。

馬術部はこれからも、馬とのふれあい、人とのふれあい、チームワーク、自己形成によって更なる成功を収めることでしょう。皆さまのこれからの更なる輝かしい未来を祈っています。

最後に、部の発展に尽し、100 年を継いでいただいた皆さまのご努力とご支援の賜物と心から感謝致します。

北井 裕子 (1995 年卒)



■わたしをつくった4年間

ときどき、あの4年間は夢だったんじゃないか?と思うことがある。

東急東横線・綱島駅から徒歩10分。馬術部のグラウンドがあったはずの場所にはビルのようなマンションが立ち、敷地内の公園はファミリーが穏やかな時間を過ごしている。

かつてここは野球部、ラグビー部、サッカー部、馬術部……部員やコーチの掛け声が響きあうスポ根空間だったはずなのに。

2泊3日程度の小旅行。新幹線の荷物棚にキャリーケースを納めようとするが、重くて腰の高さより上に持ち上がらない。

現役時代はヘイクューブ(20kg以上?)あるいは乾草(20kgくらい?)を軽々、1人で上げていたのに。

デスクワークのせい、朝、昼、晩、と3食しっかり食べると身体が重い。1日2食でもいいような気がする。

馬術部時代は1日5食(朝練前、朝練後、昼、夕作業前、夜)しっかり、ものすごいスピードで食べ、それでもお腹がすいていたというのに。(そのおかげで今より7~8kg重さがありました)

そんなことをぼんやり考えていると、乗馬クラブへ嫁いだ馬術部の同期からLINEが入る。

馬のこと、試合のこと、おすすめのグッズ、美容のこと、安否確認、驚いたこと、頭にきたこと、嬉しかったこと。

彼女とやりとりするうちに、モノクロの記憶がとぜんフルカラーに変わる。夢じゃない。

先輩に怒られて眠れないほど腹がたつ夜もあった。後輩に問い詰められて、しどろもどろになりながら弁

佐藤 恵子 (1997年卒)

明したこともあった。やめたい~!と思うことも当然あった。いろんなことが、あった。不思議なことにハードな体験の方が、はっきり映像として蘇る。

でも、ニュースで「馬事公苑」と聞くと無条件にうきうきしてしまう。広告業界に就職。仕事でさっと空気を読み、まわりをフォローしたり、時に気配を消したり対応できる。汗をかくこと、努力することが全く恥ずかしくない。健康管理ができるし、意外と丈夫だ。いざというとき頼れる友達がいる、と自信をもって言える……。

生活のあちこちに、馬術部で過ごした時間がしみこんでいる。

「三つ子の魂百まで」ということわざがあるけれど、「馬術部の4年間」もそれに近いのではないかな。

今はほとんど馬に乗ることも、見ることもないのだけど、今のわたしをつくった大きな4年間。それは背骨となり、血肉となり、間違いなく日々を支えている。

支えてくださった皆様に心から感謝します。馬術部創部100周年、おめでとうございます。



左、同期の弥登あゆみさん(旧姓)と右、筆者

■二つの馬術部を通じた縁

2023年9月9日に盛大に行われた創部100周年記念祝賀会。卒業して20数年になりますが、懐かしい顔ぶれが多い中、式の終わりに比較的近頃まで一緒に馬術部として活動していたメンバーが集まりました。馬術は生涯スポーツと言われますが、学生馬術を経験していたとして、続けることの難しさは皆さま想像に難くないでしょう。まして企業に就職し、馬術を部活動として継続できることはかなり幸運なことだと思います。今回集まった面々は青山学院大学を卒業後、富士通グループに就職し、富士通の企業スポーツ団体として活動している富士通馬術部に所属するOB・現役メンバーです。昭和44年卒 田坂さん、平成5年卒 夏目(旧姓:藤森)さん、平成15年卒 横田(旧姓:鈴木)さん、平成31年卒 林さんと現在、富士通馬術部の部長を務めている私の5名で式の終わりに写真を撮ることができました。式典への参加は叶いませんでしたが、昭和60年卒 片桐(旧姓:篠崎)さん、平成3年卒 遠藤さん(故人)も富士通馬術部に所属しておりました。年代も違えば、既に退職されている方もいらっしゃいますが、共に青山学院大学体

山梨 拓磨 (1999年卒)

育会馬術部、富士通馬術部に所属した仲間達であり、深い縁を感じずにはられません。

富士通馬術部は現在クレイン栃木にて月2回程度練習を行いながら、加盟する日本社会人団体馬術連盟主催の競技に参加しています。2026年に創部70周年を迎えますが、青山学院大学馬術部と富士通馬術部に縁ができたのが1969年のことだと伺っています。当時アバロンにて活動していた富士通馬術部に大学を卒業した後の田坂さんが加わることとなったのです。それから54年、富士通馬術部を牽引してこられた田坂さんが勇退された年に青山学院大学馬術部が100周年を迎え、祝賀会にて共に祝うことができた縁はかけがえのないものです。

企業スポーツを取り巻く環境は年々厳しくなっており、社会人団体馬術連盟に加盟する企業も減少の一途を辿っています。それでも、現役の皆様には、社会人団体馬術連盟という馬術連盟があることを知っていただき、社会人になっても何らかの形で馬との関わりを持ち続けていただきたい。そして、二つの馬術部の縁がこの先も続く事を切に願っております。



■ あの頃は、、、

創部 100 周年を迎えられ誠にありがとうございます。輝かしいご発展を遂げられた皆様の努力に敬意を表し、さらなる飛躍を心より期待しております。長きにわたり発展を遂げられた緑鞍会の実績と皆様のご努力に敬意を表しますと共に、なお一層のご繁栄を心より祈念申し上げます。

さて、私が一番思い出に残っている事は、セレクションとして馬術部に入部する前年度に初めて綱島グラウンドに伺った時になります。

自身はまだ高校 3 年生でとても暑い日の雑草が生い茂っていた時期だったと記憶しております。

持参した大きなカバンの中にはヘルメットや長靴などを入れ、期待に胸を膨らませ綱島駅を降りました。スマートフォンは勿論、自分の携帯電話も持っていなかった時代に人に道を尋ねながら細い道を歩き、橋を渡ったら左手に馬場が見えました。馬場を通り過ぎた左手の入口は鍵がかかっており、どこから入るか分からないまま時は過ぎました。先輩らしき方々がフェンスと壁の間をすり抜けて入っていくのを見ましたが、きっと違うだろうと思っていました。時間がどんどん過ぎていき、これは本当にまずい時間になったところで、中にいる先輩方に大声で入り口を尋ねました。そしたら、ぐるりと回った正門から入れと言われました。その時、「なんでその隙間から入っていいよ」



■ 仲内 おりえ (2000 年卒)

と言ってくれなかったのか不思議で、これがいわゆる体育会系なんだと思い、ダッシュで野球場、テニスコートを超え、ラグビー場も超えましたが、次はどこから中に入るのかわかりません。

何故なら道も無く、馬場と厩舎の間をすり抜けるしか無かったからです。何度も雑草の上を行き来していると、別の先輩が来て下さり案内してくださいました。

私はこんな不親切な先輩方の元、道も入口も無い所に 4 年間頑張れるのか? と不安になった事を今でも鮮明に覚えています。

勿論この 4 年間は本当に辛かったのですが、本当に色々な方々の支えがあり続ける事が出来ました。多感な時期を綱島で過ごした経験は自分の奥深い部分に存在しており、愛すべき馬たちと素晴らしい人たちに囲まれ本当に幸せでした。今でも趣味として子供と一緒に乗馬クラブで楽しく馬に乗る事が出来ているのと同時に、その頃の先輩方が 1 年に 1 回くらいのペースでお食事に誘ってくださり、この最高の関係がいつまでも続きますように、と願い、改めて体育会系の良さを実感出来ており感謝申し上げます。ありがとうございます。

最後に次の 200 周年に向けて、益々のご発展をお祈り申し上げます。



■ 100 年の歴史、未来へ

青山学院大学馬術部創部 100 周年にあたり、大変僣越ではございますがご挨拶させていただきます。

100 年にわたり、多くの部員が輝かしい実績を築き上げてきました。たくさんの学生が夢を追い求め、困難に立ち向かい、成長しました。これは、大学歴代監督、コーチ、OBOG 等他にも本当にたくさんの方々に継続的に支えられてきたからこそと思います。そして何よりも学生の日々の努力と馬との協力の賜物です。日々の継続的なご支援に改めて感謝申し上げます。

100 周年にあたり過去の資料とともに、OB の方々のお話を伺う機会がありました。過去にはほとんど支援のようなものが受けられなかった時代や、馬も自分達でゼロから調達調教をするような時代もあったそうです。その時々で学生達自身が手探りで必死に馬と向きあって自分達の手で苦労しながら運営されていた様子が伺えました。

現在は、大変ありがたいことに年々増える OBOG や大学、JRA や学馬連等多方面からのご支援を賜われる環境になりました。コロナ禍には学生達がバイトもできない非常に苦しい環境下の中、SNS を通じてクラウドファンディングにより、OBOG 以外の方々からもたくさんの物資やご寄付を頂くことができました。現在は優秀なコーチ 5 名のもと、大学馬術部では珍しい屋根のついた素晴らしい馬場で日々練習を行うことができています。

■ 2022 年～現在 監督 廣畑 耕司 (2000 年卒)

現在馬術部には 30 名近い大学生とほぼ同数の高等部生が 11 頭の馬と共に日々練習に励んでいます。学生には「自分達で考える。」「自分達で問題解決を図る。」という事を意識して指導しています。支援をたくさん受けられる環境だからこそその贅沢な悩みですが、受け身で物事に対応する雰囲気の一部で見受けられることもあります。一人一人の目標がみな違う中で、個々の目標に焦点を当てつつ、それぞれが自律的に努力できる環境を整備していきたいと考えています。

馬術部の存在は、単なるスポーツクラブを超えて、キャンパスコミュニティに欠かせない一翼を担っています。馬との共同作業は、協力と調和の象徴であり、これは人間関係やリーダーシップにおいても重要な要素となります。馬術部は学生たちに、責任感、協力、そして日々の継続した努力の大切さを教えてくれます。100 周年は、これまでの歩みを振り返りつつ、将来に向けての展望を描く重要な節目です。これからも馬術部は、変わる時代や社会に適応しながら、学生達のキャリアと人生に深い影響を与えたいと思います。

最後に、馬術部の歴史に名を刻んできた卒業生、現役生、そして関わってくださったすべての方々へ心より感謝申し上げます。これからも馬術部は青山学院大学の誇りであり、次世代に受け継がれていくことと思います。馬術部 100 周年を心よりお祝い申し上げます。

■ 落ちこぼれ部員による 「ミントブルー、ブルースティンガー、ワイルドブルー」の話

平野 陽子(2003年卒)

この本にはきっと、競技を共にした馬との華やかな思い出に溢れている。

残念ながら、落ちこぼれ部員の私にはその経験はない。

体質的に「早朝から動く」「見て覚える」が苦手な怠け者で鈍臭い部員だった。

試合に出ることなく、関東学生の幹事を務めた。就活で休部もした。

同期・先輩・後輩への申し訳なさや後悔は、未だ消化できない。

しかし、そんな私でも、馬術との縁は細々と続いている。

馬は見ても乗っても幸せで、他大学の同級生とも交流がある。

乗馬クラブにゆるく所属し、馬術競技のファンでいる。

だから、馬術の裾野に入れてくれた3頭の功劳馬に触れたい。

ミントブルー、ブルースティンガー、ワイルドブルーだ。

「ミントブルー」はサクゾーと呼ばれていた。

障害を木っ端微塵にしがちで試合にはほぼ出ないがガッツがあり、どんな下手くそな新入生も暴走せず優しく乗せてくれた。

キンシと呼ばれた「ブルースティンガー」は、熊みたいな栃栗毛だった。

馬場の3課目も踏める器用な子でとても穏やかだった。

私たち世代の初心者、この2頭のおかげで馬に乗れるようになっていった。

キンシがトレードとなりやってきたのが、「ワイルドブルー」。

前に潜るけど障害も飛べ、歩幅が大きくて気持ちいい。

ワイブは穏やかで優しく人懐っこく、下級生も育ててくれた。

個人的に思い入れがある馬だ。ピンク色の鼻先がかわいくて大好きだった。

4年間の思い出には、一から馬との関わりを教えてくれた練習馬たちが必ずいる。

私たちの心の中に「馬術と出会った時の純粋な楽しさ」と共に今も生き続ける。

その思い出を持つ人たちが関わる限り、馬術競技の裾野拡大にも、引退競走馬の第二の馬生にも少しだけ恩返しできるはずだ。

卒業後、馬術と縁遠くなった人も緑鞍会との関わりを迷う人もいると思う。

練習馬たちとの思い出を胸に、もう一度裾野に戻る人が増えてくれたらと願っている。



■ これからのスポーツの在り方

鈴木(横田) 美穂 (2003年卒)

スポーツは狩猟時代に始まったと言われており、古代文明の壁画などにも登場します。単なる娯楽としてだけではなく、宗教儀式や貴族の社交、兵士の育成、集落の祭事など様々な形態を取ってきました。日本でも神事や武士の育成、庶民の娯楽として発展してきましたが、近代に導入されたイギリスの教育的集団スポーツによってガラリと性質を変えました。その影響で「自己犠牲」や「忍耐力」を求める文化が今も根強く残っていると考えられています。

コロナ禍を経験してお気づきの通り、音楽やエンタメやスポーツは傷ついた心を癒したり、日々の生活に活力を与えてくれる大事な要素です。人間という社会的生物にとって、それらは心の処方箋のようなもので、万人がスポーツを楽しむ資格を有すると考えることもできます。

さて私が入部した1998年当時、馬術部のホームは綱島総合グラウンドでした。個性的で面白い先輩方には、馬術だけでなく人付き合いや遊びなど社会人として必要なことを教えていただきました。同期にはゼロから馬のことを教えてもらい、ダメなところも含

めてお互いに素で付き合える一生の友人となりました。出来る可愛い後輩たちにはいつも助けてもらいました。当番やアルバイトで学校に行けないこともしばしばありましたが、夢中になれたのは青学馬術部だったからだと思います。

馬術部の運営に関しては学生に相当の自治がありました。例えば主将選出の際は、同期で夜な夜な話し合いを重ねて結論を出しましたが、その過程では不満のぶつけ合いやお互いの人間性の批判など、血圧の上がりそうなシーンが幾度もありました。今振り返ると様々な個性の学生が集い、誰もが発言権を認められていることが、青学の強みだったのではないかと思います。また女性が強いのか、男性の懐が大きいのか、男女の隔たりが無い点が馬術の最大の魅力でもあり、青学のカラーと共通するところでもあります。

様々なステークホルダーや地域社会とどう共存していくか。それがスポーツのテーマになりつつある今『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』という教えにヒントがあるのかもしれない。



左から大塚監督、岡本、桃野、筆者、笠

■ 馬術部の思い出

人は人生で印象深いことを夢に見るそうです。私の周りでは受験のことや仕事の新人時代のことを夢見る、という人が多いですが、私は馬術部の夢をよく見ます。

私が入部したときは、青山学院大学馬術部は綱島のグラウンドで活動していました。川沿いの厩舎で、綱島駅から早朝暗い中厩舎まで歩いていったことが懐かしいです。馬房に敷くおがを集めるのは1年生の仕事で、電話帳で工務店に片っ端から電話し、わけてもらえることを探したりしていました。水撒きが不十分で近所から砂ぼこりのクレームの電話を受けて慌てて水を撒いたことなどもありました。

1年生の終わりに青山学院大学のグラウンド移転に伴い、馬術部はOGであられる北井裕子さんのご厚意で、アシェンダ乗馬学校を間借りすることとなりました。覆い馬場も使わせていただき、雨天でも練習ができるようになり、また、外の馬場も広く、障害のコースも日常的に組めるようになり、大変恵まれた環境で練習をすることができるようになりました。

馬術部の馬たち、とりわけ自分の担当の馬は本当



高遠 あゆ子 (2004年卒)

にかわいく、なけなしのお小遣いで馬着を買ったりして、着せてかわいがっている様子を見て、母に「自分の子どもみたいね。」と笑われたこともありました。同期の仲間とは、24時間どころでなく一緒に過ごしました。大変なことも共に乗り切ったり、時には喧嘩もしたり、本当に濃厚な付き合いでした。体力勝負の馬術部生活ではいつもお腹を空かせていて、馬事公苑の帰りなどにコンビニをはしごして肉まんなど買って一緒に食べていました。

今では馬に乗る機会は年に数回となってしまいましたが、馬術部の生活で培った体力、忍耐力、基本が大切であると実感できたこと、組織の中でどう行動するかといったことなどは、人生の収穫であり、後の人生に大きな影響を与えてくれたと思います。直接の関わりでなくとも、馬術部のご縁で現在日馬連や都馬連の仕事で間接的に馬術をサポートできているのもうれしいことです。最近息子も馬に乗り始めました。親子で馬に関われるのもまた幸せです。形は変えても馬との付き合いは生涯続きそうです。

■ 馬術部と競馬の世界

この度は馬術部創部100周年、誠にありがとうございます。

在籍していた4年間で100年の歴史の1ピースになっていたことを改めて認識することができ、本当に誇らしく感じております。

私は日本中央競馬会で競走馬の調教に従事しておりますが、近年は、リーディング上位の調教師やG1勝ち馬の担当者など学生馬術部出身のホースマンが多数活躍しており、世界のトップレベルと認識されている日本競馬の調教技術には馬術由来の繊細な馬のコントロール技術が不可欠になっています。

特に大学馬術部出身者は、引き手数多な状態であります。

しかも、活躍している調教師、調教助手の方々も大学から馬を始めた方々が多数いらっしゃいます。

高いレベルの競走馬調教には騎乗技術もさることながら、勤勉かつ、物事をロジカルに、そして柔軟に考える思考がとても大切だからではないかと考察しております。

私自身、海外の調教師の元で勉強していたのですが、勤勉さとロジカルな思考はなかなか外国のホースマンは苦手だったように感じました。

近年は日本馬が世界中のビックレースで活躍しており、昨年、イクイノックス号が競走馬として世界一の評価を受けました。

そんな日本競馬のレベルを支えているのが、馬術部出身のホースマン達です。

中央競馬厩舎スタッフは青学馬術部出身者が少な

平岩 大典 (2005年卒)



いのが、少し寂しく感じる所で…

是非、そのスキルを生かせる競馬業界に来て欲しい!と切に願っております。

朝早く、危険も伴う職業ですが、管理馬と共に競馬場へ行き、大観衆の前での第一着は何にも変えられない達成感があります。

少しでも興味ある部員の方々がいらっしゃったら、可能な限りサポートしますので、ご連絡ください。

最近なかなか、馬場にもお邪魔しておりませんが、また訪問させてください。

SNSではよく活動の様子を拝見させてもらっていますが、多くの先輩の方々のサポート、そして馬達の頑張り、そして、なりより現役の部員の方々の努力で、文武両道を基本とした大学馬術部として成熟しているのが、よく分かります。

OBとしてホントに感謝すると共に誇らしいです。

これからも、150年、200年と続いていくであろう馬術部の更なる発展を確信しています。

改めて創部100周年おめでとうございます。

■ 廃部の危機を乗り越えて

馬術部創部 100 周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。そして、創部 100 周年という大きな節目であるこの時に、コーチとして馬術部に携われることに感謝いたします。

私が馬術部に入部した時は、4年生が1人、1年生が2人の計3人しか部員がいませんでした。高等部の馬術部も廃部の危機でした。部員よりも馬の数の方が多く、とても学生だけでは日々の活動を回すことができずに、毎日たくさんのOBの方が馬場にいらして助けてくださっていました。飼付けや馬房掃除や当番の作業を手伝っていただいただけでなく、クラブハウスでご飯を作って部活動が終わるのを待っていてくださることもあり、OBの方に支えられて成り立っていました。今では考えられませんが、毎日何鞍、何分乗ったか覚えていないくらい練習をすることができて、1年生の時から関東学生や試合にも出させてただくチャンスも与えられ、本当に贅沢な時間を過ごしていました。

ただ、頭の中ではこの部活はいつまで存続できるのか、私の代で廃部になってしまったらどうしよう…

2016年～現在 コーチ 橋本 治奈 (2014年卒)

とばかり考えていたのを覚えています。部員勧誘のために、淵野辺キャンパスにポニーを連れて行ったこともあり。2年生になった時には部員の数が増え、その後少しずつ部員が増えていき、4年生になった時には部員が20名を超え、これで廃部の危機は逃れて、安心して部活を引退できるとホッとしたのを今でも覚えています。そして何より、部員が増えたことにより4年生の関東学生の時久しぶりに団体を組んで出場できたことや、全ての学生戦に出場できたことは忘れられません。個人で成績を残すだけでなく、青山学院大学馬術部のチームで試合に出場できる喜びは本当に言葉で言い表せないものでした。

社会人になってからは、コーチとして馬術部に携わってほしいと声をかけていただきました。プロでもない私がコーチとして携わっても良いのかという思いもありましたが、私は馬術部のことも青山学院のことも大好きで、少しでも恩返しをしたい気持ちから、コーチを引き受けて今に至ります。先輩方が繋いでくださった長い襷を、これからも絶やすことなく、しっかりと繋いでいかれるようにと願いつつ、これからの馬術部のさらなる発展をお祈りしています。



■ 驚馬十駕

馬術部 100 周年、誠にありがとうございます。私の馬との出会いは大学になります。大学生生活は馬術部一色で、私の人生を豊かにしてくれました。

朝の5時頃に家から町田の馬場へ向かい、担当馬と練習をして、手入れが終われば次第すぐに授業へ向かっていました。馬たちと過ごす時間は、日々の疲れを癒し、次の日への活力を与えてくれました。彼らとの関わりは、ただ上手に乗るだけでなく、相手を理解し尊重することの大切さを教えてくれました。

入部時は部員は1, 2年生のみで私含めて総勢6名でした。日々の厩務作業もOB, OGの皆様のサポートいただきなんとかやっていた状況でした。少数ながらも皆で一丸になって活動を続けて、私が部の主将を務めていた頃には、部員も20名程度に増え、団体で試合を目指せる部活に成長しました。時には厳しい練習の日々に、挫折しそうになりましたが、そんな中でも一人ひとりが自分自身と向き合い、馬との信頼関係を築くために努力していました。

日々の練習で馬との深い絆をきづき、関東学生馬術大会ではベストのパフォーマンスができました。その結果、私たちは全日本学生馬術大会の舞台で輝くことができました。それは、私の大学生活の中で最も鮮やかな思い出の一つです。

しかし、そのすべてが常に順風満帆だったわけではありません。馬と人との関わりは、時には困難を伴うものでした。私たちは馬に怪我をさせず、自分たちも安全に乗るために、どのようにすればいいかを常に考えていました。それは、私たちにとって大切な責任であり、同時に馬たちへの深い愛情から来るものでした。

馬術部は、私に多くの価値を教えてくださいました。協調性、尊重、責任感、そして何よりも困難を乗り越

久川 由馬 (2015年卒)

える力を。それらは、馬術だけでなく、人生全般においても私を支えてくれる大切な力です。

今、私は社会人として新たな人生を歩んでいますが、馬術部で学んだことは今も私の原動力となり、さまざまな困難を乗り越える力を与えてくれています。馬たちとの時間は、私にとってかけがえのない財産となりました。

馬術部の100年の歴史の中で、私が経験したことはほんの一部に過ぎません。しかし、それぞれの世代が築き上げてきた絆と経験が、今の馬術部を形成し、これからも部を支え続けると信じています。

これからも馬術部が、学生たちにとって大切な場所であり続け、彼らが人生の大切な価値を学び、自己成長を遂げる場所であることを願っています。そして、これからも部員たちが馬との深い絆を通じて、人としての尊厳と誠実さを追求し続けてくれることを信じています。

私たちの経験がこれからの馬術部の歴史を刻む一助となり、さらなる飛躍のための糧となることを祈念して、この手記を締めくくりたいと思います。馬術部の次の100年が、これまで以上に素晴らしいものになることを心から願っています。

Special Thanks

豊田さん、高梨さん、副島さん、高柳さん、桃野さん、木林さん、久絵さん、ひさろうさん、高橋さん。

アシェンダ乗馬クラブの皆様。

先輩一同、同期一同、後輩一同。

マリンプルー、ラフター、カサンドラ、ブルーベリー、ブライトブルー、ブルーヤヨイ、ブルーベルファスト、キルラルス、ゴールドラッシュ、ハッチポッチブルー、プチブルー etc.

■十“馬”十色な馬術部の記憶

梁 景太 (2016年卒)

私たち2016年卒の世代8人は、全員が大学から馬術を始めた初心者でした。

得意なことも不得意なことも、考え方も8人それぞれ全く違っていて、馬が好きという点は皆が共通していました。4年間の部活動の日々、そして何より青学馬術部にやってきた馬、去った馬それぞれに思い出があります。

私が特に印象に残っている部活の出来事は、2年次の夏合宿です。津久井馬術競技場に馬匹を輸送し、他校と共同で行なわれました。大会に向けて障害を本格的に飛び始めたのがこの合宿でした。

大会の中では、関東学生馬術争覇戦が強く印象に残っています。出場した学生戦の中でも特にチーム対抗戦の印象が強く、部活で馬術をやる醍醐味を感じた試合でした。

☆印象に残っている馬

ブルーベリー (牝馬・練習馬)

馬の楽しさも怖さも教えてくれたスーパー練習馬。人にも馬にも、すぐに耳を絞って気が立った様子を見せるけれど、カサンドラとは仲が良く一緒に放牧もしていました。

カサンドラクイーン (牝馬・障害馬)

ポニーのように小さい馬体とストライドで、障害前どんなに詰まっても間歩を刻んで跳んでくれたスーパーホース。水が大嫌い、水たまりや水濺を直前で物凄い避け方をして落馬した人は数知れずでした。

クラリッサ (牝馬・障害馬)

馬房がめちゃくちゃ汚くて掃除が大変でした。

ブルーシャルム (せん馬・馬場馬)

優しくてつぶらな瞳がとてもかわいい。乗り方のコツを掴むと楽しくて、可愛い担当馬でした！(古川)

ミニポ (せん馬・ミニチュアホース)

馬房で一緒に昼寝しました。

ブループリンセス (牝馬・練習馬)

競馬引退後、青学に入厩直後に骨折していたことが判明して、治療をしました。

ヤヨイ (牝馬・練習馬)

初落馬は2年次に、この馬に乗っていた時でした。人を落とした後は元気いっぱい馬場を走り回っていました。普段は可愛い。(梁)

突然首を振るから何度も落とされた。ヤヨイと講習会に出て、障がいのコースを間違えてJRAの人にこっぴどく怒られたのはいい思い出です。(佐藤)

キルラルス (せん馬)

青学に入厩後、馬場で去勢手術をしせん馬に。サラブレッドなのに外国産馬みたいな重量感のある馬体でした。

ラフター (せん馬・障害馬)

蹄鉄を着けずに運動していました。脚の反応が鈍く歩様が独特のリズムで少し難しかった記憶があります。普段はボーッとされていて非常に大人しかったです。

ブルーシンフォニー (ゴールドラッシュ) (せん馬)

当時は青学最年長馬でした。右手前と左手前で歩様が異なり、別の馬のようでした。

ハッチポッチブルー (牝馬)

入部時点では練習馬でしたが、他校の先輩がスーパーホースだった、優れた競技馬だったと褒めていたのが印象に残っています。

ブライトブルー (せん馬)

真っ白な芦毛。口がいつも半開きでした。反撞が強くて正反撞練の時はお尻が割れそうになりました。

ブルーベルファスト (せん馬・馬場&練習馬)

バイトで行った乗馬クラブで「その馬は凶暴だから気をつけてね」と言われてた馬が後に青学に入厩してきたベルファストでした。(梁)

すぐ怒る。でも指示には結構従順でかわいいところ

ある。最初は駈歩を出すのが難しくて、正反撞の練習になってしかっていたけど、出し方が分かってくと毎回乗るのが楽しくなった、厳しい先生みたいな馬匹です。(佐藤)

マリンブルー (牝馬・障害馬)

ストライドがとても大きい馬で、馬体も大きかったです。耳もうさぎのように大きくて可愛かったです。

リストアイル (せん馬・障害馬)

どんな障害も向ければ跳ぶスーパーホースで、4年次に全学に出場しました。ライダーの私が全然ついていけなくても大きく跳んでしまうので、実況と会場がどよめいていたのが耳に残っています。シートと手綱を強くしてしまうと光の速さで暴走する繊細さでした。

ジアーナ (牝馬・障害馬)

すごく乗りやすく大人しかったです。何度か大会出場もして全学を目指していましたが、フレグ

モーネを発症してしまい休養になってしまいました。

アンディアーモ (せん馬・障がい&馬場)

大人しくて馬体が大きく、馬事公苑の狭い馬房では頭と尻を擦りながら過ごしていました。(梁)
馬場も踏めて、障がいも飛べた優秀な馬匹でした。自分が乗っても後輩が乗っても、絶対に落とすことはありませんでした。いつも落ち着いていて動かないアンディは、常に乗り手を成長させてくれました。(佐藤)

ブルーウィリアムズ (せん馬・馬場馬)

とても穏やかで大人しい馬でした。腸捻転の手術後に予後が悪く息を引き取りました。自分の現役時代、青学所属馬で唯一亡くなった馬でした。

クローネ、かえで (ともに牝馬・ポニー)

当時の高校生が練習で落馬しまくってたのを覚えています。



■ 馬術部で過ごした7年間

この度は、青山学院大学馬術部の創部 100 周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私は高等部入学の 2010 年から大学卒業の 2017 年まで7年間青学馬術部のお世話になりました。私の中でこの7年間はとても刺激的で濃い7年間なのですが、100年という年月を前にすると、なんだか一瞬の出来事のように感じて、馬術部の歴史の長さを改めて実感します。そして、あの7年間があるのも、100年前から現在に至るまで、多くの先輩方の弛まない努力の賜物であります。この場を借りて御礼申し上げます。

この7年を振り返るとここでは書ききれないほど色々なことがありました。

まず高等部時代を振り返ると、夏の練習が1番思い出に残っています。今はもう 10 キロ以上太ってしまいましたが、当時の私はヒョロヒョロで、それはもう体力はありませんでした。にもかかわらず、コーチにロングレッスンを依頼し、よくバテて洗い場でうずくまっていたことをよく覚えています。あの時に鍛えられていなかったら、今の私はありませんでした。

大学時代は高等部時代に比べて、部活に関わる時間が大幅に増え、濃密な4年間でした。始発の電車

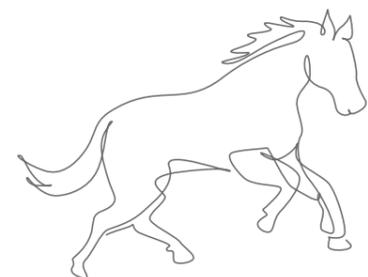
木場 雅也 (2017年卒)

に乗り、乗り換えを2回してバスに乗ってグラウンドに通っていたのですが、今考えると、よく4年間も続けられたなと思います。おかげで、朝にはめっぽう強くなり、ゴルフのために会社の先輩を朝迎えに行く時も、何の苦労もなく迎えに行くことができるようになりました。

肝心な馬術の方とは言う、様々な馬に乗る機会をいただき、大変貴重な経験をさせていただきました。特にベリー、カサンドラ、リヴェリオン、リスタイルには本当にお世話になりました。彼ら彼女らから教えてもらうことばかりでしたが、普通の人の中々見ることのできない景色を見ることができ、これは私の人生にとってかけがえのない財産となりました。

また、馬術部では主将も経験させていただきました。困難も多くありましたが、多くのOBOG、先輩、同期、後輩に指導をいただきながら、人として成長する機会をいただきました。この経験が今の社会人生活の糧になっており、たいいていのがあっても挫けずに前を向ける原動力にもなっています。

未筆ながら、青学馬術部の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



■ 4年間の思い出

馬術部 100 周年おめでとうございます。

私が在籍したのは4年間なので長い歴史の4%ですが、馬術部を支えることが出来た事を嬉しく思います。

私は 2019 年に馬術部を卒部し、早5年の年月が経っていることに文章を書きながら驚いております。

ただ、卒部後も大学院に通う学生の身分であったため、乗馬クラブ (アバロン) でバイトをしたり社会人になってからも乗馬クラブで騎乗するなど馬との関係は細々と続いております。

私の馬との出会いは中学生の時に偶然ネットで見つけた「みどりのマキバオー」でした。

おそらく、この出会いが無ければ馬術部には絶対入ってないので私を馬と結びつけてくれたとても大切な作品です。

そこから競馬に興味を持ち、高校生の時は部活を抜け出し東京競馬場に天皇賞を見に行った思い出があります。

そして馬術部がある大学に入ろうという気持ちは

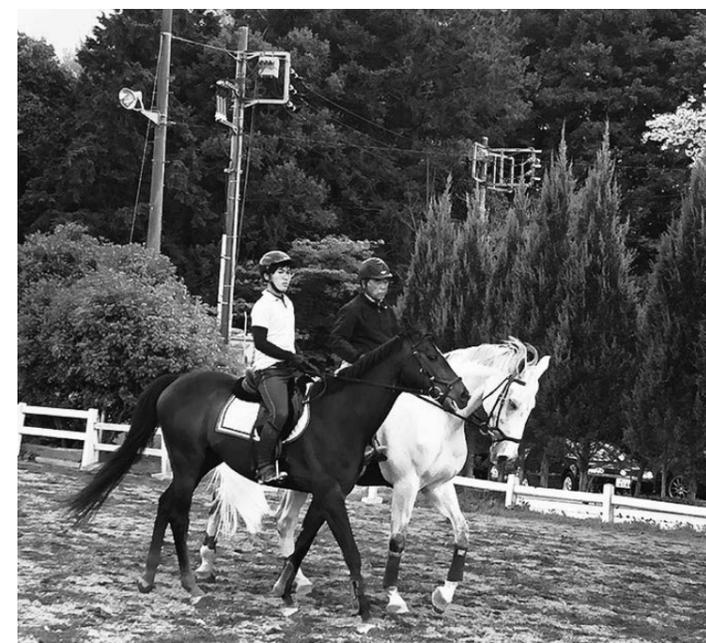
一箭 大貴 (2019年卒)

なくたまたま入った青学に馬術部があり、なおかつ活動拠点が町田にあるという二重の偶然が重なったこともあり、とんでもなく辛い部活でなければ最後まで続けようという考えで馬術部に入部する運びになりました。

実際に入部して右も左もわからない状態でのスタートでしたので、何が辛いかが判断することは出来ずにどんどん馬術にハマってしまいました。

在籍中は活動場所の移転、二年間の主将業務、首・腰の負傷など大変な出来事も多かったのですがなぜか本当に辞めたいという気持ちは出てきませんでした。そもそもそんなことを考えている余裕も無かったというのが振り返ると本音のような気がします。4年間では様々な経験をする事ができ、両親も含めて様々な人達のサポートが無ければ続けることが出来なかったと思います。この場合を借りて、私をサポートしてくれた方々に深く感謝申し上げます。

この先人生はまだまだ長いですが「馬との縁」を大切に生きていきたいと思っています。



アバロンヒルサイドファームにて武宮校長と。

■ たからもの

馬術部創立 100 周年誠にありがとうございます。この 100 周年の節目に会員として共にお祝いできますこと、大変光栄に思います。

さて、自身が卒業してからはや 5 年が経とうとしています。高校・大学合わせて 7 年間を過ごした馬術部での経験は間違いなく今も私という人間の根幹となっています。

馬術というスポーツに真剣に取り組んだこと、命を預かる責任の重さ、そして、仲間と時に衝突しながらも対話をやめなかった経験は社会人になってから改めてあの時経験しておいてよかった、とひしひしと感じております。また、私の仕事は始発で出勤する早朝のシフトがあるため、毎日 4 時に起きていた経験が思わぬところで役立ちました。



加藤 かわり (2019 年卒)

あれだけ何度も喧嘩をした同期と社会人になってからも定期的に集まっているのは、やはり長い時間苦楽を共にし、わかりあえる仲間だとお互いが思っているからです。現役の時はそれはそれは何度も喧嘩をして口をきかない日もあったのに、もう話したくない!と思う日もあったのに、今では仕事の愚痴を笑いながら話している。大人になるのも悪くないなと思います。

私たちの代は特に女子の気が強く、男子はそれに押され気味でしたがそれは今も変わりません。きっとこの先も変わらないと思います。

でも、今後お互いライフステージが変わっていても、集まればいつもと同じように話し続けられる、そんな仲は変わらないと信じています。

■ “憧れ”を“目標”にかえた 4 年間

私が学生馬術をやりたいと思ったのは、特別なきっかけがあるわけでもなく、ただ、馬事公苑でみた大学生たちがとてもかっこよく見えたから。いつの日か私もこの芝馬場で全日本学生に出るんだと心を躍らせながら、少年団時代を過ごしていました。

幼い頃から慣れ親しんだ大好きな青学にそのまま進学して、“青山学院大学馬術部”として出る試合は、憧れに少し近づけたような、なんとも言えない高揚感がありました。

子供の心とは純粋なもので、心動かされたもののためなら、なんでも頑張れる、そんな力をくれたのが馬術という存在だったと思います。

今思えば、高校生から見た大学生って、ほんの少ししか年が違わないのに、車を運転して、馬のことはなんでも自分たちでささっとやっていて、大変そうだけど充実していて、なんだか自立していて、かっこよく見えたんでしょう。

先にも書いた通り、私は少年団で馬を始めたわけですが、かつて密かに願っていた馬事公苑での全学出場は、オリンピックの改修工事のため、ひっそりと叶わずでした。(今思えばそりゃあんた出れないよと言われてしまうような実力でしたので、当時はショックもあまり感じませんでした。)

でも、その代わりに、と言うにはにはもったいなすぎる、3 年生のときには馬場も障害も全学にでられたこと、綺麗な三木の馬場でのウィングランの眺めはずっと忘れられない思い出です。

実は 2 年生に上がる時には、1 年後に競技馬が 0 頭になることが決まっていた、新しい馬の購入なんて考えられない会計状況でした。それでも、“どうしても全学にでたい”という無謀な願望にあわせるかのように出会えた馬と周りの方に、私は本当に恵まれたと心底思っています。

卒部して丸 4 年が経ち、私にとって 2023 年は青学馬術部 100 周年と、東京オリンピック後に馬事公苑

北垣 果林 (2019 年卒)

が改築されて再オープンした特別な年になりました。

全力疾走で走り続けてきた馬術生活も大学卒業を機にがらっとペースダウンしてしまいましたが、これからはお世話になった馬と皆さまに恩返しができるよう、私ができることを少しずつできたらと思っています。

最後に現役部員へ、馬術部の大変さって内輪ネタな部分もあるけれど、私は今でもそれでお酒が飲めるくらいには波瀾万丈な 4 年間を過ごせたと思っています。若い時にやっておきたいことは、中途半端ではなく、とことん打ち込んだ方がいいと私は思っていて、皆さんにとってそれが馬術部生活であったらいいなと思っています!馬と同期は大切にね!



■馬術部の思い出

林 由佳 (2019年卒)

高校三年間と、大学四年間、合計七年間。通称ウマ娘として、馬術部の活動に勤しんできました。癡猛さとたくましさを具現化したような同期たちからは反面教師もさながら、たくさんの貴重な教を賜りました。この教えは鉄の掟として、今も社会人6年目となった林の心に刻み込まれており、片時も忘れたことはありません。

そして、生意気な太々しい当時学生だった私を、暖かくそして優しく導いてくださったコーチ、監督方々には今でも頭が上がりません。

そしてどんな辛い時も、肯定も否定もせず見つめてくれた、勇敢で素晴らしい青学の馬たち！素敵なお向きの馬たち！馬に乗ることの喜びは、私の人生プランに劇的な変化を与えたはずです。

癡猛な同期たちとは今でもその縁は切れることなく、顔を合わせる機会も多く、今でもよくご飯を食べに行きます。

そして、緑鞍会の名簿係として、卒業生の方々と関わらせていただく機会も得ることができました。細々とですが、社会人になった今も乗馬クラブと、会社の馬術部で活動をしています。

もし高校生の時、馬術部の門を叩いていなければ…もしかすると大学でイケメンの彼氏をゲットして今頃結婚していたかもしれません…

全く後悔はございません。いいのです。人間は一人でも生きてゆけますから…



■大切な、大切な思い出

常 真里花 (2021年卒)

馬術部は私にとっての憩いの場でした。そして今でも当時を振り返って、戻りたいと何度も思ってしまうような、そんな時間を過ごしました。

高等部に入學して、何気なく行った体験乗馬会。先輩方の騎乗姿、そして可愛い馬たちに心奪われました。片道2時間かけても「馬に会いたい！」と毎週末町田馬場に通い、気付けば大学でも入部してました。

アバロンへの移転や、町田馬場への帰還、コロナ禍での運営。コンテナで隠れてティラミスを食べたこと。当番で夕飯作りをしたこと。クラブハウスでの隠れんぼ。交換日記。アローが放馬してサンシャイン裏まで草を食べに行っちゃったこと。パフとのお散歩。ドンちゃんとの口論。楽しかったことも、理不尽なことも、諦めなければいけないことも。本当に沢山のことを経験しました。中でも一番の思い出は、北垣果林さんとチェセントに連れて行って頂いた全日本学生です。憧れの先輩と二人ぼっちではるばる三木まで。ウィ

ニングランしてる姿は今でも鮮明に覚えています。かっこよかったなー。

気付けば同期もいなくなり、私一人になってしまいましたが、親身に相談に乗ってくださる先輩方、いつでも調子の良い後輩たち。どんな時も寄り添ってくれる可愛くてユーモア溢れる馬たちと、少し生意気？なポニー（パフ）に癒され、乗り越えることができました。春には桜を見ながら馬に揺られ、お花見をし。夏には水浴びをして、スイカを食べ。秋は、心地の良い風を感じながら、お散歩をし。冬には手の感覚を失いながら必死に元気な馬に乗り、馬の温もりを感じ。そんな素敵なひとときを、大好きな馬たちと部員たちと過ごせたことが何よりの宝物です。

私を含め、多くの部員たちの思い出が詰まった大好きな場所（町田馬場）で、現役学生には沢山の楽しい（時にはしんどい？）思い出をこれからも作ってほしいと思います！



■ にんげんの観察につき by あり

結城 健人 (2022年卒)

ぼくは、23歳の食べるのがだーいすきな馬です。りんごがだーいすき。人間もだーいすき。

ぼくは、馬だけど、友達は馬より人間の方が多い、馬見知りな馬なんだ。そんなぼくから見た、にんげんの観察につきを書かせてもらいます。

ぼくが青山学院にいたのは2018年から2022年の4年間だけだけど、たくさんの人間のお友達ができました。それまで海外とか、個人のオーナーさんのものにいたから、たくさんの人に囲まれることはほとんどなかったんだ。だから、たくさんの人とお友達になれて嬉しかったです。部活のみーんな仲が良くて、人間と一緒にいれるだけでハッピーな気分になりました。みんな、おリンゴとふすま湯をたくさんくれるし。

とくに、ぼくの大親友の結城さんの代は、みんな仲が良さそうで羨ましいなあ。何も食べ物をくれた記憶はないけど、親分気質の宮地さん。ベリーちゃんの

残飯を押し付けてくるけど、人間的な包容力のあるこびやまさん。りんごの皮しかくれないけど、クールでかわいい統率役の平岡さん。みんなでいいバランスを取りながら部活をしているのを見て、楽しかったなあ。卒部しても、みんなと、ぼくに会うために旅行しに来たり、一生ものの仲間ってああいうことを指すんだねえ。ぼくも、あの代を見て、馬見知りを治そうと、ちっちゃい白いポニーとおっきい茶色い馬と仲良くしようとしてたんだ。

でもみんなのことが心配だなあ。

卒部してから、みんなぼくのお尻にハグしに来てくれるんだ。部活をやっていたときは、クサいって言って近寄らなかったのに。社会人ってそんなに大変なのかなあ。

まあ、いつでもお尻は空いてるから困ったら御殿場においで。お尻をながーくして待ってます。



■ 馬術部を振り返って

小檜山 直弥 (2022年卒)

4年間の思い出は色々あります。パッと思い出されるのは当番だったり、レクなどのイベントだったり、みんなで集まってわちゃわちゃ遊んだことです。春は小野路公園に桜を見に行ってみたり、夏はスイカ割りや散水用ホースで水遊びしてみたり、馬術部の活動を通して同期や先輩、後輩と沢山のことを見たり、やったりしました。大変だったことも多かったけど、そういう非日常的な体験ができたのはすごく楽しかったと思います。

また、私が在部中は未経験者がほとんどで大学までやっていたスポーツや活動はバラバラ。1つの物事に対して各々がベクトルの異なる考え方や価値観を持っていることも多く、それ故に意見のぶつかり合いや折衝も結構ありました。でも、これまで会ったこと

のないタイプの人と一緒に時間を過ごすことで「ああ、こういう考え方をしてるのね」と人間の多様性みたいな部分を実感できたと思います。

社会人になって馬術部に対して思うことは、「よくあんな忙しい生活を数年続けたな」ということです(笑)。ほぼ始発みたいな電車に乗って厩舎に行き、馬に乗って、急いで手入れして、休む間もなくキャンパス行って講義受けて、終わったら飲食のバイト行って夜まで働いて、帰宅したら寝支度を高速で終わらせて寝て(最初に戻る)・・・みたいな生活が数年ありました。金なし、時間なし、心の余裕なし。社会人になってこれからも沢山の辛い時期に遭遇すると思いますが、在部中の忙しさに比べたらまだマシだと思えます。



■ 思い出の関東学生

4年間で特に思い出に残っている出来事は、3年次と4年次に出場した、関東学生馬場馬術競技大会だ。

3年次では、ベテランホースのブルーフォセッタ号とコンビを組んだ。大学に入るまで、部班や障害しかやってこなかった私に、フォセッタは一から馬場馬術を教えてくれた。初めての太鞍に、初めてのハーフパス、ピルエット、フライングチェンジ…不慣れな指示にも応えてくれたおかげで、馬場馬術の楽しさを知った。

コロナ禍真っ只中で、本来6月に行われる予定だった試合が延期され、真夏の開催となった。熱中症対策や感染予防対策など、手探り状態で試合に臨んだ。選手として早朝に馬の運動を終えると、使役として働きながら、1時間に一回馬の様子を見に行き、休みなく動き回った。

たくさんの制限があったが、久しぶりの試合に、久しぶりに会う友達、初めてのS1課目、山梨の美味しいごはん…外出自粛が続く中、たくさんの協力があった出場できた関東学生は、間違いなく1番の夏の思い出だ。



平岡 茉莉 (2022年卒)

4年次では、元大障害馬のブルーシェヴィニオン号とコンビを組んだ。青学に来たばかりのときは心を開いてくれず、無口を付けるにも一苦労していたが、愛情を込めて世話していく内に、だんだん心を許してくれるようになっていった。

とても大きな体のシェヴィを乗りこなすのは難しくも楽しい毎日だった。全日本学生出場を目指し練習に励み、マッサージや曳馬など馬のケアにも力を注いだ。

大きなミスなく競技を終えたが、0.04点差で補欠の1番となり、僅かに手が届かず悔しい結果となった。今でも悔しいが、一生懸命打ち込める経験ができたことは、人生の財産である。

社会人になって、当時は辛いことばかりに思えた部活も、戻りたいと思うくらい、充実した日々だったと感じる。ほぼ毎日世話していた馬たちは、家族や親友のような存在だ。もうみんな青学からはいなくなってしまったけれど、フォセッタやシェヴィニオンはもちろん、青学馬術部で出会った馬たちみんな、生まれ変わってもまた巡り合いたい。

■ 私の同期紹介

同期、ひいては馬術部きってのムードメーカーである大野花穂さんについて紹介します。

彼女は先輩・同期から「大ちゃん」と呼ばれていますが、このニックネームは有名なアイドルグループのメンバーが由来しているそうです。そのイメージ通り、アートの才能に優れ、皆から愛されるキャラクターで、個性が強く時にバラバラになりかける部員をまとめ、調和してくれます。日々の活動の中では、時にもどかしいことや感情を抑えられない場面もありますが、彼女を前にすると、みな邪悪な感情がふわっと沈められてしまう、そんな特殊能力の持ち主でもあります。明るくみんなを楽しませてくれるキャラクターに、救われた部員も少なくないはずですよ。

また広報や風紀委員として部に貢献する傍ら、持ち前の才能を生かし、コロナ禍を機に始まった交換日記に、日々の活動のクスッと笑える一コマを綴ったエッセイや、部員や馬たちの特徴を的確に捉えたイラストを投稿し人気を博していました。

続いては、令和5年卒の男性陣2名について紹介します。

彼らはディズニー映画「トイストーリー」に登場するウッディとバズ・ライトイヤーのようなライバルで

浦城 采佳 (2023年卒)

あり盟友です。

まず紹介するのは馬術部創部100年目にバトンを繋ぐ、重要な主将を務めあげた、昨年度の主将「青山侑史」さんです。彼は大学から馬術を始めたのですが、ウッディのような長い手足を活かしてどんな馬も乗りこなすライダーです。主将を務める前には、モノや施設の修理や製作を一手に請負っていた馬術部のメカ担当でもあります。皆を楽しませようと、クリスマス前には朝早くに馬場へ向かい自前のクリスマスツリーとイルミネーションの飾りつけをするなど、憎めないキャラクターです。

続いて紹介するのは、長身に一時期長髪だった髪型に加え、一年を通じて半袖で活動していることから一見近寄りたいたいオーラをまとった「島村健斗」さんです。その見た目とは裏腹に、一度話すと、どんなことにも全力で、仲間である部員に対し義理堅い人物であることがわかります。まさにバズ・ライトイヤーのような包容力にあふれるキャラクターです。

そんな彼らは共に理工学部出身で馬術部卒業から一年がたった現在は、なんと同じ研究室に所属しているそうです。彼らの今後の研究にご期待ください!



大野さんとハート君



青山君におぶさる島村君



筆者

■ 馬術部が私にくれたもの

私は大学4年間を青山学院大学体育会馬術部の部員として過ごせたことを誇りに思います。青山学院大学体育会馬術部には寝泊まりしながら愛馬の世話をするという部の性質からか、部員間に「家族のような絆」があります。共に練習や作業に励んだ同期、先輩、後輩はもちろん、世代を超えた先輩や現役との絆も強いことを卒部して改めて実感しています。そして、そのような家族同様の仲間に出会えたことに私は感謝をしています。

私は高校生のころは軽音楽部に所属していたため、青山学院大学に入学が決まった時は音楽系の団体に入ろうと考えていました。しかし、入りたいと考えていた団体はどれも陽気な人たち（いわゆる陽キャ）であふれていて、入部を迷っていました。そのとき、学科で知り合った友人から馬術部の体験乗馬に誘われて、当時の活動場所であったアバロンヒルサイドファーム様に行ったところ、馬たちがとても可愛く、先輩方もハキハキしていて規律正しく、優しい印象だったので入部を希望しました。1年生のころは何もかもが初めてで、馬体の部位や、作業の手順、手入れのやり方など覚えることがいっぱいでした。私は早起きが苦手な最初のころはよく遅刻をしていたので、先輩からのイメージは悪かったように思います。今までの生活リズムが違いすぎて途中でくじけそうになったことも何度かありました。ですが、そんな自分にも先輩方は一生懸命教えてくださったので、めげずに自分を奮い立たせることが出来ました。2、3年生になると少し余裕を持つことが出来るようになり、周りを見渡せるようになりましたが、様々なことに責任が伴うようになり、より部員としての意識が強まりました。私は関東学生馬術連盟の学生幹事も務めました。他大学の部員との交流を通して、学年性別

問わず仲がよいなどの青山学院大学の良さを認識しました。2020年からの新型コロナウイルスの影響で今まで通りの活動が出来なくなった時、当時監督の柏木さん、副監督の夏目さん、コーチの橋本さんの的確な判断と対策、OB、OGの厚いご支援によって乗り切ることが出来ました。4年生になり主将を務め、それまで以上に先輩方との関わりも増え、どのように先輩方が応援や支援をしてくださっているのか、金銭面や運営面など様々な角度から部を知ることが出来ました。卒部し、部を応援する側になってからは、自分の時間を割いて時間を作り、現役と関わって下さっている先輩方の偉大さを感じ、改めて尊敬をしています。

馬術部での思い出は人それぞれで、良い思い出、悪い思い出など、様々なエピソードがあると思います。ですが、馬が大好きだということは何の人も同じく共通していることです。だからこそ世代を超えた関わり合いが続くのだと思います。私は4年間を馬術部で過ごし、大きく成長できたと感じています。馬術部に入ってよかったなと強く思っています。4年間を支えてくださった先輩方のように、私も青山学院大学体育会馬術部OBとしていつまでも馬術部を応援していきたいと思っています。

青山 侑史 (2023年卒)



■ 自慢の同期、その名は明日香

令和4年度卒の斉藤夕菜です。私は同期の中村明日香さん（以下、あすか）をご紹介します！

あすかはとにかくゴージャスかつパワフルな人です。

あすかは高等部の馬術部出身ですが、重度の馬アレルギー持ちで、参加頻度を減らさなければならず、強い向上心のある彼女は大きな葛藤を抱えていたことでしょう…。しかし、持ち前のポジティブさとパワーで最後は逆境を跳ね除けて引退試合の馬場馬術競技では自己ベストを更新しました！

部活では、ビシバシと愛の鞭で後輩、同期（時には先輩にも!?) に程よい緊張感を与えつつも、厳しい合宿ではみんなが少しでも頑張れるようにクレ-

プ作りを企画してくれたり、おいしいものを差し入れてくれたりムードメーカー的なポジションで、慕う部員も多かったはず！

また、プライベートでは非常に多趣味なことで知られ、様々なコミュニティの会合に参加するために日本各地に出没したり、男勝りな性格とは裏腹に繊細なバイオリンを奏でるとか…

大学馬術部に入部したのは、一度はオーケストラ部に入部したものの大勢の前で弾く練習がどうしても嫌だったのと、馬術部を離れてから毎日夢に怖い先輩と馬が出てくるようになったので、私には馬しかないと決心して入部し直したとか。

ディープ過ぎる彼女の魅力は語りきれませんが、ぜひ皆様に会って頂きたい自慢の同期です。

斉藤 夕菜 (2023年卒)



筆者 山梨馬術競技場にて

■ 祝辞 ～ハートくんへの愛を添えて～

「いななき」復刊おめでとうございます。

私は同人誌編集などに興味があるので、もし定期的に本冊子が刊行されるなら、できる範囲でお力添えしたいです。

そのような願望は置いておいて、自己紹介をします。

私が最も好きな馬は、ブルーハートです。あんなに可愛い馬に引き合わせてくださった伊納さんには感謝してもし足りません。

また、以前ハートに会いに名古屋まで行った際は、伊納さんや学生の方々が大変良くしてくださって本当に楽しかったです。

車の免許を未だに所持していないのでなかなかハードルが高いのですが、名古屋の皆様のご都合が良いときにまた会いに行きたいです。

そして、私という存在を語るために避けて通れない存在というものはハート以外にもいます。それは同期の浦城です。浦城のその律儀で親しみやすい、か



大野 花穂 (2023 年卒)

つ妙な味わいのある人柄については、彼女自身の担当ページを読んで存分に堪能していただきたいため、ここではあえて言葉を尽くしません。

1つ言えるのは、泊まり当番のペアが彼女で本当に良かったということです。普段、黙々と粛々と部活動に従事する彼女からは想像もつかないマシンガントークが始まる自由時間はいつも腹がよじれるほど笑わせてもらっていました。かと思えば当番作業が始まれば黙々粛々モードになり、そのメリハリが本当に頼もしいことこの上なかったです。

大きなトラブルもなく、そして楽しく毎週の泊まり当番ができたことを今でも感謝しているので、この場を借りて表明させていただきました。

最後になりますが、私はこういう自己紹介文など書く時は大抵イラストなどを添えて規定の文字数をごまかすので、次回以降もしお声がかかることがあればイラストコーナーか何か作りたくたいです。



ハート君 作:筆者

■ 自慢の同期、その名は夕菜

中村 明日香 (2023 年卒)

令和4年卒業の中村明日香です。今回は他己紹介として、同学年の中でも一番華やかで努力家、最強の二面性を併せ持つ、斉藤夕菜を紹介します！

先輩後輩問わず、下の名前の「ゆうな」ちゃんと呼ばれている。

彼女の魅力はなんといっても「二面性」。

一つ目の性質は「華やか」。性格は華やかでいて親しみやすく、社交性ははなまる、全日本幹事も勤めていた。部活中も後も、ゆうなちゃんの周りには人だかりができて、いつも笑顔が溢れていた。また、青学馬術部のファッションガール的な彼女。華やかなお顔とスラッとしたスタイル、そして色鮮やかでラインストーンの入った乗馬用ウェア。まさに可憐、彼女以

上に乗馬ウェアが似合う人はいないだろう。練習が終わるとウェアのカタログを眺める姿はお決まりの光景だった。

二つ目の性質は「馬への情熱」。4年間を通して、ほとんど毎日参加を貫き通した。どんなに辛い練習や地道な作業にも耐え、4年間関東大会S1課目出場の夢に向かってひたすら突き進む姿は、皆の尊敬の眼差しが向けられた。好きな馬は、レナちゃん。練習終わりにブラシをかけたり、お尻に抱きついている姿が印象的だ。レナちゃんもゆうなちゃんが好きで、鼻でスリスリ、相思相愛でベッタリだった。

華やかでいて最強の努力家、二面性を併せ持つ彼女は、自慢のチームメイトだ。



■ あなたはなぜ馬術部へ？ちなみに私は…

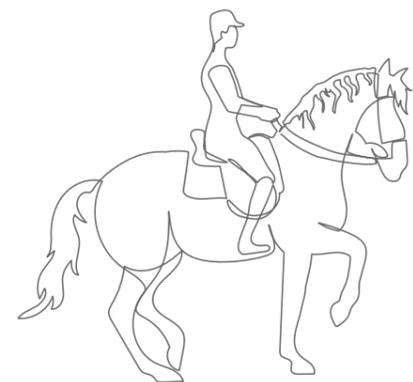
島村 健斗 (2023年卒)

有難いことに、2023年9月に馬術部創部百周年の式典に参加させていただきました。先人達が百年もの間、私と同じように馬術部で活動していたと思うと感慨深いものがあります。今となっては、彼らがどんな想いで馬術部にいたのかが気になる次第です。百年前の学生は何を思って馬術部に入ったのでしょうか。

私は令和元年の2019年に馬術部に入学しました。ここでは、その経緯を書きたいと思います。大学では何か1つのことをやり抜いて自信を持てるようになりたいと考えていました。そこで体育会の部活動に入る

うと思い、幾つかのクラブを見学しました。その中で、特に馬術部に魅力を感じました。馬術部は、雰囲気がとても良く、部員の方々が生き生きしていました。「この人達となら、4年間頑張ることができる！」と確信し、入部を決めました。

現役の学生さんも、これから馬術部に入る未来の学生さんも、何らかの目標があって馬術部に来たのだと思います。皆さんがそれぞれ目標を達成できる事を勝手ながら祈っています。ガンバレ青学馬術部。



網島馬場

Tsunashima



現役より100周年に寄せて *Message from Current Students*

私たち現役は現在4年生2名、3年生3名、2年生10名、1年生10名の計25名で活動しています。ここ2年で多くの部員が入部し大所帯となりました。コロナ渦という大きな困難を乗り越え、ともにこの記念すべき100周年を迎えることができたことを部員一同大変嬉しく思います。(2023年現在)

4年

山田 里奈 (主将・主務・広報・高等部コーチ)



馬術部創部100周年、誠におめでとうございます。このような記念すべき年に主将を務めることができ、大変光栄に思います。

私は祖父母(堅村昭三、美恵子)が青学馬術部出身で出会って結婚した、馬術部チルドレンです。しかし、恥を忍んで申し上げますと、高等部の時に馬術部に入ろうと決意したのは、唯一土日参加で、ランニングと筋トレがないから、という怠惰な動機でした。入部した時は工事の関係でアバロンヒルサイドファーム様に間借りをしている時

で、部活動の大半はハウキで掃き掃除をしているか、色々と頼まれた雑用業務だった気がします。そんな活動から逃れたい一心だった私は、アバロンの屋外馬場の隣の屋外トイレで2時間籠り、掃き掃除が終わった頃に戻ったりしていました。そして、活動が終わるとコンテナに大学生とぎゅうぎゅうになって休みとも言えない休みを取って、それぞれ帰路についていました。想像とは少し違った大変さの馬術部でしたが、今までの部活で経験したことのないくらい暖かく、変わった人が多く、大学生もコーチも優しくったのを理由に何となく続けていました。そんな何となくの私ですが、ご厚意で、高校生自馬大会にブルーベリー号で部班に2度ほど出場させて頂き、まさかの先頭くじを引いた時には、何度も輪乗りを描いて手前が変えられず、外から夏目香織コーチに「里奈ちゃん!手前が変わってないよー!!!」と叫ばれた苦い思い出もあります。

私と金子(同期:金子亜里紗)の代は大学に入ると同時にコロナが一斉に蔓延し、外出すら困難な日々が続きました。そんな中でしたが、体験入部に伺って、やっぱりなんだか居心地が良い気がするなと思い、入部しました。高等部の頃を知ってる金子や先輩方には絶対入らないと思っていたとよく言われました。入部後は、ふすまとオガを間違えてオガ湯を作ってあげようとしていたり、号令の意味や手前が分からずに付きっきりで指導してもらったり、家族が見学に来た時に限って落馬したり、とにかくしっちゃかめっちゃかでしたが、先輩と夏目コーチが優しく色々なことを丁寧に教えて下さったお陰で、徐々に馴染む事も馬の手入れや馬装も1人で出来るようになりました。そうこうしている内に、1人抜け2人抜け2人入って2人抜け、3年生になって金子と2人だけの学年になりました。金子とは、高等部時代特別仲が良かった訳ではありませんでしたが、それぞれの愛馬の尻尾を綺麗にしたり、2人の当番の時には馬のマッサージや肢巻の巻き方を練習したり、キャラメルブルーパフ号を連れてお散歩に出かけたりしていく内にどんどん仲良くなって、色々なことを話し合える仲になりました。沢山話していく内に自分達がどんな部活動にしていきたいかという目標指針が定まり、昨年度はプライベートの時間も投げ打って何度も2人で話し合い、下級生や高校生がどうやってら沢山入るか、楽しめるか、上級生がもっと上達するためには何が出来るか、皆を合宿に連れて行けるか、

試合に出してあげられるか、馬が幸せで健康でいられるか、など本当に沢山の事を学校でも馬場でも車内でも考えていました。イレギュラーな問題も数多くありましたが、その度に金子と話し合い多くの方のお支えの下なんとか今日まで部員も馬も無事に過ごすことが出来たと思います。

人とのつながりだけではなく、かけがえのない馬との時間も育むことが出来ました。特にグリーンフィールドET池田様より貸与いただいたポニー、キャラメルブルーパフ号は小柄の月毛で天使のような見た目とは裏腹に、かなり気難しくて頑固なとてもかわいい馬で、思い入れが深いです。馬という動物がいかに個性的で可愛らしいか、忍耐強い気持ちで接することの大切さ、初心を思い出すことの大切さを教えてくれました。日に日に心を開いてくれる姿がとてつもなく愛らしくて、今思えばパフのお陰で馬を本当に好きになることが出来たような気がします。

そして、地方競馬を引退してすぐに3歳で入厩してきたふわふわの黒鹿毛のブルーバロール号は、1年半をかけて私をライダーとして、馬に関わる人として大きく成長させてくれました。彼もかわいい見た目と不思議な考えを持った馬で、ふすま湯に耳まで浸かってはぶくぶく鼻から泡を出すのを楽しんでみたり、体を限界まで小さくしてサンシャインの柵から首を伸ばし外の草を食べようとしていたり、でも、騎乗中は人の言うことに一生懸命答えてくれるとにかく自由で素直な、時に素直すぎる、大きい子供のような馬でした。入厩直後に脱臼するというアクシデントもありましたが無事に回復し、今年無事に試合デビューも果たし、初めての障害の試合にも連れて行ってくれました。初めてバロールと試合会場に行った時には、馬場を踏んでいる最中でもブヒブヒと鳴いて側対歩になってしまい、ジャッジペーパーには可愛らしい馬ですね、とのコメントも頂いてしまうくらいの緊張具合でしたが、なんとか無事に学生戦に出場することも叶いました。2頭ともまだ若く、子守のような気持ちで接することが多かったですが、毎日色々な変化のある馬を未熟なホースマンである私が担当させてもらえることがとても誇りで本当に嬉しい気持ちいっぱい日々の活動をすごさせて頂きました。この二頭以外にも私に関わってくれた馬たちにも深い感謝を伝えたいです。

.....
 我らが頼れる主将であられるピーチ先輩こと山田里奈先輩はベイビーバロールの世話をする傍ら、部員の世話も華麗にこなします。持ち前の明るさとトーク力でラグビー部との青スポ合同取材を成し遂げました!馬と人のどちらからも愛されるピーチ先輩についていきます!
 (2年中谷・著)

金子 亜里紗 (副将・会計・馬匹・高等部コーチ)

“部活におけるモチベーションは何か”という問いがあった時、馬術部ほど十人十色な回答が返ってくる部活はないだろう。日々の練習や試合などいかにも体育会らしい部分をモチベーションとしている部員もいれば、同期と話すことや当番でわいわい夜ご飯を食べる時など活動と直接関係ない部分をモチベーションとする部員もいる。他の部活に比べて一緒にいる時間が長く、他の部活には無い生き物の世話が活動に含まれることで、部活ではこうあるべき、という正解が無いのが馬術部の魅力なのかもしれない。



最初の問いにおいて私は前者であり、馬術部に入って7年たった今でも馬に乗っているだけで楽しいと思えるタイプである。中でも試合は自身の成長を感じられるため、特段モチベーションとなる。試合に向けて自分の不安材料を取り除くにはどうしたらいいのかを考え、準備万端な状態で試合を迎えるという単純だが難しい過程に負けず嫌いという自分の性格が合わさり、また楽しさを感じるのだろう。

少し話が逸れるが、試合において自分のモットーのようなものがある。それは“楽しむこと”だ。とある漫画で、舞台は今まで練習を頑張ってきた自分へのご褒美という話を読んでから、それまで練習に付き合い助けてくれた馬へ恩返しできるように、まずは自分が楽しんで演技をしようと考えようになった。都合の良い解釈かもしれないが、試合で自分のできうる1番の演技をすることが自分にとって馬に対する恩返しであり、楽しんで終わることが馬への感謝だと思っている。今年出場させていただいた関東大会では演技が終わった瞬間に自然と笑顔になっており、技術面以外でも自分の成長を感じることができた。

部活におけるモチベーションに話を戻すが、各々が自分なりの楽しさを見つけそれを理解し合いながら部として成長している魅力的な馬術部が、今後100年と言わず、何百年、何千年と続いていくことを願うばかりである。

もくもくと作業をする私たちのエースはまさに超人です。華麗に馬場の技を決める実力もさることながら日々の馬のケアも欠かさず周りへの指示も的確。さらにはユーモアのセンスも抜群。パーフェクトすぎる金子さん頼りの部員たちは何かに困ったらどんなことであっても「まず金子さんに聞こう」とすぐ相談します。嫌な顔一つせずに丁寧に指示を出してくださる先輩に私たちは頭が上がりません。(2年山口・著)

3年

池谷 美咲 (会計・獣医・馬匹・全日本幹事)



馬術部に所属していると言えば大体驚かれるし、存在自体知らない人も多い。現在、学馬連には北海道から九州まで、80弱の大学馬術部が加盟している。それだけたくさんの学生が、馬たちと活動しているのだ。入部した当初、「馬術部は自分たちで乗馬クラブを運営するようなもの」と言われたのを覚えている。周りが見えるようになってきて、こんなことやあんなことも、全部学生がやっているのだと気付く。乾草が無くなりそうだと飼料を発注するのも、獣医に診察を頼むのも。

会計の私も、締め作業をしたり、助成金の申請書を作成したりしている。この部活に入っていなかったら、会計報告書を書くことも無かっただろう。もちろん、馬術部が100周年を迎えられるのは、大学の協力やOBOGの方々の支援があつてのことである。しかしながら、こんなにも学生の見えない努力で成り立っている部活は、他にはないのではないのか。乗り手として、部員として、学生幹事として、馬に乗るだけではないこと、学生馬術の意義をひしひしと感じる日々である。

青学馬術部の可愛がられ担当、池谷美咲を紹介します。馬術経験者の彼女は、色々な国で生活してきた帰国子女です。この間、インドで馬に乗っている写真を見せてもらいました。カッコイイ。一見マイペースな彼女ですが、とつても頑張り屋さんです。定期的にクラブハウスの床に落ちこちている(力尽きています)のが発見されるので、おいしいご飯に連れて行ってあげましょう。ニコニコ元気になってくれるはずです。映画でも可だと思えます。(3年今村・著)

今村 優花 (主務・広報)

馬術という未知の世界への期待を胸に、明け方の電車でゆられた春から早三年。今ではかけがえのない仲間たちと、愛おしい馬たちに囲まれて充実した日々を過ごしています……と、言いたいところなのですが、1つ苦勞していることがある。それは自宅と馬場があまりにも離れていることだ。



私の自宅から馬場までは片道2時間半かかる。距離にして約55km。この機会に、今までの総移動距離を計算してみることにした。結果はなんと、51,618km!地球を一周(約4万km)しても御釣りが来る。どうりで大変なわけだ…。

と、苦勞自慢をしたのは、それでも通い続けられている理由を皆様に紹介したいからである。その理由は、ナポレオン・ブルー。青学馬術部のけなげな練習馬。栗毛でギョロ目の白靴下くん。一年生の夏にやってきた小麦色の天使に、私の心は奪われてしまった。馬術の楽しさや、馬との関わり方はナポレオンが教えてくれた。私の密かな夢はおじいちゃんになったナポレオンと一緒にスローライフを送ることである。きっと叶いますように。

今村先輩はとても動物好きな優しい先輩です。他の先輩によれば、担当馬のナポレオンのことが大好きらしいです。入部したての頃作業や手入れのやり方を教えていただきました。活動曜日があまり被らないためか会う度に髪が変化していて驚きます。活動のために遠くから来ているらしくとても尊敬しています。(1年山下・著)

村上 大和 (車両・防災・施設)

私が馬術部に所属して3年目になりました。正確には高等部時代から続けていたので今年で6年目になります。私が高校一年生のときに優しくしてくださっていた方々はもうご卒業されていなくなってしまう、馬に乗る楽しさをその背中で教えてくれた馬たちもまた、いなくなってしまうました。私たちにとって馬は単なる愛玩動物ではなく、限られた日数と予算の中で競技や練習を一緒にするパートナーです。私を乗せて一生懸命に走ってくれていた馬たちの老いていく姿を受け止め、お世話をして最期を看取るという恩返しができないというのが大変心苦しいと感じたことは何度もあ



ります。私たちは馬たちがその生の中で輝ける期間だけを切り取り一緒に過ごしています。馬術部での人間関係そして馬との関係は一期一会で、別れてしまえばもう会うことのできないこともしばしばあり、またその別れは突然訪れることもあります。目まぐるしく状況が変わり、忙しい日々の中で忘れてしまうことも多いですが、今の自分を支えてくれている周りの人、私たちを乗せてくれる馬たちへの感謝を忘れたくはないものです。今度は自分が新しく入ってきた高校生、大学1年生に馬に乗る楽しさ、命を預かる責任を伝えていかなければなりません。ご卒業されていった先輩方の背中はずっと、到底追いつくことはできませんが、私にしかできない何かがあると信じて日々、精進していきたいと思えます。

馬術部の筋肉担当、村上大和先輩の紹介をします。

彼は毎日忙しく生きているだけでなく、周囲へ目を配ってくれる強靱な体力と仏様のような優しさを兼ね揃えています。平日忙しい理工学部の授業と部活動の両立に勤めているだけでなく、週末は競馬場とポニー公園のバイトを頑張っています。さらに、衝撃の事実が鶴川の馬場から代々木公園近くにあるポニー公園のバイト先まで、自転車で通っていることです。私にとっては本当に信じられません。これからも強く、時には休憩を挟みながら頑張る生きてほしいです！

(2年石原・著)

2年

石原 ほのか (広報・関東幹事)



高校生の頃、大学生は時間に余裕があり、学校へ行く時間が少なく、好きなことに割ける時間が多い印象を持っていました。いざ進学し入部すると、予想以上の授業時間と経験したことのない生活リズムで最初は1週間やり切るのが精一杯でした。予想とは違う生活だったものの、1年半過ごしてみて得られた物も予想外かつ想像以上だったと実感しています。

まず部活に対するモチベーションが騎乗する楽しみだけでなく、部員や馬に会うことになるほど、素敵な方々と出会えたことです。それぞれ部活、学校、バイトなどを両立しながらも共通の馬術部員として活動する姿から、私も頑張ろうと動機付けてくれます。大学時代を説明する上で本当に欠かせない存在です。また関東幹事のお仕事をやらせていただく中で一緒に競技会の運営に携わった他校の馬術部員とも知り合うことができました。大学が違って、朝早くから部活も学校も頑張っている姿を想像すると、ここもまた私にとっての原動力であることに気づきました。

これはほんの一例ですが、馬術部員だからこそ得られるものが多く、とても濃い大学生活を送らせていただいています。残りの2年半も、想像できない新たな試練への経験に胸を膨らませ1日1日を丁寧に過ごしていきたいです。

いつもここにこして、周りを和ませてくれる癒し担当の後輩。一方ストイックで、もっと上手に乗るために日々

模索している。この間は、「ルシファーで駈歩が出せました！」と嬉しそうに報告をくれた。また関東幹事としても、1年の時から他大の先輩や大人たちと、数々の試合で仕事をこなしてきた。岡山から一人上京し、部活と大学と日々努力している姿を見守ってきた。これからも皆と切磋琢磨し、素敵で頼もしい大人になって欲しいと願う。(3年池谷・著)

内田 峻太 (主務・全日本幹事)

日々を過ごすなかで馬術部がいかに特殊かということを知らされている。6時前どころか7時に起きるのも厳しかった高校生時代はもはや遠い昔の話。馬場では6時には活動が始まるので実際はもっと早く起きる生活になってしまった。ただ目覚まし時計に起こされるのではない。無意識に5時には目が覚める体になってしまったのだ。のそのそと動き出すのも束の間、愛馬たちに草をやり広い馬場に散水出来るようになったのだ。馬を中心にする考え方も身につけてしまった。



気付かぬうちに頭の中で愛馬たちに行動を見られている気がするのだ。もし急に雨が降り出すような事があれば自分の傘の心配よりも先にサンシャインパドックが開放されたままかどうかが気になるし、人の後ろを通るようなことがあるときは何故か蹴られる心配をしてみたりする。今は部内で主務とボロおが飼料、さらに全日本幹事と役職を兼務しているが学生時代にしかできない貴重な経験であると信じて邁進していきたい。

馬術部のアイドル、内田峻太を紹介します。入部してから1年が経過しましたが、彼は多くの人の心を掴んでいます。彼は、頭脳、知識、体力、ヒューモア、コミュカ、全てを兼ね備えたアイドルなのです。彼が馬場に到着すると、「うっちー！」と歓声が上がります。彼はどんな環境、話題でも持ち前のコミュカを発揮することができます。恋愛でも、競馬の話でも、雑談でも、彼は常に話の中心にいます。しかし、活動が終わると、「僕アルバイトー」と言いながらアルバイト先に向かいます。部活、学業、アルバイト、全てを両立させて頑張っている姿が伝わるからこそ、皆に好かれるのでしょう。

(2年福田・著)

小西 凜生 (風紀・オガ)

入部前僕は大学馬術部に対して何も具体的なイメージがありませんでしたが、入部してみたらすごく色が濃い部活でした。色々な方向性の人達が部活という一つの目標で集まっているのがとてもおもしろく、楽しいなと思いました。うちの部活にはとても明るい人もいれば、好きなことに関しては明るいけれど普段は物静かな人もいます。部活を好きという共通点があればきっと出会うことがなかったけれど、今はみんなと仲よくてみんなのことが大好きです。みんな話すと楽し



くて、面白く、他人に対して決して不満、怒りをぶつけないところを尊敬していてそんなところが大好きです。

♪いつもどうしても素直になれずに自信なんてまるで持てずに

校舎の裏側

人目を気にして歩いてた

誰かとぶつかりあうことを心のどこかで遠ざけた

それは本当の自分を見せるのが怖いだけだったんだと

教えてくれたのは君と過ごした今日までの日々

そう初めて口に出来た

泣きたいくらいの本当の夢を

まさにこの歌詞を卒部した時に心の底から思えるように頑張りたいです。

1年の10月にして電撃入部した後輩。入部前は皆が超警戒していたが、今となってはいなくちゃならないムードメーカー。口を開けば「海行きてー」「ナンパしてー」と煩いけれど、馬術部の女子は1人も見向きもしていない。地味に高等部馬術部から入部しているんです。見たこと無いけれど。合宿にはいたけれど。10月にふらっと片耳にピアスをぶら下げて、クルクルパーマで「入部したいんですけど。」とのことで一足遅れて仲間になりました。おボンボン坊っちゃんはお婆ちゃんに買ってもらった金ピカBMWを我が物顔で乗り回し、座間近代で自馬に乗って、何不自由ない生活をしているのに、何で馬術部に来たんだろう。(4年山田・著)

小林 昂嗣 (車両・施設・関東幹事)



入部当時、正直自分は馬に乗るよりも作業する方に楽しみを感じた。特に馬房掃除。馬も人と同じように個性があり、馬それぞれで馬房の使い方が異なる。そんな馬房の掃除を通じて色んな馬の個性の片鱗を見る事がとてつもなく楽しかったのだ。共感者は居なかった。

しかし時を経て、馬房掃だけが楽しみではなくなった。怪我で3か月も馬に乗れなかった間、どんどん上達して行く同期達の姿を見て焦りを感じ始めていた頃、遂に駈歩発進の練習をさせて頂いたのだ。その

時の緊張と興奮たるや、凄まじいものだった。不発だった。乗馬していて初めて悔しいと思った。だからこそ初めて駈歩が出せた時、自分は初めて馬房掃以外の楽しみと出会えたのだ。思えば自分の楽しみは、馬房掃、駈歩発進、後は愛馬とのじゃれ合いとか・・・、同期の杉本君のいじりもそうだな、どれも随分と些細なものばかりだ。でもそれらが自分の馬術部での生き甲斐となっている。だから今後もこの生き甲斐を大事に頑張っ行って行こうと思う。

スマートな眼鏡に女性物のキュロットも着こなしてしまうスレンダーな美脚の持ち主、我々が小林は勉強と部活の両立に勤しむ傍ら、関東幹事で競技幹事の仕事をこなしてしまう敏腕馬術部員です。担当馬ヤヨイへの愛は人一倍、競馬のことを語らせたら彼の右に出る者はいません！(2年古宮・著)

古宮 有紗 (広報・獣医・高等部コーチ)

馬術部に入部してはや一年半。高等部馬術部出身だが大学馬術部には入るつもりなど毛頭なかった私が、こうしてほぼ毎日四時代に起床してえっちらおっちら馬場に通っているのだから、人間の慣れとは不思議なものだなどつくづく感じます。入部したての頃は、今まで乗馬倶楽部で馬に乗るだけだった私が本当に馬術部でやっていけるのか不安に思うこともありましたが、気が付いたらあっという間に二度目の夏を迎えようとしています。しかも驚くべきことに、馬術部を辞めたいと思ったことが一度も無いのです。なぜ続けられるのでしょうか。それはひとえに部員の存在があるからだと思うのです。これまでの馬術部生活を振り返ってみますと、朝一からの活動が終わって解散してもクラブハウスの2階で先輩後輩同期とだらだらと過ごした時間が、お腹が空いたと皆んなでご飯を食べに行った記憶が、何にも代え難いもののように感じます。これからも馬術部のなかでゆっくりと流れていく時間に身を任せ、残りの馬術部生活を穏やかに過ごしていきたいものです。



馬術部のプリンセス。馬術スキルがとても高く、乗馬姿は気品に溢れている。おっとりしているけれど、とても気さくでしっかり者な頼れる先輩。高等部コーチ、獣医係、広報係を担当してくれていつも後輩に指示を出して見守ってくれている。古宮先輩ファンは多いと思う。(1年渡邊・著)

杉本 鷹哉 (ボロ・オガ・飼料)

青学馬術部は他の大学とは雰囲気が違う。それは仲睦まじいことに起因すると考えられる。

確かに、馬術部の中では部員の意見がまとまらず、時には口論を起こすこともあり、仲睦まじい雰囲気とは程遠いと感じることもある。それには部員各自の理念があり、貫くということが関係している。

しかし、それを乗り越えるからこそただの仲良しで終わるのではなく、信頼を含んだうえでの仲睦まじさが生まれるのである。その仲睦まじさが、私達青学馬術部を支え、これまでの青学馬術部を創り上げてきたのだろう。私はこの馬術部に入り、最初はその雰囲気に困惑し、置いてけぼりを食らうこともあった。いままでは馬術部のトップを狙う殺伐とした雰囲気の中で馬術に打ち込んでいたこともあり、ギャップについていけなかったのだ。しかし、最近になって青学流のその雰囲気に馴染めるようになってきた、少しは僕が仲睦まじい雰囲気によって浄化されたのかもしれない。

いずれはこの馬術部にその恩返しをしたい。

杉本先輩は青山学院大学馬術部のいじられキャラ。いつもニコニコしています。最近髪を切ってなんだか嬉しそう。



何かいい事でもあったのかな？小さい時から馬術をやっていて、分からないことがあったらなーんでも教えてくださいます。分からないことがあったらぜひ杉本先輩！と大声で話しかけましょう。喜びます。 (1年黒木・著)

高橋 実由希 (風紀・防災・馬匹)



原稿の締め切りはとっくに過ぎ、担当のY氏から催促がきている。何を書こうか。ここで真実を語ってしまえば馬術部の異端性がバレてしまう。とりあえず、私の部活のすすめを書くことにしてみる。昨年馬場と学校までの交通費を見比べ、鶴川に住んだ方が圧倒的に安価であると分かった。ついに腹をくくり、引っ越すことに決めた。部活セントリズムの始まりである。馬術部はとにかく朝が早い、最寄りに住むことでそれが軽減される。部活から青山キャンパスに向かうにも一度自宅を経由するので比較的綺麗な格好で授業を受けられる(とは言っても時間がないのでシャワーは浴びられないが)。今では同期が着々と鶴川に移住し、何かあればみんなで助け合おうということになっている。もちろんそれを可能にしてくれた両親にもとても感謝している。ちなみに両親からは帰ってきなさいとよく連絡があるが、ナポレオンに魅了されている本人は帰る気がさらさらしないようだ。まさに馬の耳に念仏である。これからは、部員として責任を果たしながらも、部活に飲み込まれない程度に進んでいきたい。

高橋先輩は風紀委員という大事な役職を持っていて、そのため作業している時はいつも真面目です。後輩への教え方もとても丁寧でわかりやすく、担当馬と一緒に過ごすのでよく助かってます。でもオフタイムになるとよくグラグラ笑ったりしてとても元気な人です！みんなにM氏とかで呼ばれてるけど後輩は誰もM先輩と呼んでません。しかし高橋先輩はみんなにM先輩と呼ばれたらしいです。 (1年渡邊・著)

中谷 好作 (会計・装蹄)



早いもので今年で二度目の夏を迎えました。振り返ってみると色々なことを乗り越えたなあとしみじみします。そんな私は馬術部を一年経験して感じた馬と過ごす四季を紹介しようと思います。まず春は桜の花びらが舞っているのを感じながら愛馬と一緒に曳馬するのが幸せです。桜と馬の組み合わせはいつの時代も惹きつけられます。そして夏はやっぱり水浴びです。練習から帰ってきて汗だくの馬を冷たい水で洗ってあげる瞬間がとても好きです。その時に人間もちゃっかり水浴びさせてもらいます。秋はサンシャインに乾草を投げて馬と一緒に紅葉を楽しみます。馬は花より団子改め紅葉より乾草状態ですが、人間は短い秋を感じられてうっとりします。冬は晴れた暖かい日にする手入れです。休馬日だと時間がゆっくり流れてなおさらいいです。あの馬のうっとりした顔が可愛くてたまらなくて、愛しさが止まりません。去年は馬と過

ごす日々はかけがえのないものだと感じた年でした。残りの日々も噛みしめながら過ごしていきたいものです。

ルシファーとメイメイの担当をしている2年生の方です。いつも笑顔でいてくれるので部活の雰囲気をよくしてくださります。頭がよく、いつも自分のやるべきことを見てできるとても賢い人で大変頼りになります。 (1年後藤・著)

言葉が先か、存在が先か、という言語論は人類永遠のテーマであるが、この馬術部では圧倒的に言葉が先行しているだろう。「名前が書いていなければ公共物」、そう、これが馬術部である。冷凍庫のアイスクリーム、机の上の飲みかけの水、置き忘れてしまった充電器、洋服、キュロット、何でもかんでも、とにかく書かれた名前が所有者の証なのである。ある日、女子部屋に10円玉が落ちていた。いつもの癖で「これ誰のかな〜」と同期のN氏に話しかけたところ、彼女は平然と「名前書いてある？」と尋ねた。10円玉に名前が書いていない。「じゃあもらっちゃいな」、「うん、そうだね」。

原 碧 (高等部コーチ)

私たちの会話に何かおかしな所があるだろうか。そうだ、自分のものに名前を書くことなんて、幼稚園で教わることだ。どんな組織より秩序のある部活でよかった。どうやらこの馬術部で生き抜くために必要なのは、体力でも精神力でもなく、記名スキルらしい。ソクラテスも驚きの文明が、ここにある。



僕の同期原碧はいつも笑顔で活動に参加している。しかし、その裏にはみんなには見せない努力が隠れているのだ。自分の乗っている動画を見るやいなや、これではだめだと自分の乗り方を追求し続けている。自分の後輩である高等部の部員に対して乗り方を教えるためにも熱を入れているのだろうと思う。高等部コーチの仕事をこなす反面、選手皆のことを管理する主務の仕事までこなしている。つまり、馬術部に所属する現役部員たちはほとんどが原に対してお世話になっているのだ。 (2年杉本・著)

コロナ禍で鬱々とした気持ちを大学入学を機に新しいことを始めて一新しようと、なんとなく馬術部の門を叩いて一年がたちました。馬の愛らしさや健気さの虜となった一年でした。もちろん怒られたこと、大変だったこと(肉体的にも精神的にも)、悔しかったことは数えきれない程ありましたが、それを上回る達成感と人馬一体のあの爽快感は何物にも代え難い貴重な宝物で、それを毎日感じられる馬術部に心から感謝しています。ところで私には同期が9人います。馬という共通

山口 愛夏 (会計)

コロナ禍で鬱々とした気持ちを大学入学を機に新しいことを始めて一新しようと、なんとなく馬術部の門を叩いて一年がたちました。馬の愛らしさや健気さの虜となった一年でした。もちろん怒られたこと、大変だったこと(肉体的にも精神的にも)、悔しかったことは数えきれない程ありましたが、それを上回る達成感と人馬一体のあの爽快感は何物にも代え難い貴重な宝物で、それを毎日感じられる馬術部に心から感謝しています。ところで私には同期が9人います。馬という共通



の話題がなければとても交わることがなかった個性豊かなメンバーです。しかし皆本気で馬術部をより良くしようと日々意見を交換して創意工夫をしています。日常ではなかなか気づくことはできないけれどふと、同じ目標に向かって同じ熱量で取り組める仲間がいるってもしかしてすごいことなんじゃないかと気づきました。自分を成長させてくれる同期に出会えて本当に良かったなあ、としみじみ思います。同期の皆さんいつもありがとうございます！これからもどうぞよろしくお願いします。

圧倒的コミュ強ガール。筆者はたまたまクラスの自己紹介でボソッと喋った「競馬好き」の一言で彼女に勧誘され入部に至りました。同じ法学部法学科22年入学F組なのに彼女の周りには常に友達がいいます。私はどこで道を間違えたのだろう…常に貪欲に知識を吸収し技術を磨く尊敬すべき同期です (2年内田・著)

1年

今本 歩睦 (主務)

入部してはや2ヶ月、青学馬術部の洗礼を受けた気がする。実家から自転車で10分の場所にあり比較的楽だとしても朝早くに起きて活動するような生活習慣ができてしまった。こんな些細な変化だけでなくいろんな癖の強い人と会うことができた。これがとてもいいと思う。青学の馬の世話をしていくと彼らの特徴や性格、気持ちの表し方といった可愛くて可愛くて仕方がない。まずはパロールだ。彼は最年少というだけあってなかなかこどもっぽい。先輩から聞いていたとおりの欲張りだったりわがままだったりするところがお世話にいきが愛らしい。担当することになったナポレオンはビビリな性格だからかすぐに噛んだり蹴ったりしようとしてくるが少し強気でいけば大人しくなるあたりその性格が表れすぎていて愛らしい。推し馬は決まっていなかったがおそらくこの二頭のどちらかとなるのだろうと思っている。まだ初心者だから速歩でさえうまくいかなく“乗る”ではなく“乗せられている”なのでまだまだ技術向上のために努力していきたいです。



な癖の強い人と会うことができた。これがとてもいいと思う。青学の馬の世話をしていくと彼らの特徴や性格、気持ちの表し方といった可愛くて可愛くて仕方がない。まずはパロールだ。彼は最年少というだけあってなかなかこどもっぽい。先輩から聞いていたとおりの欲張りだったりわがままだったりするところがお世話にいきが愛らしい。担当することになったナポレオンはビビリな性格だからかすぐに噛んだり蹴ったりしようとしてくるが少し強気でいけば大人しくなるあたりその性格が表れすぎていて愛らしい。推し馬は決まっていなかったがおそらくこの二頭のどちらかとなるのだろうと思っている。まだ初心者だから速歩でさえうまくいかなく“乗る”ではなく“乗せられている”なのでまだまだ技術向上のために努力していきたいです。

部員行きつけのラーメン店大桜の近くに実家があり、毎朝自転車で颯爽と現れる高身長ボーイ今本歩睦。経済学部という青学1チャライ学部所属の彼は現在、個性溢れまくる1年生男子の中でまともキャラとして身を潜めている。彼が馬術部の夏を経てどんな本性を見せてくれるのか注目せずにはいられない。 (4年金子・著)

小高 知也 (ボロ・オガ・飼料)

馬術部に入部して数ヶ月が経ちました。自分は元々動物が好きで、馬にも興味がありましたが、機会がないまま今まで過ごしてきました。

そんな中キャンパスで、先輩に案内を受け、勢いそのまま馬術部に入部しました。活動は朝早く、早起きが、苦手な自分にとって最初はとてもきつかったですが、参加するにつれて、徐々に慣れてきました。入部してすぐは、右も左も分からないような状態が続きましたが、先輩方が丁寧に教えてくださったり、同期とも協力してこなしたりしながら、少しずつできることを増やしています。馬術部のメンバーはみんな優しく、個性豊かで毎回の活動をととても楽しく参加出来ています。担当することになった馬はナポレオンという子なのですが、彼は少し繊細で手入れをする際も噛んだりやんちゃな面もありますが、いざ練習となると本当に真面目でこちらの扶助にしっかり反応してくれて、そのギャップに惚れてしまいました。入部して数ヶ月、まだまだ分からないことや戸惑うことは多いですが自分なりに頑張っていこうと思います。



うちの高身長代表。とって真面目でエレガントな期待の新一年生小高知也君。体験入部時に苗字を子高と間違われ、この他己紹介を書いている者に入部後もずっとコダカと呼ばれ続けられた。その節はどうも申し訳ありませんでした。こう見えてとっては失礼かもしれないが、競馬が好きらしい。部員に競馬好きが増えてくれて感謝感激。真面目な彼の今後の成長に注目したいところであります。 (2年小林・著)

黒木 蘭 (広報)

青山学院大学体育会系馬術部は個性的な部員で溢れています。恋多き人、優しすぎる人、前髪全然崩れない人、ずっと笑っている人。個性的すぎてちょっと大変な時もあるけど、そんな馬術部が私は大好きです。人だけじゃなくて、馬もすごく個性的です。犬みたいな馬、女の子な馬、草を見ると馬房の中で暴れる馬。みんなみんな可愛くて、放っておけないそんな馬たちがお出迎えしてくれます。

馬術部だからといって、馬に乗るだけではありません！！馬房掃から馬のお世話、ボロ取りなど大変な作業がたくさんあります。夏は激アツでみんな汗をかきながら毎日頑張っています。大変すぎて、行きたくない、、なんてこともちょっぴり思ったことがありますが、かわいいかわい馬のために毎日朝早くからお世話しています。

馬術部の部員は、部活の時間以外でもとても仲がいいです。ご飯やBBQに行ったり、恋バナしたり、、馬術部に入って良かったな～と日々感じています。一緒にいてずっと笑ってられる、そんな空間です。



いつも元気で明るい子。一緒にいると相手までも笑顔にしてくれる存在です。彼女はものすごい体力をもっており、

夜寝ていなかったとしてもテンション高めで馬場に来て活動しています。

(1年小林・著)

いです。冬の朝は起きるのがとても大変になると想像できますが、頑張っていこうと思います。

コバリンこと小林凜は、馬術部一年生の笑い上戸！いつもキャピキャピしてて楽しそうだけど、実は地球社会共生物学部地球社会共生物学科の生徒でレポートも出されたらすぐやるタイプの超まじめ。コバリンがいる日はいつも部活が楽しいです！

(1年高原・著)

後藤 颯斗 (広報)



部活の雰囲気について、その人その人の個人を尊重していくことによつてみんなで仲良くしていきたいです。個人的な目標について、まずは基本的なことをまずしっかりできるようにしていき、そこから試合で通じる馬術を磨いていきたいです。そして最終的には大会に出て、青山学院大学馬術部に恥じない結果を残せる選手になって行きたいです。また、馬術部には多くの先輩方やご指導員の方々があります。その方々に無礼がないようにしっかり礼儀と感謝をもって関わって行きたいです。

部活の環境について、今の事務所が綺麗とは言えない状況なので、常に清潔な環境を心がけ、青山学院大学の馬術部に来たいと思える環境を作っていきたいです。馬について、馬とのコミュニケーションを学んでいき、馬との信頼関係を築いていきたいです。人として、遅刻をできる限り無くすことを目標にして、何かあった際には報告、連絡、相談を欠かさずにやっていきます。周りをしっかりと見て今何をすべきかを常に考えて、周りに迷惑をかけないように仕事をしていきます。

高校はバスケット部に入っていた彼、とても真面目でボソッと面白いこと言うが、未だに部室のロッカーをまだもらえていないという不遇な1年生！僕と同じ電気科だったことから親近感を持っているが競馬が大好きすぎてしばしば何を言っているかわからない。毎日自転車ですぐに健気に来ている彼の部員として、選手としての成長が楽しみだ。

(3年村上・著)

小林 凜 (装蹄)



入部したての時、先輩たちが馬にとまったハエを素手であたかも蚊を殺すように潰している所を見てとても驚いていました。ハエを素手で殺す人があるなんて、と思っていました。しかし入部して数か月後、自分もハエを殺せるようになっていました。馬術部に入部したことでとても虫に強くなりました。ところが、先輩はハエだけでなくアブも連携プレーで殺していました！一人の先輩がアブを手で叩き弱らせ、床に落ちたアブを他の先輩が足でつぶす。馬術部員は虫に対しての殺意が強いな、と思う瞬間でした。ハエ、アブ等の飛んでいる虫だけではなく、馬術部員はダンゴムシ、ネズミも退治することができます。バケツに水を張り溺死させます。どんな虫も馬場に来たら殺されます。

馬術部で一番大変だと思うことはとっても朝が早いことです。大学生になって始発の電車に乗るなんて思ってもいませんでした。朝早いのは大変ですが、馬場についてしまえば馬にも部員とも会えるのでとても楽し

高島 ゆづき (主務)

20年近く生きてると、自己紹介をする場面が多くあります。自己紹介の定番と言えば、趣味の紹介。そんな時私は「馬が好きで馬術部に入りました！」と言うのですが、大抵はびっくりされます。「え！？馬？！乗るの？！競馬？」競馬ではありませんが。そして二言目には「かっこいい〜！」が続きます。しかし、それ以上に会話は続かないし、馬術部の魅力は全く伝わりません。朝は早いし活動は掃除ばかりだし、なんて言ったら大変そう！とむしろ心配されてしまいます。私はただただ馬が好きで、そばにいられるだけですごく幸せなのに！！犬や猫と違い、馬は大きくて怖いイメージがあるのかもしれないませんが、私にとって馬はペットと同じくらい、いや、それ以上に愛おしい存在なのに！！話せば話すほど、過酷な部活のイメージが強くなってしまい、馬の可愛さや馬術部の楽しさを伝えることができないのです。こんな時みなさんならなんて説明しますか？馬術部の魅力が伝わる素敵な紹介の仕方、ぜひ教えてください。



1年生で誕生日は9月15日で今年19歳になります。学部は教育人間科学部で学科は心理学科です。馬場から自転車で10分のところに住んでいます。twiceのジョンヨンが好きです。高校の部活は吹奏楽部でした。最近髪色をオレンジにかえて、赤毛のアンっぽくなりました。赤毛のアンのように明るくて、よく笑っています。これからも元気に頑張りたいです。

(2年小西・著)

早川 迅 (施設・車両・風紀)

私が馬術部に入った時、家族や友人から「目がギョロギョロして怖い」「何を考えているかわからない」そういったネガティブな言葉を言われました。吸い込まれそうな瞳やひん剥いた目こそが個性的で愛らしく美しいと考えていました。そういった、かわいい動物を世話したいという理由で入部しましたが、馬を世話したり、先輩の話を聞いたり、馬について調べるうちに、さらなる愛おしさを感じるようになりました。乗馬として生を受けた馬や競馬という厳しい世界で生きてきた馬もいる馬術部の馬達は人間と生き、人間を助け、人間に楽しさを与える偉大な動物であると思いました。



私はもっと家族や友達、多くの人に馬は可愛く、とても偉大な動物であること伝えたい。そのために今よりもっともっと馬のことを理解し、またその偉大な動物の余生が充実できるように頑張っていきたいと思います。

競馬が大好きなちょっと変わった不思議な子。とっても頑張り屋さんで大きな体を丸めなら先輩から頼まれた作業をこなします。言われたら本当になんでもやってくれるんです。部員から愛されている魅力あふれる後輩です。

(2年山口・著)

だけじゃなくみんなも馬たちのために一生懸命頑張っていますから。5月に入って最近ようやく早起きとか色々慣れてきました。馬房掃も初めの頃に比べてできるようになって、もちろんまだ伸びしろがたくさんありますのでこれからも頑張ります。馬は人間が指示出してそれに従って動くのを馬術部に入って初めて知りました。私は人間が上になれば何とかかなと思ったけど実際に自ら指示を出すのはとても難しいことだとわかりました。限界まで足をギュッと挟んでいるつもりなのに全然発進できない時もしょっちゅうなことです。まだ4年間もあるので、最後まで楽しくやっていきたいと思います。



とてもツボが浅く普通の人なら笑わないことでもすっごく笑っています。よしこの笑いにつられ、みんなも笑います。部活を笑いに溢れる場所にしてくれる存在です！これから卒部まで頑張ってください。(1年小林・著)

山下 雄大 (会計)



なぜ馬術部に入部したのか。同期や先輩方に何度もこの質問をされているため、ここにはっきり理由を示しておこうと思いましたが、正直理由らしい理由はありません。勢い任せな行動に思えるかもしれませんが全く後悔はないです。この突飛な行動によって生活が馬術部中心となり、健康的になった気がします。バイトは交通費や部費などのため、授業も部活があるのでちょっとだけ頑張れます。馬たちに会えるので苦手な早起きも多少できるようになりました。

また、馬を世話することの大変さを知りました。馬が色々な人の手によって生きているのと同じように、人間も多くの人の助けによって生きていることを実感しています。

そして最後に、最近担当馬になったハプナブルーこと元フォンスヴィーテについて。ぼーっと壁を見つめていたりして、本当に何を考えているのかわかりません。もしわかる人がいたら教えてください。頑張っと思疎通ができるようになりたいと思います。

彼が馬術部に入部した理由は、新歓のブースで馬に興味を持ったからだそうです。今年の1年生は、もともと馬が好きだったり、目標があったりと、強い意志を持って入っている人が多い中、彼が早起きをして、1度大学を通り過ぎてまで町田に来ていることに驚きを隠せません。彼は一体どんな想いを胸に秘めて活動をしているのでしょうか。いつかそれを明かしてくれるのが非常に楽しみです。(1年高島・著)

渡邊 淑傑 (獣医)

大学に入る前に馬術部が存在しているのそもそも知りませんでした。パンフレットから馬術部を見つけて、インスタで調べてみたら、馬かわいい！と思ってそこから初めて興味を持つようになりました。体験に行っで説明を色々聞いて、こんなに大変なスケジュール本当に4年間続けられるかどうか正直とても心配でしたが、せっかくな機会だと思って結局入部届を出しました。私の部活に関して1番好きなのはみんなが仲良くていつも楽しく活動しているところです。先輩も同期もみんな個性的で面白い人たちです。毎回早起きつらいなと思っているけどみんなに会えるから絶対4年間頑張れると思っています。自分だけ早起きしている

新一年生 (101期)



白石 寿



伊藤 花音



山内 奈優



土橋 妃菜



川合 和佳葉



若林 はな

2024年度馬術部101年目は6名の新入部員を迎えることができました。
これからの100年を盛り上げていけるよう一緒に頑張っていきます！

馬匹紹介 *Horse introduction*

この10年に在籍していた馬匹

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. ラフター | 21. ブルーベルファスト |
| 2. ブレードーター | 22. リスタイル |
| 3. キルラルスブルー | 23. リヴェリオン |
| 4. ブルーシンフォニー (ゴールドラッシュ) | 24. プチブルー |
| 5. ブループリンセス | 25. ブルーオレンジ |
| 6. コンシデラブル | 26. チェセント |
| 7. ブルージアーナ | 27. ブルーザベスト |
| 8. ブルーアンディアーモ | 28. ブルーライアン |
| 9. クローネ | 29. ブルーラパン |
| 10. かえで | 30. ブルーバリエント |
| 11. ブルーシャルム | 31. ブルーショー |
| 12. ミニポ | 32. ドレミファブルー |
| 13. ブルーウィリアムズ | 33. アローブルー |
| 14. ハッチポッチブルー | 34. ブルーハート |
| 15. レルシアブルー | 35. ブルーフォセッタ |
| 16. ブルーアーバン | 36. ブルーベリー |
| 17. カサンドラクイーン | 37. ブルーキャンディー |
| 18. ブライトブルー | 38. キャラメルブルーパフ |
| 19. マリンブルー | 39. ブルーシェヴィニオン |
| 20. ブルーシャングリラ | 40. ブルーリリィ |

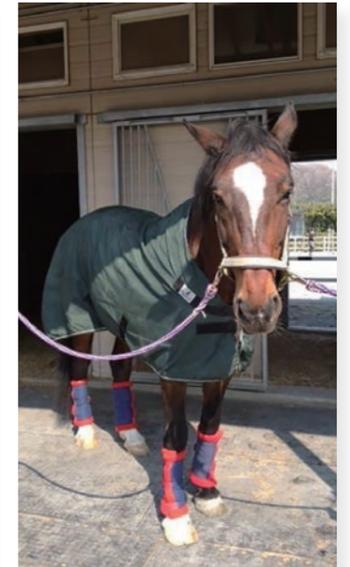
現在、繋養している馬匹 (2024年3月現在 13頭)

- | | |
|----------------|---------------|
| 41. ナポレオンブルー | 48. ハッピーソナブルー |
| 42. メイブルーメイ | 49. ブルーリンクス |
| 43. ブルーヤヨイ | 50. マゼブルー |
| 44. ブルーシルファー | 51. ブルーブレイヴ |
| 45. ブルーフォーエヴァー | 52. ブルーマックス |
| 46. ブルーバロール | 53. ブルーライトニング |
| 47. ハプナブルー | |

この10年に在籍していた馬匹

1. ラフター

エストニア産のオルデンプルグのセン馬の障害馬。いつでも真面目な頑張り屋さん。どんなことがあっても暴れたことがなく、いつも穏やかに走ってくれるので、初めて駈歩をやる学生も安心して練習ができました。試合へ行くと一生懸命走って、落ち着いて障害を跳んでくれて、誰が乗っても安心な馬でした。



2. ブレードーター

ドイツ産オルデンプルグの牝馬の馬場馬。ちょっとプライドが高く、馬房や洗い場で隣に馬がいるととっても怒るので、いつも皆とは少し離れた場所で過ごしていました。でも、乗るととってもダイナミックで柔らかな歩様で、コーチの桃野さんとは全日本のインタークラスで優勝経験のある超名馬です。初めてヤングライダーを踏む学生を引っ張って馬場の試合で活躍しました。



3. キルラルスブルー (競走馬時代：オートハヤヒデ)



芦毛のセン馬。旧名から分かるように父親はあのピワハヤヒデ。がっしりした身体が特徴で、その恵まれた見た目通りに整然と障害を飛んでくれる。馬場馬術はちょっと苦手。障害馬術の練習を初めたての初心者を乗せていても、一切反抗することなく、丁寧にエスコートしてもらえる。馬場を走り回っている時でも、馬房で休んでいる時でも、常に堂々としており、近くで大きな音が鳴ったりしてもあまり反応しない。乗り手が下馬するときにエアバッグを鳴らしてしまっても落ち着いている。落ち着きすぎて口が半開きになり、下唇が常にダルンダルンになっている。唯一嫌いなものが夏場に湧くハエで、手入れ中は後ろ足が止まらなくなる。この後ろ足の飛び跳ね方はピカイチであり、手入れをしている人の頭に当たる、足を踏む、ポロシャツを破くなどは日常茶飯事であり、注意が必要。総じて、初心者により乗り心地を与えつつも、手入れ中も油断してはいけないということを教え導いてくれる紳士な馬である。時々、生まれ故郷の北海道への哀愁漂う表情がみられる。



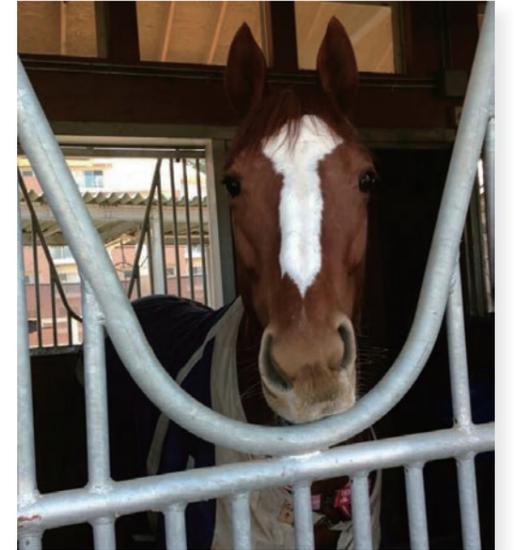
4. ブルーシンフォニー (ゴールドラッシュ)



サラブレッド、セン馬の馬場馬。若い頃は障害馬として活躍し、歳をとってからは馬場馬として全日本学生の決勝まで進むほど活躍しました。サラブレッドとは思えないダイナミックな歩様で、若い頃は元気いっぱいだったのですが、歳をとってからは程よくサクサク動き、良い先生でした。馬場について一から教えてくれて、初心者のことも関東学生や試合にも連れて行って来て、馬場の楽しさを教えてくれました。

5. ブループリンセス

サラブレッドの牝馬の練習馬。競走馬を引退してすぐに青学へ来ました。ちょっと前まで競走馬だったとは思えないほど、大人しくて可愛らしく、乗っている時だけではなく、手入れなどでも部員たちのことをたくさん癒してくれました。



6. コンシデラブル (せん馬・障害馬)

ブルージェアーナと同時期に青学に来た障害馬。愛称：シド。とてもパワフルな馬で、前が尋常じゃなく強く、腕が引きちぎれそうになりながらも何とか手綱をとりコントロールして乗っていました。



7. ブレージアーナ



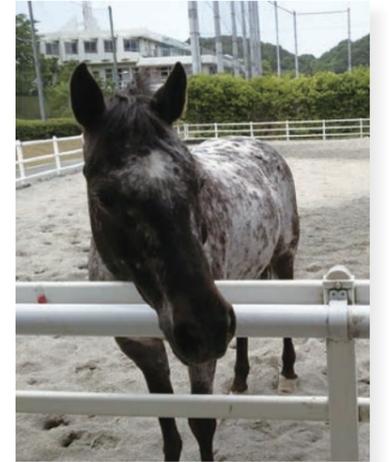
練習馬、障害馬と活躍したジアーナ。女の子でしたが、どこか父親のような暖かさがある眼差しを持っていた馬でした。駈歩の安定感からさまざまな部員を背中に乗せ、練習に付き合ってくれました。

8. ブルーアンディアーモ (せん馬・障がい&馬場)



大きな馬体で大人しく、物見もせず何事にも動じない、障害飛越も馬場馬術もできる馬でした。馬事公苑の狭い馬房では、頭と尻を擦りながら過ごしていました。誰が乗っても絶対に落とすことはなく、部員に安心と成長をもたらしてくれました。

9. クローネ (ポニー牝)



ポニー、牝馬の練習馬。かえでと一緒に廃部寸前だったところから、一気に部員が増えた時に、初心者の練習馬としてやって来ました。かえでとは性格が真逆！軽くてびゅんびゅん走って、障害もびよんびよん跳びました。でも走りすぎて、人が乗っていることも忘れて、人を乗せたまま埒を飛び越えて厩舎へ戻ってきたこともいい思い出です。

10. かえで (ポニー牝)



ポニー、牝馬の練習馬。廃部寸前だったところから、一気に部員が増えた時に、初心者の練習馬としてやって来ました。穏やかで落ち着いてゆっくり走ってくれなので、初心者は安心して乗ることができました。もっと速く走ってという指示は無視しつつ、いつでもマイペースで穏やかな馬でした。

11. ブルーシャルム (ロシアンウォームブラッド セン)



ロシア産ロシアンウォームブラッドのセン馬の馬場馬。いつでもどんなことにも真面目に取り組む馬でした。サラブレッドのような華奢な体で、あまり身体が丈夫ではなかったものの、馬場の試合でもいつも一生懸命で大活躍してくれました。途中から仲間入りしたミニポと大の仲良しになり、毎日一緒に遊んだりご飯を食べたりするのを楽しみました。

12. ミニポ (セン)



ミニチュアホース、セン馬。小さいので乗ることはできませんでしたが、いつでも皆に愛嬌を振りまき、ポニー特有の気の強さはあまり見せず、皆のアイドルでした。新歓のためにハイエースに乗って学校へ行ったり、疲れた人馬を癒したり、時には障害をぴょんぴょん跳んだり、特にシャルムとは大の仲良しになってシャルムのことも日々癒してくれました。

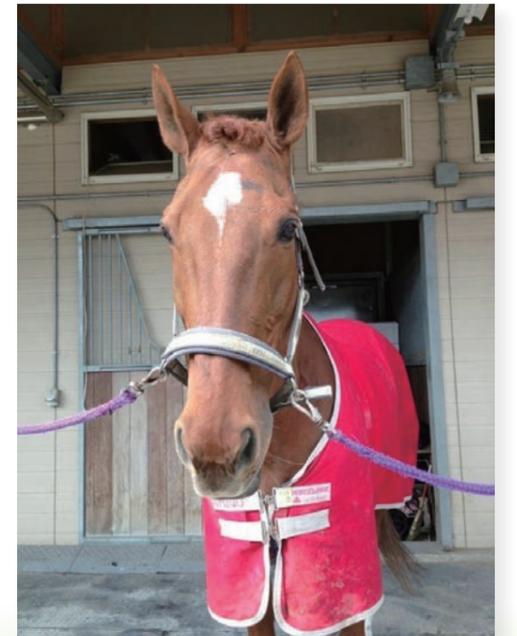
13. ブルーウィリアムズ (外馬セン)

ドイツ産ハノーバーのセン馬の馬場馬。とにかく人懐こく、馬房や手入れではいつでも寝てるんじゃないかと疑われるほど大人しいのに、乗ると急に元気になって、よく人を落としたり暴れ回る姿を見たことでしょうか。ものすごい体力で、1日に5回も出して運動していたことがあったんだとか。初めて関東学生に出た部員を全日本学生まで連れて行ってくれ、暴れつつも頑張り屋さんで、いつでも人の言うことに応えようと一生懸命でした。



14. ハッチポッチブルー (サラ牝)

サラブレッド、牝馬の障害馬。若い頃は、障害だけではなく、馬場でも関東学生や全日本学生に出ていました。反撞がなく、口も柔らかく、とにかく大人しくて、初心者の練習馬にもなり、障害馬や馬場馬として、時には選手権のスーパー部班馬としていつでもどこでも活躍して成績を残し、多くの部員から愛されて頼られました。



15. レルシアブルー (外馬セン)



ドイツ産ハノーバーのセン馬の障害馬。愛嬌たっぷりでとにかく人懐っこい馬。でも怖がりで、ちょっとしたことでびっくりして物見をするので、水濠障害に乗り手を落としちゃったり…乗るのはとっても難しい馬でした。物見しなければ、どんな高さの障害もどんなに踏切が合わなくてもびよんびよん跳んでくれました。

16. ブルーアーバン (外馬セン)



オランダ産 KWPN のセン馬の馬場馬。とにかく丈夫なことが一番の取り柄！予防接種以外で獣医さんに治療やメンテナンスしてもらったことがないほどいつでも元気。大きくがっちりした体で、見た目はインパクトがあるものの、反撞がとてつもなく大きいので、乗り手泣かせの馬でした。試合では大活躍し、全日本学生の馬場で決勝まで連れて行ってくれました。

17. カサンドラクイーン (外馬牝)

オランダ産 ZANGERSHEIDE の牝馬の障害馬。ちびドラと呼ばれるくらい、身体が小さいものの、本当に頑張り屋さんで、いつでも一生懸命走って走って、びよんびよん障害を跳んでくれました。小回りが利いて足が速いので、試合に出るといつもブルーリボンをゲット！たくさんの部員たちにブルーリボンをプレゼントしてくれました。

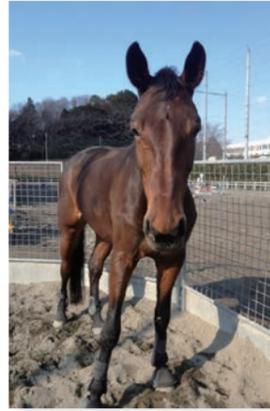


18. ブライトブルー (サラセン)

サラブレッド、セン馬の障害馬。若い頃は関東学生や全日本学生で大活躍し、歳をとってからは、皆の先生として障害の跳び方を教えてくれたり、たくさんの試合に連れて行ってくれました。部班でも障害でも、時には馬場の試合でも大活躍した名馬です。



19. マリンブルー (外馬牝)



ドイツ産ハノーバーの牝馬の障害馬。いつもはぼんやりしているのに、障害に向かうと途端にスーパーホースっぷりを発揮して、いつでも真面目にぴょんぴょん障害を跳んでくれました。初心者が乗っても110cmの試合でいつでも満点で返ってきて、何度もジャンプオフを経験させてくれたり、関東学生や全日本学生でも何度も入賞した頼もしい馬です。

20. ブルーシャングリラ



青学に来る前は「シャキーラ」という名前で、イメージは弾けた感じの女の子と想像していました。ちょっと珍しい、栃栗毛をまとい、プリッとしたお尻をした小柄の牝の馬場馬でした。青学馬術部にいたのは、それほど長くはありませんでしたが、関東学生馬術競技会の馬場団体の青学一員として学生賞典を踏みました！選手もコーチも監督たちも、そして何よりブルーシャングリラ・馬自体がととも戸惑い、苦労しましたことを思い出します。馬場を踏むということ、外国産馬に乗るとということ、馬場競技経験の豊富な馬に乗るとということ、全てにおいて、勉強させてもらった数ヶ月でした。またがって運動しているときには、とても難しいと感じましたが、洗い場や厩舎では大人しくて人懐っこいキャラクターの馬でした。今もどこかで元気にお仕事しているかな？それとも引退しているかな？たくさんの馬術部馬匹の中でも印象に残る1頭でした。

21. ブルーベルファスト (サラセン)

言わずもがな、名の知れた名練習馬とは彼のこと!! どこへでもスイスイ乗せてくれる馬がいる一方で、彼のように安定感は抜群だが、初心者のか細い脚ではおそれとは前に行かない、クセが騎乗者をより成長させてくれました。性格も癖がありつつ、それでも長い間青山学院馬術部員に大事にされ、貢献してくれたうちの1頭です。噛みつかれそうになったこともあったけど、あれは人を傷つけようとするものではなく脅しかったんだなと、今になればわかった気がします。写真は前髪を切り過ぎてしまった日の一枚…ごめんね!! ベルくん!! でもオン眉が、似合っていたのが不思議でした。



22. リスタイル (外馬セン)

ドイツ生まれのスーパー障害馬。普段は優しい顔ですが、試合になるとスイッチが入り、どんな障害にも勇猛果敢に向かってくれました。多くの学生を全日本学生をはじめ、大舞台に導いてくれました。スラットした長い脚、シュッとした顔、試合での頼もしい姿、部内でも多くのファンがいました。いつまでも元気で、ビッグジャンプをしてね! りっちゃん!



23. リヴェリオン



大きな足音を立てて、力強く障害に向かってくれる馬といえば、この僕です。

ちょっと迫力が強すぎる？その走り方は、怖い思いをさせてしまったひともいたかな？

僕の毎日のたのしみは、運動で一杯汗をかいた後、シャワーでピカピカにしてもらうこと。では終わらなくて、手入れの後にみんなが綺麗にしてくれた馬房の新しいオガの上でゴロンゴロンって寝っ転がることなんだ～。たまらない贅沢でしょ？無口を外してもらってすぐにやるもんだから、みんな、"きゃーやめてー"って言ってるのを聞くと、もっとやりたくなっちゃうんだよね。楽しかったなあ。

お部屋にいる時は、眠そうな目と、むっと閉じたお口が可愛いねって言われる事が多いんです。僕はイケメンだと思うんだけど、可愛いって言われるとちょっと複雑な気持ちです。

みんなと一緒にアバロンにお引越ししてからは、にゃにおって言うお友達ができて、いつも朝一で運動の準備をしてもらっている時に僕の馬房の前に彼はやってきて、寝っ転がったりぐーたらしてなかなかどいてくれなかったから、少し邪魔だなあって思ってたんだけど、そんな毎日もなんだか良いなあって思ってたんだよ。それからしばらくして、中央大学に行くことになってたまに試合会場で青学のみんながリヴェリオン～ってやって来てくれるのが嬉しかったです。中央大学では、総合馬術に挑戦したけど、僕のパワーが強すぎて、青学の部員には居ないようなマッチョな男の子を振り落として前歯が全部なくなっちゃったこともあったんだけど、その男の子は、青学で大事にされていた事が良くわかって言ってくれて、前歯がなくなっちゃった後も僕のことを本当に可愛がってくれていたんだけど、僕はある日急に具合が悪くなっちゃって、今はお空からみんなのことを見守っています。

みんなたくさん可愛がってくれてありがとう！

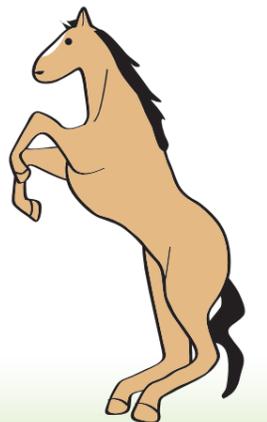
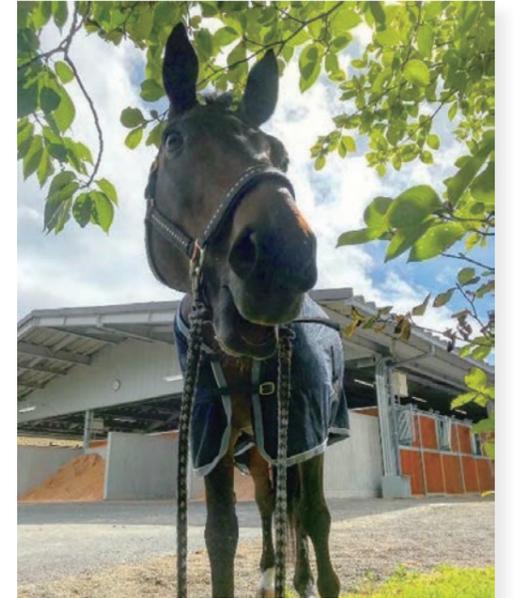
24. プチブルー (モンプチ)

プチブルーという名前にふさわしい、小さくて愛嬌たっぷりの馬のお話をします。

2013年に青学にやってきたこの馬は、2018年に退厩するまでの6年間、"この馬はきっと学生に色々なことを教えてくれるだろう"という期待に精一杯応えてくれた素晴らしい馬の1頭です。まんまるのお腹、少し大きい顔と、短い四肢のそのフォルムは、見る人みんなが"かわいいー！"と言ってしまふほどでした。噛んだり蹴ったり絶対にせず、初めて馬に触る部員にも優しい心を見せてくれた広い心と、馬場に出ると一生懸命練習に付き合ってくれるその姿に何人の部員の心を満たしてくれたことでしょうか。馬には興味なさそうにしているけど、試合で隣の馬がいなくなると、性格が変わったように鳴き続けたり、ダボ飼いをみんなに自慢するように見せびらかしながら食べる姿を見せたり、午後は馬房で夢を見ているのか足をバタつかせて爆睡したりと、思わず、クスクスと笑ってしまう面もたくさんあったんです。

いつしか身体の大きな馬場馬たちが引退していく中で、年をとった後もケアの大切さを教えてくれたり、大好きなりんごを見ると全身で喜びを表現してくれたり、言葉では表現できない、"馬と日々過ごす素晴らしさ"を教えてくれたことは間違いありませんし、4度も全日本の舞台に部員を連れて行ってくれたその頼りになるベテラン馬として青学馬術部の歴史に名を残したのだと思います。

そして、2018年のクリスマス、部員みんなに見守られながら、かつてプチを大切にしてくれた、OGの丹野さんのもとへ旅立ち、26歳になった現在も元気に過ごしています♪



25. ブルーオレンジ



こんにちは、ピューレことブルーオレンジです。青山学院馬術部にいたのは2017年の夏ごろから約1年間ぐらいだったかな、今となっておもいだすのは楽しかった思い出ばかり、あの頃はガリガリの小娘だった自分も今では乗馬クラブで活躍しているんだよ。性格がおとなしくて、噛んだりもしないんです。部員にとっては扱いやすい馬だったんじゃないかな？けれど、運動中は急に跳ねたり走ったり！まだまだ若い馬だったから、今思えば些細なことを気にしていたなあ。強烈な尻跳ねで乗っていた人を落としたこともしばしば。びっくりしてヒーン！！と叫びながら走り去っていったっけ。落ちた人は鮮明に覚えているだろうね。放牧中には、なぜかずっと8字乗りで駈歩を続けてたり。意外とミステリアスなところもあるでしょ。そんな繊細で不思議ちゃんな私だけど、部員からはたくさんかわいがられました。当時の私の付き人は女子三人、芋くさい人たちだったけど、手入れは丁寧だったし、私が暇そうなときには話し相手になってくれたよね。御殿場の試合にも連れて行ってくれたし、学習院との定期戦にもでたかなあ。ありがたいことに大きなけがもなく青学ライフは終わったわけだけど、学生の相手っていうのも楽しかったね。わがままして叱られたりもしたからさ～ただ今でも思い出すのは、あの大変な練習終わりのふすま湯、ふやかされたヘイキューブのくちどけ、そして…

26. チェセント

僕の名前を聞いて、ピンと来る方もたくさんいるのではないのでしょうか。

僕は2017年から2年間、青学の一員として、北垣さんと一緒に試合に出て活躍をしていたんです。みんなは僕のこと、ちっちき、とか、ちっち、って呼びます。

自分で言うのもなんだけど、仕事はしっかりこなすタイプで、2017年に三木で開催された全日本学生馬術大会では準優勝をして、ウィニングランもしました。

今日は僕の自己紹介をします。僕は、2000年にドイツで生まれて、9歳の時にアバロンの武宮校長先生のおぼっちゃまの仲間入りをすると同時に日本にやってきました。障害なんか絶対におとさないスーパーホース、厩舎ではのんびりしている姿で癒しを与えるおぼっちゃまキャラで、みんなに可愛がってもらってました。試合が終わると僕はお利口だからってオフシーズンは調馬索だけの生活を送ったり、他の子達よりも贅沢な生活をしていたんです。いいでしょう。僕よりお利口ホースはなかなかいないと思うけど、みんなもお利口にして、ちゃんとお仕事すれば、ご褒美もお休みもたくさん貰えると思いますよ。

だけど、実は僕はとっても臆病で、馬場にボロ取りに来た人を見ると180度方向転換をしちゃいます。こんなに敏感な馬いるの？ってみんなにびっくりされました。おぼっちゃまだから仕方ないんです。

ちなみに、僕の毛はすぐに伸びちゃうし、汗っかきだから、北垣さんも1年中僕の毛刈りで忙しそうにしてました。それから、草はあんまり好きじゃなくて、一回踏んじった乾草は食べられません。いつも綺麗に馬房掃除してくれたみんなありがとう。

青学のメンバーとして過ごしてから、まる4年経ちましたが、僕は今は、岡山県の蒜山ホースパークにいます。20歳になってからも、Jr.ライダーのスーパー先生としてたくさん活躍してきました。周りには見渡す限りの広い放牧地に、隣には牛がいて、とってものどかなところですよ。冬は雪が多くて大変だけど、僕を可愛がってくれるみんなの為に今日も一生懸命に頑張ろうと思います。



27. ブルーザベスト



競走馬名：リアライズザベスト
血統：父 アジュディケーティング 母 ウッドマンドーター

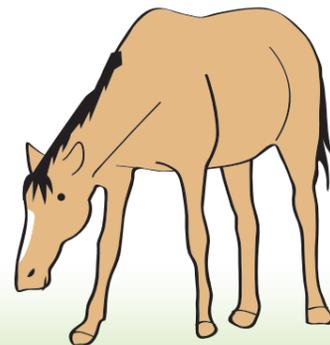
history :

2017年4月 障害馬として東関東より入厩
2018年1月 同期のHさんより、担当馬を引き継ぎ騎乗開始
2018年3月 アパロンの武宮校長に練習を見ていただく
2018年4月～ベスト & 一箭のコンビでさまざまな試合に連れて行ってもらう
2019年11月 (記憶曖昧) 泣く泣く、退厩

紹介文：

私に馬の乗り方と障害飛越を教えてくださいました、スーパーな馬。馬房でもおとなしく非常におだやかな性格だったが、口がかなり敏感で騎乗はやや困難。また会うことができれば、「くそお世話になりました!!! この御恩は一生…!!! 忘れません!!!!」とお伝えしたいです。(form ONEPIECE8巻 サンジのセリフ)

Written By 一箭



28. ブルーライアン

あたしの名前はライアン。え、男の子なのに一人称があたしなのは変?失礼しちゃうわ。確かに名前は男の子みたいだけどあたしは立派な女の子よ。

食べることで寝ることと走ることがだーいすきな。いつもお部屋から顔出しているときは耳を伏せちゃうことが多いんだけど、おやつをもらえるときは別。だって、とっても美味しいんだもの! それと、見て、このツヤツヤな毛とムキムキの筋肉。あたしの努力のたまものなのよ。みんなからはよく力強いね、とかパワフルだねとかいってもらえるの。いいでしょ。いつもやるわけじゃないけど、障害だって飛べちゃうんだからね。すごいでしょ。他にも軽乗だってさせてあげられるのよ!

こんな完璧ウーマンに見えるあたしでも苦手な物があるの。それはね、大きい音。いきなり音が鳴ると本当にびっくりして走り出しちゃうの。それで何回か乗せていた人を落としちゃったことがあるんだけどわざとじゃないから許してね。

こんな私をずーっと可愛がってね!



29. ブルーラパン (競走馬名: アドマイヤイチバン)

かの有名な美浦の戸田厩舎からやってきた、美しい顔立ちとすらっとした身体を持ち主、ラパンを知っている人には、ザ・牝馬という印象が強いのではないのでしょうか。

"競走馬あがり"と言われる馬が青学にやってくることはその当時の部員にとって、予想外のイベントでした。

初めて来た日は、夜中にクラブハウスにも聞こえるほどいなき続け、ソワソワする姿に心配したのですが、少しずつ少しずつ環境に慣れようと頑張ってくれました。

手入れは身体を触られることが嫌!という主張が激しすぎて、頭を悩ませられましたが、マッサージをしてあげると気持ちよさそうにする表情を見たり、ぐいっぽをするからと、水桶を変えて地面に置いてみると、そこら中の乾草を水に浸して美味しそうに食べ始め、ツンデシな女心を掴む喜びを現実社会では奥手?な男子部員に教えてくれました!

まだまだ成長する姿を見たかったのですが、残念ながら2018年に青学からは退厩することになり、今もどこかで元気に跳ね回っているといいなあと思う今日です。



33. アローブルー



- ・旧：ヒーロー、レットフー、アローI
- ・21歳（2001年5月1日生まれ）
- ・セン馬
- ・スウェディッシュウォームブラッド
- ・エクウス宮より入厩、ハートと一緒に運ばれてきた
- ・引取先：相模乗馬研究所
- ・紹介文

ぼくの名前はあろ。スウェーデンから来たよ。ヨーロッパのジャンプの大会で優勝したこともあるんだ！

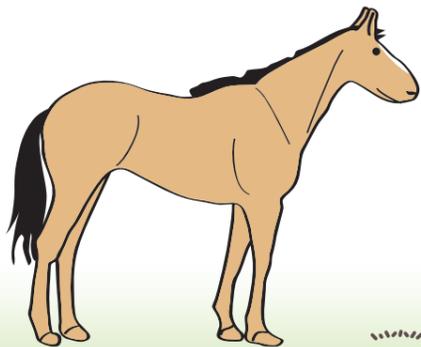
チャームポイントはおでこのクロワッサンとピンクのお鼻。あとはお腹とお尻。気持ちいいからみんなよく触りにくるんだ。

ぼくは食べることがだいすき！にんじん、バナナ、お砂糖、、、でも一番好きなのはりんご！りんごは甘くてジューシーで美味しいよねえ。3食りんごがいいなあ。でも太るからだめって、担当の人が言うんだ。ぼく太ってないのに、ね？

ジャンプも好き。お空飛んでみたいで楽しいんだよね。コースもちょよちょいのちょいだよ。終わったらりんごもらえるしー石二鳥！

馬場は大嫌い。口の中に大きな鉄の棒入れられるし、首痛いし、いや。やればできるけど。冬も嫌い。ぼく寒いのが苦手なんだ。すぐお腹痛くなっちゃうの。でもふすま湯とヒーター、毛布でぬくぬくして、みんながたくさんぎゅーしてくれるから悪くないかも。

ぼくに会った時はたくさんぎゅーしてね。お返しにぺろぺろしてあげる。あ！りんごも忘れずにね！！！！



34. ブルーハート

- ・競走馬時代の名前キーラインセンス

元競走馬の温厚でとても愛らしい顔のかわいいハート君は青学で練習馬として大活躍してくれました。大学で初めて馬術を経験した僕にとってハートはとても大切な存在です。

一番の魅力はおでこにあるかわいいハートマークと穏やかな性格と練習で精一杯頑張ってくれるけなげな様子と…挙げればきりがありません。

僕は右も左も分からない頃にハートで速歩をたくさん練習したり、馬装の練習もしました。腹帯が全然締まらなくて馬出しに遅れそうになったのはいい思い出です。駈歩発進も上手いかずに襲歩を経験した時は少しハートが怖くなりました。でもまた乗った時に良い扶助が出来るようにいつも練習しています。馬房にいる時は乾草を食べていてそれもまたかわいく見えました。寝ていたりしたら勿論写真に収めます。

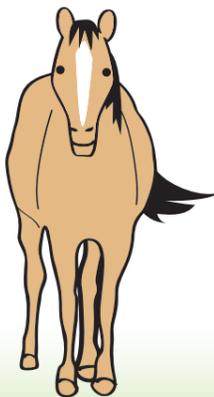
可愛い可愛いハート君は現在、馬術部OBの伊納様の元で元気に暮らしています。いつまでも元気でねハート。おやつたくさん持ってくるよー！



35. ブルーフォセッタ



旧名：メイショウオサフネ、カラカラ
ツンデレかまってちゃんデビドリ
この馬の性格を短く表すならこれ以上ピッタリな言葉は見つからない。
いつもはそっけないフリをしてるけど、自分の馬房の前に人がいるにも関わらず構ってもらえない時は、顔を出してポロシャツのはじっこをちょっぴり噛む。さながらツンデレ女子高生のような、もしくは好きな人には意地悪をしてしまう小学生のような振る舞い。
けれどこっちからよしよしに行くとなんかツンとした態度で接してくるし、身体を触られるとちょっと不機嫌になる…
そんなギャップにイチコロになった部員も多いのではないだろうか。
ちなみに、他の馬に対してあまり興味を示さなかったが、隣の馬房に若い牝馬（ブルーライオン）が引っ越して来た時はストーカーのごとくアピールしまくり、挙句の果てに若干嫌われていた。
彼の乗り心地はちょっぴりゴツゴツ。
慣れない場所だと走る跳ねる、対向馬が来ようものなら立ち上がる！そんなデビドリな一面も持ちつつ、こなす場面ではきっちりこなす。競技になればその歩様の良さで見ると人を魅了していた。
きっと彼が人間だったら、ちょっと性格は変だけど、仕事はできるしなんとなく憎めないヤツ、というポジションだったに違いない。
そんな彼は若干偏食で、特に長い乾草は食べなかった。毎日のルーティンは乾草を馬房に散らかすこと！「茶摘み」と称された彼の馬房の乾草拾いはきっとほとんどの部員が経験しているだろう。
フォセッタは2022年1月に青学馬術部を退厩。御殿場にある相模乗馬研究所で余生を過ごし、2022年10月に亡くなった。



36. ブルーベリー

私はブルーベリーっていうの！今年で23歳になる牝馬です。
今は山口県の牧場に住んでいるけど、青学馬術部には長い間お世話になったわ。みんなからは「ベリーちゃん」とか「ベリー」って呼ばれていたわね。
青学時代は大変だったわ〜。ベテランだし従順だからって理由で新入生に乗られることも他の馬と比べたら多かったし、大会にも沢山出たわ。足腰は痛いし、山梨や津久井の競技場になんかは行き過ぎて、馬場からの道を覚えちゃったわよ〜。
でも、今振り返ると青学時代はすごく楽しかったわ！誕生日には部員がケーキを持ってきてお祝いしてくれたり、運動後にはマッサージなんてしてくれる部員もいてとっても愛されていたからね！練習馬だった時期もあるから1年の時に背中に乗ったり、世話をしてくれた部員が上級生になって卒業していくのを見ると人間の成長をととても感じる事ができて嬉しい気持ちになれたわ。
山口県はのどかで良いところよ。OGの友座さんが私のために立派な厩舎を作ってくれて瀬戸内海のおだやかな海に見える林のプロムナードが広がる放牧場で毎日相棒のゴー君と楽しく幸せにすごしているのよ。みんな人参と角砂糖をもって遊びにおいでね！
P.S. ちなみに netkeiba ってサイトで「パークリーマアコ」で検索すると私が競馬場で走っていたころの記録が見れるわ〜！



37. ブルーキャンディー



僕は2019年の5月にブルーキャンディーって名前をもらって青学の仲間入りしました。それまではキャンディロックって名前で競馬の世界にもいたことあるし、騎手育成のお手伝いもしていたことあるけど、アバロンや町田の馬場で過ごした約3年はなんだかとても平和だったよ。みんなは僕のこと、反動は高いし、八方美人でも甘え上手でもないけど、骨太ですんぐりむっくりしたクマのような体付きや、のんびりマイペースでとにかく健康なところを褒めてくれたり、喜んでくれたり、好きになってくれたみたいだけど、僕も、毎日美味しい草を切らすことなく吊るしてくれたり、ポカポカのふすま湯やにんじんのサービスも忘れずに、手入れの時はやけに時間をかけて念入りに撫で回してくれるみんなのこと、まんざらでもなかったよ。本当はすごく大きい障害も力強く飛べるんだけど、みんなが背中からいなくなっちゃうこともあったなあー。なんでだろ。

右手前の輪のりが大きく膨らんじゃっても、たまに跳ねちゃっても、ラチを押し倒しながら葉っぱを食べても、特別な青草を一瞬で食べ切ってしまうとも、みんなは僕のこと怒ったりしないでいつも優しくなな。ありがとう。だから、みんなに心配かけたり迷惑かけたりしないで元気な姿の記憶のまま、みんなに知られない瞬間を見計らってお先に天国ってところにワープしたんだ。びっくりしたでしょ。それにしてもいい3年間だったなあー！たまに町田の桜の木の下に砂糖玉（キャンディロック）落ちてないか見に行くから時々思い出してもらいたい。僕もみんなが立派なホースマンに育っていく姿を見守っているね。

38. キャラメルブルーパフ号



2020年11月 厚木グリーンフィールドET 池田忠様より貸与馬として入厩。2022年2月 池田様の元へ帰厩。
月毛の輝く小さなスレンダーボディとイケメンなお顔が自慢の僕はキャラメルブルーパフ！仲良くなったらパフって呼んでも良いけどね。え、イケメンじゃなくて可愛い？！悪い気はしないけど…。プリプリオケツは意外と固いのサ、ポニーだからってまん丸お腹は嫌だから、一生懸命走るし小野路公園までお散歩にも行くんだ。餌はほんのちょびつとで良いんだ、すぐお腹いっぱいになるから乾草を藁がわりに寝ちゃうしね…。部員の皆が僕専用の扉を作ってくれて、おまけに陽当たり抜群のサンシャイン付き馬房に入れてくれたんだ！まあ隣のやつらは大きくておじさんのくせに僕に構って欲しいみたいでちょっと面倒だけど！でも本当は仲良しなんだけどね、ほんとうは。調馬索をかけられたってへっちゃらだよ、なんたって休みたくなったらその場でお饅頭みたいに寝転んじゃえば良いんだから。ハート君とかアロー君がやったら怒られるけど、僕はちいこくて可愛いらしいから皆メロメロになって許してくれるのサ。あっ！乗らないで～！！

39. ブルーシェヴィニオン

僕、しえび。Chevignonって書くの、カッコいいでしょ。ちえびのんじゃないよ、シェヴィニオンだよ。

2002年生まれのベルジャンウォームブラッドで、趣味はお友達のアローくんとパフくんと遊ぶ事、特技は変顔。チャームポイントは、ぶるぶるの唇かな。

栃栗毛っていうチョコレートみたいな珍しい色で、靴下4本履いて、おしゃれには気を遣ってるんだ。

僕の自慢は大きな体と、大きな声！僕の足跡は恐竜みたいに大きいんだ。友達と遊んでいると、つい声が出ちゃうんだけど、近くのコンビニまで僕の美声が響き渡っているみたい。

ベルギーから日本にやってきて、昔は大障害を飛んでいたんだけど、ちょっと足を痛めちゃって、今はばばばじゅつを頑張っているよ。（関東学生賞典馬場馬術大会出場）

実はちょっと怖がりで、野球部が隣で練習していると、僕の心は大騒ぎ！僕の心臓の音が、背中に乗ってる人に届いちゃうくらい、ドキドキしちゃうの。だれかこのドキドキを止めてっ！（青学で約2年試合馬として活躍後、I&Iステーブルさんの元へ引き取られました。



40. ブルーリリイ

男の子と間違えられるほどのたくましい体でパワフルな足音と蹴音を響かせる、天性のマイペースといえはこの馬。黒く縁取られた耳がチャームポイントのブルーリリイ号だ。

一緒にきたナポレオンのオマケという前情報を振り払うかのように、障害・馬場ともに試合に貢献、馬場では関東学生賞典に出場するほどの頑張りを見せてくれた。試合会場でも普段の落ち着きを忘れず仕事をこなす姿は頼もしく、毎試合爆睡している姿は緊張する私たちを和ませてくれた。そんな彼女は大型犬かと思うほど表情豊かでこちらに喜怒哀楽をぶつけてきてくれる。嬉しい時はパッチリおめ目をキラキラさせ、おやつをもらおうとその目をとろんとさせて味わう。この表情がたまらなく愛おしい。一方、イラつくど蹴りと前掻き、挙句の果ては噛み。字面だけ見るとなかなか暴君だ。ただ、これらはあくまで感情表現であり、人に危害は加えない。ある種のかまちょである。

万人受けの愛嬌は無いが、1度関わってしまうとあまりの魅力に虜になってしまう、そんな彼女が深い愛情とともに幸せに暮らしていけることを願うばかりだ。

2023年4月に青山学院大学馬術部を退厩し、千葉にあるインターアクションホースマンスクールへ



現在、繋養している馬匹(2024年3月現在13頭)

41. ナポレオンブルー



競走馬時代の名前：ナポレオン

「彼氏にするならナポレオン」後輩女子にそう言わせるほどの魅力をこの馬は秘めている。つやつや黄金色に輝く栗毛の身体。白靴下を履いた後肢は、父ハービンジャーとの血の繋がりを感じさせる。左目の三白眼はきょろきょろとよく動き、ある時は仔馬のように幼く、またある時には夕日を浴びて哀愁漂う様子を見せる。このナポレオン特有の表情に我々はもうめろめろである。ナポレオンの性格を一言で表すとすれば「勤勉」だろう。ひとたび人が跨がれば、熱心に馬場を走り回り、障害を飛び、我々の練習を大いに支えてくれるスーパー練習馬。軽い合図一つで安定した走りを披露する。乗り心地はオートマの車さながら。そのため、ナポレオンに乗った人はもれなく「あれ？僕/私はどうやらかなり上手に乗れるようになったらしい。」と思うのである。

そんなナポレオンだが手入れの時にはちょっぴり部員を困らせる。ブラシをかけた途端にジトっとした目で見つめてきて、ひばらやお腹を触ろうものなら強烈なキックを繰り出す。拳句の果てにシーソーよろしくバタバタと跳ねだしたときにはもうお手上げである。しかし、キックはあまり人に当てる気がないようでやはり気立てのいい馬である。

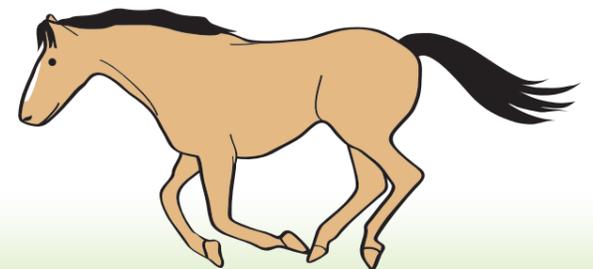
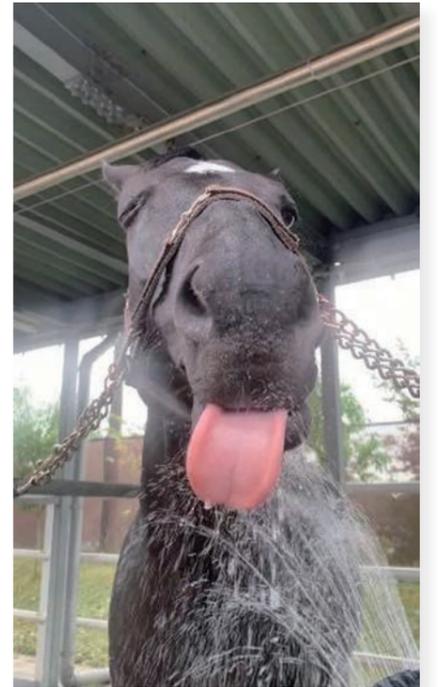
そんなナポレオンは現在10歳でまだまだ現役。これからも青学馬術部で大大活躍すること間違いなし。みなさま英雄スーパーウルトラ練習馬☆ナポレオンブルーにご注目！

42. メイブルーメイ

私の名前はメイブルーメイ。みんなからはメイメイとかメイちゃんって呼ばれてます！2022年1月に青学に来たんだ～。最近流行りの診断だとブルベ冬の骨格ウェーブで、まんまるのお腹とお尻がキュートでしょ？自分で言うのもなんだけど、青学ホースの中で1番可愛いのは間違いなく私ね。人間たちみんな「顔はいい」ってしてくれるけど、「顔も」いいのよ。失礼しちゃうわ！！インスタでも大人気で、放牧の時にオナラしながら駆け回る動画がバズったこともあるの。生きてるだけで何かとストレス溜まるじゃない？だから定期的に放牧してもらわなきゃ困るわ。こないだなんて調馬索のときに、いきなり立ち止まって寝っ転がってやったんだもんね～！私を調馬索したければお砂糖1袋献上しなさい！

自分が運動するのは嫌だけど、ほかの馬たちが運動してるところを見るのは好きなの。よく馬房から顔を出してみんなの顔を見てるよ。こんなに可愛くて人気者の私にも、実は苦手なことがあるの、、、それが、試合！！！！見たことない馬とか人とか馬房とか、もう何もかもいつもと違うから緊張して、ちょっとテンション上がっちゃうんだよね。てへ。

目指すは下級生の練習も試合もこなせるハイスぺガール！！いっぱい頑張るから、可愛がってね♡



43. ブルーヤヨイ



栄養斑がビッシリで、部活一番の大人の美を魅せるブルーヤヨイ。彼女は我らがOGで、コーチとして部員を見守ってくださっていた高梨コーチ（元）のご支援で青学に来ました！馬場の練習馬・試合馬として大活躍の馬です！いつもお庭でのほほんと日向ぼっこをしている落ち着いた彼女ですが、我が強いので、騎乗練習は部員から少し恐れられています…常に冷静沈着で他の馬とも仲が良く、大人の女性を思わせるヤヨイですが、実はキラキラしたものが苦手な可愛らしい一面もあります。騎乗面でも作業面でも、ヤヨイからたくさん学ぶことが出来ました。いつまでも元気で、部員をいっぱい鍛えてあげてね！！

44. ブルールシファー

サラ 鹿毛 競走馬名タガノルシファー

2014年4月30日、今年で9歳

ボクの名前はルシファー。

現役時代は一戦だけ、鮫のマークの黄色いメンコをつけて阪神競馬を走ったことがあるんだ。

そんなボクは去年の春に青学にやってきた。今は練習馬兼試合馬として、下級生を乗せたり、障害の試合に出たりしてるんだ！運動中はボロが出るまではすごい重くていつも人間を困らせてるかな。だから一年生はボクに乗るのが嫌なんだとか…ボロが出た後はびっくりするほど動きやすくなるのに。それと隙を見てすぐ厩舎に帰ろうとするのは内緒。おさぼりとか言われちゃうけど、試合会場に着けばけば盛り上がりちゃって、コースも満点でリボン取って帰ってきちゃうよ。でも出番が終わるともう町田に帰ることしか考えてないんだ。

手入れ中はずっとあくびをしたり、ぼーっと遠くを見てたり。嫌なところを触られるとちょっと怒るけどね。お気に入り小さい青いブラシとたてがみシャンプー。

昔から馬房の中に人間が入ってくるのは嫌いで、ボロ取りをしてくれる当番さんをよく驚かしちゃうんだ。本気で噛みに行ってるわけじゃないんだけどね。

ちなみにボクはとにかく草が大好きで、乾草庫を開ける音がすれば一番に馬房から顔を出すよ！あとふすま湯も、気づいたら輪車一杯分平らげちゃうくらい大好きなんだ！

苦手なものは馬運車と獣医さん。馬運車の上り下りがへたっぴでまだちょっと慣れないな。それと注射が怖くて獣医さんが近づいてくるだけでへっぴり腰になっちゃうの。

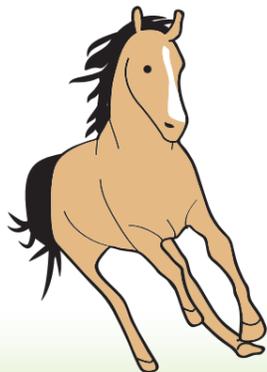
ルシファーなんて悪魔みたいな名前だけど、ラテン語で光をもたらすものという意味もあるんだって！これからも青学馬術部で輝けるように頑張るよ！



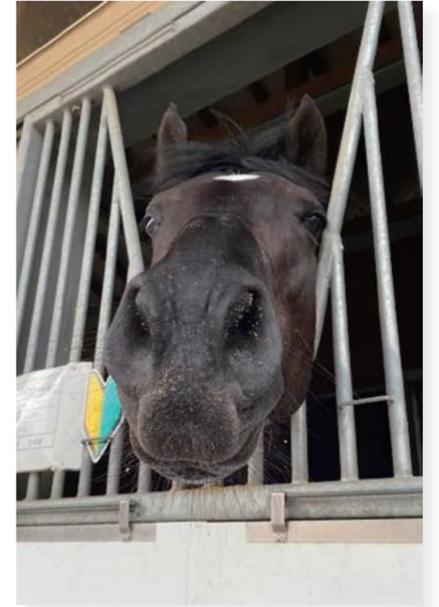
45. ブルーフォーエヴァー



旧名: BUM フォーエバー、エマ・ライツェント
 こんにちは！レナです。みんなどうして、私がレナって呼ばれてるか不思議に思ってるでしょ。実は、ドイツの厩舎にいた時にレナって名前をつけてもらったの。ドイツの思い出はもう1つ。仔馬時代に、右耳の先っぽを他の仔馬に齧られて切れちゃったんだ。
 お世話してくれる担当さんたち曰く、私は人気者なんだって。確かに、人を乗せる時は必ずお砂糖をもらえるし、試合会場に行くとき可愛いわってみんなが振り返る。そうそう、この間はわざわざ馬房の前まで見に来た人もいたわ。でも、競技に出ればしっかりお仕事してハーフパスもビルーエットも華麗にこなすからギャップがあるみたい。そんな私のモテる秘訣はこだわりのふわふわ前髪とちょっぴり、ぽっちゃりなところ。このぽっちゃりボディを保つにはしっかり食べなくちゃね！この前、馬房の前に掛けてあったニンジン5本を夜こっそり食べて体型キープ！だけど、ちゃんとおがに袋を埋めて隠蔽したのに翌朝の馬房掃で見つかった。りんごも食べようとしたけど、一口齧ったら転がっちゃって失敗。でもね、食べてばっかりじゃないよ。馬場馬術の項目はお茶の子さいさい。全部私に任せてね。普段はぼーっとしてるなんて言われてるけど、やる時はやるんだから。試合によく出るからみんな私のかっこいいところ、見に来てね！



46. ブルーバロール



「走れ走れ！」なんて3ヶ月前まで言われていたのに、この町田馬場とやらに来てからは、ずっと速歩で同じ丸をえがいてばかり。なんだか飽きてきちゃったな。あっちではナポレオン先輩とルシファー先輩が部班ってやつをやっているみたい。「バロールも早く立派な練習馬になって他の馬と部班しようね。」なんて言われてるけど、これでも高知競馬では結構活躍していたんだから！でも僕の兄弟は、走らずの三羽ガラスなんて呼ばれてみたい…。ふう、どうやら丸に走り続けるのも楽ではないらしい。練習終わりのお湯が美味しいんだよね、寒い冬の時期には特別ね。あれ、お湯じゃない！ふすまが入ってるぞ！こんな美味しい飲み物飲んだことないよ、ねえもっとちょうだい！「また明日練習頑張ったらたっぷりあげるからね。」草も沢山貰えるし、寝床はふかふかだし、ふわふわだねって小さいね、可愛いねって褒められるから僕頑張れちゃう。
 明日も沢山ふすま湯もらえますよーに。3歳の幼いバロールより。

47. ハプナブルー

私の名前はハプナ。元々はフォンスヴィーテっていう名前が競馬場にいたの。今年の5月に青学に来てからハプナって呼ばれるようになったんだけど、元の名前の「生命の泉」っていう意味をハワイ語にしたんだって。かわいいでしょう？私の魅力はなんといっても綺麗な芦毛！聞くところによると青学に芦毛の馬が入厩するのは10年以上ぶりらしいよ。私は馬房の中で寝転がるのが大好きなんだけど、毎朝担当の人が私の体を見て「汚い！」って苦笑いするの。他のみんなはそんなことされてないのに、馬出しのうんと前に馬房から出されてスポンジでゴシゴシされるし。はあ、白い美貌を保つのも簡単じゃないのよね。練習中は人の言うことをちゃんと素直に聞くよ。だって、怒られたくないじゃない！この前なんて、ラグビー部の大きい人たちを乗せてあげたりもしたんだから。でもまあ、人間のことは好きだから、馬房の前まで来てくれたらファンサービスいっぱいしてあげてもいいよ？これからも私の可愛さに免じて、白い美貌を保つお手伝いをよろしくね。



48. ハッピーソナブルー



現役時代はメイクミーハッピーという名前で全国の競馬場で走っていました。名前に入っているソナはアイルランド語で幸せという意味です。みんながハッピー！ハッピー！と呼ぶのでハッピーがいるだけで馬場が明るくなります。父はかの有名な芦毛のクロフネ。お父さんから譲り受けた白い毛は栗毛の馬体を淡いオレンジ色に見せてマイペースなハッピーの雰囲気よりミステリアスに見せます。見た通りおっとりした子で、とっても優しいので下級生や高校生でも安心して手入れをしたり曳馬したりすることができます。いつだって素直に人間についてきてくれるハッピーですが、運動に行くのは嫌なようで、馬装が終わってさあ今日も頑張ろうと馬場に向かおうとすると、踏ん張って控えめに「行きたくありません。」のアピール。結局担当が持ってきたおやつにつられて馬場まで来たら気持ちを切り替えて運動に前向きになるのが、なんと真面目で私も見習いたいものです。下級生の部班運動から障害の試合まで、様々な場面で活躍するハッピーは本当にナイスガイ。見た目も中身も今どきのイケてる草食系男子です。なんととも言えない魅力に包まれたハッピーがこれからも健康でおいしいものをいっぱい食べられるように担当一同サポートを頑張ります！

49. ブルーリンクス



12月に入って新しく入厩したブルーリンクス号。北海道からやってきました。14歳の騙馬で2020年まで競走馬として走っていました。実は大井の帝王的場文騎手の7000勝メモリアルホースなんです。馬運車から降りるやいなや、モフモフ毛をみた部員は早くも魅了され、本当にサラブレッド？ドサンコが来ちゃった？と思う部員もチラホラ!! 性格はさすがのベテランホースかとおもいきや中身は赤ちゃん。おしゃぶりが大好きで何かくわえていないと落ち着かなさそう。曳馬中は人にちょっかいをかけまくり、怒られると少しへこみます。でもすぐ忘れま。大きな体でジャンプする姿はまるで山猫。しなやかな体でどんな障害もダイナミックに跳びます。リンクスは障害競技馬として試合に出場する予定です。どんな高い障害もともに飛べるよう人馬の絆を築いていきます！

50. マゼブルー

12月にリンクスと一緒に北海道からやってきたマゼ。つい5か月前まで船橋競馬場で走っていた大型ルーキーです。丸くてムチムチの体は部員たちの視線をくぎ付けにします。まだまだ乗馬になって日が浅いのですが、練習を重ねながら毎日人馬ともにたくさんのお話を学びながら成長しています。運動中に嫌なことをされると前脚で猫パンチをして怒りを表現するおちゃめな一面も。たくさん食べてたくさん運動してたくさん寝る大大健康優良児。エネルギーはじける彼の今後の活躍に注目です！



51. ブルーブレイヴ

ボクはブレイヴコールっていう名前です。この前まで競走馬として走っていたんだ。兵庫ダービーで勝ったこともあるんだよ。担当さんが言うにはボクは青学馬術部の大型新人アイドルなんだって。でっかいエクレア形の流星とピンクのまあるいお鼻、ぷりぷりのお尻。そして何よりとびっきりの愛嬌でみんなはボクにメロメロらしい。そんな完全無欠なアイドルことボクの一日は当番さんの扉を開ける音で始まるんだ。ごはんは乾草よりもペレットが好きかなー。みんなが馬場で運動していると厩舎から見学してイメトレ。自分の運動に備えてるんです！鞍を乗せられたらいっぱい障害をジャンプして、乗ってる杉本くんがたくさん褒めてもらうんだ。みんなもボクをもっともっとほめたっていいんだよ？ボクの特技は両面コロコロ。放牧に行くと綿密に体の両面に砂をまぶして真っ白になるのが楽しくて仕方がないんだ！担当さんは飽きずにボクの姿を動画に撮りながら「きゃー！ぶーちゃん！」って悲鳴をあげているけど僕は気にしないのサ。



52. ブルーマックス



慶應から電撃入厩しました。はじめまして！経験豊富な二十歳のおじいちゃんホースです。過去には賞典障害や賞典総合でも活躍していましたが、これからは馬場馬として頑張ってもらおう予定です。馬のことが大好きで隣に馬がいなくなると鳴いてさみしがります。慶應のお兄さんたちからとても愛されていたようですごく別れを惜しまれていました。これから一緒に頑張ろうね！

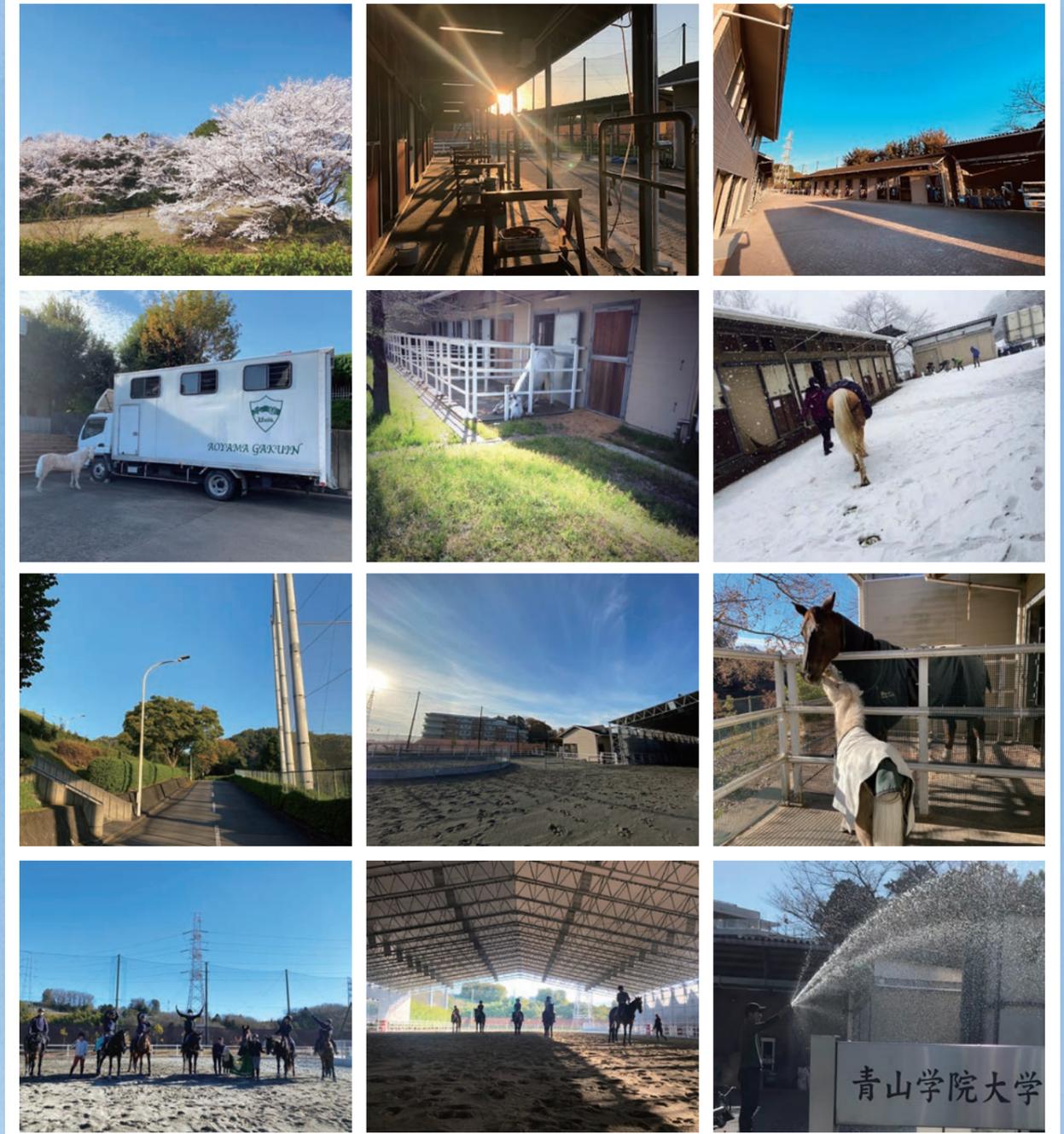
53. ブルーライトニング



現役時代はニシノライトニングという名前で地方中央ともに走っていました。まだまだ乗馬になって日が浅いので、毎日調馬索でぐるぐる回って練習しています。とっても穏やかでかわいい顔をしているのでまだ入厩して数日ですが、すでにファンを作りつつあります。これからどんな風に成長してくれるのかとても楽しみです。人馬ともに一緒に成長できるよう毎日コツコツ頑張ります。

町田馬場

Machida

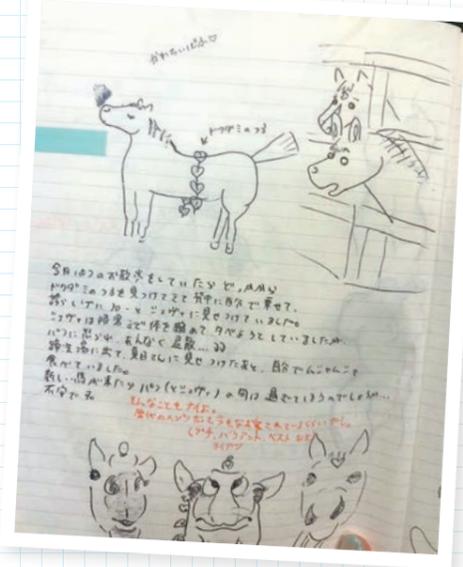


二人六脚 (交換日記) Exchange Diary

コロナ禍により部活動が制限され、顔を合わせて話す機会が激減した部員たちは交換日記をつけることでコミュニケーションを取り始めました。交換日記は福音書やデスノートなどと名前を変えながらも、パンデミックが収束した後も続いています。ある者は活動終わりにお昼ご飯を食べながら熟読し、ある者は当番の時に力作をしたためています。馬たちが見せてくれる思いがけない表情や部員の個人的ニュース、クスッと笑える日常系からブラックジョークまでなんでも書いてあります。そんな交換日記の一部を抜粋しました！

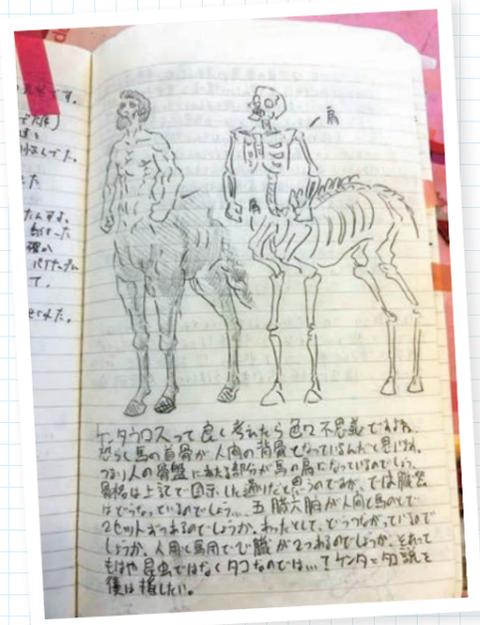
1. 2021.8.20 パフ

今日パフのお散歩をしていたらどこからかドクダミのつるを見つけてきて背中に自分でのせて誇らしげにアローとシェヴィに見せつけていました。シェヴィが食べようとしたのですがパフに怒られあえなく退散…パフは蹄洗場に出て夏目さんに見せつけた後自分でムシャムシャ食べていました。



2. ケンタウロス = タコ説

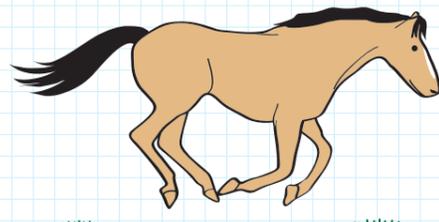
ケンタウロスってよく考えたら色々不思議ですよね。おそらく馬の首骨が人間の背骨となっているんだと思います。つまり人間の骨盤にあたる部分が馬の肩になっているのでしょうか。骨格は上記で図示した通りだと思うのですが、では臓器はどうなっているのでしょうか…五臓六腑が人間と馬とで2セットずつあるのでしょうか。あったとしてもどうつながっているのでしょうか。人用と馬用で心臓が2つあるのでしょうか。それってもしかた昆虫でもなくタコなのでは…？ケンタウロス = タコ説を僕は推したい。



3. 2021/7/25

馬術部員の朝は早い

いつも6:15の電車に乗ってくるのだが昨日の起床時刻は6:03。うっそだろおい！
前日の晩に荷物の用意をしていたのが不幸中の幸いといわんばかりにパジャマ+メガネ+クロックスで駅まで猛ダッシュ。犬と散歩中のおじさんとすれ違ったが、早朝に髪を振り乱して走る曇りメガネの変質者をどう思ったんだろう。



4. 2021/?/? ナポレオン

久しぶりの今村です。ナポレオンの名前の由来に「人名より。身体が小さくても偉大な功績を残して」とありました。かわいい！！あの武豊騎手が乗ったことが4回あります。クラブハウスの1月のカレンダーに載っている人と同じ馬に乗れるなんてなんだかすごいなあと思いつつナポレオンに乗っています。

6. 2021/9/20

密着 高柳コーチに迫る！

皆さんは高柳さんの特殊スキルをご存じだろうか。そのスキルとは汗で世界地図を描くことだ。すでにオセアニア、ハワイ、南アメリカ大陸の観測が報告されている。高柳さんはこのスキルについてかなり気に入っている様子なので会話に困った部員はこの話をしたら距離が縮まるかもしれない。そろそろ秋になるので今シーズンは見納めになるだろう。果たして世界地図を完成させることはできるのだろうか。高柳さんの戦いは続く…

8. 崖の上のポニョ替え歌

ハートハートハート お馬の子
遠い名古屋からやってきた
ハートハートハート ふくらんだ
まん丸ほっぺの男子

10. 2023/1/27

4月から、マスクをつけなくて良くなるらしい！

11. 落馬

朝7:30頃ミユキが落馬。人馬ともに大丈夫そうで良かった。ハート君は草食べてた。

5. 2021/2/26

本当にあった怖い話

深夜1時クラブハウスの2階に向かって階段を上っていると足に何かが触れた。反射的に足元を見ると黒いものが転げ落ちていく。何か落としたかと思ったがその物影の落ち方や触れた感触は明らかに物理法則に違反していた。それはねずみであった。

7. 2021/7/18

青学のお馬ちゃんたちの 栄光特集

馬名	競走馬名	勝利数 / レース数	総賞金 (万円)
ブルーキャンディー	キャンディロック	2 / 16	31
ブルーフォセッタ	メイショウオサフネ	3 / 56	4128.4
ブルーベリー	パークリーマアコ	4 / 22	1403
ブルーハート	キーライセンス	0 / 6	0
ドレミファブルー	ドレミファドン	6 / 51	10296.1

みんな厳しい競争社会の中で生き残ったんだと思うと、涙ぐましいというかさらに愛が増しました。みんなそれぞれの馬生があるんだなあ。

9. 2022/12/26 別れの季節

この前誰かに「高橋と原は2人にいるとき何を話しているの？」と聞かれました。日本の教育について熱く語り合っています。本当です。これでも立派な先生の卵なので、意外と真面目なのです。そして私は4年生が卒部されて、お別れの時にいちいち涙を流しています。そんなに涙もろいタイプじゃないはずなのに、ポロポロ泣いてます。そろそろ泣きつかれました。この調子だと自分の卒部の時は脱水になってしまいそうで今から心配です。

12. 徒然馬術部

今日もいっぱい掃き掃除した！
暑かった！今日もある脱走した！！！！

13. 距離感

さっき歴代の交換ノートを見ていたら「そういうばこういうこともあったな」と思い出すことが多くて面白かったです。特に1年生だった去年の夏あたりまでは〇〇君とか〇〇さんって名前を書いていて、今と比べて距離があったんだなあと感じさせられました。今なんてみんな呼び捨てなあ。

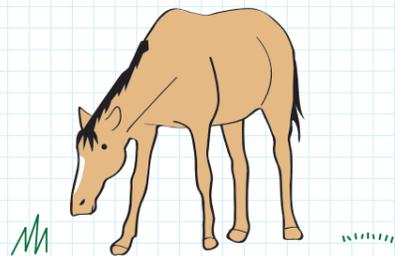
15. アルバイト

皆さんがバイトについて書いているので私も書きます。飲食店なのでグリストという下水の掃除を順番でしなければならず先日ついに私の番が回ってきました。先輩がトレーニングしてくれるのですが、「マジでくさいし、汚いから〜」と脅してきて私の反応をたのしみにしていました。対する私は毎日ハブナのボロ水に手を突っ込んでいるので全く動じることなく、ゆーてコーヒー豆のカスタとか布みたいな汚い油の塊が浮いているだけでそんなにくさくないし、全く平気でした。というか人としゃべるのが苦手なので一生グリストでもいくらいです。あと店内にねずみが出てみんますごくビビっているのですが、さすがにねずみの死体を掴んだエピソードを語ったら私の変人 Level が Max になってしまうので、ヒ・ミ・ツにしておきます。

18. 100周年記念交流 with ラグビー部

ラグビー部と交流した感想

- ・でかい
- ・すね毛が生えている人と生えていない人がいた
- ・最初は馬に圧倒されていたが次第に慣れてきていた
→馬も部員も頑張っていた
- ・ラグビー部のユニフォームをもらってうれしい。パジャマにしようかしら。
- ・タックルしたらほめられた
- ・装蹄師さんがびっくりしていた



14. わずみふたたび

この前福田と当番だった時の話。一人で乾草倉庫を開けたらねずみがいて、「れいらー！」って叫んだんですけど福田が2階から降りてこなかったんです。そしたらLINEで「呼んだ？」ってだけ来て少し悲しかったです。

16. 久しぶりに会った友達

久しぶりに会った友達に「馬術部のインスタ見つけたけど主将さんとってもキラキラだね！意外！」と言われました。これ遠回しにdisられていますよね。ごめんねいつもモサモサで…。

17. 小梅太夫

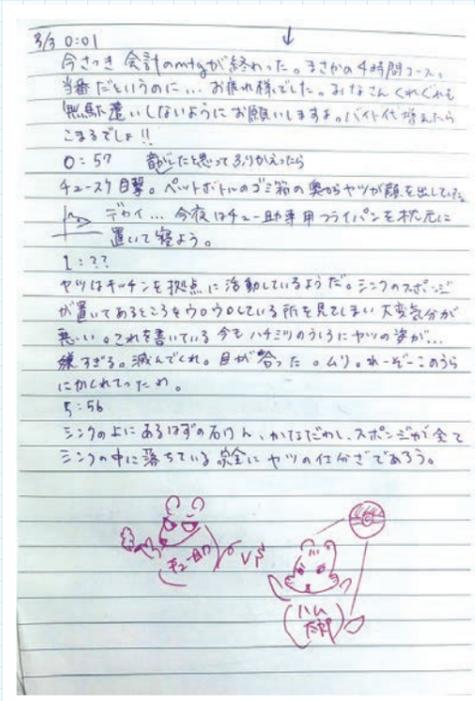
今日ずっとチャンチャカチャンチャン〜♪と小梅太夫の音頭をうたっていたら原◎がこういう顔で見て、「何〜？」って言ったら「小梅太夫嫌いです。」だって。ゴメンナー！

19. 抱負 (2023年)

- ・健康的に痩せる (1年Iさん)
- ・お利巧&お行儀よく (1年Mさん)
- ・健康 (1年Yさん)
- ・交通安全 (1年S君)
- ・無断欠席&ふて寝しない (1年U君)

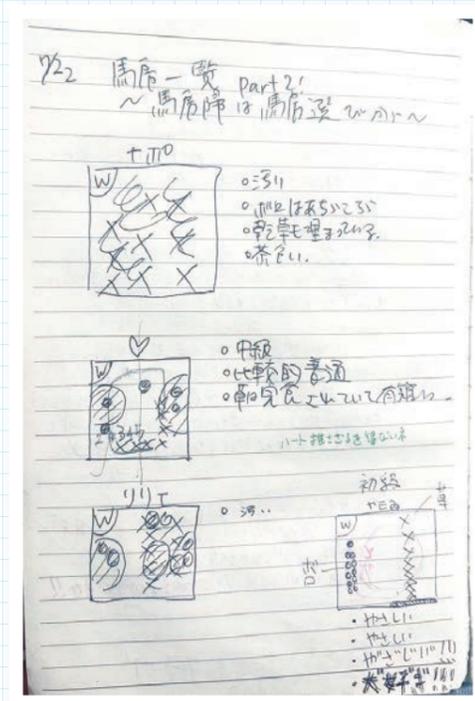
20. 大学生

履修ってむずかしいー！



21. 私って馬術部なんだよわ って自己紹介したとき

- ・え〜！すごーい！
- ・馬乗れるの？
- ・かっこいいね？
- ・馬術部？何それ？
- ・え？魔術部？



100年をむかえた現役たち Photo Album

春



桜舞う春。



馬たちの誕生日を祝いました。



SHIZUOKA ホースショー



御殿場市馬術・スポーツセンターにて

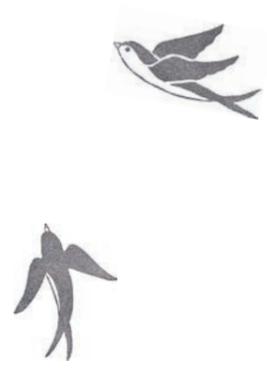
新歓



新入生獲得のため一肌脱ぎました。



ご本人様。



森本ステーブル (北海道)



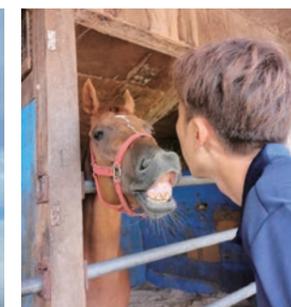
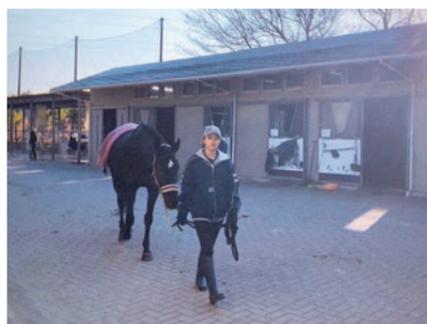
軽種馬育成総合施設 (BTC) 見学



新入生



かわいい後輩が12人もできました!



夏



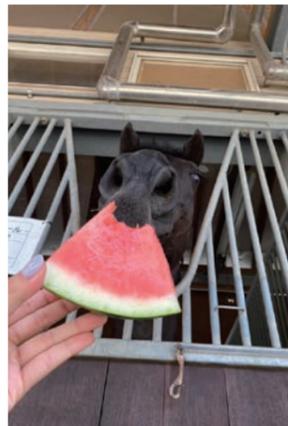
高梨コーチのお誕生日を皆でお祝い



ラグビー部との100周年記念コラボ



ユニクロのポロシャツは涼しくておすすめですよ！



夏合宿



騎乗だけでなく座学でも馬への理解を深めました。



筋トレをして体幹トレーニング。



エクイテーションスクールジャパン様(長野)にて

関東学生



金子&ブルーフォーエヴァー号



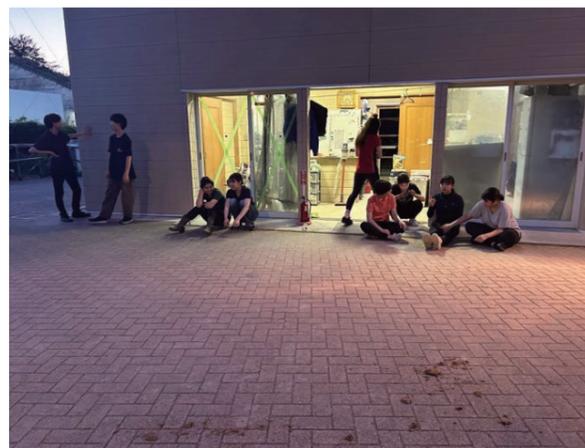
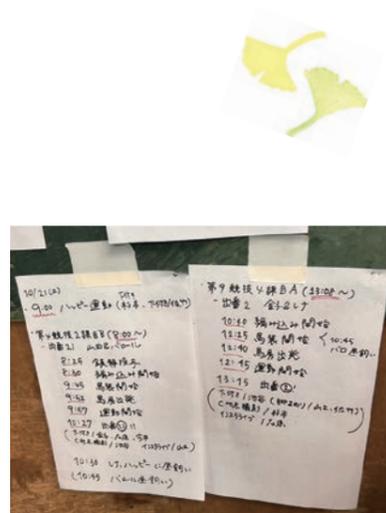
神奈川 HS



JEF 馬場馬術競技 第4 課目 A 2022 第1 位金子&ブルーフォーエヴァー号



障害飛越競技 50cm 第3 位池谷&ブルーパロール号



試合組の到着を待つ町田組

100周年記念パーティー



緊張しました。

自馬大会





四送会 / 納会



日常



飼料講習会



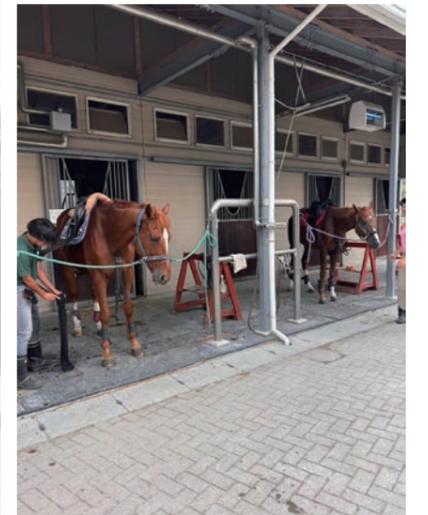
交流戦



(成城大学・成蹊大学・青山学院大学馬術交流戦)



(学習院大学馬術交流戦)



新人戦



池谷&ブルーリンクス号



小西&ハッピーソナブルー号



見送るレナ

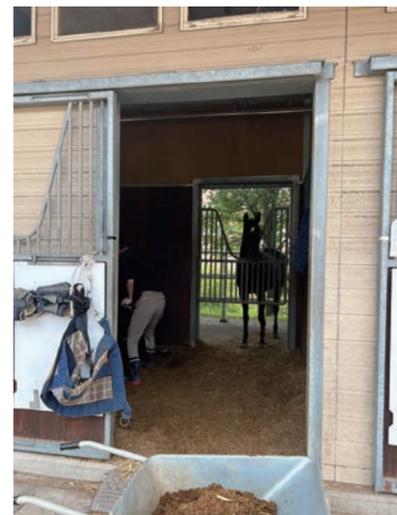
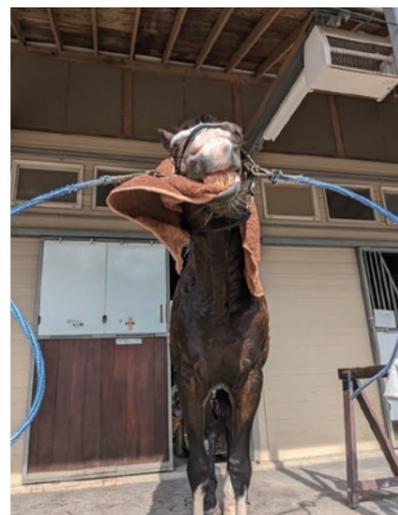




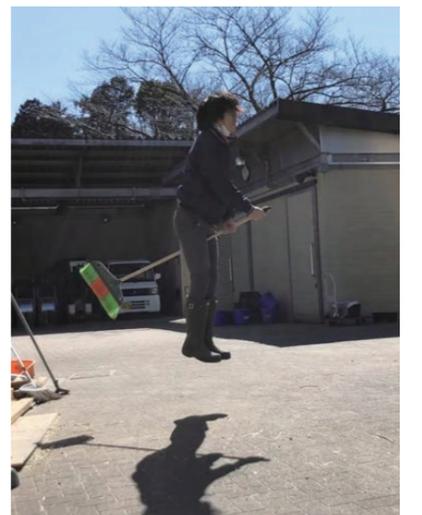
やぶれた馬着を縫う早川



ブルーキャンディー号の命日

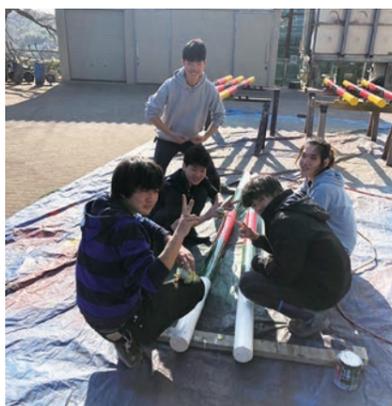


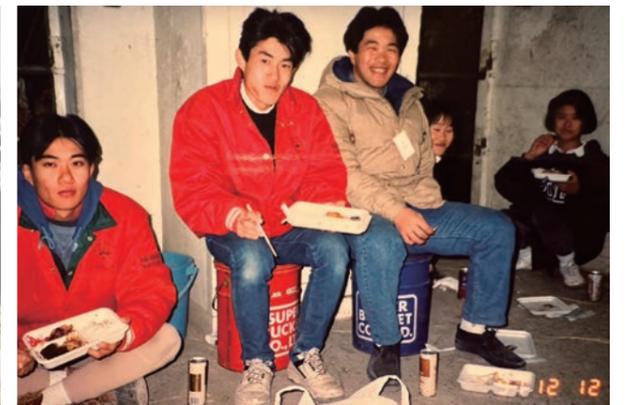
馬房掃除が終わるのを待っているメイメイ



いなき18号以降を中心に Photo Album









いななきと 馬術部100年のあゆみ



年表 History

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
1874 (明治7)	<ul style="list-style-type: none"> ●ドーラ・E・スクーンメーカー、津田仙の助力を得「女子小学校」を麻布に開校 ●これを青山学院の源流とする ●自由民権運動始まる ●東京警視庁創設 	<p>●馬術部はこれより49年後に「乗馬部」の名称で誕生します。後述の参照4として部誌「いななき」各刊の〈目次〉を記載しました。其の時代、年代を多少なりとも思い浮かべて頂ければとおもいます。</p> <p>尚、「いななき」各刊はインターネット上の馬術部ホームページ「青山学院大学馬術部」の中にある「いななき」から閲覧出来ます。</p>	
1883 (明治16)	<ul style="list-style-type: none"> ●ジョン・F・ガウチャーの寄付により青山に土地購入「東京英和学校」とする ●陸軍大学校開校 ●鹿鳴館落成 ●オリエント急行運行開始 		
1894 (明治27)	<ul style="list-style-type: none"> ●「青山学院」と改称 ●日清戦争 ●葉山御用邸完成 ●ロンドンタワーブリッジ開通 		
1904 (明治37)	<ul style="list-style-type: none"> ●日露戦争 		
1906 (明治39)	<ul style="list-style-type: none"> ●「青山学院財団法人」設立 ●新宿御苑開園 ●サンフランシスコ地震 ●アテネ五輪 		
1923 (大正12)	<ul style="list-style-type: none"> ●9月 関東大震災 ●インターポール設立 	<p>6月 乗馬部として承認 習志野騎兵第14連隊に特別に出入りを許され、有志により「乗馬部」の名称で創部。代々木・井上乘馬クラブ毎日曜、赤坂見附憲兵場、士官学校で練習。</p> <p>●創部記事は全文を後述の参照1に記載。</p>	
1925 (大正14)	<ul style="list-style-type: none"> ●ツタンカーメン王・王墓発掘 ●5月 普通選挙法が成立(満25歳以上の男性のみに選挙権を付与) 	<p>12月 馬術部第1回競技会</p> <p>●抜粋記事を後述の参照2に記載。</p>	
1926 (大正15・昭和1)	<ul style="list-style-type: none"> ●9月 明治製菓が「明治ミルクチョコレート」を発売 ●12月 大正天皇崩御 元号を昭和に改元 	<p>12月 習志野騎兵連隊で兵役が終わり新兵の入替りの時期の馬の世話・運動を軍部から依頼される。騎兵隊の馬匹は士官学校の馬匹とは違い荒い。</p>	
1927 (昭和2)	<ul style="list-style-type: none"> ●青山女学院を青山学院に合同 ●リンドバーグ太平洋単独無着陸に成功 ●浅草-上野間、日本初の地下鉄開業 	<ul style="list-style-type: none"> ●「いななき」7号参照 	
1932 (昭和7)	<ul style="list-style-type: none"> ●第一回東京優駿大競走(現日本ダービー)開催 ●五・一五事件 		
1936 (昭和11)	<ul style="list-style-type: none"> ●8月 ベルリン五輪「前畑ガンバレ!」の実況 ●二・二六事件 		
1937 (昭和12)	<ul style="list-style-type: none"> ●青山学院緑岡小学校、緑岡幼稚園開校 ●スペイン内戦 ●7月 盧溝橋事件 	<ul style="list-style-type: none"> ●「いななき」7号参照 	
1938 (昭和13)	<ul style="list-style-type: none"> ●4月 国家総動員法の公布により、本格的戦時体制が確立 	<p>“郊外の面影深い田舎びた駒沢の村上馬場”と代々木の井上馬場にて練習。駒場の騎兵第1連隊で約1ヶ月の夏季合宿。民家を借り食事は隣の蕎麦屋で済ます。前年に続き・冬休みには国府台の野戦重砲兵第1連隊初年兵代わりに合宿。</p>	

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
1939 (昭和14~15)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月 映画「駅馬車」米公開 ● 5月 ノモンハン事件(日ソ国境紛争) ● 9月 第2次世界大戦勃発 ● 12月 映画「風と共に去りぬ」米公開 	昭和14 玉電、大橋の砲兵隊、輜重隊練兵場の片隅の村上という貸馬屋の貸馬5,6頭で週2回放課後に練習。自馬ではないので手入れもせず飼付けもなく、本当の意味で馬との交流はなかった。夏季合宿は小田急の松田、翌15年は鎌倉にて。練習後、合宿中と酒ばかり飲んでいたようだが、学生生活も抑圧され卒業したら戦地へ行く運命も予感しており、短い青春の日々を謳歌。	
1940 (昭和15)	<ul style="list-style-type: none"> ● 軍事色益々濃くなる。「贅沢は敵だ！」 ● 8月 戦艦大和進水 ● 日・独・伊三国同盟成立 ● 11月 紀元2千6百年記念行事 	伊藤吉富氏(S18年卒)の時代を映す興味ある記事が「いななき8号」に記載されております。	
1941 (昭和16)	<ul style="list-style-type: none"> ● 宣教師に米国のメソジスト教会より帰還命令が出される ● 「青山学院緑岡小学校」を「青山学院緑岡初等学校」に改称 ● 12月 日米開戦・太平洋戦争 	(●「いななき」7号参照) この号は創部42周年記念号と面白いタイトルが付いておりますが中身も面白いものが多くあります。馬術部の歴史を昭和40年位まで辿る事ができます。	
1945 (昭和20)	<ul style="list-style-type: none"> ● 山の手空襲により校舎、施設の大半が罹災 ● 3月 東京大空襲・神戸大空襲 ● 5月 欧州における大戦終戦 ポツダム宣言 ● 5月 山の手空襲 ● 8月 広島・長崎に原爆投下 太平洋戦争終戦 	(●「いななき」7号参照)	
1946 (昭和21)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1941年に米・メソジスト教会により帰還命令が出されていた宣教師、再び日本へ ● 第一回国際連合総会 ● 極東国際軍事裁判(東京裁判) 	(●「いななき」7号参照)	
1947 (昭和22)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中等部を開校 ● 5月 日本国憲法施行 	2名で馬術部を再開するも後継者がおらず、卒業と同時に廃部。	
1948 (昭和23)	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等女子部を女子高等部と改称 ● 1月 サンモリッツ冬季五輪 ● 世界保健機関(WHO)設立 ● 福井地震 ● 戦後初のテレビ公開実験(NHK) 	(●「いななき」7号参照)	
1949 (昭和24)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新制大学として「青山学院大学」開校(文・商・工) ● はとバス運行開始 ● 東京証券取引所 設立 	(●「いななき」7号参照)	
1950 (昭和25)	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等部・短大 開校、第二部 設置 ● 6月 朝鮮戦争 	4月 馬術部復興の声があり、同好の士が集まり活動開始。 11月 一人のOBを紹介され、そこから多くのOBを訪ね部の再設を伝えご助力を賜る。	

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地	
1951 (昭和26)	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学校法人 青山学院」に改称 ● 9月 サンフランシスコ平和条約締結 ● 日米安全保障条約調印 	4月 部員数十数名。練習は東京代々木クラブに通い借馬にて行う。他大学の自馬での練習を羨ましく思う。 6月 初の自馬「青峰号」を41,000円で購入。資金はOBに寄付を募るものの25,000円にとどまる。金を集め、やっと買った飼料がその日のうちに盗まれる。 10月 OBと学生との第1回懇親会を京橋・明治製菓2階にて開催。 12月 毎月督促状が届いていた馬の購入代金の残金について裁判となっていた。新たな借金で借金を返済。自馬所有となったため東都大学馬術連盟への加入が認可される。		
1952 (昭和27)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月 英エリザベス女王即位 ● 2月 オスロ冬季五輪 ● 3月 十勝沖地震 	2月 代々木クラブの預託料1,000円節約のため青峰号を学院構内に連れ込み、学校側に援助を要請。構内にあった藤田組の倉庫を改造し厩に。これがきっかけで厩が建設されることになった。 4月 女子部員の入部多。		
1953 (昭和28)	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学商学部を経済学部へ改組 ● 2月 NHK、テレビ放送開始 ● 6月 エリザベス女王戴冠式 ● 8月 日本テレビ放送開始 	青山馬場 青山キャンパス内(現・記念館付近)に厩舎完成。馬場はグラウンドを野球部、ラグビー部と共用。部誌発刊の計画が持ち上がる。 ● 部誌の後日譚は後述の参照3に記載。	渋谷キャンパス内	
1959 (昭和34)	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学法学部設置 ● 3月 「少年マガジン」「少年サンデー」同時創刊 ● 4月 皇太子ご成婚 	11月 第2回全日本学生自馬競技大会開催・本校初参加・戦績は二の次。 ● 12月 「いななき」1号発行		
1960 (昭和35)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月 日米安全保障条約改定 ● ベトナム戦争始まる 	● 6月 「いななき」2号発行	 網島馬場 ほぼ半年間の馬事公苑での仮住居の後、8月24日 網島総合グラウンド内 網島厩舎へ移転。温泉で有名な網島、空の広い寂れた感じのどかな田舎。不便であることを除けば良い所。馬場は酷く、馬房に電気も点かず、水道もない。学生の手で改良工事がなされる。土木作業の毎日。	網島総合グラウンド内

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
1961 (昭和36)	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼稚園を開園 ● 1月 米国、ケネディ大統領就任 ● 4月 ソ連、ガガーリン世界初の有人宇宙飛行成功 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月 「いななき」3号発行  ● 9月 「いななき」4号発行  <p>青山キャンパス内 部室新設(学生会館3階309号室)</p>	網島総合グラウンド内
1963 (昭和38)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月 「鉄腕アトム」放送開始 ● 4月 NHK大河ドラマ放送開始 ● 7月 「日清焼きそば」発売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月 「いななき」5号発行 参照3  ● 10月 「いななき」6号発行  	
1964 (昭和39)	<ul style="list-style-type: none"> ● 青山学院創立90周年 ● 1月 カルビーが「かっぱえびせん」を発売 ● 4月 日本人の海外観光渡航が自由化 ● 5月 「平凡パンチ」創刊 ● 9月 ホテルニューオータニ、東京プリンスホテル、東京モノレールが開業 ● 10月 東京五輪 	<ul style="list-style-type: none"> ● 11月 「いななき」7号(創部42周年記念号)発行  <p>半年間、近代五種競技用馬匹調教の為、2名派遣。借金返済に貢献。</p>	
1965 (昭和40)	<ul style="list-style-type: none"> ● 世田谷キャンパス開学・理工学部開設 ● 6月 有楽町に東京交通会館竣工 ● 8月 「オバケのQ太郎」放送開始 		

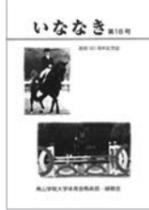
年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
1968 (昭和43)	<ul style="list-style-type: none"> ● 共闘派学生による大学封鎖 8号館の籠城、検問所設置、大学側ガードマンと講師陣の揉め事 大学からのロックアウト ● 5月 十勝沖地震再び ● 6月 小笠原諸島、日本に返還 ● 10月 メキシコシティ五輪 	(いななき8号 石割陽子様寄稿より抜粋) 体育会に属している運動部の学生は、大学対学生の問題においては学校側のガードマンのように思われるかもしれないが、学内紛争の時でも自己の練習はやるし、勉強もする。しかし紛争の真実や意味を知る為の積極的参加はなされて然るべき。スポーツは心身の鍛錬とフェアな精神を養う。大学の正しいあり方を真摯に見つめ判断し行動できるような運動部員となってほしい。	網島総合グラウンド内
1969 (昭和44)	<ul style="list-style-type: none"> ● 1月 東大安田講堂事件 ● 1月 米国、ニクソン大統領就任 ● 4月 一般海外旅行持ち出し金額が500US\$から700US\$に ● 7月 アポロ11号月面着陸成功 ● 8月 映画「男はつらいよ」公開 ● 10月 UCLA ネット通信に成功、情報化時代の幕開けとなる 		
1970 (昭和45)	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月 大阪で日本万国博覧会開催 ● 8月 銀座で初の歩行者天国 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「青駒号」・全日本馬術連盟より功労馬として表彰される。この年全日本中障碍優勝。 ● 7月 「いななき」8号発行  	
1971 (昭和46)	<ul style="list-style-type: none"> ● 5月 日本マクドナルド、ロイヤルホストが開店 ● 9月 カップヌードルが発売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3月 「いななき」9号発行  <p>5月 第8回東都学生自馬・中障碍優勝 原野洋・青駒号</p>	
1972 (昭和47)	<ul style="list-style-type: none"> ● 2月 横井庄一さん帰還 札幌冬季五輪 ● 10月 パンダ(カンカンとランラン)初来日 ● 地方競馬出身のハイセイコーが大旋風 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月 第9回東都学生自馬・中障碍優勝 永井彦之進・青駒号 ● 「いななき」10号(創部50周年記念特集号)発行  	

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
1973 (昭和48)	● 10月 第1次オイルショック	6月 関東大学選手権・障碍優勝 板倉啓文・青駒号	網島総合グラウンド内
1974 (昭和49)	● 11月 青山学院創立100周年		
1976 (昭和51)	● 1月 「クイズダービー」放送開始 ● 2月 インスブルック冬季五輪 「徹子の部屋」放送開始 ● 8月 ピンク・レディーがデビュー	● 5月 「いななき」11号発行 	
1978 (昭和53)	● 1月 第2次オイルショック		
1982 (昭和57)	● 厚木キャンパス開校 国際政治経済学部設置 ● 10月 「森田一義アワー 笑っていいとも!」が放送開始	5月 全国都道府県馬術大会(アバロン大会)・婦人障碍優勝 松本美紀・チャップ号 10月 関東学生馬術女子競技会・障碍団体優勝 個人優勝 松本美紀・チャップ号	
1983 (昭和58)	● 2月 青木 功、ハワイアン OP 優勝 ● 4月 「おしん」放送開始 東京ディズニーランドが開園 ● 5月 日本海中部地震	3月 関東学生馬術新人新馬戦・最優秀馬「青仙」(川野孝徳) ● 11月 「いななき」12号 創部60周年記念号(青木真次監督追悼特集)発行 	
1989 (昭和64・平成1)	● 1月7日 昭和天皇崩御 翌日1月8日より元号が「平成」に ● 11月 ベルリンの壁崩壊 ● 12月 米・ソ冷戦終結(マルタ会談)		
1990 (平成2)	● 11月 即位の礼 ● 12月 バブル景気崩壊の兆し		
1991 (平成3)	● 1月 湾岸戦争勃発 ● 6月 雲仙・普賢岳火砕流発生 ● 12月 ソビエト連邦崩壊	4月 東都大学女子障碍・優勝 藤森香織・ブルーマリー号 5月 都民大会・婦人馬場・優勝 佐々木久絵・ブルーブラッド号	
1992 (平成4)	● 2月 アルベールビル冬季五輪 ● 7月 バルセロナ夏季五輪(五輪夏季大会と冬季大会の同年開催終了・2年交互に) ● バブル崩壊	● 5月 「いななき」13号(井上恒春緑鞍会会長を偲んで)発行 	

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
1993 (平成5)	● 6月 皇太子・雅子様ご成婚 ● 8月 レインボー・ブリッジ開通		網島総合グラウンド内
1994 (平成6)	● 6月 円高加速、戦後初の100円突破(99.85円)	10月 関東学生女子馬場・団体優勝 個人優勝 佐藤恵子・ブルーファルター号	
1995 (平成7)	戦後50年、戦後史の転機の年 ● 1月 阪神淡路大震災 ● 8月 マイクロ・ソフト社がWINDOWS 95発売	● 6月 「いななき」14号発行 	
1997 (平成9)	● 4月 T・ウッズ、マスターズ初優勝 ● 7月 香港、中国に返還		
1998 (平成10)	● 2月 長野冬季五輪	4月 東都学生馬術・新人A障碍・優勝 安田景朗・ブルーキャンター号	
1999 (平成11)	● 「青山学院スクール・モットー」制定 ● 8月 第一勧銀など3行統合と10月には住友・さくら銀合併 金融再編大展開	● 9月 「いななき」15号発行 	
2000 (平成12)	● 9月 シドニー五輪 ● 介護保険制度開始		
2001 (平成13)	● 大学院国際マネジメント研究科を設置 ● 3月 USJ 大阪オープン ● 9月 東京ディズニーシー開園 ● 9月11日 米国、同時多発テロ	アシェンダ 3月 網島馬場閉鎖、アシェンダ乗馬学校へ移転。仮馬場での部活動が始まる。 4月 東都学生馬術・標準障碍・優勝 渡辺祐二・クリアブルー号	
2002 (平成14)	● 10月 日本人2人にノーベル賞	4月 東都学生馬術トーナメント団体優勝 ● 関東学生賞典馬術A障碍・優勝 成瀬亜紀子・ブルーライアン号	
2003 (平成15)	● 厚木・世田谷キャンパス閉鎖 相模原キャンパス開校 ● 4月 六本木ヒルズオープン ● 5月 小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げ	創部80周年祝賀会 ● 7月 「いななき」16号 創部80周年記念号発行 	
2004 (平成16)	● 大学院法務研究科を設置 ● 8月 アテネ五輪 ● 10月 中越地震		

網島総合グラウンド内

アシェンダ乗馬学校内

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
2005 (平成 17)	●会計プロフェッション研究科を設置		
2006 (平成 18)	●女子短期大学児童教育学科を子ども学科に改組 ●2月 トリノ冬季五輪	4月、青山学院町田グラウンド内に馬場・厩舎が完成、その落成式	
2008 (平成 20)	●総合文化政策学部・社会情報学部 ●8月 北京五輪 ●9月 リーマンショック・金融危機世界に波及 ●10月 日本人3人にノーベル賞	●3月 「いななき」17号 町田 新厩舎落成記念号発行  8月 北井裕子 (H7年卒)、北京五輪出場 11月 関東学生女子・小障害 A・優勝 高橋苒香・ブルーホビット号	
2009 (平成 21)	●教育人間科学部設置		
2010 (平成 22)	●6月 小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶり帰還	10月 関東学生女子・障害・優勝 木林里乃・クラリッサ号	
2011 (平成 23)	●大学第二部全学科募集停止 ●3月11日 東日本大震災発生 ●10月 歴史的円高、一時1ドル=75円32銭	10月 関東学生女子・会長杯馬場B班・優勝 佐藤歌奈子・ハッチボッチブルー号 ●同会長杯中障害D・優勝 橋本治奈・クラリッサ号	町田グラウンド内
2012 (平成 24)	●2月 東京スカイツリー竣工 ●7月 ロンドン五輪 ●10月 山中伸弥京大教授、ノーベル生理学・医学賞受賞	3月 関東学生馬術新人・オープン競技障害 優勝 森田麻美・カサンドラクイーン号 10月 関東学生会長杯・小障害B・優勝 橋本治奈・カサンドラクイーン号	
2013 (平成 25)	●9月 2020年のオリンピック開催地が東京に決定 ●12月 流行語大賞は「今でしょ!」「お・も・て・な・し」他	3月 関東学生新人会長杯・小障害A・優勝 久川由馬・キルラルスブルー号 ●同オープン競技110・優勝 橋本治奈・ロシアブルー号 12月 関東学生会長杯・小障害A・優勝 久川由馬・マリンプル号 ●同オープン競技・優勝 佐藤伸太郎・ラフター号	
2014 (平成 26)	●2月 ソチ冬季五輪 ●3月 フジテレビ系の「森田一義アワー 笑っていいとも!」が放送終了。1982年の放送開始から31年半の歴史に幕	●3月 「いななき」18号 創部90周年記念号発行 	
2015 (平成 27)	●地球社会共生学部設置		

年号	青山学院・世界・日本	馬術部	馬場所在地
2016 (平成 28)	●横浜英和女学院が大学の系属校に ●静岡英和女学院との教育提携 ●4月 熊本地震 ●5月 伊勢志摩サミット 米・オバマ大統領広島訪問 ●8月 リオデジャネイロ五輪	8月 北井裕子 (H7年卒) リオデジャネイロ五輪出場	町田グラウンド内
2017 (平成 29)	●1月 米・トランプ大統領就任	リニア中央新幹線トンネル工事騒音問題のため、アバロンヒルサイドファームへ移転	アバロンヒルサイドファーム内
2018 (平成 30)	●法務研究科募集停止 ●2月 平昌冬季五輪 ●10月 築地市場、豊洲へ移転		
2019 (平成31~令和1)	●浦和ルーテル学院が大学の系属校となる ●大学コミュニティ人間科学部を設置 ●女子短期大学本科募集停止 ●浦和ルーテル学院小学校、中学校及び高等学校が大学の系属校となる ●仏・ノートルダム大聖堂大火災 ●中国で新型肺炎流行の兆し ●5月 元号が平成から令和に改元 ●ラグビーW杯 自国開催	覆馬場完成後 町田馬場に戻り、現在に至る	
平成から令和へ			
2020 (令和 2)	●1月30日 WHO 新型感染症の緊急事態を宣言 ●3月 WHOが「コロナウイルス感染症」をパンデミックと表明 ●3月 東京五輪1年延期が決まる ●4月 日本政府、緊急事態宣言を発出 ●オンライン授業開始・馬術部を除き他の部活動は停止	コロナ禍で活動が制限される。部でのアルバイトも行えず緑鞺会の支援を受ける。	町田グラウンド内
2021 (令和 3)	●8月 無観客で東京五輪開催 (世界的に流行した新型コロナ禍のため、一年順延されたもの)		
2022 (令和 4)	●女子短期大学を閉学 ●2月 北京冬季五輪 (国内観客のみ) ●5月 沖縄本土復帰50年 ●7月 英エリザベス女王在位70年 ●9月 エリザベス女王崩御・国葬		
2023 (令和 5)	●5月 英チャールズ国王戴冠式 ●5月 新型コロナウイルス 季節型インフルエンザと同位の「5類」に移行 ●5月 広島サミット ●9月 ラグビーW杯 フランス大会	9月9日、馬術部創部100周年記念祝賀会を東京有楽町のホテル「ザ・ペニンシュラ」にて開催	
2024 (令和 6)	●1月 能登半島地震 ●4月 大学新図書館開館 ●11月16日 青山学院創立150周年	●7月 「いななき」19号 (創部100周年記念特別号) 発行 	町田グラウンド内

参照1：大正十二年七月八日付 青山學報 第二十二号の記載

乗馬部より

永年計畫してゐた乗馬部が石坂院長を初め相田、大野両先生の御盡力に依って茲に組織された事は吾々の最も感謝する次第である。乗馬奨励は決してミリタリズムとか何とか六ヶ敷い問題の為ではない。但しさう思はれても吾々は決して驚かないが、要は只振るはない學院の體育の向上を圖り併せて德育に資すれば目的は十分に達せられるのである。

金一百圓也の部費を受けて立派に我が學友會の一部として認められた時、吾々はどんなに喜び感謝した事だらう。そしていよいよ二十餘名の部員を募集して、是を我部の第一期練習班とした。頃は彌生の中ば、花咲き鳥歌ふ時華々しく發會式を挙げた、と我部の記録の第一頁を飾りたい。先ず第一に困ったのは經費である。幾ら組織匆々とは云え我部の經費は一百圓也で五十圓宛二回支出すれば盡きるし三十圓宛としても三度使へば十圓残るだけで、是一百圓也の最大効力を發揮する為に頭を痛めた。庭球や野球のボールは何も喰はないけれど馬は第一秣を喰うから難しい。それに韁の持ち方も知らないで軍隊から借馬する事も出来ない。そこで残念乍ら基礎練習費だけ部員諸君から出して貰う事にした。是を持って値切り倒しの交渉の結果代々木の井上馬術所で五月十四日から一同練習を初めた。

初めから上手なものはない。殊に人間の何倍も大きい動物を御すのだから面倒だ。木馬と違って動くから初めこそ、皆變手古な形だったが、十回餘の練習の結果を見事に表れて、早い人は無細工なり馳足迄も出来る様になった。是の調

子で二十一回の練習を同所で續ける豫定だから、鞍上人なく鞍下馬なし、引かず緩めず縮緬の皴と詠まれた馬術大成の境地も、今でこそ、暗に蠟燭で鞍を見る境地としか思へないが早晚實現される事と思ふ。

同所の練習終了後は、相田先生の御奔走で目黒の輻重兵隊か世田ヶ谷邊の聯隊で、いよいよ本式に練習する豫定になってゐる。二學期早々には第二期練習班を新たに募集する計畫である。秋頃には第一班は遠乗も出来る位上達するだらう。春風の吹き送るらむ梅が香りを、韁の中に込めてこそ乗れ、とも云ふから、例の鞍上人なく、鞍下馬なし式で外濠の柳の元に鞭を振る時も近い事と思ふ。

吾部は學友會の一派である。學友會諸君全體のものである。馬に乗ってみたい人は誰でも歓迎してゐるのである。試験的に一回でも乗りに來られる方も出来る限りやってみて貰って馬術の妙味を味わって頂いてゐる。費用も學友會費で支辨するのだから決して多くの人が想像してゐる程ブルジュア的なものではない。我々は開放して待つてゐるのだから次に募集の時は多數の御入會を奨めます。尚現在の部員諸君も我部では委員とか何とか面倒なものを設けない方針であるから諸君自身が統卒者の心算で自治的に大に練習を勵んで頂きたいと思ひます。

終に、御繁忙中にも關らず萬般に亘ってご指導下さった相田大野両先生に深く感謝します。大野先生は遠路もお煩ひなく練習所で再三實地ご教示下さった事を深謝し尚將來も一層の御教導をお願い致します。 (6・1・森生)

参照2：大正十四年十二月十九日 青山學報 第三十九号の記載

馬術部第一回競技會報告

十二月の六日、試験にはあと九日だが、昨日から泊まり掛けで來てゐる連中も多い愛馬家揃ひだけに、中村少佐を先頭に、ずらりと三十名の騎手が我こそはと寒風に頬を赤め、拍車の音も勇ましい武者振りは東京の人々に見せてやりたい。

一寸心配させたお天気も、今日一日は大丈夫と保證のついた九時頃には、營庭は石灰の跡あざやかな競技場に早變りした。(後略)

く場所の記載は見つかりませんが、察するに習志野騎兵連隊場だと思われます。この後連隊の士官・下士のチームと学生班との對抗試合の

様子が輕妙に描かれ、創成期の懐かしい諸先輩のお名前が書かれております、敬称は略します。が曰く、相良敏夫、古賀丈夫、白石義雄、森政雄、大野俊次郎、青木眞次、内田友正、梶洋之助、森田崎夫 諸氏です。競技も曰く、旗取競争、馬装競争、巻乗競争、スプーン競争、戴囊競争(頭に砂袋を載せて輪乗り等をする競技の様)、提灯競争(火の灯った提灯を持って飛び乗りをする危うい競技の様)。そしてメイン競技は障碍飛越で、軍・学混交で甲乙丙の三班を作りそれぞれに一等、二等、三等を設け、甲班では青木眞次氏が、乙班では相良敏夫氏が一等を取ったと書かれ最後に「以上(久保生記)」と有ります。

参照3：幻の原稿は昭和38年発行の「いななき5号」に掲載されています。其のきっかけとなったのは次の投稿が5号発刊の前であった事です。

「昭和二十八年といえば、もう丁度、十年の昔、そのころ部誌をつくろうという声もち上がったのだそうです。当時の現役の方々が持ちよられた原稿が発行されることなく、コーチの平木さんの所に保存されてありました。現在、北海道におられる植松さんが集められたそうで、お話ししましたと、心よく御承諾下さいましたので、ここにそのなつかしい原稿のいくつかを、のせて当時をしのびたいと思います。」

そして編集後記の中に“(中略)うれしかったこ

とは、今回先輩の方々に、現役時代に書かれたという十年も昔の原稿をいただいたことです。もう破れかけた用紙のインクも色あせてしまった文字の中に、まだお目にかかったこともない先輩や、今はすっかり社会人となってしまわれた方々の、なつかしい現役時代を想像させていただき、年月こそ流れ、環境こそ変わっても、馬と共に味わう苦しみや、喜びはいつの時代も変わらないことを感じ勇気づけられる思いでした。今後よろしくお願ひします。”とありました。

参照4:「いななき」目次 (1号~18号)

●いななき 1号 目次 1959(昭和34)年1月 発行

「発刊に当って」岡 良介・菊池俊子(緑鞍会係) p1
 〈新役員の所感〉 p2~4
 「主将」平中三彦 ... p2 「副主将」岩崎 修 ... p2 「主務」五十嵐俊樹 ... p3
 「女子責任者」井田恵子 ... p3 「馬匹係」原 功 ... p4
 〈本年度後半期の成績〉 p5~12
 「女子福島遠征随行記」高尾友子 ... p5・6
 「全日本学生自馬競技大会」 ... p7 「第7回日本獣医畜産大学招待馬術争覇戦」 ... p7
 「関東9大学馬術争覇権戦」 ... p10 「第3回対慶応女子定期戦」 ... p12
 「緑鞍会々員活躍状況」 p13
 「愛馬のひとりごと」青葉号、青波号、青麗号、青影号 p14~17
 「協会頼り」 p17
 「馬術部かぞえ歌」堤 義則 p18
 「部室あれこれ」 p19
 「編集後記」 p20
 「現役名簿」
 遠藤恭輝・芹野範明・白崎真弘・張間睦途・高橋祥子・石割洋子・平中三彦・岩崎 修・五十嵐俊樹・原 功・
 山口和正・井田恵子・木田美恵子・堤 義則・岡 良介・高倉 彰・細内 宏・一言正広・金子璋男・飯田和之・
 菊池俊子・幅屋富紀子・菊池由美子・中島淑子・山本英子・島原宏子・藤田靖子・五十嵐豊子・菅原紀美恵・
 山田芳通・小宮紀六・鈴木宏志・寺崎 章・阿佐美徹・花村紀彦・重富政教・赤穂正和・高尾友子・高井由紀子・
 井川絃子・柴田順子・原田絢子・水島道子・西谷京子

●いななき 2号 目次 1960(昭和35)年6月 発行

「新しい部員を迎えて」平中三彦 p1
 「これからの馬術部に望むもの」菅原紀美枝
 〈新人の所感〉 p4~14
 飯島五郎・柴田昭雅・斉藤良也・木村義行・小野崎威・伊藤正昭・佐藤 健・柴田克彦・阿南伸之助・沼田侑子・
 中田美年子・高橋八重子・岸 裕子・岡田友美子・木俣やす子・渡辺孝子・伊藤滋子・穂刈民子・野口苑子・
 大沢俊子・藤間愛子
 「貨車にゆられて新馬"青光"上京の記」岩崎 修 p15~17
 「春季合宿日記」岡 良介 p17~20
 「馬事講習騎乗日誌」細内 宏 p21・22
 「京都あれこれ」佐藤一貫 p23~30
 「観戦記初乗り会」高井由紀子 p31
 「緑鞍会対全証券」高倉 彰 p32
 〈成績〉 p34~46
 「第1回関東大学新人馬術争覇戦」 ... p34~36 「第5回学習院女子定期戦」 ... p36・37
 「第6回関東女子学生馬術リーグ戦」 ... p38・39 「対名古屋大学戦」 ... p40
 「対成蹊大学定期戦」 ... p41 「第8回東都4大学リーグ戦-本学2連勝」 ... p42~45
 「対関西学院大学定期戦」 ... p46
 「青波と共に」高倉 彰 p47・48
 「自馬の現状」 p49・50
 「協会便り」 p50
 「部室あれこれ」 p51・52
 「主な出来事」 p52~54
 「スケジュール」 p54
 「編集後記」 p55

●いななき 3号 目次 1961(昭和36)年1月 発行

〈巻頭言〉 p1・2
 「巻頭言」土田三千雄 ... p1 「巻頭言」青木真次 ... p2
 〈役員の抱負〉 p3~7
 「協会幹事」一言正広 ... p3 「会計としての抱負」高倉 彰 ... p4
 「副将」岩崎 修 ... p4 「馬匹」飯田和之 ... p4 「主務」岡 良介 ... p5
 「我々馬術部に望む」堤 義則 ... p6 「副将」金子璋男 ... p7 「抱負」菊池由美子 ... p8
 〈馬齢半歳〉 p8~12
 「出来事を振り返る」 ... p8~12 「最近の馬術と私の意見」岩崎 修 ... p12
 「合宿の思い出」小野崎威 p19
 「福島遠征記」岸 裕子 p19
 「平木コーチの横顔」 p19
 「二部馬術部の現状」 p20
 「新馬二頭上京の記」高倉 彰 p22
 「四大学新人戦」 p25
 「よくやってくれました対慶応戦記」高井由紀子 p26
 〈我れらは馬である〉 p28~32
 「続、青波とともに」高倉 彰 p32
 「部生活に関する十二章」 p34
 「或るひと時」 p36
 「綱島案内」 p38
 「編集後記」 p40

●いななき 4号 目次 1961(昭和36)年9月 発行

「はじめに」土田三千雄 p1
 「新入部員を迎えて」堤 義則 p2
 〈馬術部に入って〉 p2~p8
 桜井智恵子・藤田敏也・松田悠子・真野 勝・細田昭子・高橋和子・米屋典子・本日 晋・土屋節子
 〈馬事半歳〉 p9~17
 (試合報告・講評)
 「春季合宿」「オリソピック記録講習会」「対学習院女子定期戦」「第七回関東女子学生馬術リーグ戦」
 「関西遠征」「グランド開き記念対立教大定期戦」「東京都民大会憲法大会」「東京大金」「四大学定期戦」
 「関東学生馬術争覇戦」
 「関西遠征見聞記」平木茂子 p18
 「暗中模索」藤根 威 p18
 〈合宿日誌〉 p20~24
 高倉 彰・H・M子・真野 勝 ... p20~24
 「東京大会」其の一・石田謙三 其の二・藤田純子 p25・26
 「女子馬術術について」菊池由美子 p26~29
 「馬事講習をかえ少みて」小宮紀六 p31
 〈学科〉 p32~35
 清野先生 ... p32~34 妹尾先生 ... p34~35
 「騎乗日誌」小宮紀六 p36
 「馬匹管理に思う」飯田和之 p38
 「随想遠乗り」真野 勝 p39
 「部生活あれこれ」 p41
 「主な出来事」 p42
 「編集後記」 p44

●いななき 5号 目次 1961(昭和36)年9月 発行

「はじめに」部長 土田三千雄 p1
 「第十七回国体岡山大会に関する報告」主将 伊藤正昭 p2
 「全日本に出場して」柴田克彦 p2
 「第十七回国体出場援助資金会計報告」会計 石田謙三 p3
 「在米会長のスケッチ」青木昇 p4
 「いななき四号発刊後から 今日に至るまで」井沢 記 p5～7
 〈馬糞の中の青春〉 p8～12
 高倉 彰 … p8～10 菊地由美子 … p10・11 飯田和之 … p11・12
 〈新人紹介どうぞよろしく〉 p12～16
 中西紀子・稲熊武臣・篠原敬明・山田恵道・那波広和・秋永倫子・谷中基美・小野口健
 〈SUBJECT〉 p17～26
 「障碍飛越の要領」… p17～23 「馬術の格言と逆説」… p23～26
 「昭和三十七年度緑鞍会総会報告」 p27
 「緑鞍会報告」 p28
 「BB会紹介」 p29
 「成長しつつある高等部馬術同好会」 p30・31
 〈馬匹報告〉 p32
 (現在馬匹) : 月雪号、青渚号、青潮号、青扇号、青武号、青藤号、雷神号
 (出厩馬匹) : 青光号、青彗号
 〈先輩寄稿 RECOLLECTION〉 p33～46
 東雄三郎・菅原紀美枝・鎌田和正・脇坂達雄・植松英二・沈 廻浜・宮坂悠二・米谷清志
 「編集後記」 p47

●いななき 6号 目次 1963(昭和38)年10月 発行

「馬のさゝやき」羽坂勇司…p1
 「監督紹介—私のお願い」村野吉昌…p2
 「関東学生争覇決勝戦に臨んで」伊藤正昭…p3・4
 「関東学生馬術二・三部争覇戦」石田謙三…p5～7
 〈新入所感〉…p8～21
 高松孝子・松田摂子・加藤三知夫・秋元カツ子・岡峰孝子・木所弘子・間明田勝彦・泉美千子・岸 基子・伊田純子・八幡寧子・井戸公近・山本光子・豊田暉子・藤井君栄・小野三枝子・宮島康彰・石原弘行
 「心の片隅に新入生を迎えて」巴 公子…p22 「関西遠征転戦記」佐藤 健…p23～26
 〈試合報告〉…p27～30
 関東大学新人戦、対関学大定期戦、対神戸大学、対北大 A・B 戦、対甲南大戦
 個人戦成報告：都民大会、関東選手予選登、東京馬術大会於パレスクラブ、国体・全日本都予選大会、神奈川県大会於保土谷グラウンド、関東自馬対抗馬術大会、関東学生女子選手権大会、アバロン馬術大会
 「夏季角館合宿報告」篠原敬明…p31～37 「女子大室合宿記」中西紀子…p38
 「北海道遠征の思い出」岸 祐子…p39・40 「釣りとおたし」内藤長一…p41
 「社会に仲間入りして」鈴木宏志…p42・43 「緑鞍会総会報告」大竹国義…p44・45
 「二部馬術部の現状」水島政彦…p46 「躍進めざましい高等部馬術部」三谷 稔…p47
 〈馬匹紹介〉…p49～p51
 青渚号、青武号、青藤号、雷神号、青潮号、青扇号
 「彼と私月雪のこと」那波広和…p52 「三年間強の間に学んだ事剣坊の思い出」渋谷芳子…p57
 「お知らせ」…p61 「編集後記」…p62 青扇号
 「スケジュール」 p54
 「編集後記」 p55

●いななき 7号(創部42周年記念号)目次 1964(昭和39)年12月 発行

「巻頭言」緑鞍会会長 青木真次 p3
 「部長挨拶：“偶感”」土田三千雄 p4
 「監督挨拶」村野吉昌 p5
 「主将挨拶」本目 晋 p5
 「創立期」大正11年～大正12年：井上恒春・山本盤彦・内藤長一 p9～12
 「黄金期」大正13年～昭和6年：古谷信治・緒方一夫・内田友正 p13～15
 「内熟期」昭和7年～昭和15年：伊藤直明・東條広実・河島 一・脇坂達雄 p16～20
 「動乱期」昭和16年～昭和19年：青木 昇・羽坂勇司・阿部雄三・池谷三郎 p21～28
 「復興期」昭和22年～昭和25年：柿原政吉 p29～30
 「再編成期」昭和25年～昭和30年：植松英二・沈 廻浜・堀内陽一・森 健 p31～35
 「添花期」昭和30年～昭和33年：平木茂子・福原美里・東 雄三郎・藤根 威・大島孝子・内藤喜嗣・渡辺 充・佐藤一貫 p31～39
 「充実期」昭和34年～昭和37年：石割洋子・平中三彦・岩崎 修・金子璋男・高倉 彰・五十嵐豊子・水島道子・岡田友美子・児玉京子 p40～49
 「太平記」昭和38年～昭和39年：伊藤正昭・石田謙三・岸 祐子・高井由紀子・小沢詔子 p50～59
 「二部記」(昭和30年迄は一部二部の区別なく活動していた。現在の状態では難しいかも知れないが練習等合同でやろうではないか。) p60～61
 「私が馬に乗った頃」秋元国松 p62
 「二部馬術部のありかた」金山 屯 p62
 「高等部記」 p63
 「青年淑女の集まりで」岩崎 修 p64～65
 「部再興を願って」真木康弘・弓野道子 p66～69
 「特別寄稿 祝四十二周年に寄せて」遊佐幸平・城戸俊三・井上喜久子・岡部長忠 p70～74
 「現役寄稿」上野圭一郎・松本佑子・高橋和子・稲難武臣・那波広和・山田恵道・川島称吉 p74～80
 「現況報告(現役試合報告)」中村教雄 p81～82
 「座談会”昨日・今日・明日”」現役多数 p83～85
 「誌上技術指導」平木茂子 p85
 「編集後記」 p86～90
 「歴代馬匹紹介」 p86～90
 青峯号、青姫号、青兎号、青翠号、青波号、青嵐号、青影号、青葉号、青幸号、青菊号、青麗号、月雪号、青渚号、青剣号、青光号、青武号、青彗号、青藤号、青扇号、青潮号、雷神号、青疾号、青駿号

●いななき 8号 目次 1969(昭和45)年7月 発行

「巻頭言」部長 伊藤文雄 p1
 「偶感」緑鞍会幹事長 植松英二 p2
 「雑感」緑鞍会会長 青木真次 p3
 「現況報告及び見通し」佐藤一貫 p4～7
 「四十四年度主将あいさつ」芦川城次 p8
 「四十五年度主将あいさつ」伊納保夫 p9～11
 「会計だより」六平 潔 p12
 〈随想〉 p13～23
 「私の思い出」伊藤文雄 … p13 「たばこ」曾我正村 … p14 「原稿を書く前に」梶洋之助 … p14
 「福島遠征」小森谷正子 … p15 「大学紛争の中で運動部の学生はどうしたらいいのか？」石割洋子 … p16
 「自己の慾望」安田義正 … p17 「ある日」大塚まり子 … p18 「我が友人○秘録」青木京子 … p19
 「三匹の女ロメ」川島 透 … p20 「思い出すまゝに」沈 廻濱 「青学馬術部の或る時期」伊藤芳富 … p23
 〈合宿記〉 p24～29
 「白井での合宿」小林正樹 … p24 「合宿の想出」薄井周子 … p27 「上級生と合記」斉藤真子 … p28
 「合宿の感想」上野かなこ … p29

「訪問記 福原美里さんを尋ねて」青木京子 p30
 「誌上馬学」内藤喜嗣 p31
 〈二部・高等部記〉 p34 ~ 36
 「校友会馬術部の思い出」秋元国松 ... p34 「二部馬術部活動報告」原 文雄 ... p35
 「高等部記」白井 豊 ... p36
 「現役幹部紹介」木村敏夫 p37
 「座談会・二年生による」 p38 ~ 40
 〈試合記録〉 p41 ~ 44
 関西遠征、東都学生自馬競技大会、関東学生馬術争覇戦、関東学生馬術選手、関東学生馬術選手権、関東学生
 新人馬術大会、東京都乗馬大会、東日本大会、東北学院戦、関東大学馬術選手権、関東学生馬術選手権(女子)、
 関東学生自馬対抗競技大会、アバロン大会、関東北女子学生馬術大会、学習院女子定期戦
 〈馬匹紹介〉青駿号、青驪号、青貴号、青虎号、柏青号、青笛号、青冠号、青朋号 p45・46
 「編集後記」里中郁男

●いななき 9号 目次 1971(昭和46)年3月 発行

「巻頭言ースポーツとは」緑鞍会幹事長 植松英二(昭26卒) p1
 「部長偶感」部長 土田三千雄 p2
 「展望ー来年は」佐藤一貫 p2
 「前主将挨拶」伊納保夫 p3
 「前女子責任者挨拶」三宅恵子 p3
 「46年度主将挨拶」原野 洋 p3
 「46年度女子責任者挨拶」渡辺しおり p4
 「緑鞍会記ー緑鞍会係挨拶」薄井周子 p5
 「O・Bだより」 p6・7
 〈二部・高等部記〉 p7・8
 「二部記ー主将挨拶」小川藤夫 ... p7 「高等部記」高等部係 柴田 貢
 「だいなし」高等部三年 池田貴美子 ... p8
 〈夏合宿〉 p9 ~ 13
 「夏合宿・合宿アンケート」... p9 「夏期合宿」吉川 徹・神崎道子・小勝とみ子 ... p11・12
 「リーダーキャンプ報告」平井恵美子... p13
 「会計報告」高橋正樹 p14
 〈45年度試合報告〉 p15・16
 東都学生自馬大会、関東学生馬術争覇戦、東京馬術大会、関東大学馬術選手権、関東学生馬術選手権、
 対東北学院大学定期戦、都民大会東京都乗馬大会、対立教大学女子定期戦、関東学生新人馬術大会、
 関東学生女子自馬大会、関東学生自対抗競技大会、国際親善馬術大会、アバロン大会
 「全日本学生三大競技要点」 p17
 「馬術部の四季・綱島日誌より」 p18
 〈卒業生雑感〉曾我正晴・飯野和男・六平 潔・芳野恭子・斉藤美子 p22 ~ 24
 「卒業にあたって」千葉雅世 p24
 緑鞍会・現役名簿 p25 ~ 37
 〈馬匹紹介〉ナンバー1号、青凜号 p38
 「編集後記」伊納記

●いななき 10号 目次 1972(昭和47)年5月 発行

「巻頭言」青木真次 p1
 「監督挨拶」佐藤一貫 p2
 「前部長挨拶」土田三千雄 p3
 「前体育会会長挨拶」気賀健生 p3

「馬術部50年の歩み」 p4 ~ p17
 「良い伝統は尊い」城戸俊三 ... p4 「馬術部創立50周年を迎えて」井上恒春 ... p6
 「50周年を祝して」伊藤政天 ... p6 「学生馬術に思う」印南 清 ... p6
 「馬術もできるスポーツマン」鬼頭弘 ... p7 「私と馬との思い出」相良敏夫 ... p8
 「学院馬術部創設とその頃の思い出」森 政雄 ... p9 「一枚の写真」川上憲一 ... p10
 「野面をなでる風はさわやかだった」梶洋之助 ... p11 「私の新人時代」細野日出臣 ... p12
 「昔のこと」中越鴻八 ... p13 「白馬と共に再興の日々」植松英二...p14
 「阿部先生と共に学んだ日々」佐藤一貫 ... p16 「綱島馬場へ移って」高倉 彰 ... p16
 「馬匹・馬房・馬場を得て」山田恵道 ... p17 「はるかなる秋田の日々」波木井陽樹 ... p17
 「私の馬術部生活」秋田喜和子 ... p17
 「思い出の馬」歴代馬匹一覧 p22 ~ 27
 青峯(藤根 威)、青妃(藤根 威)、青兔(藤根 威)、青翠(藤根 威)、青嵐(佐藤一貫)、
 青影(佐藤一貫)、青葉(佐藤一貫)、青幸(佐藤一貫)、青扇(田坂 誠)、雷神(三谷 稔)、
 青蓮(上野洋子)、青将(上野洋子)、青虎(上野洋子)、柏青(小林正樹)
 「綱島新厩舎」 p30 ~ 32
 「厩舎新築」沈 廻浜 ... p30 「厩舎新築経過」緑鞍会係 ... p31 「厩舎の歴史」石井健一 ... p32
 「念頭の1・2部合併」 p35 ~ p 38
 「念頭の1・2部合併」秋元国松 ... p35 「元自治会馬術部主将挨拶」小川篤夫 ... p35
 「自治会馬術部から体育会馬術部へ」荒井良政 ... p37 「馬術部生活を振り返って」鈴木敬治 ... p37
 「馬術部万才」奈良義弥 ... p38
 「我ら現役 現況報告」 p40 ~ 51
 「47年度主将挨拶」斉藤比佐郎 「緑鞍会挨拶」・「緑鞍会報告」永井彦之進
 「46年度会計報告」荒井良政 「つれづれなるままに」佐倉有美 「合宿記 前期」屋城孝一
 「合宿記 後期」栗原 徹 「46年度女子合宿記」金 美春 「47年度女子合宿記」古野啓子
 「関西遠征記」未金雅定 「福島遠征の思い出」石井健一 「和歌山国体遠征記」板倉啓文
 「卒業にあたって」渡辺しおり 「卒業にあたって」溝井周子
 「試合記録」 p51 ~ p53
 「高等部記」 p57・58
 「我が奇乗日誌より」吉野啓子 「思い出」吉沢敦子 「ああ高枚三年生」塚原浩明
 「或る日或る時」張間睦途さん・伊藤正明さん・山路裕子さん・曾我正晴さん p58 ~ p59
 「OB近況報告」 p60
 〈多数の葉書による近況報告〉 p63 ~ p66
 「現役馬匹の紹介」 p63 ~ p66
 青驪号、青駿号、青貴号、青苗号、青冠号、青朋号、青蓮号、
 青凜号、青鬮号、スズハヤブサ号、ウイッチウエイ号
 「編集後記」 p67

●いななき 11号 目次 1976(昭和51)年5月 発行

「巻頭言」緑鞍会々長 井上恒春 p1
 「五十一年目の目標」監督 佐藤一貫 p2
 「御挨拶」部長 日向寺純雄 p2
 「主将挨拶」星 享輔 p3
 〈現状報告〉 p4 ~ p6
 「一番大切なのは交流」青木真次 「緑鞍会の生い立ち」沈廻濱 「酔ってあれこれ」神藤重光
 〈馬場OBより〉 p7 ~ p9
 「馬術と乗馬」原野 洋 「久し振りの馬場」内山えり子 「玉木獣医とのお話」高津彦太郎
 〈現役から〉 p10 ~ p12
 「馬場の一日」矢野真理子 「馬場OBの方々へ」三村のり子
 「地方出身の馬術部員」井上和宣 「女の子の立場から一言」上山千恵子

〈阿部先生近況〉…………… p13
 〈何でも言おうコーナー〉…………… p13～p18
 「馬術部今昔」梅本元子・藤根威・稲能武臣 「馬場で拾った話」大塚真理子
 「最近のスポーツ界について感じた事」内藤喜嗣 「城戸俊三先生のことども」井上恒春
 「OB伝言板」…………… p20
 「聞いてください」…………… p21
 〈高等部紹介〉…………… p22～p26
 矢作直也・色部真美子・中島かがり・清水文子・入江雅代・大山祥子・「試合結果報告」
 〈現役紹介〉…………… p29～32
 四年生十アルファー達・三年生・二年生
 〈馬匹紹介〉…………… p34～p39
 清驪、青冠、青貴、青連、青雅、青隼(スズハヤブサ)、スズボクサー、ジューガー、グリーンラップ、
 トリプルチャンス(白扇)、ノーバ、ミーバ、クイーンエリザベス、ウイッチウエイ、イチベイ
 いななき11号 昭和51年5月1日 発行

●いななき 12号 目次 1983(昭和58)年11月 発行

〈序文〉緑鞍会会長 井上恒春・馬術部主将 高久秀康
 〈巻頭の挨拶〉青山学院大学院長 大木金次郎
 〈第一部〉「青木真次前監督をしのんで」…………… p4～10
 青山学院大学院長 大木金次郎… p4 印南清(馬術家)… p5 青木昇(16卒)… p6
 張間陸途(昭35卒・現監督)… p7 伊藤政夫(昭4卒)… p7 新城直樹(昭28卒)… p8
 市原昭十郎(昭32卒)… p8 植松英二(昭28卒)… p9 赤嶋たみ子(昭33短卒)… p10
 〈第二部〉「馬と部員とOBと」…………… p15～p35
 馬匹紹介…………… p17～23
 青将、チャップ、青雄、青妃、青驪、青凌、青仙、武尊、
 ハリー、スティング、プリンセス・ケイ、フライデー
 部員紹介…………… p24
 川野孝徳・笹川 薫・込山博幸・高久秀康・金子亮一・宮尾元子・窪田美砂・篠崎夏実・
 佐々木直美・松本美紀・本田陽一郎・竹内晴美・庄野勢津子・塚本 樹・岡村敏彦・
 柳田智子・河村美木子・恵 佳子・太藤千栄・百武幸子・堀川万由美
 部室の落書き帳より…………… p27・28
 遠野合宿日記：岩田・堀川・篠崎…………… p29～31
 馬術部とアルバイト：市原昭十郎(昭32年卒)・川嶋 透(昭45卒)… p32・p33
 アルバイ 現況：競馬場・使役(競技会)・真木氏バイト(不定期)・その他… p34
 昭和55年度成績…………… p35～38
 「思い出がいっぱい」…………… p39～43
 「卒業後の馬とのつきあい」長野明… p39 「馬と私」福島保男… p39・p40
 「馬に憧れて」阿部雄三… p41 「青木先輩と遠野」長岡由美子… p42
 「愛しき馬よ！」大塚まり子… p43 「昭和四十九年騎乗日誌より」大山祥子… p43
 〈第三部〉
 「あんでばんだん」…………… p45～p50
 「幹事長挨拶」幹事長 遠藤恭輝… p47 「馬術部に思うこと・望むこと」監督 張間陸途… p47
 「現場から」馬術家 松本昭四郎… p48 「追憶—徒然なるままに」前主将 川野孝徳… p49
 「思うままに筆まかせ」新主将 高久秀康… p49 「馬術部の還暦を迎えて」羽板勇司… p50
 「'83初乗り会報」石田謙三… p50
 編集後記：石田謙三(昭39卒)・小野英子(昭35短卒)・堀川万由美

●いななき 13号 目次 1992(平成4)年5月 発行

〈第一部〉
 「巻頭言」青山学院大学理事長 羽坂勇司(昭16卒)…………… p1
 「部長挨拶」国際政治経済学部教授 高森 寛…………… p3
 「新緑鞍会々長挨拶」青木 昇(昭16卒)…………… p3
 「監督挨拶」六平 潔(昭46卒)…………… p4
 「コーチへのインタビュー」田中一弘…………… p4
 〈第二部〉
 「井上恒春前緑鞍会々長を偲んで」…………… p5・6
 「井上会長を偲ぶ」市原昭十郎(昭32卒)…………… p7
 「城戸俊三先生のことども」井上恒春…………… p9
 「四十二年前の馬術部」井上恒春…………… p11
 「井上会長を偲んで」新城直樹(昭28卒)…………… p14
 「井上さんのこと」赤嶋たみ子(昭33短卒14) 「井上会長を偲んで」張間陸途(昭35卒)…………… p15
 「井上先輩の思い出」堅村美恵子(昭35卒16) 「一冊の便箋そして馬とロバ 雑感」市原満佐子…………… p16
 〈第三部〉
 「思い出がいっぱい・OB寄稿」…………… p19～23
 「我が思い出」相良敏夫(大15卒)… p19 「思い出すことども」阿部雄三(昭18卒)… p19
 「緑蹄会の頃」秋元国松(昭32卒)… p20 「前後十三代との付き合い」三谷 稔(昭44卒)… p20
 「ゴンの思い出」山口(佐倉)有美(昭48卒)… p21 「輝いていた頃」吉田(円山)えり子(昭50卒)… p21
 「学生時代を振り返って」加藤和代(昭54卒)… p22
 「青山学院大学馬術部へ、の想い」松本美紀(昭60卒)… p22
 「日本初女子大生対抗試合」福原美里(昭31卒)… p23
 〈第四部〉
 「現役より」…………… p29～59
 「新主将あいさつ」高久和弘…………… p29
 「韓国モンゴル遠征報告」旧主将・森本敏正…………… p29
 「部員紹介」…………… p32～p39
 森本敏正・小国和紀・高久和弘・高柳徹三・依田卓也・藤森香織・佐々木久絵・山田恵里・並木 洋・
 加藤幸乃・中山陽子・芦田朋子・高野・辻本達雄・渡辺和之・藤森麻由・北井裕子
 「馬匹紹介」…………… p40～49
 ブルーサンダー、ブルーフラッグ、ブルージューガー、ブルーシュガー、ブルーライト、ブルーマリン、
 ブルースティンガー、ブルーブラッド、ブルーダイヤモンド、ブルーランポー、ブルーオンワード、
 ブルースナイパー
 「試合結果報告」…………… p50～51
 「活動報告」…………… p52
 「騎乗日誌より」…………… p55～58
 「編集後記」…………… p59

●いななき 14号 目次 1995(平成7)年6月 発行

〈第一部〉
 「いななき発刊にあたって」緑鞍会会長 青木 昇(昭16卒)…………… p1
 「部長挨拶」国際政治経済学部教授 高森 寛…………… p3
 「高等部部長挨拶」高等部宗主任 清水 正…………… p3
 「緑鞍会理事長挨拶」新城直樹(昭28卒)…………… p4
 「監督挨拶」六平 潔(昭46卒)…………… p4
 「コーチ挨拶」高柳徹三(平5卒)…………… p5
 〈第二部〉
 「思い出がいっぱい・OB寄稿」…………… p6～12

「馬術部”私の時代” 青山学院大学理事長 羽坂勇司(昭16卒) … p6
 「関東女子学生馬術連盟設立と 第一回関東女子学生馬術競技会について」梅本元子(昭31卒) … p7
 「亡き市原昭十郎氏を悼んで」大島孝子(昭32卒) … p8 「思い出の馬」川嶋 透(昭45卒) … p8
 「思い出のこの一頭」林 哲哉(昭52卒) … p10
 「思い出のこの一頭青冠」糠谷 拓(昭56卒) … p11 「思い出の一頭」佐々木直美(昭60卒) … p12

〈第三部〉
 「現役より」 … p18 ~ 36
 「旧主将挨拶」辻本達雄 … p18 「新主将挨拶」土橋寛太 … p18
 「高等部馬術部主将挨拶」広畑耕司 … p18 「副将挨拶」服部多映子 … p18
 「部員紹介」 … p20 ~ 24
 辻本達雄・北井裕子・藤森麻由・土橋寛太・榎山 裕・松山久美・佐藤恵子・
 弥登あゆみ・清藤裕子・川村 通・川俣亮介・藤森香弥
 「馬匹紹介」 … p25 ~ 32
 ブルーサンダー、ブルーランボー、ブルーフラッグ、プチブルー、ブルーマジック、ブルージーンズ、
 ブルーファルター、ブルージーガー、ブルースティンガー、ネイチャン、ブルーオンワード、ブルーライト
 「オラシオンとの思い出」中山陽子(平5年卒)
 「活動予定」 … p33
 「試合結果報告」 … p34
 「編集後記」 … p35

●いななき 15号 目次 1999(平成11)年9月 発行

〈第一部〉 … p1 ~ p6
 「馬術部とともに」緑鞆会会長 青木 昇(昭16卒) … p1
 「名誉部長挨拶」国際政治経済学部教授 高森 寛 … p3
 「部長挨拶」国際政治経済学部助教授 清水康司 … p3
 「高等部部長挨拶」高等部教諭 宇田川雅子 … p4
 「緑鞆会理事長挨拶」新城直樹(昭28卒) … p5
 「監督挨拶」大塚まりこ(昭44卒) … p6
 「コーチ挨拶」土橋寛太(平7卒)

〈第二部〉
 「思い出がいっぱい・OB寄稿」 … p8 ~ 11
 「現役時代の思い出」大島孝子 … p8 「四五六会の仲間」遠藤恭輝(昭35卒)
 「現役時代の思い出」松永恭直 … p9 「思い出の一頭」松本(北井)裕子(平6卒)

〈第三部〉
 「現役より」 … p18 ~ 42
 「主将挨拶」榎山 晶 … p18 「新主将挨拶」石黒健一郎 … p18
 「高等部主将挨拶」上原達朗 … p18・19
 「部員紹介」 … p20 ~ 29
 赤塚隆平・石井香子・伊藤寛子・岡本啓太郎・金丸修子・川崎彰子・沢岡理恵・松岡智子・榎山 晶・
 山梨拓磨・石黒健一郎・市原 榛・大矢隆太・長田幸子・仲内おりえ・広畑耕司・桃野亜紀・岡本享子・
 川崎園子・秋田有紀・成瀬裕子・安田景一朗・松長 悠・田口恵里・中沢明子・柴田明良・渡辺祐二
 「馬匹紹介」 … p30 ~ 36
 ブルー・バーディー、ライジング・ブルー、ベルシャン・ブルー、オーシャン・ブルー、ブルー・ラダレン、
 ブルー・ライアン、ブルー・オンワード、ブルー・ジーンズ、ブルー・ベルベット、ブルー・グレイス、
 ミント・ブルー、ブルー・キャンター、タイニー・ブルー、ブルー・スティンガー
 「活動予定」 … p37
 「試合結果報告」 … p38 ~ 41
 「編集後記」 … p42

●いななき 16号 目次 2003(平成15)年9月 発行

〈第一部〉 … p1 ~ 10
 「巻頭言」緑鞆会会長 新城直樹 … p1
 「馬術部創部八十周年に寄せて」青山学院理事長 羽坂勇司 … p2
 「馬術部創部八十周年を祝って」青山学院大学院長 深町正信 … p2
 「馬術部創部八十周年をお祝い申し上げます」青山学院大学体育会会長 沼田 哲
 「創部八十周年を祝って」馬術部部长 土山實男
 「馬術部創部八十周年に寄せて」高等部顧問 佐藤隆一
 「祝創部八十周年」緑鞆会名誉会長 青木 昇 「八十周年に思う」緑鞆会理事長 内藤喜嗣
 「馬術部創部八十周年に寄せて」緑鞆会幹事長 里中郁夫 「監督挨拶」馬術部監督 大塚まりこ
 「コーチ挨拶」馬術部ヘッドコーチ 高柳徹三 「主将挨拶」馬術部主将 高遠あゆ子
 「高等部主将挨拶」高等部主将 山本邦子

〈第二部〉 … p15 ~ 50
 「80年を彩る馬たち」 … p15 「昔の馬場」 … p16
 「記憶・馬と部生活」堀内陽一(昭29卒) … p17 ~ 22
 「馬術部80周年に寄せて・現役そして緑鞆会に思うこと」堅村昭三(昭30卒) … p22 ~ 24
 「もはや戦後ではない・昭和二十九年~三十六年」岩崎 修(昭36卒) … p24・25
 「青渚との思い出」斉藤良也(昭39卒) … p26・27 「青武と雷神」那波広和(昭41卒) … p27 ~ 30
 「青驪(セイリユウ・愛称ゴンの事)」山田恵道(昭41卒) … p30 ~ 31
 「青驪」井上敬一郎(昭60卒) … p31
 「青湧号・二部馬術部念願の自馬一号」神谷亮司(昭42卒) … p32・33
 「遠野の思い出」矢作直也 記 … p37 「青駿」島崎紀子(昭50卒) … p38
 「青蓮号のこと」宮川容子(昭52卒) … p38・39 「青蓮号」矢作直也(昭56卒) … p39
 「青隼号・スズハヤブサ」宮澤真一(昭53卒) … p40 「青駿号」井上和宣(昭54卒) … p40・41
 「青駿号のこと」多田羅(堀川)万由美(昭60卒) … p41
 「ショウグン号(青将号)高梨(清水)文子(昭58卒)
 「青遠号」矢作(大山)祥子(昭56卒) … p42・43 「カネニシキ(青遠)号」込山博幸(昭60卒)
 「シンキスパー号」片桐(篠崎)夏実(昭60卒) … p44 「ブルーサンダー」高久和弘(平4卒) … p45
 「ブルーサンダー」渡辺浩美(昭63卒) … p45 「エクセル号の思い出」佐々木直美(昭60卒)
 「エクセルについて」別府尚子(昭63卒) … p46 「ブルースチンガー」箭内裕二郎(平2卒) … p47
 「ブルーフラッグ」箭内裕二郎(平2卒) … p47 「ブルーマリオン」村上陽子(平2) … p48
 「ブルージーンズ」村上陽子(平2) … p48 「ベルシャンブルー」上原達郎(昭14卒)
 「フィアンセの思い出」田中英樹(平14卒) … p49・50
 「全馬匹リスト」昭和26年~平成14年 約150頭の馬たち … p53 ~ 59

〈第三部〉 … p63 ~ 79
 「現役紹介」 … p63 ~ 67
 高遠あゆ子・石橋木綿・平岩大典・澤田麻衣子・森田浩子・福本健太郎・長沼紗千子・松本拓也・門脇 遼・
 関根麻紀子・成瀬 聡・前田文昭・小河慶祐
 「高等部紹介」部員、活動記録、活動計画 … p68
 「馬匹紹介」 … p69 ~ 72
 トレドブルー、クラウドブルー、ディーブブルー、ブルーフライト、クリアブルー、タイニーブルー、
 アクアブルー、ブルーライアン、ブルースコープ、ブルーラダレン、ブルーフラベチーノ、
 ライジングブルー、ブルーポニータ
 「思い出の馬・ブルーシーズンそして他にも」高遠あゆ子記 … p73
 「活動記録」 … p74
 「平成十五年に卒業した緑鞆会一年生を紹介」 … p75
 田中英樹・成瀬亜紀子・津田果奈・上原達郎・笠七美花・横田美穂・藤原大輔・平野陽子・鈴木智博
 「2003年度試合予定」 … p76
 「編集後記」

●いななき 17号 目次 2008(平成20)年3月 発行 (2006年4月・青山学院大学馬術部新厩舎落成記念)

〈第一部〉 p1 ~ 10

「新馬場開設に寄せて」緑鞍会会長 新城直樹(昭28卒) p1

「馬術部の発展にさらに努力とご支援を」青山学院大学馬術部長 土山實男 p2

「努力と忍耐の精神」高等部馬術部顧問 佐藤隆一 p2

「新馬場開設記念号に寄せて」緑鞍会理事長 岩崎 修(昭36卒) p3

「新馬場移転特集号に寄せて」緑鞍会幹事長 星 亨輔(昭52卒) p4

「青山学院大学体育会馬術部町田馬場新設にあたって」馬術部監督 大塚まりこ p5・6

「式典・写真」 p6 ~ 12

〈第二部〉 p13 ~ 27

(思い出がいっぱい)

「私と馬の縁えにし」福原美里(昭31卒) p13

「思い出の馬場・厩舎」堅村昭三(昭34卒) p13 ~ 15

「84周年を彩る思い出の馬場・厩舎」松永恭直(昭61卒) p16

「綱島時代の思い出」安田景一郎(平13卒) p16

「綱島の思い出」鈴木美穂(平15卒) p17

「綱島馬場回想録」津田果奈(平15卒) p1

「アシェンダでの思い出」高遠あゆ子(平16卒) p18

「アシェンダ乗馬学校は」成瀬 聡(平17卒) p19

「遠野での夏合宿の思い出」今野幸夫(昭53卒) p20・21

「エピソード」佐藤一貫(昭33卒) p22

「青山学院創立百周年記念馬術大会・1974年10月6日 於馬事公苑」 p23 ~ 25

「青木 昇・羽坂先輩米寿のお祝い*羽坂先輩叙勲のお祝い」 p26・27

〈第三部〉 p33 ~ 46

「主将挨拶」渡辺 彩 p33

「現役他己紹介」 p33 ~ 36

渡辺 彩・安保静奈・野上香織・元野法子・下家ひろみ・木林里乃・中野亜耶・森香奈子・石澤裕弥・森 美穂・平山葉子

「町田グラウンド新馬場紹介」写真 p37 ~ 39

「馬匹紹介」 p40 ~ 43

ブルーホビット、アクアブルー、ブルーシンフォニー、ブルーラグーン、デীবブルー、ブライトブルー、クラウドブルー、ブルーコンフェリーチェ、ブルーミニボ

「高等部紹介」部員、主将挨拶、活動記録、活動計画 p44

「平成19年度試合結果」 p45

「編集後記」下家ひろみ p46

●いななき 18号 目次 2014(平成26)年3月 発行

〈第一部〉 p1 ~ 7

(皆様からのご祝辞・ご挨拶)

「ご挨拶」緑鞍会会長 新城直樹(昭28卒) p1

「白馬の騎士に続く群れ」青山学院院長 山北宜久 p2

「創部100周年をめざしていっそうの努力とご支援を」馬術部部长 土山實男 p2・3

「廃部の危機を乗り越えて」高等部顧問 佐藤隆一 p4

「90周年に寄せて」緑鞍会理事長 岩崎 修(昭36卒) p5

「創部90周年を迎えて」緑鞍会幹事長 林 哲哉(昭52卒) p6

「監督挨拶」馬術部監督 高梨文子(昭57卒) p7

「主将挨拶」主将 橋本治奈 p7

「高等部主将挨拶」主将 今津奈々央 p7・8

〈第二部〉 p11 ~ 16

「創部90周年記念式典」案内・写真 p11 ~ 16

〈第三部〉 p19 ~ 31

(皆様からのご祝辞・お便り)

「創部90周年に寄せて」大塚まりこ(昭44卒) p19

「現役の皆さんへ」北井裕子(平7卒) p20

「当時の思い出」亀田麻衣子(平17卒) p20

「現役時代を振りかかって」平岩大典(平17卒) p21

「繋がり」中島 彩(平20卒) p21・21

「ホースセラピーについて」太田恵美子(昭53卒)

「初等部・中等部の取り組みについて」高梨文子(昭57卒) p23・24

「師 阿部先生のこと」林 哲哉(昭52卒) p24 ~ 26

「懐かしの綱島馬場は今」林 哲哉(昭52卒) p26・27

「一言メッセージ」

佐藤一貫(昭33卒)・永井豊子(昭35卒)・高倉 彰(昭37卒)・海田(藤間)愛子(昭37卒)・石田謙三(昭39卒)・栗原 徹(昭50卒)・公文真理子(昭52卒)・矢作直也(昭56卒)・夏目香織(平5卒)・高遠あゆ子(平16卒)・金子璋男(昭37卒)・大津裕子(昭40卒)・篠原敬明(昭41卒)・山田恵道(昭41卒)・川嶋 透(昭45卒)・吉田えり子(昭50卒)・島崎紀子(昭50卒)・星 維子(昭51卒)・平野陽子(平15卒)・小泉清華(平24卒)

〈第四部〉 p34 ~ 40

(現役のページ)

「戦績のご紹介・戦績表(2007年2月11日~2013年12月1日)」 p34 ~ 40

「馬匹のご紹介」 p41 ~ 43

ブルーアーバン、レルシアブルー、ブルードーター、マリンプルー、ラフター、キルラルスブルー、ブルーシャルム、プチブルー、ブルーシンフォニー、ヤヨイ、ブループリンセス、ハッチポッチブルー、ブライトブルー、ブルーベリー、カサンドラクイーン、ブルーベルファースト

「部員ご紹介」 p44 ~ 47

橋本治奈・佐藤歌奈子・森田麻美・丹野里香・久川由馬・前田慶樹・辻村恵里・岡澤修平・折原健太・小林将大・佐藤伸太郎・杉谷駿太郎・中村亮太・古川友理・梁 景太・河角優奈・張 之銀・有安千晶・永田祐一・木場雅也

「馬匹名簿・過去を彩った名馬達」 p48 ~ 54

青峯から始まって平成25年までに入厩した170頭余りの馬匹名簿

「馬余聞 1・2」 p55・56

〈第五部〉 p57 ~ 71

「いななき」第一号復刻版掲載 p58 ~ 70

「編集後記」 p71

試合結果

Match Results

2013年

4月

関東学生春季大会パートル(東都学生馬術大会)

○新人障害

- 第4位 佐藤歌奈子 マリンブルー
- 第9位 森田麻美 ブライトブルー

○女子障害 団体第2位

- 第2位 丹野里香 マリンブルー
- 第4位 橋本治奈 レルシアブルー
- 第10位 森田麻美 ブライトブルー

○学生賞典馬場

- 第6位 橋本治奈 ブルーアーバン
- 第9位 森田麻美 プチブルー

○第3課目B 団体第3位

- 第5位 丹野里香 ブルーアーバン
 - 第12位 佐藤歌奈子 プチブルー
 - 第13位 前田慶樹 ブルーベルファスト
 - 第15位 久川由馬 キルラルスブルー
 - 第19位 辻村恵里 ハッチポッチブルー
- 団体総合 第3位

5月

新人戦

○50cm

- 第1位 中村亮太 ブライトブルー
- 第3位 古川友理 ラフター

○60cm

- 第1位 岡澤修平 ブライトブルー
- 第2位 杉谷駿太郎
カサンドラクイーン

○80cm

- 第1位 前田慶樹 ラフター
- 第2位 木林里乃コーチ ヤヨイ

○80cm パワー&スピード

- 第3位 木林里乃コーチ ヤヨイ
- 第7位 前田慶樹 ラフター

第56回関東学生馬術女子選手権大会

○2回戦(部班競技)

- 第4位 橋本治奈
- 第11位 佐藤歌奈子
- 第12位 丹野里香
- 第29位 森田麻美

6月

関東学生障害馬術

○中障害 C120cm

- 第10位 丹野里香 マリンブルー

○《馬場》団体第5位

- 第12位 橋本治奈 ブルーアーバン
- 第18位 森田麻美 プチブルー
- 第27位 丹野里香 ブルーシンフォニー
- 第30位 佐藤歌奈子 ブレードーター

10月

オリンピック記念馬術大会

○90cm 障害

- 第4位 橋本 キルラルスブルー

○120cm 障害

- 第6位 丹野 マリンブルー

東京馬術大会 CDI

○FEI ヤングライダープレリミナリーテスト 2009

- 第1位 橋本 ブルーアーバン
- 第3位 佐藤 ブレードーター
- 第4位 森田 プチブルー

○J.E.F.自由演技国体成年馬場馬術課目

- 第11位 橋本 ブルーアーバン

○ヤングライダープレリミナリーテスト

- 第1位 佐藤 ブレードーター
- 第2位 森田 プチブルー

11月

全日本学生賞典馬場馬術競技

○予選

- 第8位 橋本 ブルーアーバン
- 第31位 森田 プチブルー

○個人決勝

- 第6位 橋本 ブルーアーバン

関東学生馬術女子競技会

○馬場馬術競技

団体第3位

- 第7位 橋本 ブレードーター
- 第9位 森田 プチブルー
- 第31位 佐藤 ブルーアーバン

○会長杯(A2課目)

- 第10位 杉谷 プチブルー
- 第4位 古川 プチブルー

○障害飛越競技

団体第5位

- 第15位 佐藤 マリンブルー
- 第22位 森田 ブライトブルー

○会長杯(90cm)

- 第3位 久川 マリンブルー
- 第8位 佐藤(伸) ラフター

○会長杯(100cm)

- 第1位 久川 マリンブルー

○オープン競技(90cm)

- 第1位 佐藤 ラフター
- 第5位 中村 ラフター

12月

関東高等学校自馬競技大会

○馬場馬術競技 A2課目

- 第12位 加藤かおり ハッチポッチブルー
- 第16位 村元佑衣 ハッチポッチブルー

○クロスバージャンプ競技

- 第1位 今津奈々央 キルラルスブルー
- 第7位 吉田瑚子 キルラルスブルー
- 第9位 中川原弘恭 ラフター
- 第10位 河井啓太 ラフター

○小障害C 80cm

- 第11位 河井啓太 ラフター
- 第16位 中川原弘恭 ラフター

2014年

1月

第16回六会ホースショー 2014 (貸与馬戦)

○第1競技部班競技

- 第7位 有安千晶 桜灯
- 第2位 競技馬場馬術競技第2課目
- 第5位 折原健太 桜翔

○第3競技馬場馬術競技第3課目 B short

- 第12位 中村亮太 桜剛

○第5競技ハンターシート障害飛越競技 60cm

- 第9位 木場雅也 マイネルトレース

○第6競技ハンターシート障害飛越競技 80cm

- 第11位 梁景太 楼珀

2月

第60回学習院戦

青山学院大学優勝

3月

第45回関東学生馬術新人競技大会

○新人戦障害

- 第11位 久川由馬 マリンブルー

○オープン競技(90cm)

- 第6位 古川友理 ラフター

第22回関東学生馬術協会会長杯争奪戦および第37回関東学生馬術 OB 競技大会

○監督対抗ジムカーナ

- 第3位 高梨文子監督
コンシデラブル

○会長杯小障害 A 第二走行

- 第3位 梁景太 ブルージャーナ
- 第9位 小林将大 ブライトブルー
- 第10位 折原健太 ラフター
- 第12位 杉谷駿太郎

第34回スクーリングジャンプ&ドレッシング Part I

○第3競技 東京障害 100-1

- 第16位 木林里乃コーチ
BUM コンシデラブル

○第5競技 東京障害 110-2

- 第6位 丹野里香 BUM ジアーナ

○第11競技 L1 課目 2013 (B班)

- 第4位 佐藤伸太郎 プチブルー
- 第5位 中村亮太 プチブルー

○第15競技 ヤングライダー予選競技馬場馬術課目

- 第12位 前田慶樹 ブルーフォセッタ

第34回スクーリングジャンプ&ドレッシング Part II

○第21競技 東京障害 110-4

- 第3位 木林里乃コーチ
BUM コンシデラブル

○第23競技 東京障害 120-4

- 第1位 丹野里香 BUM ジアーナ

○競技 ヤングライダー予選競技馬場馬術課目

- 第15位 前田慶樹 ブルーフォセッタ

4月

第51回東都学生馬術大会

○第2競技一般障害飛越競技

- 第5位 梁景太 ブルージャーナ
 - 第8位 久川由馬 マリンブルー
- 団体結果 第3位

○第3競技新人障害飛越競技

- 第6位 小林将大 マリンブルー
 - 第8位 古川友理 ブルージャーナ
- 団体結果 第5位

○第4競技学生賞典馬場馬術競技

- 第3位 丹野里香 プチブルー
- 第15位 前田慶樹 ブルーフォセッタ

○第6競技新人馬場馬術競技

- 第3位 佐藤伸太郎
プチブルー
- 第14位 中村亮太 ブルーフォセッタ

○第8競技標準障害馬術競技

- 第5位 丹野里香 ブルージャーナ
 - 第9位 久川由馬 マリンブルー
- 団体総合 第4位

5月

第37回湘南ホースショー

○L級 B 90cm

- 第6位 木場雅也
カサンドラクイーン

○L級 F 50cm

- 第2位 佐藤伸太郎 ヤヨイ
- 第3位 河角優奈 ヤヨイ
- 第6位 吉田瑚子

カサンドラクイーン

- 第7位 杉谷駿太郎 ラフター

カサンドラクイーン

- 第10位 有安千晶 ラフター

○L級 E 60cm

- 第1位 河角優奈 ラフター

第56回関東学生馬術選手権大会

第58回関東学生馬術女子選手権大会

- 第13位 久川由馬 デイクシーランド

神奈川県民馬術大会兼国体予選会 2014

○第5競技 JEF 馬場馬術 L1 課目 2013

- 第7位 中村亮太 ブルーシャルム
- 第9位 岡澤修平 ブルーベルファスト
- 第8競技 JEF 馬場馬術 M1 課目 2013
- 第2位 佐藤伸太郎 ブルーフォセッタ

6月

第31回東京ホースショー

○第13競技 FEI ヤングライダー予選競技

- 第10位 丹野里香 プチブルー
- 第5競技 東京障害飛越競技 110-2
- 第2位 久川由馬 マリンブルー

○第17競技 JEF 馬場馬術 L1 課目 2013

- 第9位 中村亮太 ブルーシャルム

○第20競技 JEF 馬場馬術 M1 課目 2013

- 第3位 佐藤伸太郎 ブルーフォセッタ

○第18競技 東京障害飛越競技 120-3

- 第11位 久川由馬 マリンブルー

第48回全日本高等学校馬術競技大会 関東地区予選

- 第3位 青山学院高等部

第49回関東学生賞典障害飛越競技

- 第11位 久川由馬 マリンブルー
- 第39位 丹野里香 ブルージャーナ

第49回関東学生賞典馬場馬術競技会

- 第10位 丹野里香 プチブルー
- 第34位 中村亮太 ブルーフォセッタ

7月

第22回神奈川ホースショー

○第1競技 クロスバー障害

- 第12位 村元佑衣 ラフター
- 第14位 林由佳 ラフター

○第2競技 ビギナーズジャンプ

- 第4位 吉田瑚子 カサンドラクイーン
- 第11位 林由佳 ラフター

第17位 有安千晶 ラフター

○第3競技 小障害飛越 C

- 第7位 加藤かおり
カサンドラクイーン
- 第7位 吉田瑚子 カサンドラクイーン

○第9競技 JEF 馬場馬術 A3 課目

- 2013 一般班
- 第7位 岡澤修平 ヤヨイ

○第13競技 JEF 馬場馬術 A2 課目 2013 A 班

- 第4位 有安千晶 プチブルー
- 第5位 加藤かおり プチブルー

9月

かながわ馬場馬術大会 2014

○第5競技 JEF 馬場馬術 L1 課目 2013

- 第2位 古川友理 プチブルー
- 第8競技 JEF 馬場馬術 M1 課目 2013
- 第1位 丹野里香 ブルーフォセッタ

○第12競技 JEF 馬場馬術 A3 課目 2013

- 第2位 辻村恵里 ヤヨイ
- 第4位 河角優奈 ブルーベルファスト
- 第11位 有安千晶 ヤヨイ

○第24競技 JEF 自由演技国体成年馬場馬術課目 〈公認〉

- 第3位 丹野里香 プチブルー
- 第23競技 JEF 馬場馬術 A3 課目 2013
- 第2位 河角優奈 ブルーフォセッタ

- 第5位 辻村恵里 ヤヨイ
- 第10位 有安千晶 ブルーベルファスト

10月

第49回オリンピック記念馬術大会及び

第48回東京障害飛越選手権

○第3競技 東京障害飛越 110-1

- 第1位 北井一彰コーチ
アンディアーモ

第6位 木林里乃 コンシデラブル

○第4競技 東京障害飛越 110-2

- 第1位 久川由馬 マリンブルー

○第15競技 ラロ号記念障害飛越競技

- 第3位 久川由馬 マリンブルー
- 第17位 北井一彰コーチ
アンディアーモ

第60回東京馬術大会

○第19競技 ヤングライダー

プレリミナリーテスト 2010

- 第1位 丹野里香 プチブルー

11月

第64回全日本学生賞典障害飛越競技大会

- 第13位 久川由馬 マリンブルー

第64回全日本学生賞典馬場馬術競技大会

- 第17位 丹野里香 プチブルー

学習院定期交流戦

青山学院大学準優勝

第12月 第52回関東学生女子競技大会及び平成26年度関東学生会長杯

○馬場馬術競技

- 第11位 丹野里香 ブルーフォセッタ
- 第39位 河

2017年

- 1月**
六会ホースショー（貸与馬戦）
○第2競技 部班競技 A 班
○第3競技 TREC 競技
第10位 盛谷周平 桜葵
○第4競技 ハンターシート小障害飛越競技 80cm
第5位 一箭大貴 桜孫

- 2月**
第63回青山学院大学対学習院大学馬術定期戦
青山学院大学 準優勝

- 3月**
関東学生春季大会 part II
○第2競技 新人馬場競技
第9位 林由佳 プチブルー
第15位 大堀笙子 ブルーフォセット
第21位 一箭大貴 ブルーライアン 団体 第5位

- ひょうごスプリングホースショー
○第1競技 中障害 D:S&H（公認種目）
第39位 北垣果林 チェセント
○第9競技 中障害 D：ファイナル（公認種目）
第6位 北垣果林 チェセント

- 2017 Fuji Horse Show Spring Grand Prix**
○第1競技 L-B 級障害飛越競技
第7位 北垣果林 パント（貸与馬）
○第2競技 L-A 級障害飛越競技
第9位 北垣果林 パント（貸与馬）
○第10競技 L-A 級障害飛越競技
第13位 北垣果林 パント（貸与馬）
○第23競技 L-A 級障害飛越競技
第2位 北垣果林 パント（貸与馬）

- 4月**
第16回大阪グランプリ スプリングホースショー
○第1競技 中障害 D
第44位 北垣果林 チェセント
○第6競技 グランプリアマゾネス 婦人障害
第4位 北垣果林 チェセント
○第10競技 中障害飛越《D》チャンピオンシップ
第7位 北垣果林 チェセント

- Japan Open 2017 第2戦**
○第12競技 標準障害100（JDクラス）
第2位 北垣果林 パント（貸与馬）
○第14競技 中障害C（公認）（JBクラス）
第6位（JBクラス 3位）北垣果林 チェセント

- 第51回関東学生賞典障害飛越競技**
第22位 木場雅也 リスタイル

- 第51回関東学生賞典馬場馬術競技大会**
○第51回関東学生賞典馬場馬術競技
第24位 河角優奈 プチブルー

- 7月**
第24回神奈川ホースショー
○第1競技 障害飛越競技 50cm
第1位 萩島龍雪 キルラルスブルー
第3位 三澤健太郎 キルラルスブルー
第6位 友田エマ ブルーベリー
第7位 内山かおり ブルーベリー
○第2競技 障害飛越競技 60cm
第2位 堀田昂輝 キルラルスブルー
第3位 原田実乃里 ブルーベリー
○第3競技 障害飛越競技 70cm
第3位 友田エマ キルラルスブルー
第6位 三澤健太郎 ブルーベリー
○第4競技 小障害飛越競技 C
第4位 堀田昂輝 キルラルスブルー
○第9競技 ジムカーナ競技
第7位 宮武遥 ブルーベルファスト
第8位 中村くるみ ブルーベルファスト

- 第9位 常真里花 ブルーベルファスト
○JFE 馬場馬術競技 A2 課目 2013
第9位 常真理花 ブルーベルファスト
第15位 内山かおり ブルーベリー
第18位 三澤健太郎 キルラルスブルー
第21位 原田実乃里 ブルーベリー
第22位 宮武遥 ブルーベルファスト

- 10月**
第66回全日本学生賞典障害馬術競技
第29位 木場 雅也 リスタイル

- 11月**
第54回関東学生馬術女子競技大会
○馬場馬術競技
第12位 北垣果林 ブルーライアン
第17位 河角優奈 ブルーフォセット
第18位 加藤かおり プチブルー 団体 第4位

- 12月**
第52回関東高等学校自馬競技大会
○第2競技 馬場馬術 A2 課目
第3位 常真里花 ブルーフォセット
第11位 中村くるみ ブルーフォセット
第17位 宮武遥 ブルーベリー
○第10競技 クロスパー
第4位 萩島龍雪 ブルーベリー
○第11競技 パーティカル
第6位 常真里花 ブルーベリー
○第12競技 障害飛越 80cm
第1位 堀田昂輝 ドクターフラッシュ
第2位 友田エマ ドクターフラッシュ

- 12月**
第51回関東高等学校自馬競技大会
○第11競技 パーティカル競技
第5位 宮武遥 ラフター
○第12競技 小障害 Cー2 飛越競技
第7位 堀田昂輝 キルラルスブルー
第14位 友田エマ アンディアーモ

2016年

- 1月**
六会ホースショー 2016
○第1競技 部班競技
第8位 三澤健太郎 桜珀
○第3競技 TREC 競技
第33位 内山かおり 桜雷
第35位 一箭大貴 桜雷

- 2月**
第36回スクーリングジャンプ&ドレッシージュ Part I
○第20競技 東京障害 100-2
第23位 北垣果林 リヴェリオン
第25位 河角優奈 リヴェリオン

- 3月**
第47回関東学生馬術新人競技大会及び第39回関東学生馬術OB競技大会及び第24回関東学生馬術協会会長杯争奪戦
○オープン競技 L1 課目
第2位 林由佳 ブルーフォセット
第3位 木場雅也 ブルーライアン
第4位 加藤かおり ブルーフォセット
○新人戦競技
第20位 北垣果林 リスタイル
○会長杯 小障害 A 第一走行
第1位 河角優奈 リヴェリオン
第3位 北垣果林 リスタイル
○オープン競技 クロス障害
第1位 一箭大貴 キルラルスブルー
第2位 木場雅也 ブルーライアン
第4位 大堀笙子 キルラルスブルー
第5位 橋本治奈 ブルーライアン
○会長杯 小障害 A 第二走行
第1位 北垣果林 リスタイル

- 4月**
第53回東都学生馬術大会
○第7競技 標準障害飛越競技
第8位 木場雅也 リスタイル 団体総合 第4位

- 6月**
第33回東京ホースショー
○第7競技 東京障害飛越競技 120-2
第12位 木場雅也 リスタイル
○第13競技 FEI ヤングライダー予選競技
第15位 河角優奈 プチブルー

- 第50回関東学生賞典馬場馬術競技**
第32位 中村亮太 プチブルー
第22位 佐藤伸太郎 アンディアーモ
第23位 岡澤修平 ブルーシャングリラ 団体 第8位

- 7月**
第23回神奈川ホースショー
○第2競技 ビギナーズジャンプ 60
第4位 友田エマ ラフター
第8位 中村くるみ キルラルスブルー
第9位 宮武遥 ラフター
○第3競技 ビギナーズジャンプ 70
第2位 常真里花 キルラルスブルー
第6位 安東拓未 ラフター
第7位 堀田昂輝 キルラルスブルー
○第5競技 小障害飛越競技 B（H90）
第10位 河角優奈 ブルージアーナ
○第6競技 小障害飛越競技 A（H100）
第4位 河角優奈 ブルージアーナ

- 9月**
第1回目白チャレンジカップ
○部班競技
第14位 吉井海人 貴桜
第15位 原田実乃里 希桜

- 10月**
第50回オリンピック記念馬術大会
○第2競技 東京障害飛越 100- I
第25位 河角優奈 ブルージアーナ
○第6競技 東京障害飛越 120- II
第7位 小林将大 マリンブルー
第20位 梁景太 リスタイル

- 第65回全日本学生賞典馬術飛越競技**
第47位 梁景太 リスタイル 団体 第14位

- 第65回全日本学生賞典馬場馬術競技**
第31位 佐藤伸太郎 アンディアーモ

- 第53回関東学生馬術女子競技大会及び会長杯**
○関東学生馬術女子競技大会 馬場馬術競技 JEF L1 課目
第14位 河角優奈 プチブルー
第22位 北垣果林 ブルーフォセット
第29位 古川友理 アンディアーモ 団体結果 第5位
○関東学生会会長杯 JEF A3 課目
第10位 林由佳 プチブルー
第12位 河井啓太 ブルーフォセット
○関東学生馬術女子競技大会 障害馬術 中障害 D
第18位 北垣果林 リスタイル 障害飛越競技団体結果 第9位
○小障害 B 飛越競技
第19位 杉谷駿太郎 キルラルスブルー
○小障害 A 飛越競技
第3位 杉谷駿太郎 キルラルスブルー

- 第24位 杉谷駿太郎 キルラルスブルー 団体 第4位
○第3競技 一般障害馬術競技
第1位 小林将大 マリンブルー
第7位 岡澤修平 リスタイル
第10位 梁景太 ブルージアーナ 団体 第2位
○第4競技 学生賞典馬場馬術競技
第14位 岡澤修平 ブルーフォセット
第16位 中村亮太 アンディアーモ
○第6競技 新人馬場馬術競技
第3位 佐藤伸太郎 アンディアーモ
第7位 古川友里 ブルーフォセット
第19位 河角優奈 ヤヨイ
○第8競技 標準障害飛越競技 団体 第5位
第12位 岡澤修平 リスタイル
6種目総合団体 第4位

- 5月**
第39回湘南ホースショー
○第16競技 L 級 F 50cm
第4位 堀田昂暉 ラフター
第5位 常真里花 キルラルスブルー
第6位 安東拓未 ラフター
○第17競技 L 級 E 60cm
第10位 常真里花 キルラルスブルー
第11位 堀田昂暉 ラフター
第14位 安東拓未 ラフター
○第21競技 ジムカーナ 速歩班
第3位 中村くるみ ブルーベリー
第4位 宮武遥 ブルーベリー

- 第87回関東学生馬術選手権大会**
第7位 小林将大
第11位 木場雅也
第16位 梁景太
第19位 岡澤修平
第26位 佐藤伸太郎

- 6月**
第32回東京ホースショー
○第3競技 東京障害飛越競技 100-1
第2位 小林将大 マリンブルー
第10位 木場雅也 リヴェリオン
○第5競技 東京障害飛越競技 110-2
第6位 小林将大 マリンブルー
第15位 木場雅也 リヴェリオン
○第13競技 ヤングライダー予選競技馬場馬術課目 2009
第17位 佐藤伸太郎 アンディアーモ
第22位 中村亮太 ブルーフォセット
第25位 岡澤修平 ブルーシャングリラ

- 第50回関東学生賞典障害飛越競技**
第5位 小林将大 マリンブルー
第7位 小林将大 マリンブルー
第31位 梁景太 リスタイル 団体 第8位

2015年

- 1月**
第19回六会ホースショー（貸与馬戦）
○第1競技 部班競技
第3位 福森杏子 桜灯

- 2月**
第35回スクーリングジャンプ&ドレッシージュ Part I
○第2競技 東京障害 90cm
第4位 小林将大 コンシデラブル
第6位 梁景太 ブルージアーナ
第8位 小林将大 マリンブルー
第10位 梁景太 リスタイル
第11位 岡澤修平 リスタイル
○第19競技 東京障害 100cm
第8位 岡澤修平 リスタイル
第11位 梁景太 ブルージアーナ
第13位 小林将大 マリンブルー
第15位 梁景太 リスタイル

- 3月**
第46回関東学生馬術新人戦競技大会と第23回関東学生馬術協会会長杯争奪戦及び第38回関東学生馬術OB競技大会
○第2競技 新人戦
第4位 小林将大 マリンブルー
第5位 梁景太 ブルージアーナ
第15位 岡澤修平 リスタイル 団体 第2位
○第3競技 会長杯小障害 A
第14位 木場雅也 コンシデラブル
○第6競技 OB 競技 監督対抗 ジムカーナー一般 OB 班
第2位 東雄三郎 ブルーベリー

- 第35回スクーリングジャンプ&ドレッシージュ Part II**
○第2競技 東京障害 90-1
第9位 梁景太 アンディアーモ
○第11競技 馬場馬術課目 L12013
第4位 河角優奈 ヤヨイ
第5位 古川友理 ブルーフォセット
○第15競技 ヤングライダー予選競技馬場馬術課目
第9位 中村亮太 ブルーフォセット
○第19競技 東京障害 100-3
第5位 梁景太 アンディアーモ
○第29競技 ヤングライダー予選競技馬場馬術課目
第9位 岡澤修平 ブルーフォセット

- 4月**
第52回東都学生馬術大会
○第2競技 新人障害馬術競技
第8位 木場雅也 マリンブルー
第16位 梁景太 リスタイル
第17位 佐藤伸太郎 アンディアーモ

- チャレンジ障害 C
 - 第3位 高柳立矢 ブルールシファー
 - 第6位 村上大和 ブルールシファー

- 5月**
SHIZUOKA ホースショー
- 第9-1 競技 小障害(一般)
 - 第5位 池谷美咲 ブルールシファー
 - 第25-2 競技 JEF 馬場馬術第5 課目 A2022
 - 第1位 金子亜里紗
ブルーフォーエヴァー

- 第31 競技 JEF 馬場馬術第2 課目 B2022
 - 第4位 山田里奈 メイブルーメイ
- 第40-1 競技 小障害 C(一般)
 - 第5位 池谷美咲 ブルールシファー
- 第40-2 競技 小障害 C(少年・婦人)
 - 第2位 安福心優(高等部2年)
ブルーシファー
- 第62 競技 JEF 馬場馬術第2 課目 B2022
 - 第7位 安福心優(高等部2年)
メイブルーメイ

- 第66 競技 JEF 馬場馬術第5 課目 A2022
 - 第3位 金子亜里紗
ブルーフォーエヴァー

- 6月**
令和5年度関東学生馬術競技大会
- 第58 回関東学生賞典馬場馬術競技大会
 - 第31位 金子亜里紗
ブルーフォーエヴァー

- 10月**
第31 回神奈川ホースショー
- 第2 競技 RRC 馬場馬術競技 NRCA オリジナル課目
 - 第13位 桃野亜紀コーチ
ブルーバロール

- 第4 競技 JEF 馬場馬術競技 第2 課目 B 2022
 - 第18位 山田里奈 ブルーバロール
- 第9 競技 JEF 馬場馬術競技 第4 課目 A 2022
 - 第1位 金子亜里紗
ブルーフォーエヴァー
- 第11 競技 障害飛越競技 50cm
 - 第3位 池谷美咲 ブルーバロール
 - 第9位 山田里奈 ブルーバロール
- 第15 競技 小障害飛越競技 C
 - 第4位 池谷美咲 ハッピーソナブルー

- 11月**
成城大学・成蹊大学・青山学院大学馬術交流戦
総合優勝

- 第8 回関東学生馬術男子競技大会、第61 回関東学生馬術女子競技大会、和

- 5 年度関東学生馬術協会会長杯争奪戦**
- 会長杯小障害 C 飛越競技
 - 第17位 村上大和 ブルールシファー
 - 第21位 池谷美咲
ハッピーソナブルー
 - 会長杯 JEF 馬場馬術競技第2 課目 B
 - 第4位 原 ブルーフォーエヴァー
 - 第9位 今村優花 ハブナブルー
 - 第18位 山田里奈 ブルーバロール

2024 年

- 2月**
学習院大学対青山学院大学馬術定期戦
- 第1 競技 駈歩部班競技
 - 第1位 高島ゆづき 幹桜
 - 第3位 高原万璃愛 桜小町
 - 第2 競技 馬場馬術第2 課目 B
 - 第1位 原碧 舜桜
 - 第3位 石原ほのか 秀桜
 - 第3 競技 障害飛越競技 60cm
 - 第2位 山口愛夏 秀桜
 - 第3位 小林凜 舜桜

- 3月**
第55 回関東学生馬術新人戦
- 会長杯障害 A
 - 第6位 小西凜生
ハッピーソナブルー
 - 第9位池谷美咲 ブルーリンクス
 - 小障害 B
 - 第10位 小西凜生 マゼブルー
 - 小障害 C
 - 第5位 小西凜生 マゼブルー
 - パーティカル障害飛越競技
 - 第6位 石原ほのか
ブルールシファー
 - 第9位 山口愛夏
ブルールシファー

- 第2 回関東学生バレンタインホースショー**
- 部班競技
 - 第5位 小林凜 ラトゥールプリエ
 - 第2 課目 B
 - 第2位 今村優花 コタロウ
 - 60cm 障害障害競技
 - 第4位 安福心優(高3) 桜豆
 - 第8位 小林凜 東旋
 - ジムカーナ競争
 - 今村優花 ハッピーチャンス
 - 団体結果 8位

- 4月**
第61 回東都学生馬術大会
- 新人馬場馬術競技
 - 第8位原碧 ブルーマックス
 - 第10位 今村優花
ブルーマックス
 - チャレンジ障害馬術競技

- 第5位 杉本鷹哉 ブルーリンクス
- 第9位 小西凜生 マゼブルー
- チャレンジ馬場馬術競技
 - 第5位 村上大和 ブルーバロール
 - 第9位 山口愛夏 メイブルーメイ

- 5月**
第58 回 SHIZUOKA ホースショー
- 小障害 C(一般)
 - 第4位 小西凜生 ブループレイヴ
 - 小障害 C(少年・婦人)
 - 第11位 北垣果林コーチ
ブルーバロール

- 小障害 B(一般)
 - 第7位 安福心優(高3)
ブルールシファー

- 小障害 A(少年・婦人)
 - 第6位 安福心優(高3)
ブルールシファー

- ビギナー障害 50 垂直
 - 第5位 石原ほのか
ブルーバロール

- JEF 馬場馬術第5 課目 A
 - 第2位 古宮有紗
ブルーフォーエヴァー

- JEF 馬場馬術第2 課目 B
 - 第7位 高橋実由希
メイブルーメイ

- JEF 馬場馬術第3 課目 A OP
 - 第6位 今村優花 ブルーマックス

- ビギナー障害 50cm 垂直
 - 第6位 石原ほのか
ブルーバロール

- ビギナー障害 70cm 垂直
 - 第7位 山口愛夏
ブルールシファー

- 小障害 C(一般)
 - 第7位 小西凜生 ブループレイヴ

- 小障害 C(少年・婦人)
 - 第7位 北垣果林コーチ
ブルーバロール

- 小障害 B(一般)
 - 第4位 小西生 ブループレイヴ号
- JEF 馬場馬術第5 課目 B
 - 第1位 古宮有紗
ブルーフォーエヴァー

- 第55 競技部班競技
 - 第1位 黒木蘭 メイブルーメイ

- JEF 馬場馬術第2 課目 B
 - 第1位 石原ほのか メイブルーメイ
- JEF 馬場馬術第3 課目 A
 - 第3位 原碧 ブルーマックス

編集後記 *Editor's Note*

編集委員

鈴木敬治・稲熊武臣・星 亨輔・林 哲哉・柏木智佳子・堀川万由美・夏目香織

岡本敬太郎・橋本治奈・林 由佳・山田里奈・金子亜里沙・山口愛夏
(2023卒) (2023卒) (現役3年)

編集委員から一言

長い道のりでした。ほぼ10年前の幹事会にて、創部100周年記念事業の1つとして「いななき」記念号の発刊が決まり緑鞆会会計からの予算も付きました。途中コロナに阻まれメンドクサイ時期もありましたが、なんとか刊行の運びとなりました。企画、編集、提案、校正、整理、連絡等々、多岐に亘る作業それぞれに携わって頂いた編集委員の皆様お疲れ様でした。また多忙の中、編集会議にも参加してくれた現役有志の方々、ありがとうございました。そして祝辞、思い出話などご寄稿及び写真のご提供を頂いた皆様に、またご無理を聞いて頂き適宜アドバイスを頂いたヨシダ印刷株式会社のご担当者に深く感謝申し上げます。

末尾になりましたが内藤喜嗣氏からのご支援をいただきました事、真に心強く茲に至ることが出来ました。ありがとうございました。(稲熊 記)

現役の原稿を集めるために皆を追い掛け回すこと数か月。なかなか提出してくれない部員や文章を書くことが苦手な部員に嫌がられながらも全員分を回収しました。膨大な文章量に圧倒されていましたが、みんなの文章を読んで夜な夜なワードに打ち込む毎日が終わるのかと思うととても寂しいです。集めた文章を読んでいて印象的だったのが、学年が上がっていくごとに皆の責任感や使命感が増していくことです。思えば私が馬術部に入って一番驚いたことは、馬の迫力でも馬房掃除の大変さでもなく、実務の多くを学生が行っていることでした。勿論 OBOG の皆様のご協力あってのものですが、その実務の一端を担うようになって重責から逃げ出したくなったことは一度だけではありません。そんな折にいななきの現役パートの編集をすることとなり、集めるときの参考とするため過去のいななきを読んでみると、100年という長い歴史はその時代の現役の頑張りの連続なのだ実感いたしました。「今も昔も悩むことは同じなんだなあ。」「こんなことがあったんだ!」と共感や驚きの連続です。私も馬術部を次に繋げていけるよう毎日の馬術部での活動を頑張っていこうと思います。この文章が私と同じように遠い将来の後輩たちの目に触れて少しでも励みになったらとてもうれしいです。(現役3年 山口愛夏 記)

青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会
創部 100 周年記念誌
— いななき 19 号 —

2024 年 7 月 31 日発行
編集・発行
青山学院大学体育会馬術部・緑鞍会

印刷
ヨシダ印刷
